印西市東場遺跡・馬見台遺跡

— 一般県道八千代宗像線（岩戸）バイパス事業埋蔵文化財発掘調査報告書 —

調査区航空写真（北東から）

調査区航空写真（上空から）

序　文

いにしえより温暖な気候に恵まれた千葉県には、先人たちの生活の痕跡が埋蔵文化財包蔵地（遺跡）として数多く残されています。これらの埋蔵文化財は県民共有の財産として、地域の歴史や文化の解明に欠かすことのできない貴重なものです。

千葉県教育委員会は、埋蔵文化財の調査研究・文化財保護思想の普及などを目的としたこれまでの諸活動に加え、平成25年度から千葉県が行う開発事業にかかる発掘調査や調査成果の整理、報告書の刊行について直接実施することとしました。

本書は、一般県道八千代宗像線（岩戸）バイパス事業に伴って実施した印西市東場遺跡・馬見台遺跡の発掘調査報告書です。今回の調査で、東場遺跡では古墳時代後半から平安時代にかけての集落跡が検出されました。各住居跡からは豊富に遺物が出土し、印旛沼西岸域における当時の生活の状況を知るうえで貴重な成果を得ることができました。

刊行に当たり、本書が学術資料としてだけでなく、郷土の歴史に対する理解を深めるための資料として多くの方々に広く活用されることを期待しております。

最後に、発掘調査から整理作業を通じ、地元の方々をはじめとする関係者の皆様や関係諸機関には多大な御協力をいただきました。心から感謝申し上げます。

平成28年３月

千葉県教育委員会
文化財課長　永沼律朗

凡　例

1　本書は、千葉県県土整備部印旛土木事務所による一般県道八千代宗像線（岩戸）バイパス事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　本書は、下記の遺跡を収録したものである。

東場遺跡　　印西市吉田字込ノ内1,472ほか　　（遺跡コード231-022）

馬見台遺跡　印西市吉田字馬見台1,490-7ほか　（遺跡コード231-025）

3　発掘調査は、東場遺跡については平成23年度と平成24年度に千葉県印旛土木事務所の委託を受け、公益財団法人千葉県教育振興財団が実施した。馬見台遺跡については平成26年度に千葉県県土整備部の依頼を受け、千葉県教育庁教育振興部文化財課が実施した。

報告書作成に至る整理作業は、平成25年度から平成27年度にかけて千葉県教育庁教育振興部文化財課が実施した。

4　調査組織及び発掘調査と整理作業の期間・担当者は、第1章第1節に記した。

5　本書の執筆は、第1章と遺構について主に主任上席文化財主事 小林信一、その他と編集について上席文化財主事 黒沢 崇が担当した。

6　発掘調査から報告書の刊行に至るまで、印西市教育委員会、千葉県県土整備部道路整備課、千葉県印旛土木事務所ほか多くの方々から御指導、御協力を得た。

7　本書で使用した地形図は下記の通りである。

第1・3・4・86・88図　印西市発行　1/2,500　印西市地形図を編集

第2図　国土地理院発行　1/25,000　地形図「小林」「佐倉」平成22年を編集

8　本書で使用した地図の座標値は、世界測地系にもとづく平面直角座標で、図面の方位はすべて座標北である。

9　土器等の観察表に記載した色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖 2007年版』に基づいている。

10　図版1の航空写真は、京葉測量株式会社による昭和51年撮影のものを使用した。

11　古墳時代以降の実測遺物には種別ごとに通し番号を付した。土器以外の遺物については、番号の前に石製品は「石」、土製品は「土」、金属製品・鍛冶関連遺物は「金」を付けて区別して表記した。

12　遺構や遺物の図面に使用したスクリーントーンの用例は以下のとおりである。胎土に繊維を含む縄文土器の断面図には●を付した。また、挿図中のKは　撹乱の略である。

本文目次

第１章　はじめに……1
　第１節　調査の概要……1
　　１　事業の経緯と経過……1
　　２　調査の方法と概要……3
　第２節　遺跡の位置と環境……4
第２章　東場遺跡……7
　第１節　旧石器時代……7
　第２節　縄文時代・弥生時代……10
　　１　縄文時代……10
　　２　弥生時代……12
　第３節　古墳時代以降……14
　　１　竪穴住居跡……14
　　２　土　坑……67
第３章　馬見台遺跡……125
第４章　総　括……126
　第１節　東場遺跡における土器の変遷……126
　第２節　東場遺跡の集落変遷と時期別特徴……128

報告書抄録……巻末

挿図目次

第１図　事業範囲及び遺跡位置……2
第２図　周辺の遺跡の分布……5
第３図　下層確認グリッド配置と出土遺物……7
第４図　上層確認トレンチ配置と遺構分布……9
第５図　ＳＫ００５……10
第６図　縄文土器（１）……11
第７図　縄文土器（２）・土製品……12
第８図　弥生土器……12
第９図　縄文時代石器……13
第10図　ＳＩ００１……15
第11図　ＳＩ００２……16
第12図　ＳＩ００３（１）……18
第13図　ＳＩ００３（２）……19
第14図　ＳＩ００４ａ……21
第15図　ＳＩ００４ｂ……23
第16図　ＳＩ００４ｃ……24
第17図　ＳＩ００５……25
第18図　ＳＩ００６……26
第19図　ＳＩ００７……27
第20図　ＳＩ００８ａ（１）……28
第21図　ＳＩ００８ａ（２）……29
第22図　ＳＩ００８ｂ……31
第23図　ＳＩ００８ｃ……32
第24図　ＳＩ００９……33
第25図　ＳＩ０１０……34
第26図　ＳＩ０１１……35
第27図　ＳＩ０１２……35
第28図　ＳＩ０１３……36
第29図　ＳＩ０１４……36
第30図　ＳＩ０１５ａ……37
第31図　ＳＩ０１５ｂ……38
第32図　ＳＩ０１６……39
第33図　ＳＩ０１７……41
第34図　ＳＩ０１８（１）……42
第35図　ＳＩ０１８（２）……43
第36図　ＳＩ０１９（１）……44
第37図　ＳＩ０１９（２）……45
第38図　ＳＩ０２０……46
第39図　ＳＩ０２１……47
第40図　ＳＩ０２２……48
第41図　ＳＩ０２３……49
第42図　ＳＩ０２４（１）……50
第43図　ＳＩ０２４（２）……51
第44図　ＳＩ０２５……53
第45図　ＳＩ０２６……54
第46図　ＳＩ０２７……55
第47図　ＳＩ０２８……56
第48図　ＳＩ０２９……57
第49図　ＳＩ０３０……59
第50図　ＳＩ０３１……61
第51図　ＳＩ０３２……62
第52図　ＳＩ０３３……64
第53図　ＳＩ０３４……66
第54図　ＳＫ００１～ＳＫ００４……67
第55図　土器類（１）……68
第56図　土器類（２）……69
第57図　土器類（３）……70
第58図　土器類（４）……71
第59図　土器類（５）……72
第60図　土器類（６）……73
第61図　土器類（７）……74
第62図　土器類（８）……75
第63図　土器類（９）……76
第64図　土器類（10）……77
第65図　土器類（11）……78
第66図　土器類（12）……79
第67図　土器類（13）……80
第68図　土器類（14）……81

第69図　土器類（15）……82
第70図　土器類（16）……83
第71図　土器類（17）……84
第72図　土器類（18）……85
第73図　土器類（19）……86
第74図　土器類（20）……87
第75図　土器類（21）……88
第76図　土器類（22）……89
第77図　土器類（23）……90
第78図　土器類（24）……91
第79図　土器類（25）……92
第80図　銭　貨……92
第81図　金属製品・鍛冶関連遺物……93
第82図　石製品……94
第83図　土製品（１）……95
第84図　土製品（２）……96
第85図　土製品（３）……97
第86図　上・下層調査位置…… 125
第87図　土器の変遷…… 127
第88図　竪穴住居跡の変遷…… 129
第89図　時期別出土土器比率…… 130

表目次

第１表　遺構一覧表……８
第２表　石器計測表……13
第３表　土器類観察表……98
第４表　金属製品・鍛冶関連遺物計測表…… 122
第５表　石製品計測表…… 122
第６表　銭貨計測表…… 122
第７表　土製品計測表…… 123
第８表　出土土器重量一覧表…… 130

図版目次

巻頭図版　東場遺跡 調査区航空写真
図版１　航空写真（S=1/10,000）
東場遺跡
図版２　調査区北側・調査区南側
図版３　ＳＩ００１～ＳＩ００４
図版４　ＳＩ００４～ＳＩ００８
図版５　ＳＩ００８～ＳＩ０１５
図版６　ＳＩ０１６～ＳＩ０２１
図版７　ＳＩ０２２～ＳＩ０２６
図版８　ＳＩ０２７～ＳＩ０３２
図版９　ＳＩ０３３～ＳＩ０３４
図版10　ＳＫ００１～ＳＫ００５・５Ｄ－０５
図版11　縄文土器
図版12　縄文石器・弥生土器・金属製品
図版14　鍛冶関連遺物・石製品
図版15　土製品（１）
図版15　土製品（２）・銭貨
図版16　土器類（１）
図版17　土器類（２）
図版18　土器類（３）
図版19　土器類（４）
図版20　土器類（５）
図版21　土器類（６）
図版22　土器類（７）
図版23　土器類（８）
図版24　土器類（９）
図版25　土器類（10）
図版26　土器類（11）
図版27　土器類（12）
馬見台遺跡
図版28　調査前・トレンチ・グリッド

第1章　はじめに

第1節　調査の概要

1　事業の経緯と経過　（第1図）

一般県道八千代宗像線は、県道千葉竜ヶ崎線と県道千葉臼井印西線を結ぶ道路である。幅員が狭小で屈曲区間が点在するため、円滑で安全な交通を確保することを目的に、現状の八千代宗像線が通過する印西市吉田と岩戸の居住区を避け、八千代市保品地先から印西市岩戸地先までの区間にバイパス道路を建設することが計画された。このバイパス工事の実施にあたり、千葉県印旛地域整備センター（現：千葉県印旛土木事務所）から平成17年1月に「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会文書が千葉県教育委員会へ提出された。千葉県教育委員会では現地踏査等の結果を踏まえ、平成17年3月に工事予定路線内には六反目遺跡、広台遺跡、際作遺跡、東場遺跡、馬見台遺跡が所在する旨の回答を行った。この回答を受け、その取扱いについて関係機関による協議を重ねた結果、事業の性格上やむを得ず、記録保存の措置を講ずることとなった。

これらの工事予定地内遺跡の発掘調査は、千葉県印旛土木事務所からの委託を受けて、平成18年度から公益財団法人千葉県教育振興財団が実施し、平成26年度は千葉県教育庁教育振興部文化財課が依頼を受けて実施した。先に路線内の発掘調査が終了した六反目遺跡、広台遺跡、際作遺跡については、平成20年度に整理作業を実施し、平成21年3月に発掘調査報告書[1]が刊行されている。

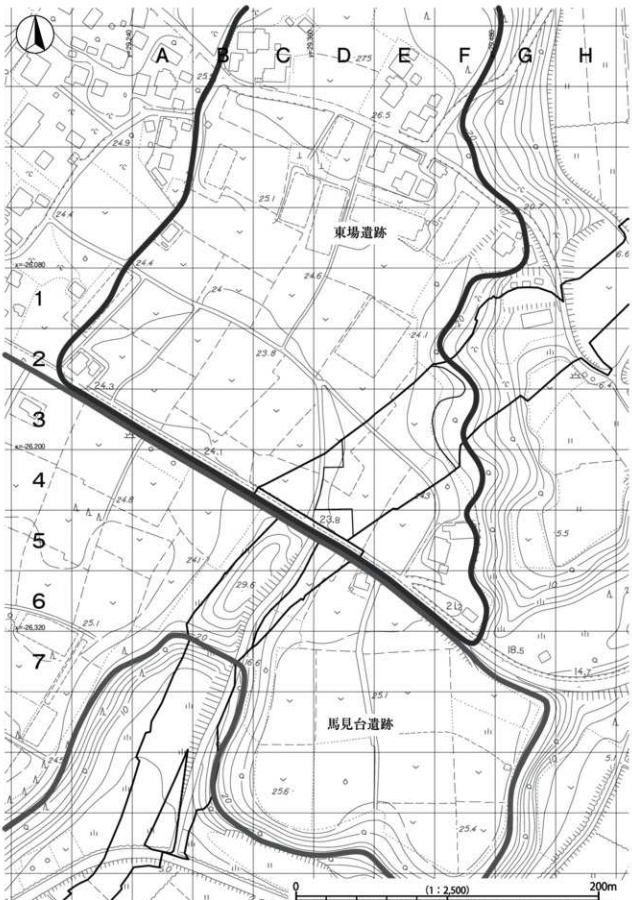
今回報告する東場遺跡・馬見台遺跡は平成23年度から発掘調査、平成25年度から整理作業を実施した。各年度の調査組織及び担当者・期間・内容は以下のとおりである。

発掘調査

○平成23年度【財団法人千葉県教育振興財団】東場遺跡
　調査研究部長　及川淳一　　北部調査事務所長　野口行雄
　担当者　主席研究員　川島利通
　期　間　平成23年9月12日～平成24年3月1日
　内　容　確認調査　上層696㎡／8,800㎡　　本調査　上層5,300㎡

○平成24年度【公益財団法人千葉県教育振興財団】東場遺跡
　調査研究部長　関口達彦　　調査2課長　橋本勝雄
　担　当　主任上席文化財主事　四柳　隆
　期　間　平成25年1月7日～平成25年2月14日
　内　容　確認調査　下層176㎡／8,100㎡

○平成26年度【千葉県教育庁教育振興部文化財課】馬見台遺跡
　文化財課長　永沼律朗　　発掘調査班長　蜂屋孝之
　担　当　主任上席文化財主事　香取正彦
　期　間　平成26年9月8日～平成26年9月19日
　内　容　確認調査　上層92㎡／916㎡　下層16㎡／916㎡



第１図　事業範囲及び遺跡位置

整理作業

○平成 25 年度【千葉県教育庁教育振興部文化財課】東場遺跡

文化財課長　湯淺京子　　発掘調査班長　蜂屋孝之

担　当　主任上席文化財主事　小林信一　上席文化財主事　黒沢 崇

内　容　水洗・注記～実測・トレース・原稿執筆の一部

○平成 26 年度【千葉県教育庁教育振興部文化財課】東場遺跡

文化財課長　永沼律朗　　発掘調査班長　蜂屋孝之

担当者　上席文化財主事　黒沢 崇

内　容　実測の一部～挿図・原稿執筆の一部

○平成 27 年度【千葉県教育庁教育振興部文化財課】東場遺跡・馬見台遺跡

文化財課長　永沼律朗　　発掘調査班長　蜂屋孝之

担当者　上席文化財主事　黒沢 崇

内　容　東場遺跡：挿図・原稿執筆の一部から報告書刊行、馬見台遺跡：記録整理から報告書刊行

2　調査の方法と概要

東場遺跡　発掘調査にあたっては、公共座標（世界測地系）に基づいてグリッドを設定した。東場遺跡・馬見台遺跡の調査対象範囲全体をカバーするように、X＝－26,000、Y＝29,240 を起点に 40 m × 40 m の方眼網を設定し、大グリッドとした。名称は北から南へ 1・2・3・…、西から東に A・B・C …とし、大グリッドを 4 m × 4 m の小グリッドに 100 等分し、北西隅を 00、南東隅を 99 とした。小グリッド名はそれらを組み合わせ 4D－06 と表記することとした。上層の確認調査は調査対象面積の 10％を目安として南北方向に確認トレンチを設定した。調査区北東側の台地斜面は地形図よりも実態は急傾斜であったため調査不能と判断し、トレンチを設定しなかった。確認調査の結果、古墳時代から奈良・平安時代の竪穴住居跡を主体とした遺構が多数検出された。そのため、調査区北東部の急傾斜地と南西部の浅い谷に面した遺構の存在しない部分を除いた平坦部のほぼ全域が、本調査範囲となった。遺構名称の略号は、竪穴住居跡が SI、土坑が SK、溝状遺構が SD とし、遺構種類ごとに 3 桁の通し番号をつけて遺構番号とした。出土遺物は遺構ごとに通し番号をつけて取り上げた。上層本調査では、古墳時代後半から平安時代にかけての竪穴住居跡 44 軒と土坑を調査した。溝状遺構も 7 条検出したが、近世以降の溝のため、古代の遺構に関係する部分のみの最小限の掘削にとどめた。なお、記録方法は従来からの手実測による平板測量・断面実測と併せて、電子平板を利用して効率的に記録作業を実施した。

下層の確認調査は、上層確認調査で浅い谷部であることが判明した調査区南西端を除いた範囲を対象に、2 m × 2 m の下層確認グリッドを対象面積の 2 ％を目安に設定した。その結果、1 か所から石器が出土し、周辺を拡張した。しかし、周辺からは追加遺物がなく、確認調査の範囲内で終了した。

報告書作成では、発掘調査で付けた遺構番号を変更せず、そのまま使用することとした。整理作業は出土遺物の水洗・注記作業を行った後、遺物を遺構ごとに種別・器種分類をしてから接合・復元作業を実施した。実測、拓本、トレース作業の後、挿図・写真図版作成は、デジタルによる編集作業で印刷入稿データまで作成した。

馬見台遺跡　発掘作業は東場遺跡と同様の手順で行ったが、上層・下層とも遺構はなく確認調査で終了した。整理作業は平成 27 年度に東場遺跡と併せて実施し、合冊して報告書を刊行した。

第２節　遺跡の位置と環境（第２図）

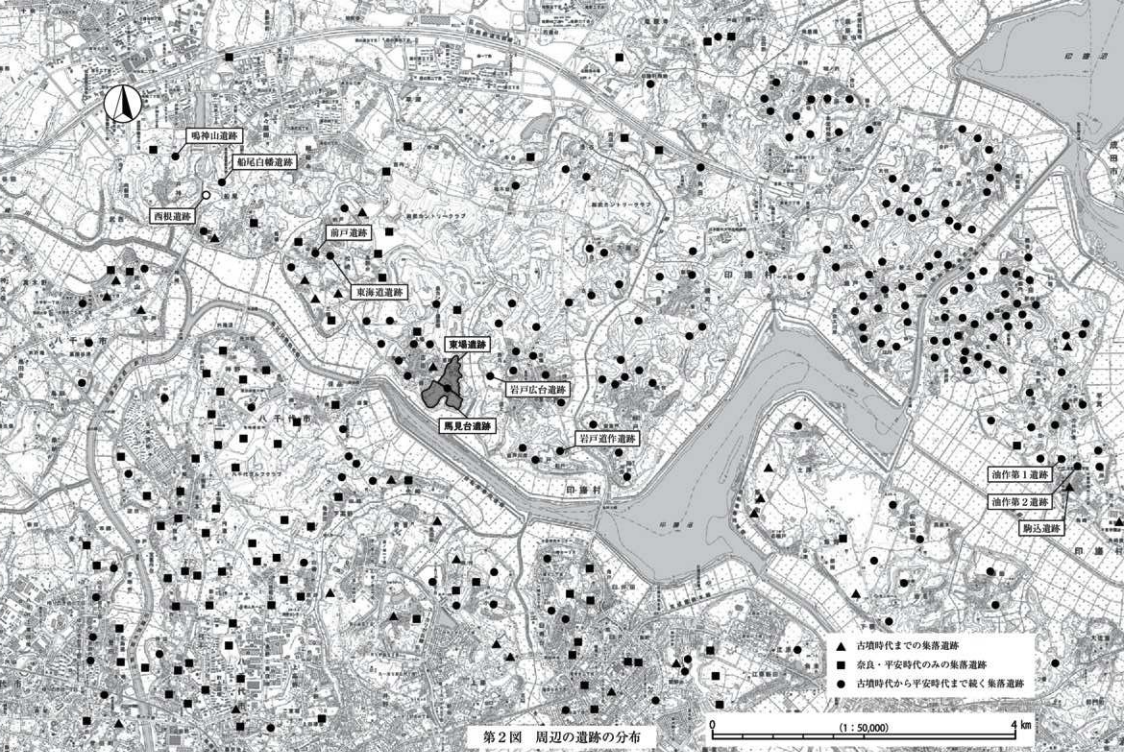
東場遺跡・馬見台遺跡（以下、本遺跡群）は、印西市吉田に所在する南北に隣接する遺跡で、現況は畑地であった。印旛沼の西岸域の北部で、新川を南西に臨む標高 22 m～24 mの台地上にある。東場遺跡については、（財）印旛郡市文化財センターが平成３年～平成５年に発掘調査を実施している[2]。その際の調査区は、同台地北側の先端部で、今回の調査区とは離れた地点である。発掘調査報告書は刊行されておらず、詳細は不明であるが、調査対象面積 3,275㎡のうち 1,420㎡について本調査が行われ、縄文時代後期竪穴状遺構１基・土坑１基、弥生時代後期から古墳時代の竪穴住居跡３軒、奈良・平安時代竪穴住居跡２軒・方形周溝状遺構１基などが検出されている。今回報告する本遺跡群の主な成果は古墳時代後期から平安時代の時期であるため、この時期を中心に周辺の歴史的環境をみていくことにしたい。

第２図は印旛沼西岸域の古墳時代～奈良・平安時代の遺跡分布図である。▲は古墳時代の集落・遺物散布地、■は奈良・平安時代の集落・遺物散布地、●は古墳時代から奈良・平安時代の複合遺跡の位置を表している[3]。分布から読み取れることは、印旛沼西岸域の古墳時代から奈良・平安時代にかけての遺跡は数多く、特に印旛沼を望む台地上は、大半が遺跡となっていることがわかる。特に東部は稠密で、この部分は印旛沼にせり出した半島状の地形をなしている。このような地形に多くの集落跡がみられるということは、水上交通の要衝の地であったからにほかならない。印旛沼を利用し、他地域との交易がこの地の生業の重要な柱であったことが認識される。この時期に常陸地域で生産された常陸型甕が、在地産の甕を凌駕するほど印旛地域に普及することからも推察される。また、この地域の遺跡分布の大きな特徴として、東部地域は古墳時代からの集落跡等が多く、西部地域は奈良・平安時代からの遺跡が目立つ点があげられる。

この地域の発掘調査により、集落の様相がある程度判明した地区は、東部の平賀地区と西部の戸神川周辺の地区である。平賀遺跡群では、６世紀後葉～７世紀前葉の竪穴住居跡が 131 軒と多数検出された。平賀遺跡群の中心遺跡は油作遺跡であり、油作第１遺跡からは古墳時代後期竪穴住居跡 42 軒、奈良平安時代竪穴住居跡９軒、６世紀後葉の竪穴住居跡からは鉄滓が多量に出土し注目される。油作第２遺跡は古墳時代後期から平安時代にかけて継続した集落遺跡である。古墳時代後期の竪穴住居跡 94 軒、奈良平安時代の竪穴住居跡 50 軒、掘立柱建物跡 30 棟がみつかっている。駒込遺跡では古墳時代中期の終わりから後期にかけての竪穴住居跡 59 軒が検出されている。炉からカマドに変化する時期の集落で、竪穴住居跡から土玉が出土する傾向が高く、東場遺跡においてもその例にもれない調査成果が出ている。

一方、戸神川周辺の集落遺跡では古墳時代の遺構はわずかであり、大部分が奈良・平安時代の竪穴住居跡である。代表的な集落としては、鳴神山遺跡や船尾白幡遺跡、前戸遺跡、東海道遺跡がある。鳴神山遺跡では、古墳時代後期の竪穴住居跡２軒、奈良・平安時代竪穴住居跡 259 軒・掘立柱建物跡 44 棟、船尾白幡遺跡では古墳時代後期の竪穴住居跡 10 軒、奈良・平安時代竪穴住居跡 73 軒・掘立柱建物跡 36 棟が検出されている。前戸遺跡、東海道遺跡は隣接した遺跡であり、前述の２遺跡に比べると狭小な調査区であるが、古墳時代終末期から奈良・平安時代にかけての集落が検出されている。前戸遺跡からは瓦塔破片が出土しており、注目される。いずれの遺跡も奈良・平安時代の遺構数が圧倒的に優勢であり、印旛沼西岸域においては東部よりも西部のほうが奈良・平安時代の集落が多いことが指摘できる。

この２地域の中間地である東場遺跡が所在する吉田・岩戸地区周辺は調査例が少ないが、発掘調査された遺跡では東側の台地上の岩戸広台遺跡があげられる。６世紀前葉～９世紀中葉までの竪穴住居跡が 68



第２図　周辺の遺跡の分布

軒検出されており、本遺跡と並んでこの地域の中核をなす集落跡である。特筆すべき遺物としては、「寺本」と墨書された土師器や須恵器短頸壺のような仏教関連遺物、青銅製で裏面に鍍金が残る銙帯金具の丸鞆がある。また、岩戸遺作遺跡では古墳時代後半期の竪穴住居跡軒８軒がまとまって検出され、そのうち６軒で竪穴住居跡のカマドの反対壁中央に方形の貯蔵穴が付設されている。

この地域は古墳時代には印波国造の領有する地域で、奈良時代に至ると印旛郡に組み込まれる。この図の範囲は、東側が吉高郷、西側は𠮷穂郷の範囲と考えられ、本遺跡群は𠮷穂郷に属していたと考えられる。西根遺跡では「舟穂郷生部直弟刀自女」と墨書された９世紀中葉の土器が出土している。西根遺跡の所在する東側には船尾という地名が残っており、少なくとも９世紀中葉には、この地が𠮷穂郷と呼ばれていたことが明らかで、集落の中心となる遺跡は西根遺跡近隣の船尾白幡遺跡や鳴神山遺跡と想定できる。

以上、大まかな流れではあるが、印旛沼西岸域では東部に古墳時代の集落の核があり、次第にそれが西部の地域におよび、奈良・平安時代に隆盛を誇るようになったと考えることもできる。本遺跡群の今回の調査成果によって、このような流れのなかにおいて古墳時代後半から平安時代にかけての拠点的集落の具体的様相が明らかになったことは貴重な成果といえる。

注１）2009『印旛村六反目遺跡・広台遺跡・際作遺跡』千葉県教育振興財団調査報告第 617 集

２）1992（財）印旛郡市文化財センター『財団法人印旛郡市文化財センター年報８－平成３年度－』
1993（財）印旛郡市文化財センター『財団法人印旛郡市文化財センター年報９－平成４年度－』
1994（財）印旛郡市文化財センター『財団法人印旛郡市文化財センター年報 10 －平成５年度－』

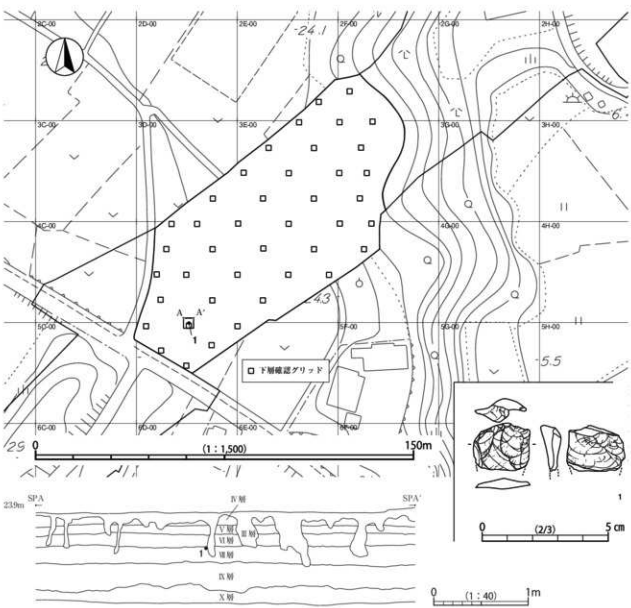
３）1997 千葉県教育委員会『千葉県埋蔵文化財分布地図（１）－東葛飾・印旛地区－』をもとに作成した。古墳時代の遺跡の時期について、前期とされている遺跡は除外したが、古墳時代とのみ表示されている遺跡が大半であるため、第３図には古墳時代前期の遺跡の分布も多少含まれている。なお、周辺遺跡の内容等については下記文献を参照した。
1981『岩戸遺作遺跡－古墳時代集落址の調査－』岩戸遺作遺跡調査会
1985『平賀 平賀遺跡群発掘調査報告書』平賀遺跡群発掘調査会
1988『岩戸広台遺跡Ａ地区・Ｂ地区発掘調査報告書』（財）印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第 17 集
1991『油作第１遺跡発掘調査報告書』（財）印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第 57 集
1994『油作１－Ⅱ遺跡発掘調査報告書』（財）印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第 95 集
1999『千葉北部地区新市街地造成整備事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅱ－印西市鳴神山遺跡・白井谷奥遺跡－』千葉県文化財センター調査報告第 358 集
2000『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書ⅩⅣ－印西市鳴神山遺跡Ⅲ・白井谷奥遺跡－』千葉県文化財センター調査報告第 392 集
2004『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書ⅩⅥ－印西市船尾白幡遺跡－』千葉県文化財センター調査報告第 477 集
2004『印西市西根遺跡－県道船橋印西線埋蔵文化財調査報告書－』千葉県文化財センター調査報告第 500 集
2005『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書ⅩⅦ－印西市船尾白幡遺跡Ⅱ－』千葉県文化財センター調査報告第 510 集
2005『印西市鳴神山遺跡Ⅳ－戸神地区営農地造成関連埋蔵文化財調査報告書－』千葉県文化財センター調査報告第 508 集
2009 小牧美知枝「集落の移りかわり」『房総と古代王権 東国と文字の世界』高志書店
2014『印西市東海道遺跡－印西市道 00 － 026 号線道路改良に伴う埋蔵文化財調査報告書－』千葉県教育振興財団調査報告第 723 集

第２章　東場遺跡

第１節　旧石器時代（第３図）

下層（旧石器時代）の調査は、事業地内の谷部を除く8,100㎡について調査対象とし、２×２ｍの確認グリッドを41か所に設定した。その結果、調査区南西部の5D－05グリッドにおいて第Ⅶ層から剥片が１点出土した。確認グリッドの周囲を１ｍ拡張して精査を行なったが、新たに出土する遺物はなく単独出土であった。

石器の出土地点は、調査区南西部の浅い谷部に近い地点である。遺物はチャート製の剥片である。平坦打面で、表の剥離面の打撃方向は一方向、下端部は欠損している。長さは1.9cm、幅2.4cm、重量は2.45ｇである。



第３図　下層確認グリッド配置と出土遺物

第１表　遺構一覧表

（　）は推定

遺構No.	種　類	位　置	主　軸	長軸(m)	短軸(m)	床面積(㎡)	カマド位置	貯蔵穴位置	壁周溝	時　期
SI001	竪穴住居	3E-06	N -26° - W	3.68	3.68	11.04	北壁中央	無	全周	奈良時代
SI002a	竪穴住居	3E-37・38	N -10° - E	4.85	4.64	19.79	北壁やや西	無	全周	奈良時代
SI002b	竪穴住居	3E-37・38	N - 1° - W	3.21	2.90	7.44	北壁中央	カマド側左 入口側左	無	平安時代
SI003a	竪穴住居	3E-26	N -58° - W	6.30	5.59	31.33	北西壁中央	入口側中央	（全周）	古墳時代後期
SI003b	竪穴住居	3E-35	N -25° - W	4.58	3.70	15.08	北西壁中央	無	全周	奈良時代
SI004a	竪穴住居	3E-57	N -12° - W	6.13	6.10	34.25	北壁中央	入口側中央 ＜張出＞	全周	古墳時代後期
SI004b	竪穴住居	3E-65	N -23° - E	6.57	6.53	38.93	北東壁中央	入口側中央	一部欠	古墳時代後期
SI004c	竪穴住居	3E-54	N -28° - W	5.35	5.19	25.17	北西壁中央	無	全周	奈良時代
SI005	竪穴住居	3E-41	N -10° - E	4.98	4.62	18.16	北壁中央	入口側中央	無	古墳時代後期
SI006	竪穴住居	3E-52	N -40° - W	2.85	2.81	5.30	北西壁やや東	無	無	奈良時代
SI007	竪穴住居	3E-81	N - S	7.47	7.33	51.22	炉	入口側左	全周	古墳時代中期
SI008a	竪穴住居	4E-06	N -3° - E	9.48	9.10	81.33	北壁中央	入口側中央	（全周）	古墳時代後期
SI008b	竪穴住居	4E-04	N -15° - W	3.49	3.23	9.40	北西壁やや東	無	全周	奈良時代
SI008c	竪穴住居	4E-15	N -16° - W	3.20	3.07	8.40	北壁やや西	無	全周	奈良時代
SI009	竪穴住居	4E-28	N -30° - W	6.40	5.93	35.55	北西壁中央	無	全周	奈良時代
SI010	竪穴住居	4E-19	N -56° - E	3.02	2.94	7.43	北東壁中央	入口側右・小	全周	奈良時代
SI011	竪穴住居	4E-49	N -21° - W	5.37	－	(27.28)	北西壁中央	入口側中央	一部欠	古墳時代後期
SI012	竪穴住居	4F-30	N -31° - W	3.49	3.48	10.19	北西壁やや東	無	（全周）	奈良時代
SI013	竪穴住居	4E-59	N -19° - W	－	－	－	北壁（中央）	－	（無）	古墳時代後期
SI014	竪穴住居	4E-57	N -44° - W	2.70	2.70	5.21	炉	無	無	古墳時代後期
SI015a	竪穴住居	4E-45	N -71° - W	6.79	6.71	43.62	西壁中央	入口側中央	一部	古墳時代後期
SI015b	竪穴住居	4E-46	N -35° - W	4.30	3.22	10.85	北西壁中央	無	一部	奈良時代
SI016a	竪穴住居	4E-77	N -10° - W	－	－	－	－	－	（全周）	古墳時代後期
SI016b	竪穴住居	4E-76	N -34° - W	－	－	－	北西壁やや西	－	（無）	平安時代
SI016c	竪穴住居	4E-76	－	－	－	－	－	－	（無）	平安時代
SI017	竪穴住居	4E-84	N -20° - W	－	－	－	北壁（中央）	－	（無）	古墳時代後期
SI018	竪穴住居	4E-64	N -26° - W	7.38	7.23	48.20	北壁中央	入口側中央	全周	古墳時代後期
SI019	竪穴住居	4E-72	N -28° - W	7.04	6.50	40.95	北壁中央	入口側中央 ＜張出＞	全周	古墳時代後期
SI020	竪穴住居	4E-92	N -25° - W	－	－	－	北壁中央	（入口側・無）	（全周）	古墳時代後期
SI021	竪穴住居	4E-51	N -56° - E	6.92	6.70	42.34	北東壁やや東	カマド側右	一部欠	古墳時代後期
SI022	竪穴住居	4E-32	N -69° - W	3.26	3.10	8.55	無	無	無	古墳時代後期
SI023	竪穴住居	4E-20	N -35° - W	7.70	7.60	56.68	北西壁中央	カマド側右	一部欠	古墳時代後期
SI024a	竪穴住居	4E-12	N -25° - W	4.48	3.62	13.54	北壁東寄り	無	全周	奈良時代
SI024b	竪穴住居	4E-14	N -27° - W	6.29	6.28	36.03	北壁中央	入口側中央	全周	古墳時代後期
SI025	竪穴住居	4E-16	N -45° - W	3.45	2.92	8.67	北西壁東寄り	無	全周	奈良時代
SI026	竪穴住居	4E-00	N -73° - W	3.48	3.40	10.58	西壁中央	無	全周	平安時代
SI027	竪穴住居	4D-07	N -60° - W	6.03	5.94	33.65	北西壁中央	カマド側右	全周	古墳時代後期
SI028	竪穴住居	4D-44	N -11° - E	5.53	5.45	28.47	北壁中央	入口側中央	（全周）	古墳時代後期
SI029	竪穴住居	5D-18	N -16° - W	8.04	－	(61.99)	北壁中央	（入口側・無）	（全周）	古墳時代後期
SI030	竪穴住居	4D-99	N - 1° - W	5.45	5.28	25.04	北壁中央	カマド側右	無	古墳時代後期
SI031	竪穴住居	4D-59	N -20° - W	5.63	5.30	24.34	北壁やや西	入口側中央	一部	古墳時代後期
SI032	竪穴住居	4D-78	N -17° - W	6.83	6.78	42.06	北壁中央	カマド側左	全周	古墳時代後期
SI033	竪穴住居	4D-86	N - 9° - W	5.53	5.51	28.07	北壁中央	カマド側左	全周	古墳時代後期
SI034	竪穴住居	4D-84	N - 2° - E	6.07	6.03	34.44	北壁中央	入口側中央	全周	古墳時代後期
SK001	土坑	3D-96	N -137° - E	1.85	1.17	－	－	－	－	（中・近世）
SK002	土坑	4D-06	円形	0.31	0.28	－	－	－	－	（奈良・平安時代）
SK003	土坑	4E-19	N -27° - W	2.05	1.11	－	－	－	－	（古墳～平安時代）
SK004	土坑	4D-05	N -50° - W	1.60	1.00	－	－	－	－	（古墳時代）
SK005	土坑（陥穴）	4D-25	N - 2° - W	2.35	1.50	－	－	－	－	縄文時代

第４図　上層確認トレンチ配置と遺構分布

第２節　縄文時代・弥生時代

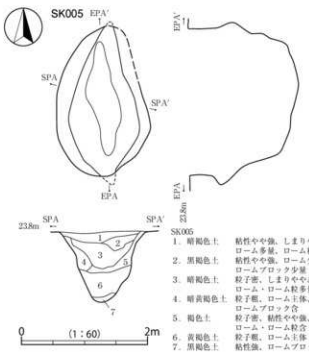
１　縄文時代

縄文時代の遺構はSK005土坑１基のみである。縄文時代の遺物は、古墳時代以降の遺構覆土中や遺構外から縄文土器片と石器が少量出土した。

遺　構

SK005（第５図､図版10）〈4D-25グリッド〉

調査区中央のやや西側の地点で検出された。平面形は不整な長楕円形で、主軸方位はN－２°－Wでほぼ南北方向である。規模は主軸長2.35ｍ、幅1.5ｍ、深さ1.1ｍである。底面に近いほど平面形は細く狭くなり、長軸側の側面はわずかにオーバーハングする。遺物は出土しなかったが、検出面・形状から縄文時代早期の陥穴と判断した。



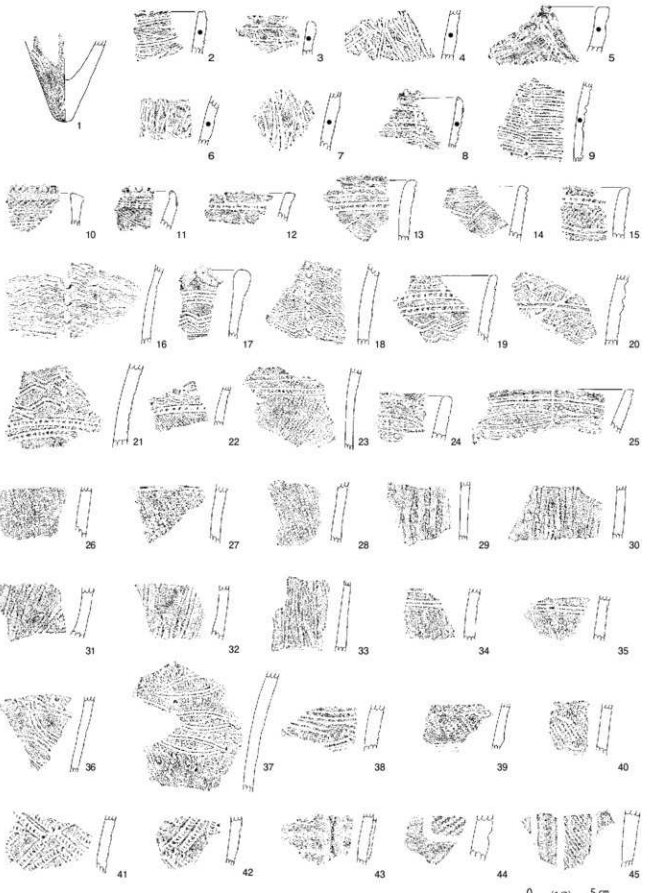
第５図　ＳＫ００５

遺　物

土　器（第６・７図１～65、図版11）縄文土器は量が少ないが、時期は縄文時代早期から後期にかけての破片が出土した。１は田戸下層式の尖底部破片である。器面には条痕がみられる。２～９は前期前半の黒浜式で胎土に繊維が含まれ、内面は丁寧なミガキ調整が施される。10～42は前期後半の土器である。繊維が含まれず、焼成が良好で、内面のミガキも丁寧である。10～35は浮島式で、10～33は地文にまばらな撚糸文を主体とし、34･35は平行沈線と貝殻腹縁文に平行沈線文が施される。36～42は諸磯式で、36～40は地文の縄文に木葉文、41・42は胎土に砂粒が多く含まれ、結節沈線文が施される。43は断面三角形隆帯をもち、胎土に白色砂粒が多く含まれる阿玉台式である。44～49は加曽利Ｅ式の土器である。46は把手で、上端部に渦巻文が施される。他は胴部破片で、縄文と磨消縄文、条線等が施される。50はやや斜位の縄文が施される底部破片である。51～65は後期土器片で、加曽利Ｂ式の土器が主体である。51は口縁破片で、隆帯が高い。後期初頭の土器と考えられる。52～58は組線文の土器片で、地文が縄文で、弧線文が施される。焼成がよく、内面は丁寧に磨かれる。これに対し60～62は器面が荒れている。63～65は小型の精製土器で、磨消縄文が施される。非常に硬質の焼成である。

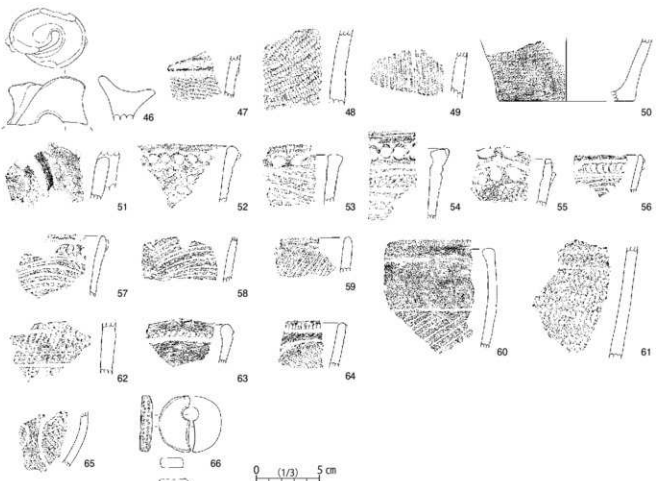
土製品（第７図66、図版11）66は玦状耳飾の破片である。径44mm、厚さ８mm、重量10.6ｇ、孔径11mmである。表・裏面は丁寧にミガキ調整で、色調はやや赤みを帯びる。上・下部以外の側面には２列の細い竹管による刺突文が施される。時期は前期後半と考えられる。

石　器（第９図、第２表、図版12）１は赤チャート製の石鏃である。無茎の細長三角形状で、基部はわずかに抉れる。２はチャート製の小型石鏃である。無茎の正三角形に近い形状で、基部の抉りが深い。３は安山岩製の打製石斧である。刃部は使用による磨滅がみられる。４は厚みのある片麻岩製の打製石斧である。右側面が滑らかで、上部が欠損する。５～７は砂岩製の円礫を使用した加工石器で、敲打痕や研磨痕が確認できる。８は緑雲母片岩製の石皿で平らに磨られ、上・下面に１か所ずつ凹みがある。９は石


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
0 (1/3) 5 cm

第6図　縄文土器（1）

棒の破片と考えられる。割れ面がやや滑らかであることから、再生しようとした可能性がある。

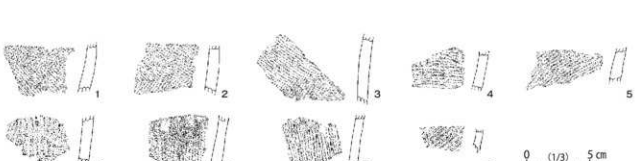


第7図　縄文土器（2）・土製品

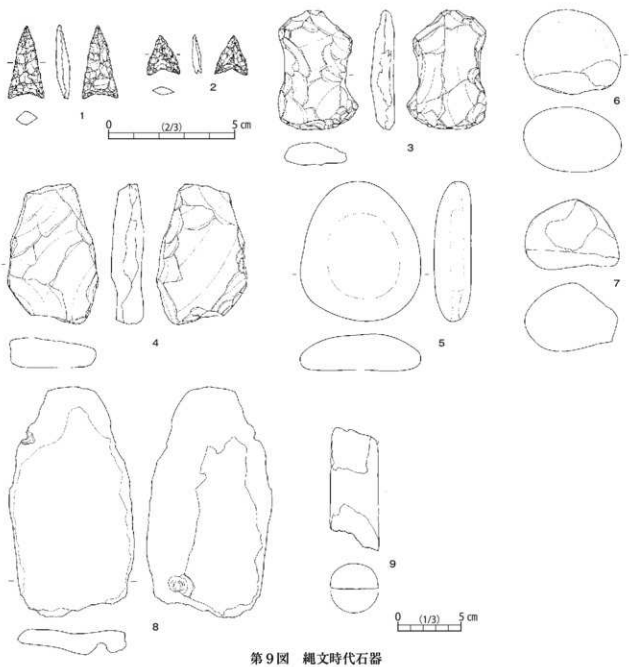
2　弥生時代

弥生時代の遺構は検出されなかったが、弥生時代後期の土器片が少量出土した。

弥生土器（第8図1～9、図版12）9を除き胎土に白色微粒子が多く含まれ、やや砂っぽい破片が多い。いずれも細かい縄文原体で施文され、1・2・3は羽状、他の破片はまばらな附加条縄文である。9の破片のみ器壁が薄く、内面が丁寧に磨かれ、附加条縄文もはっきりと施文される。



第8図　弥生土器



第９図　縄文時代石器

第２表　石器計測表

№	遺　構	遺物№	種　類	石　材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	厚 (mm)	重　量 (g)	備　考
1	SI018	0003	石鏃	チャート	28.7	14.2	5.7	1.4	
2	SI034	0006	石鏃	チャート	15.6	13.0	3.4	0.4	
3	SI018	0004	打製石斧	安山岩	94.5	63.0	18.5	121.1	
4	3F・Ⅳ	0001	打製石斧	片麻岩	111.0	72.0	25.0	271.6	
5	SI005	0028	磨石類	砂岩	110.5	95.0	29.0	464.9	上面：敲打 側面：研磨
6	SI021	0038	磨石類	砂岩	67	77.0	51.5	382.2	上面：研磨 側面：研磨
7	SI021	0012	磨石類	砂岩	56	74.0	54.0	240.2	上面：敲打 側面：研磨
8	SI018	0067	石皿	絹雲母片岩	182.5	98.5	20.0	503.5	
9	SI021	0045	石棒	絹雲母片岩	97.5	38.0	20.5	91.9	

第３節　古墳時代以降

今回の調査では古墳時代後半から平安時代にかけての竪穴住居跡が一部重複しながら44軒検出された。古墳時代の竪穴住居跡は27軒で、調査区全体に分布する。奈良・平安時代の竪穴住居跡は17軒で、調査区東側のみで検出され、西側には分布していない。竪穴住居以外では土坑が５基検出された。出土遺物が少なく、時期の特定はやや困難なものが多い。また、調査区内には７条の溝状遺構が検出された。覆土の状況及び出土遺物の年代から、いずれも近世の可能性が高いと判断されたため、古代の遺構と切り合っている部分のみ覆土を掘りあげた。遺物は古代の遺構からの流込みと考えられる土師器類の他に近世の陶磁器・銭貨などが出土した。溝には硬化面を有するものもあり、区画だけでなく道として機能していたものもあると考えられる。竪穴住居跡からは土器類を中心に遺物が豊富に出土した。特徴的なのは土製品の土玉の出土である。量の多さもさることながら、大きさ・形状が多様である。他に石製模造品や金属製品なども出土しているが、遺構数の割に数量は少ない。

ここでは、竪穴住居跡と土坑に分け、遺構番号順に遺構と出土遺物の特徴について詳述する。なお、遺物実測図・一覧表は種類ごとに本節末（第55図～第97図、第３表～第７表）にまとめ、遺構図には縮小した遺物図（原則として実測図の２分の１）を掲載した。

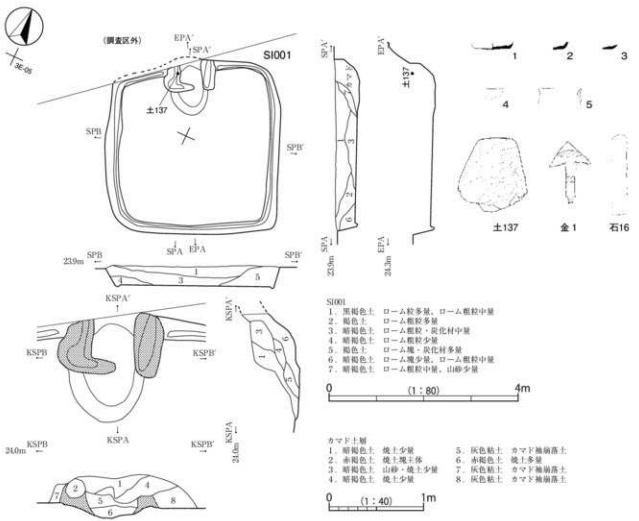
１　竪穴住居跡

SI001（第15図、図版３）〈3E-06グリッド〉住居跡北側の一部は調査区外に延び、カマド煙道部は完掘できていない。平面形は方形で、主軸方位N -26° - W、規模は主軸長3.68 m、幅3.68 m、深さは43㎝である。主柱穴や出入口ピットはなく、周溝は全周する。床面中央部分には硬化面がみられる。覆土はいわゆるレンズ状堆積で、壁付近にはローム塊と炭化材が多量に含まれる。カマドは北壁中央に付設され、左袖の遺存は不良だが、カマド内から土製支脚が直立した状態で出土した。

出土遺物は少なく、ほとんどが小破片で接合できた個体は少ない。甕類では掲載遺物以外では口縁端部が屈曲する常陸産の破片が確認できた。武蔵産の破片は２点のみである。在地産の甕も小破片であり、全体形の分かるものはなく、比較的器厚のあるものが目立つ。土師器坏類には赤みを帯びた破片が目立ち、須恵器模倣坏の破片が２点含まれる。

１～３は須恵器坏の底部周辺破片である。１は褐色系の色調で、体部の器壁は非常に薄い。底面は回転ヘラ切り後、一方向の手持ちヘラケズリ調整である。体部下端には面が作られる。２の内面見込みの部分がしっかりと凹む。底面は手持ちヘラケズリ調整である。器面は磨滅し、胎土に雲母細粒が目立つ。３も褐色系の色調である。底面には回転糸切り痕が残る。胎土に多量の白色針状物質が含まれ、北武蔵産の可能性がある。４は須恵器甕口縁部破片で、色調は灰白色である。口縁端部は上部に屈曲して立ち上がる。器面はやや磨滅気味である。５は土師器小型甕の口縁部から体部上部破片である。丁寧な作りで、胴部は縦位ヘラケズリ調整により薄く仕上げられている。土137は上面が平らな支脚先端部分である。カマド左袖にのるように出土し、支脚の基部破片は火床部から出土している。金１は鎌身が幅広な三角形式の鉄鏃である。鏃身の厚さは銹膨れのため推定である。頸部は短めで、篦被部分は側面のみ突出する。

SI002a（第11図、図版３）〈3E-37･38グリッド〉調査区の北東端にあり、SI002bにより壊されている。平面形は方形で、主軸方位N -10° - E、規模は主軸長4.64 m、幅4.85 m、深さ52㎝である。カマドは北壁中央ややや西寄りに付設される。SI002bよりもSI002aの掘り込みが深いため、床面はすべて残存する。覆土はレンズ状の堆積である。主柱穴は４本、南壁沿いの中央部やや西寄りに平面略円形の出入口ピット

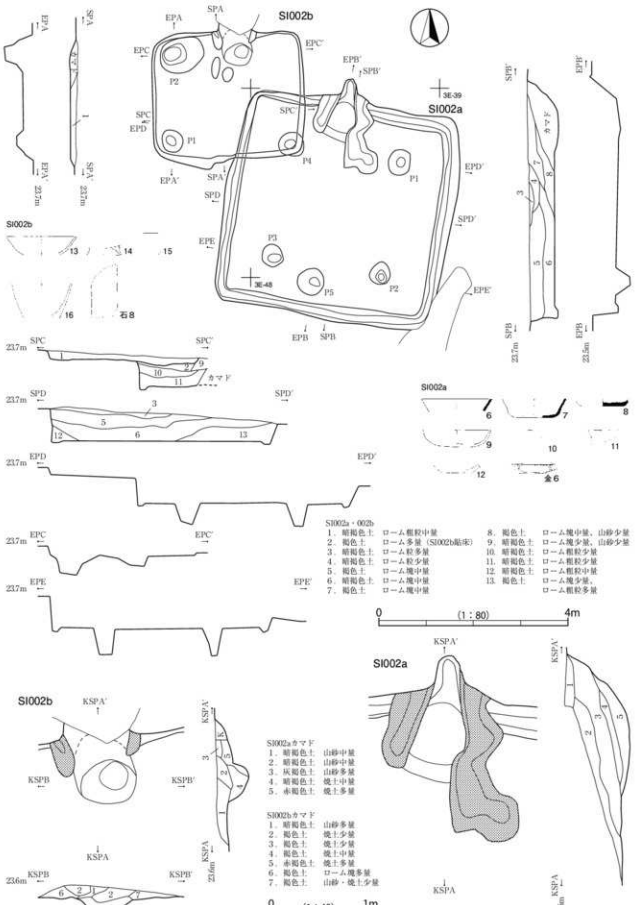


第10図　ＳＩ００１

が確認された。周溝は全周する。カマドは右袖部の山砂が流出した状態であった。

出土遺物は甕破片の比較的大きいものが含まれるが、接合されたものは少ない。甕類では白色砂礫が多量に含まれる常陸産の破片が目立ち、その口縁端部は僅かに短く立ち上がる。破片資料だが、底部に径3.5cmの孔をもつ甑破片が出土している。坏類は胎土が精緻で、丁寧に磨かれた個体が多い。

6～8は須恵器坏である。6・7は胎土に白色砂粒・雲母粒が目立つ。7は体部のロクロ目が明瞭である。底面は回転ヘラ切り後、部分的に手持ちヘラケズリ調整である。8は底部のみほぼ完存する。胎土には白色砂礫・砂粒が多く、雲母粒もわずかに含まれる。底面は回転ヘラ切り後、手持ちヘラケズリ調整である。9は土師器坏である。径に比べて器高が低く、赤みを帯びる色調である。10は土師器埦の破片である。内面のミガキ調整は丁寧だが、被熱のため剥がれが著しい。11・12は土師器甕の破片である。11は口縁部破片で、胎土に多量の白色砂礫、白色砂粒が含まれる常陸型甕である。口縁部の整形はやや甘く、端部は薄くつまんで調整される。12は底部破片で、底面には木葉痕が残る。体部外面は斜位の細かいミガキ調整で、胎土に白色砂粒が多く含まれる常陸型甕である。金6は、背側に関のような部分が確認されるため刀子の一部の可能性がある。


SI002b
SI002a
SI002a・002b
1. 暗褐色土　ローム粗粒中量
2. 褐色土　ローム多量（SI002b貼床）
3. 暗褐色土　ローム粒多量
4. 暗褐色土　ローム粒少量
5. 褐色土　ローム塊中量
6. 暗褐色土　ローム塊中量
7. 褐色土　ローム塊中量
8. 褐色土　ローム塊中量、山砂少量
9. 暗褐色土　ローム塊少量、山砂少量
10. 暗褐色土　ローム粗粒少量
11. 暗褐色土　ローム粗粒少量
12. 暗褐色土　ローム粗粒中量
13. 褐色土　ローム塊少量、ローム粗粒多量
0 (1：80) 4m
SI002aカマド
1. 暗褐色土　山砂中量
2. 暗褐色土　山砂中量
3. 灰褐色土　山砂多量
4. 暗褐色土　焼土中量
5. 赤褐色土　焼土多量
SI002bカマド
1. 暗褐色土　山砂多量
2. 褐色土　焼土少量
3. 褐色土　焼土少量
4. 褐色土　焼土中量
5. 赤褐色土　焼土多量
6. 褐色土　ローム塊多量
7. 褐色土　山砂・焼土少量
0 (1：40) 1m

第11図　ＳＩ００２

SI002b（第11図、図版3）〈3E-37・38グリッド〉SI002aの北西隅を壊して構築される。平面形はほぼ方形、主軸方位N - 1° - W、規模は主軸長2.90 m、幅3.21 m、深さ21㎝である。SI002aと重複する部分には、厚さ5㎝～18㎝の貼床がみられた。周溝と主柱穴はなく、北西隅と南西隅に貯蔵穴が検出された。北西隅の貯蔵穴は、平面形が大型の隅丸方形で2段掘りである。カマドは北壁中央に付設され、左袖は大部分が壊れ、右袖の遺存も不良である。火床部は深く掘り込まれ、焼土が多量に含まれる。

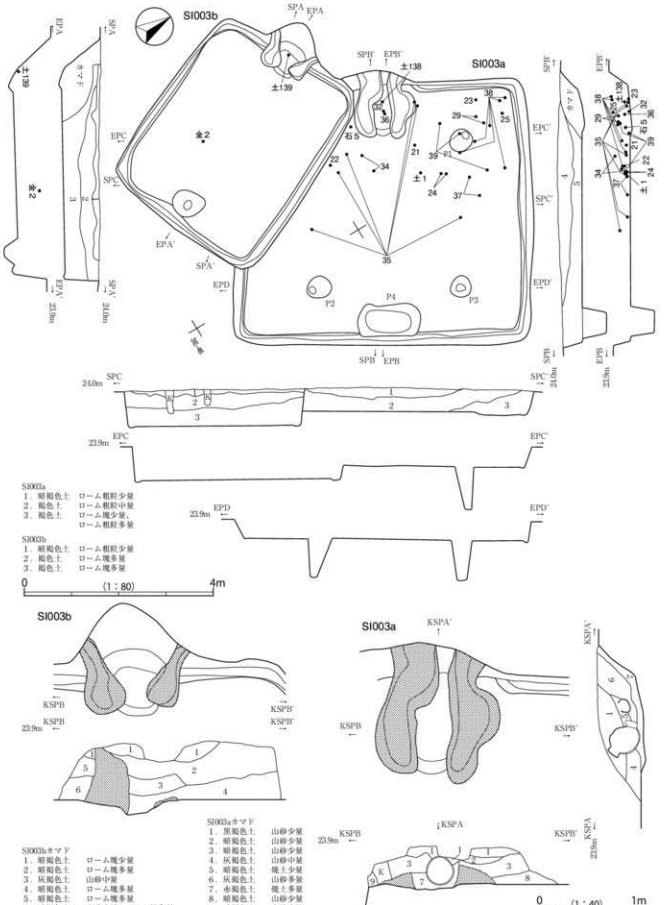
出土遺物は小破片が多くほとんど接合できなかった。甕類では常陸産は微量、在地産は縦方向のヘラケズリ調整の個体が目立つ。土師器坏類は、胎土が精緻で器壁の薄いロクロ整形の破片が多い。

13は土師器坏小破片である。体部は開きながら立ち上がる。体部下端付近は回転ヘラケズリ調整である。14は土師器高台付坏の底部破片である。高台はハの字に短く開く。付け高台で、底部中央の器壁は非常に薄い。15は土師器小型甕の口縁部破片である。口縁は短く、端部は鋭くつまみ上げられている。胴部外面は縦方向のヘラケズリ調整が明瞭である。16は土師器甕の底部破片である。15と胎土は近似する。被熱のため器面が剥落している部分が多い。他に覆土中から砥石（石8）が出土した。

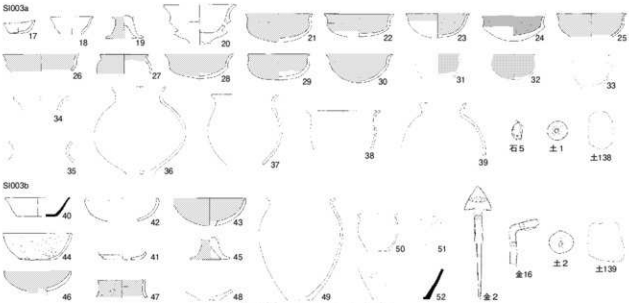
SI003a（第12・13図、図版3）〈3E-26グリッド〉調査区の北東部に位置し、SI003bにより南西部床面が削平される。平面形は横長方形で、主軸方位はN -58° - W、規模は主軸長5.59 m、幅6.30 m、深さ50㎝である。周溝はカマド付近以外、ほぼ全周する。床面は北壁中央付近がやや窪んでいる。主柱穴は3本、いずれも平面形は略円形である。貯蔵穴は入口側東壁の中央付近に周溝と接して作られている。平面形は隅丸長方形、規模は長軸133㎝、幅69㎝、深さ50㎝である。カマドは北西壁中央に付設され、火床面の10㎝～20㎝上からは、ほぼ完形の土師器甕や塊、土製支脚などが出土した。

出土遺物は、完形に近い土器類が豊富である。甕類では在地産が主体で、常陸産は非常に少ない。坏類はほとんどが赤彩され、黒色処理される個体は少ない。また短脚の高坏破片も出土している。

17は坏形の手捏土器である。口縁は平らでなく、色調は全体的に赤みを帯びる。18は土師器小型壺口縁部破片である。器壁が薄く丁寧な整形で、口縁が屈曲する。内外面ともハケメが施される。19・20は土師器高坏である。20は坏部破片である。接合しないが、図上で復元した。器厚があり、口縁端部や稜はしっかりとつくり出されている。坏部の底面は鍔部分と平らに成形した後、粘土紐で口縁部分を積み上げている。19は小型の脚部で、裾部は短く広がる。坏部内面は赤彩されるが、外面は不明瞭であり判然としない。21～26、28～30は土師器坏である。21・28・29は口縁部の一部を欠く。21の外面は口縁部下端にはっきりとした稜をつくり出し、口縁は緩く外反しながら立ち上がる。全体的に丁寧な整形である。22の体部はつぶれた形状で、口縁部が大きく外反する。口縁部外面にはヘラを当てた痕跡がほぼ等間隔に残る。内外面ともに赤彩されるが、底面は黒色である。23の口縁部は短く緩く外反する。体部～底部は半球形に近い。内面は丁寧なヘラミガキ調整が施される。内面は一部消失しているものの全面赤彩されていたと考えられる。24の外面は口縁部下端にはっきりとした稜をつくり出し、口縁は外反しながら立ち上がる。全体的に器厚があり、胎土は緻密である。内面は非常に強いヘラミガキが施される。外面は口縁部のみ黒色が確認できるが、全面が黒色処理されていた可能性は高い。25は口縁から体部上半の破片である。口縁と体部の境に稜を有し、口縁部は短く外反する。26は口縁から体部上半の破片である。口縁部は弱く外反する。28の口縁部は大きく外反する形状である。体部外面はやや雑な調整で、底部内面には「×」印に赤彩が施される。29の外面も口縁部下欄に強い稜をつくり出すが、口縁部は直立気味に立ち上がる。体部から底面は細かいヘラケズリで整形している。30の口縁部は短く外反し、体部との


SI003b
SI003a
SPA
EPA
SPB'
EPB'
SPC
EPC
EPC'
SPC'
EPD
EPD'
SPB
EPB
SPA'
EPA'
SPA'
EPA'
SPB'
EPB'
SPB
EPB
カマド
土139
土138
土1
金2
P1
P2
P3
P4
23.9m
24.0m
SI003a
1．暗褐色土　ローム粗粒少量
2．褐色土　ローム粗粒中量
3．褐色土　ローム塊少量、ローム粗粒多量
SI003b
1．暗褐色土　ローム粗粒少量
2．褐色土　ローム塊多量
3．褐色土　ローム塊多量
0
(1：80)
4m
SI003b
KSPB
KSPB'
SI003a
KSPA'
KSPA
SI003bカマド
1．暗褐色土　ローム塊少量
2．暗褐色土　ローム塊多量
3．灰褐色土　山砂中量
4．暗褐色土　ローム塊多量
5．暗褐色土　ローム塊多量
6．暗褐色土　山砂少量、ローム塊多量
SI003aカマド
1．黒褐色土　山砂少量
2．暗褐色土　山砂少量
3．暗褐色土　山砂少量
4．灰褐色土　山砂中量
5．暗褐色土　焼土少量
6．灰褐色土　山砂多量
7．赤褐色土　焼土多量
8．暗褐色土　山砂少量
9．暗褐色土　山砂少量
0
(1：40)
1m

第12図　ＳＩ００３（１）



第13図　ＳＩ００３（２）

境に弱い稜がつくられる。底面には焼成前に「×」印にヘラ書きされる。内面には暗文様の放射状のヘラミガキが施される。27・32は土師器埦である。27は口縁部から体部上半の破片である。口縁が短く外反する。外面はヘラケズリ後ナデ、内面はナデ調整である。外面は全面、内面は口縁部のみ赤彩される。32はほぼ完形で、口縁が短く直立し、体部が張る形状である。31は土師器鉢である。被熱のためか器面がやや荒れており、赤みを帯びた色調である。口縁端部は短く直立気味に立ち上がる。33～37・39は土師器甕である。33は小型甕で、全体的に成形は雑でいびつである。器面は荒れ気味で、特に内面は部分的に剥落している。口縁端部は内側に面をもつ。外面は底面も含め、雑なヘラケズリである。胴部外面に赤みを帯びる部分がある。34は口縁部破片である。器厚があり、明らかに異質な個体である。焼成はやや不良である。内外面とも荒いハケメ調整である。35は土師器甕の口縁部破片である。口縁部が緩やかに外反する形状である。全体的に白みを帯びた色調で焼成も良好である。36は胴部の一部を欠くのみでほぼ完形の土師器甕である。口縁はほぼ直立し、口縁端部は丸みを帯びる。胴部中央が大きく張る形状である。内面は斑点状に器面が剥離する。37は頸部のくびれが弱く、胴部の張りも緩やかな形状である。被熱のため内面の器面が著しく荒れている。外面は主に横方向のヘラケズリ後ナデ調整である。39は口縁が短く直立し、胴部は丸みを帯びる。比較的器厚がある。38は土師器甑の口縁から胴部上半破片である。頸部の屈曲が弱く、口縁端部のみ外反する。石５はカマド左袖付近から出土した石製品である。緑色で透明度の高い滑石製で１か所穿孔されている。石製模造品の剣形の可能性がある。土１の土玉は床面からやや上の覆土中から出土した。土138は支脚の先端部分で、カマドの火床部から出土した。

SI003b（第12・13図、図版３）〈3E-35グリッド〉調査区の北西部、SI002a・SI002bの西に位置し、古墳時代の竪穴住居跡SI003aを壊して構築される。平面形は縦長方形で、主軸方位はＮ-25°-W、規模は主軸長4.58ｍ、幅3.70ｍ、深さ73㎝である。主柱穴は検出されず、周溝は全周する。覆土中層・下層は水平に堆積し、ローム塊が多量に含まれる褐色土であり、人為的な埋戻しの可能性が考えられる。南東壁中央付近に平面形が不整円形の入口ピットが付設される。カマドは小型で、左右の袖は比較的遺存度が良い。カマド火床部からは支脚が出土した。

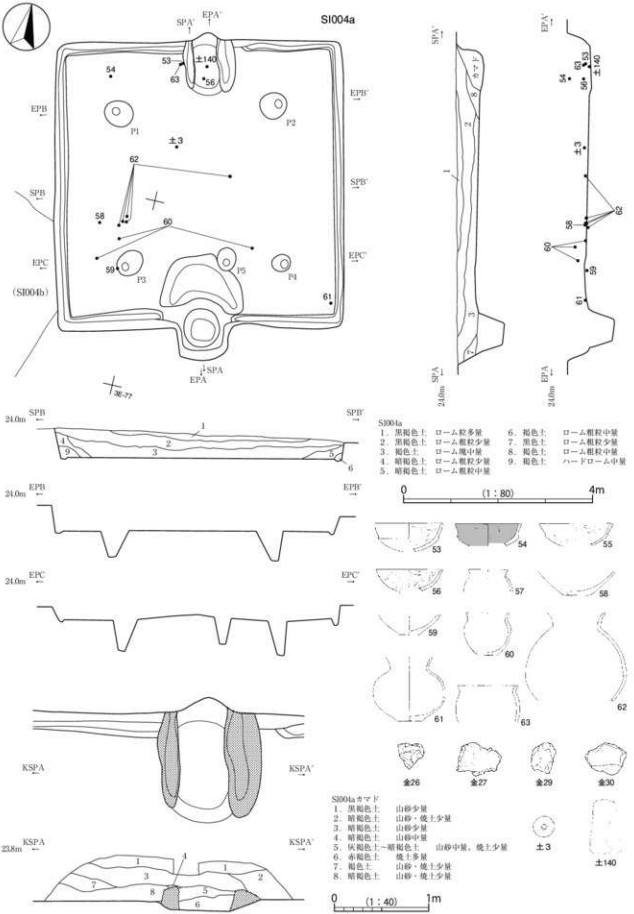
出土遺物のうち、比較的大きい破片は南壁周辺からの出土が多い。甕類では在地産と常陸産が多く、重量比ではほぼ同じ出土量で、武蔵産の破片は少量である。坏類では掲載資料以外ではロクロ土師器はやや少なめで、赤彩された非ロクロ坏の点数が目立つ。

40は須恵器坏である。口縁端部はやや肥厚し、わずかに外反する。外面調整のロクロ目は強い。体部下端及び底面は手持ちヘラケズリ調整である。胎土には白色微砂粒・雲母細粒が目立つため、常陸産のものと考えられる。41は土師器坏の体部下端から底部破片で、内外面ともにロクロ目が強い。底面は手持ちヘラケズリである。胎土には赤褐色スコリア粒と雲母細粒が目立つ。42～44は土師器塊である。42は口縁部が短く内傾する。43は口縁が短く直立し、体部は半球状に丸みを持つ。44は平底で、全体的に丁寧な整形であり、器厚の割には軽量である。45・46は土師器高坏の脚部と坏部であるが別個体である。47は土師器広口壺の口縁部破片である。口縁は直立し、内外面とも丁寧な横方向のミガキ調整である。48・49・50は土師器甕である。48は底部から胴部へ大きく開きながら立ち上がる大型甕であろう。胎土に白色細粒が多量に含まれる。内外面ともに被熱による器面剥離が著しい。底面外周に使用による磨滅がみられる。49の口縁部は短いが大きく外反し、口縁端部は強くつまみ上げられる。胴部の張りは弱く、長胴化している。胎土には白色砂粒・小石が多く、雲母細粒も含まれることから、常陸型甕と考えられる。50は全体的に丁寧に成形された小型甕である。口縁部は須恵器のようにしっかりと稜がつくり出されている。外面は部分的に強く被熱し、白く変色する。51・52は須恵器甕である。51は口縁部破片で、頸部が強く屈曲し、胴部は直線的である。外面には横方向の平行タタキ目が強く残るが、内面の当て具痕はわずかに凹凸がある程度である。胎土には白色微砂粒・雲母細粒が含まれ、常陸産の可能性が高い。52は甕底部破片である。胎土自体はやや白みの強い灰色だが、外面は赤みを帯びる。外面はタタキで、底部下端はヘラケズリ調整、内面には部分的に無文の当て具痕がみられる。特徴から下総地域産の可能性が高い。土139は支脚の基部で、カマド火床部奥から出土した。金2は鉄鏃で、鏃身形はほぼ正三角形で逆刺は弱い。茎尻を欠くのみで遺存は良好である。箆被は関面のみ突出する。ほかに覆土からは土玉（土2）と棒状の鉄製品（金16）が出土した。

SI004a（第14図、図版3）〈3E-57グリッド〉 調査区北部のSI002a・SI002b・SI003a・SI003bの南側の位置にあり、SI004bを壊して構築される。平面形は張出しの貯蔵穴をもつ方形で、主軸方位N-12°-W、主軸長6.10m、幅6.13m、深さ49cmである。張出し部を除き、床面には周溝が巡る。張出し部前面の床面には穴を囲むように5cm程度の高まりが確認できた。主柱穴4本のほかにP3とP4の間にもピット(P5)が検出された。貯蔵穴は南壁外へ70cm張り出して構築され、平面形は上場が略円形で、下場が隅丸の方形である。カマドは北壁の中央に付設され、奥壁は垂直に立ちあがる。カマドの火床部からは土製支脚と土師器高坏が出土した。

出土遺物は、甕類では在地産が主体で、重量比でその2分の1が常陸産である。常陸産の口縁部の破片には単口縁のものが確認できた。坏類では黒色処理された破片が赤彩されたものより多い。

53～55は土師器坏である。53は体部と口縁の境に明瞭な稜を有し、口縁は内湾気味に開きながら立ち上がる。須恵器蓋の模倣であるが、器高は高い。やや軟質なため、器面が磨滅している。54の口縁部は強く外反しながら立ち上がる。胎土にはほとんど砂粒が含まれず、緻密である。55の器壁は薄く、口縁は大きく開く。胎土自体が赤みを帯びる。56は土師器高坏の坏部である。口縁部に明確な稜はなく、端部がわずかに外反する。胎土に細かな微砂粒が多く、器面がざらつく。61は土師器広口壺である。口縁


SI004a
SI004b
SI004a
1. 黒褐色土　ローム粒多量
2. 黒褐色土　ローム粗粒少量
3. 褐色土　ローム塊中量
4. 暗褐色土　ローム粗粒少量
5. 暗褐色土　ローム粗粒中量
6. 褐色土　ローム粗粒中量
7. 黒色土　ローム粗粒少量
8. 褐色土　ローム粗粒中量
9. 褐色土　ハードローム中量
SI004aカマド
1. 黒褐色土　山砂少量
2. 暗褐色土　山砂・焼土少量
3. 暗褐色土　山砂少量
4. 暗褐色土　山砂中量
5. 灰褐色土～暗褐色土　山砂中量，焼土少量
6. 赤褐色土　焼土多量
7. 褐色土　山砂・焼土少量
8. 暗褐色土　山砂・焼土少量
0 (1：80) 4m
0 (1：40) 1m
24.0m
23.8m
SPA
EPA
SPA'
EPA'
SPB
SPB'
EPB
EPB'
EPC
EPC'
KSPA
KSPA'
P1
P2
P3
P4
P5
±3
±140
金26
金27
金29
金30

第14図　ＳＩ００４ａ

は短く、胴部中位が強く張る。胎土は赤褐色スコリアのみが目立ち、全体的に軟質である。特徴から上総地域産の可能性がある。57 ～ 60・62・63は土師器甕である。63の口縁は短く、外反は弱い。57は小型甕の口縁部である。口縁は強いヨコナデで直線的に開く。被熱により全体的に器面は荒れている。58の底面はやや丸みを有する。胎土には多量の白色砂粒・小石、微量の雲母細粒が含まれ、外面にミガキ調整が施される常陸型甕である。59の底部周縁は磨滅し、丸みを帯びる。内面はミガキ状の丁寧なヘラナデ調整である。胎土には微細な白色微細粒が多く含まれ、器壁はざらつく。60は小型甕で、胴部が緩やかに張る。底面には木葉痕がみられる。62の口縁部は緩やかに外反し、胴部は球状に丸みを帯びる。住居中央の床面からやや上の覆土中から土玉（土3）が1点出土した。遺存の良い支脚（土140）が、カマド火床部から出土した。ほかに覆土中から炉壁の破片状のもの（金26・27・29・30）が出土した。

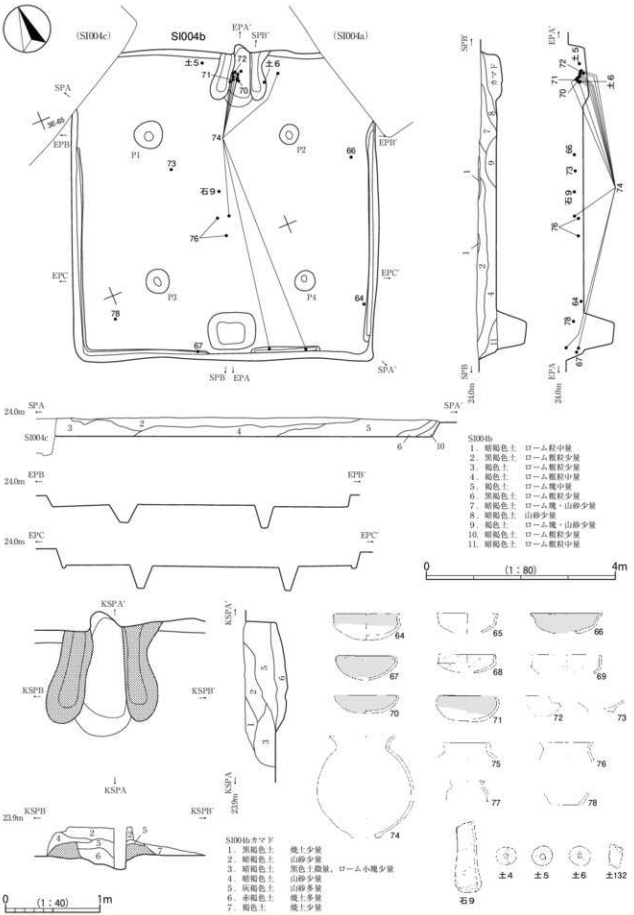
SI004b（第15図、図版3・4）〈3E-65グリッド〉調査区北部の位置にあり、SI004aに北東隅、SI004cに北西隅で重複している。平面形は方形で、主軸方位N -23° - E、規模は主軸長6.57 m、幅6.53 m、深さ約30cmである。周溝は東・西・南壁沿いに部分的に確認でき、主柱穴は4本検出された。貯蔵穴は南壁沿いの中央にあり、平面形は方形である。カマドは北東壁中央に付設され、火床部には焼土が多量に含まれる。カマドの奥壁は、緩やかに立ち上がり、上部はほぼ垂直に立ち上がる。

主な遺物はカマド周辺と西側に比較的まとまって出土し、床面直上の遺物は少なかった。甕類では在地産がほとんどで、常陸産の可能性のあるものは小破片のみである。坏類では赤彩された個体が多く、黒色処理されたものは客体的で、やや厚さがある。破片資料では内湾したやや器高の高い坏が目立つ。

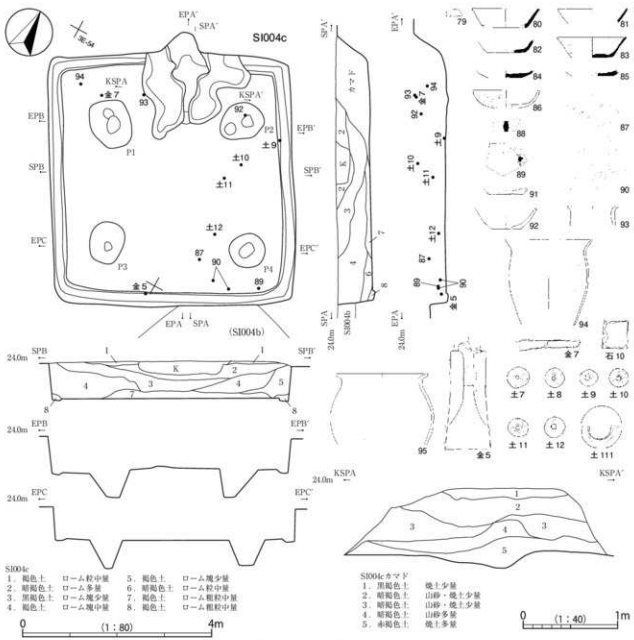
64 ～ 71は土師器坏である。64は体部と口縁の境に明瞭な稜を有し、口縁は直立気味に立ち上がる典型的な須恵器模倣坏である。65は口縁がやや開きながら立ち上がる、須恵器蓋の模倣坏である。胎土自体が赤みを帯び、赤彩の有無は不明瞭である。66は口縁と体部の境に明瞭な稜を有し、口縁が強く外反する。67は完形で、口縁の立ち上がりは短く、強く内傾する。口縁端部は使用によると思われる磨滅がみられる。68は口縁が直立気味に短く立ち上がる。内外面ともに口縁部を含めて細かいミガキ調整が施される。胎土はやや白みがあり、白色砂粒や小石が目立ち、雲母細粒も含まれるため、常陸産の可能性が考えられる。69は口縁がやや直立気味に立ち上がる。胎土には白色針状物質と雲母細粒がやや目立つ。70は器高が低く、口縁端部がわずかに内傾して立ち上がる。成形がやや雑で、全体的にややゆがむ。71は口縁が緩やかに内傾する。器高は高く、底面はやや平底状になる。72は土師器鉢の口縁部破片である。高坏の口縁の可能性もある。73 ～ 77は土師器甕である。73は底部で、器壁は比較的薄く、底部のつくりは雑である。74は胴部中位に張りをもち、全体的に丁寧な成形である。75・76・77は口縁部付近の破片である。75は全体的に器厚があり、口縁は短く直立し、端部は平らである。77は口縁が短く外反し、肩部が張る。被熱のため器面は荒れており、特に内面は剥落が著しい。78は土師器甑の底部破片である。二次焼成のためか硬質である。他に土玉（土5・6）はカマド周辺、砥石（石9）が覆土中層から出土した。

SI004c（第16図、図版3・4）〈3E-54グリッド〉調査区北部の位置にあり、SI004bを壊して構築される。平面形は方形で、主軸方位N -28° - W、規模は主軸長5.35 m、幅5.19 m、深さは79cmである。覆土には中央部に粗いローム粒・ローム塊が多く含まれ、人為的に埋戻しが行なわれた可能性が高い。周溝は全周し、幅が約20cmと広い。主柱穴は4本検出された。カマドは北西壁中央に付設される。カマドは遺存が不良で、カマド火床面から10cm程度上から遺物が出土した。

遺物はカマド側、東側に集中して出土し、床面直上の個体は少ない。甕類では常陸産が主体で、重量比

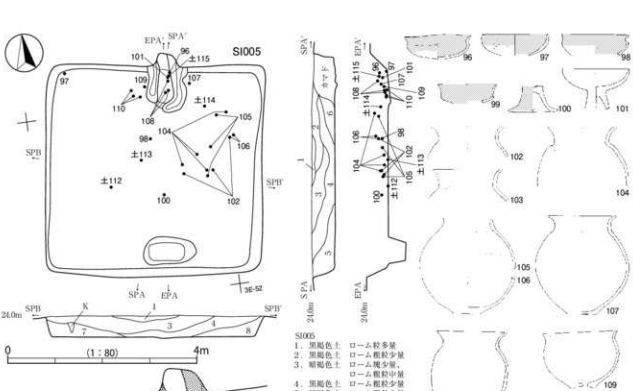

SI004b
(SI004c)
(SI004a)
EPA'
SPB'
SPA
SPB
EPA
EPB
EPB'
EPC
EPC'
SPA'
SE-65
P1
P2
P3
P4
石9
±5
±6
SI004b
1. 暗褐色土　ローム粒中量
2. 黒褐色土　ローム粒粒少量
3. 褐色土　ローム粒粒少量
4. 褐色土　ローム粒粒中量
5. 褐色土　ローム塊中量
6. 黒褐色土　ローム粒粒少量
7. 暗褐色土　ローム塊・山砂少量
8. 暗褐色土　山砂少量
9. 褐色土　ローム塊・山砂少量
10. 暗褐色土　ローム粒粒少量
11. 暗褐色土　ローム粒粒中量
0
(1 : 80)
4m
KSPA'
KSPB
KSPB'
KSPA
23.9m
0
(1 : 40)
1m
SI004bカマド
1. 黒褐色土　焼土少量
2. 暗褐色土　山砂少量
3. 暗褐色土　黒色土微量、ローム小塊少量
4. 暗褐色土　山砂少量
5. 灰褐色土　山砂多量
6. 赤褐色土　焼土多量
7. 褐色土　焼土少量
石9
±4
±5
±6
±132

第15図　ＳＩ００４ｂ



第16図　ＳＩ００４ｃ

で在地産の２倍の量が出土した。武蔵産破片も一定量出土した。坏類は破片資料では非ロクロ土師器が多く、赤色が主体である。須恵器坏は常陸産が主体である。他に手捏ねのミニチュア土器破片も出土した。79は須恵器坏蓋の口縁部破片である。胎土に雲母細粒と白色小石が含まれる常陸産須恵器である。頂部側の外面は回転ヘラケズリ調整である。80～85は須恵器坏である。80・83・84は胎土には白色砂粒や雲母細粒が目立つため、常陸産の可能性が高い。81の胎土は精緻で、混入物は少ないが、白色針状物質がやや目立ち、内外面ともロクロ目は弱い。比企産の可能性が考えられる。82は胎土に雲母細粒や赤褐色スコリア粒がやや目立つ。83は内外面ともにロクロ目が細かい。底面は回転ヘラ切り後、手持ちヘラケズリ調整である。84の底面はヘラ切り後、一方向の手持ちヘラケズリ調整である。器面は磨滅し、ざらついている。85は胎土に精緻で白色砂粒が微量含まれる。体部下端と底面は回転ヘラケズリ調整である。器面は磨滅気味である。特徴から東海地域産の可能性がある。86は土師器坏である。器高が低く、平底



第17図　ＳＩ００５

である。口縁部外面に一条沈線が巡る。胎土は精緻で、焼成も良好である。87・90は須恵器甕である。87は肩部の破片で、胎土は精緻、色調は薄い灰色である。外面には自然釉が付着する。90は胴部破片で、胎土に白色砂粒が目立ち、雲母細粒はほとんど含まれない。器厚があり、大型甕であったと考えられる。88は土師器甕の胴部破片で、墨書された可能性がある。89は須恵器甕の胴部破片の転用硯である。内面には墨が付着する。胎土は精緻で、焼成は良好、色調は白みを帯び、東海産の可能性が考えられる。91～95は土師器甕である。91・92は底部で、胎土に白色砂粒・小石が多く、雲母細粒も含まれ、外面にミガキ調整される常陸型甕の特徴をもつ。どちらも底面に木葉痕がみられる。93は小型の甕で口縁部は短く強く外反し、胴部は直線的である。特に外面は被熱し、胎土全体が赤みを帯びる。94は頸部の屈曲や胴部の張りは弱い。ヘラケズリにより器壁を非常に薄くする武蔵型甕の特徴をもつ。胎土自は赤みを帯びる。95は口縁から胴部上半の破片である。口縁は単純口縁で短く外反する。胎土に白色砂粒・小石が多く、雲母細粒もみられ、常陸産と考えられる。金５の鉄斧は南壁際の床面に近い位置からの出土である。基部を袋状に折り曲げ、木柄に装着している。銹に覆われ木質部が遺存する。金７の刀子は関がはっきりせず、刃部も銹膨れのため断面形が不明瞭である。土玉は住居東側の覆土中から６点（土７～12）出土した。また、大型土錘の破片（土111）も１点出土した。他の土錘に比べ孔径が大きく薄い。土132は棒状の不明土製

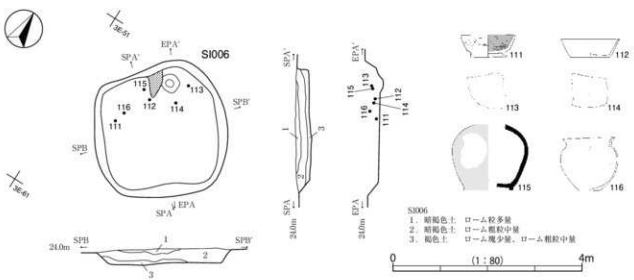
品である。他に覆土中から小型の砥石（石 10）が出土した。

SI005（第 17 図、図版 4）〈3E-41 グリッド〉調査区北西部端の位置にある。平面形は方形、主軸方位 N -10° - E、主軸長 4.98 m、幅 4.62 m、深さ 48cmである。床面に周溝は確認されなかった。貯蔵穴は南壁中央にあり、平面形は長方形である。カマドは北壁中央に付設される。

カマドの両袖脇及び、火床部の上からは土師器甕など多くの遺物が出土した。甕類ではほとんどが在地産である。胴部は強く張らない卵型の個体が主体である。坏類では赤彩個体が主体で、黒色処理された破片はほとんどない。

96 ～ 98 は土師器坏である。96 は完形だが、坏部はひずみ、口径は長軸で 15.0cm、短軸で 12.8cm である。口縁は強いヨコナデで、体部との境に明瞭な稜をつくり出す。97 は口縁端部が使用によりかなり磨滅している。98 は口縁が外反しながら直立する。内面には暗文状にミガキが施される。99 ～ 101 は土師器高坏である。99 は器壁が薄く、丁寧な作りである。100 は短脚の脚部で、裾部が緩やかに広がる。脚部内面は黒色である。101 は非常に強く熱を受け、内外面ともに器面の剥落が著しい。埦状の坏部で、脚部は短い。102 ～ 108 は土師器甕である。102・103 の成形は丁寧で、外面はハケ目調整される。SI004b の 74 と同系統の甕である。104 は口縁から胴部上半である。全体的に器厚があり、口縁を強いヨコナデで胴部との境を明瞭する。内面には茶褐色物質が多く付着する。106 は胴部下半から底部である。底部はわずかに膨らみ、角は丸みをもつ。形状・胎土などから 105 と同一個体と考えられる。107 の口縁部は端部が強く外反する。外面は全体に赤みを帯び、内面には茶褐色物質が全体的に付着する。108 の口縁は直線的に開き、口縁端部は複合口縁を意識したつくりである。109・110 は土師器甑である。109 は鉢形甑で、底面に一孔のみ底部の中心からずれて焼成前穿孔される。口縁外面に粘土紐接合痕を残す。110 はヘラケズリにより器壁を全体に薄く仕上げる。口縁は緩やかに外反し、胴部は張らずに底部へとすぼまる。他に大型土錘（土 112 ～土 115）が出土したが、出土位置にまとまりはみられない。土 113 は表面がざらつく。

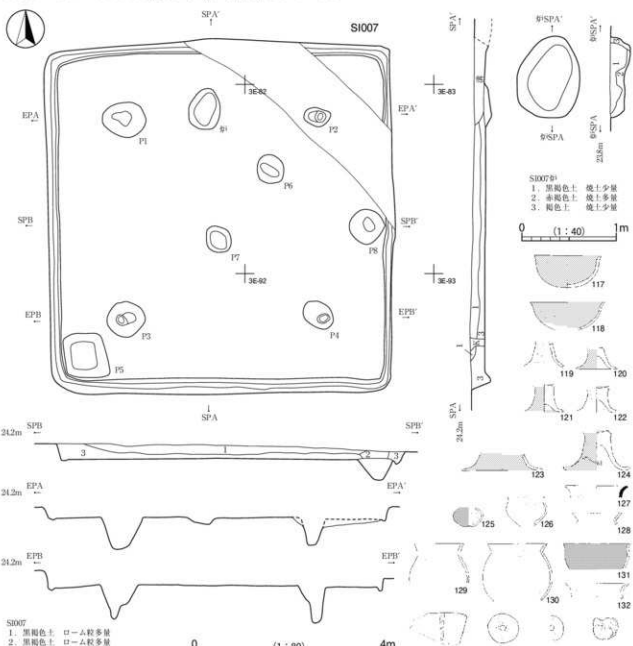
SI006（第 18 図、図版 4）〈3E-52 グリッド〉調査区北西部の位置にあり、北側に SI005 が近接する。平面形は隅丸方形で、主軸方位N -40° - W、規模は主軸長 2.85 m、幅 2.81 m、深さは約 30cmである。壁の立ち上がりはなだらかである。周溝や柱穴は検出されず、床面には凹凸がみられる。カマドは北西壁の東寄りに付設され、左袖部の基底部がわずかに残るのみである。



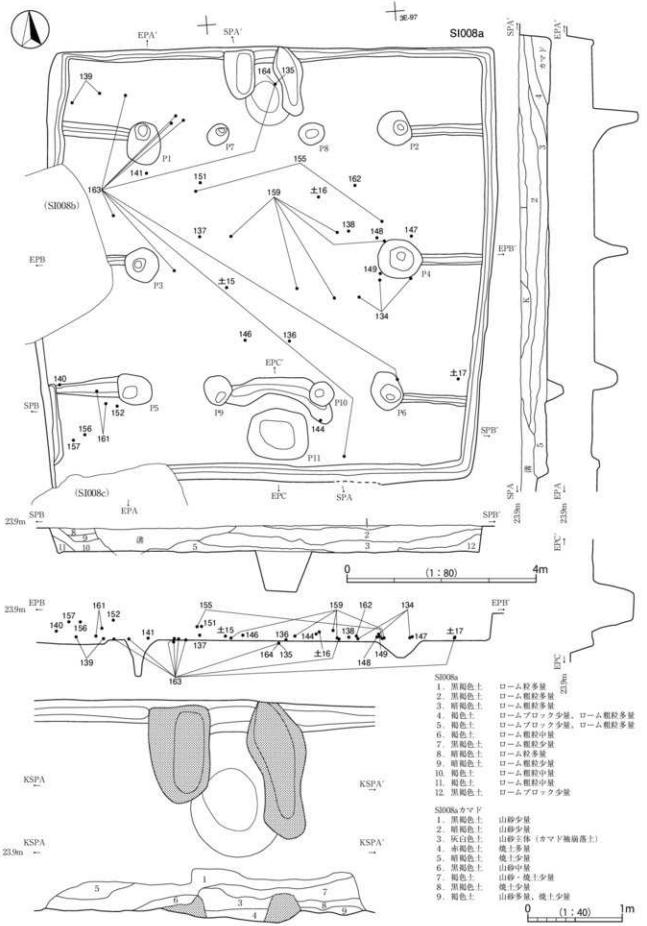
第18図　ＳＩ００６

出土遺物は少なく、比較的大きな破片はカマド周辺にみられる。甕類では在地産が主体で、常陸産は少量、武蔵産は微量である。坏類では破片資料も含めると非ロクロ土師器の方が量的に多く、小型で赤みのある破片が目立つ。

111は内面黒色処理された土師器高台付坏である。ほぼ完形で、体部下端と底面は回転ヘラケズリ調整である。112はロクロ整形の土師器坏である。底径が大きく、体部から口縁が直立に近い形で立ち上がる。底部内面に膨らみをもち、底面は手持ちヘラケズリ調整される。113～116は土師器甕である。113・114は甕の胴部下半の破片である。114はミガキが施され、胎土に白色砂粒・小石・雲母細粒が目立つ常陸型甕である。115は須恵器高台付長頸壺の肩部から底部である。高台は付け高台である。器厚があり、非常に重い。肩部と底部内面中央に自然釉が付着する。胎土に白色小石が目立ち、焼成は良好で堅緻である。116はヘラケズリにより器壁が非常に薄く作られている。



第19図　ＳＩ００７



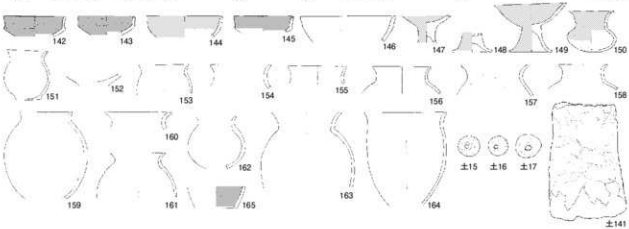
第20図　ＳＩ００８ａ（１）

SI007（第19図、図版4）〈3E-81グリッド〉調査区中央部の北寄りの位置にある。平面形は方形の大型竪穴住居跡である。主軸方向は南北で、規模は主軸長7.47 m、幅7.33 m、深さ約25cmである。床面には周溝が全周し、主柱穴4本のほかに3本のピットが検出された。主柱穴以外のピットの平面形は略円形で、主柱穴より浅い。竪穴南西隅に周溝と接するように方形の貯蔵穴がある。炉は床面北側やや西寄りの主柱穴P1とP2の間にある。炉の形状は楕円形で、規模は98cm×65cmである。炉の底面付近の層には、焼土が多量に含まれる。

出土遺物はあまり多くなく、大きな破片は少ない。甕類は在地産がほとんどである。ハケメのある甕や口縁にケズリの施された破片など本遺跡においては古い土器様相である。坏類では赤彩される個体がほとんどで、塊系の器形が主体である。脚部が太くて短い高坏の個体が目立つ。

117・118は土師器塊である。117はほぼ完形である。口縁部は短く外側に屈曲し、底部は丸底である。118は口縁部が緩く外反する。131は土師器鉢の破片である。口縁部は緩く外反する。119～124は高坏の脚部である。124以外は短脚である。120の脚部内面にはヘラ描きが放射状に3本みられる。121は内外面ともにヘラケズリ痕が明瞭である。119の脚部内面には粘土紐接合痕が明瞭にみられる。124は焼成後に坏部内面及び裾部に研ぎ痕状の線刻が確認できる。125は土師器小型壺の体部から底部である。体部中央がそろばん形に強く屈曲する。底部は小さな平底である。126は土師器小型塊である。底部は平底を呈していたと考えられる。127は褐色系の須恵器小型甕の口縁部破片である。頸部下にはタタキ目が確認できる。焼成は良好で、全体的に丁寧な成形である。128～130・132は土師器甕である。128は内外面ともにハケメ調整される。129の口縁は直立気味で、頸部内面には稜をつくり出す。130の口縁はくの字に屈曲する。口縁部外面は弱いハケメ後、ヨコナデ調整され、胴部下半の外面にはススが多量に付着する。土玉はやや大型のもの（土13・土14）が出土した。土130は扁平な不明土製品である。表面調整はほとんどされない。金17は板状鉄製品である。形状から鎌の可能性があるが、基部に折返しの様子はみられない。

SI008a（第21図、図版4）〈4E-06グリッド〉調査区中央の位置にあり、SI008b・SI008cに壊される。平面形は方形で、主軸方位N-3°-E、規模は主軸長9.10 m、幅9.48 m、深さは約60cmで、本遺跡のなかで最も大型の竪穴住居跡である。周溝は南東部の一部で途切れるが、ほぼ全周する。主柱穴は6本、その主柱穴に付属して東西方向に周溝まで延びる間仕切溝が6条検出された。主柱穴の他に小型柱穴が4本



第21図　S I 0 0 8a（2）

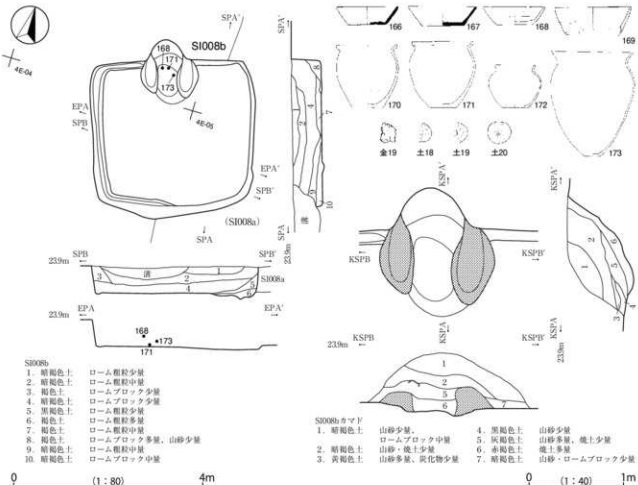
(P7 ～ P10) 検出された。その４本のうち２本は、カマド正面で対になり、ほかの２本は南壁中央沿いにある方形の貯蔵穴の前面で対になり、東西にある主柱穴と軸線を揃えて配置される。深さは P7 が 45㎝、P8 が 30㎝、P9 が 46㎝、P10 が 40㎝である。なお、P9 と P10 の間には貯蔵穴の北側を囲むようにわずかな高まりがみられる。北壁中央にカマドが付設され、遺存は比較的良好である。

遺物は竪穴中央部を主体に非常に多く出土した。甕類では在地産が主体である。常陸産は重量比で在地産の 10 分の１の量が出土した。口縁は単口縁でやや厚さがある。坏類では丁寧に磨かれた黒色処理個体が多いが、破片資料には赤彩破片も一定量出土している。赤彩破片は厚さがあるものが目立つ。

133 は塊形のミニチュア土器である。手捏ねで成形し、内外面ナデ調整である。134 ～ 143・145 は土師器坏である。134 ～ 137 は比較的忠実に須恵器模倣する個体である。これらの口縁は内外面とも丁寧な横方向のヘラミガキ、体部外面はヘラケズリ後ミガキ、体部内面は放射状に丁寧なミガキ調整が施される。136 の体部外面のヘラケズリは雑で、ヘラ書き状の筋がみられる。138 はやや体部高があり、口縁が強く外反する。全体的に器壁は薄い。139 ～ 143・145 は黒色処理される。これらの口縁部は内外面とも丁寧な横方向のヘラミガキ、体部外面はヘラケズリ後ミガキ、体部内面は丁寧なミガキ調整が施される。内面のミガキ方向は 140 が直線的な横方向で、他は放射状である。144・146 は土師器塊である。144 は口縁部直下に太く沈線状の凹みが巡る。146 は大型で、口縁と体部の境に弱い稜が巡る。147 ～ 149 は土師器高坏である。147 は脚部が細く、148 は脚部の器高が低く太い。149 の脚部は短くハの字に開き、口縁部は体部との境にわずかな稜をつくり出している。150 は土師器小型壺である。頸部が直立気味で比較的長く太い。口縁部は緩やかに外反する。151 ～ 164 は土師器甕で、151 の底面は平らではなく、調整もやや不良である。色調は内外面ともに黒みを帯びる。152 は土師器甕の底部である。底部外縁は使用のため磨滅する。胎土に白色砂粒が多く、雲母細粒が微量含まれ、常陸産の可能性がある。153 は頸部の屈曲が弱く、胴部は張らない。154 ～ 158・160 は口縁部付近の破片である。156 ～ 158 の口縁部は端部が強く外反し、155 は直立気味に立ち上がる。154・160 は胎土に白色小石・砂粒が多く、雲母細粒も含まれ、常陸産と考えられる。159 の口縁は短くわずかに外反しながら立ち上がる。特に内面は剥落が著しく、ほとんど器面が遺存しないが、一部に茶褐色の物質が付着する。161 の口縁部は短く外反する。胴部の張りは弱く、やや長胴化するものと考えられる。162 は器厚があり、内面頸部に粘土紐接合痕が明瞭にみられる。内面には茶褐色の物質が付着する。163 は口縁端部がわずかに肥厚し、胴部は丸みを持つ。内面は筋の残るような強いヘラナデ調整である。胎土に赤褐色スコリア粒が特徴的に含まれ、他の砂粒は微量である。特徴から上総地域産の可能性がある。164・165 は土師器甑である。164 は砲弾状の器形で、口縁部の屈曲が弱い。外面は被熱による器面の剥落が著しい。165 は底部破片である。内面は黒色を呈し、非常に丁寧なミガキ調整で、平滑である。土玉（土 15 ～土 17）は、位置にまとまりはなく、床面からやや上の覆土中から出土した。土 141 はカマドから出土した大型支脚で、先端上面は凹む。他に鉄滓小破片が出土した。

SI008b（第 22 図、図版５）〈4E-04 グリッド〉調査区中央の位置にあり、SI008a の西壁を壊して構築される。平面形は方形で、主軸方位 N -15° - W、規模は主軸長 3.49 m、幅 3.23 m、深さは 53㎝である。周溝は床面の西半分でみられ、柱穴などは検出されなかった。北西壁中央にカマドが付設され、火床部には焼土が多量にみられた。カマド内からはほぼ完形の土師器甕や坏が逆位で出土した。

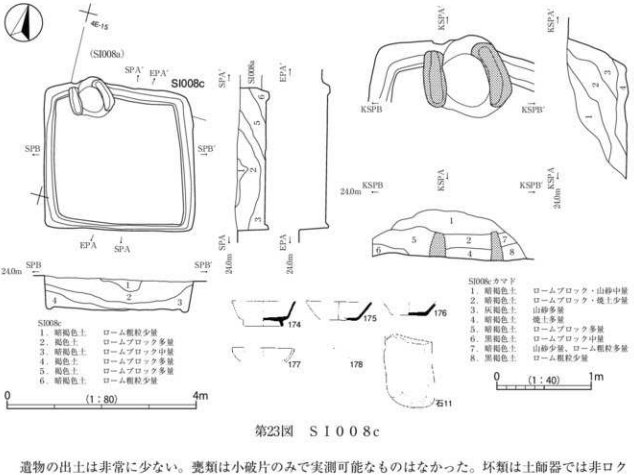
小型の竪穴のためか遺物の出土量は多くない。甕類では、在地産より常陸産及び武蔵産の破片量の方が多い。坏類では破片資料では非ロクロ土師器破片がほとんどである。須恵器坏は常陸産が主体である。



第22図　ＳＩ００８ｂ

166・167は須恵器坏である。どちらも胎土に白色小石・砂粒が多く、雲母細粒も含まれていることから常陸産と考えられる。口縁部をV字状に打ち欠いた状態で出土した。底面はヘラ切り後、手持ちヘラケズリ調整が施される。体部のロクロ目は強い。168はロクロ整形の土師器坏である。166・167と同様、口縁部を意図的にV字に打ち欠いている可能性がある。底面、体部下端は回転ヘラケズリ後、ナデ調整が施される。169はロクロ整形のやや大型の土師器塊である。器壁は薄く、丁寧な作りである。170～172は土師器の小型甕である。170・171はほぼ同型である。胎土に白色砂粒が多量、雲母細粒を含むことから常陸産の可能性が高い。頸部は強く屈曲し、口縁端部は短く直立する。底面には木葉痕が残る。172の上半部と下半部は直接接合しなかったが、図上で合成実測した。器壁が薄く、口縁は短いが強く外反する。173は土師器甕である。器壁が非常に薄く、胴部は鞠弾形で底部は非常に小さい。口縁部はやや長く丸みを帯びた「く」の字状で、武蔵型甕の特徴を有する。他に土玉（土18～土20）と鉄滓小破片（金19）が出土した。

SI008c（第23図、図版5）〈4E-15グリッド〉調査区中央の位置にあり、SI008aの南西隅を壊して構築される。3m北側にはほぼ主軸が同じSI008bが位置する。平面形は方形で、主軸方位N-16°-W、規模は主軸長3.07m、幅3.20m、深さは66cmである。床面には周溝が全周し、柱穴などは検出されなかった。覆土下層はローム塊が多量に含まれており、人為的な埋戻しが行なわれた可能性がある。カマドは北壁の西寄りに付設され、火床部には焼土が多量に堆積していた。



第23図　ＳＩ００８ｃ

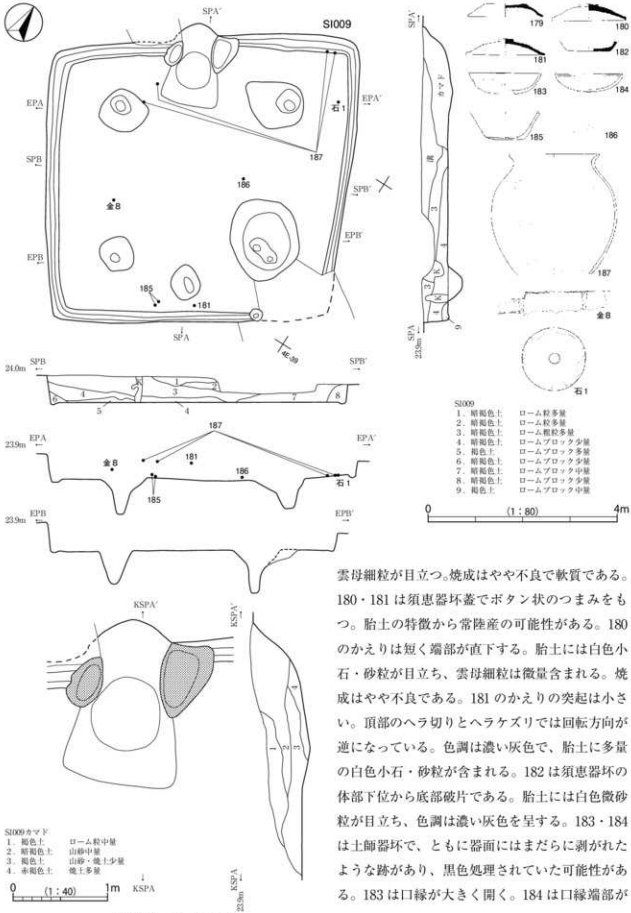
遺物の出土は非常に少ない。甕類は小破片のみで実測可能なものはなかった。坏類は土師器では非ロクロ調整の個体が多い。須恵器坏は常陸産がほとんどである。

174は須恵器高台付坏である。胎土には雲母・白色砂粒が多量に含まれ、常陸産の可能性が高い。高台は貼付けで、底面は回転ヘラ切り後ナデ調整である。外面の色調は全体に黒色を帯びる。底部内面は器面の剥落が著しい。175・176は須恵器坏である。胎土には雲母・白色砂粒が多量に含まれ、常陸産の可能性が高い。175は底面と体部下端は手持ちヘラケズリ、176はヘラ切り後、回転ヘラケズリ調整である。177は土師器坏である。器高は低く小型で、口縁部が短い。178は須恵器短頸壺の口縁部周辺の破片である。口縁部は極めて短く直立する。胎土は精緻でわずかに小石や雲母細粒が含まれる。焼成は良好で堅緻である。他に覆土中から砥石（石11）が出土した。側面は全面磨られ、下端面には敲打痕がみられる。

SI009（第24図、図版5）〈4E-28グリッド〉調査区中央東寄りの位置にある。平面形はやや菱形に近い形状で、規模は主軸長5.93ｍ、幅6.40ｍ、深さは58㎝である。覆土にはローム塊が多く含まれ、斜めの不自然な堆積層がみられることから、人為的に埋め戻されたと考えられる。周溝が全周し、主柱穴4本と入口ピット1本が検出された。P4は上部が撹乱されているものの、深さ93㎝を測り、主柱穴のなかで最も深い。カマドは北西壁中央に付設され、奥壁はなだらかに立ち上がる。火床部には焼土が多量に堆積していた。

遺物は比較的大きい破片がカマド側を中心に出土した。甕類では、常陸産の方が在地産よりやや多く出土し、武蔵産の破片は微量出土した。坏類は土師器では非ロクロ調整の個体がほとんどである。須恵器坏では蓋の出土数が目立ち、常陸産が主体である。

179・180・181は須恵器坏蓋である。179はかえりの突出は少なく、つまみはない。胎土は白みを帯び、

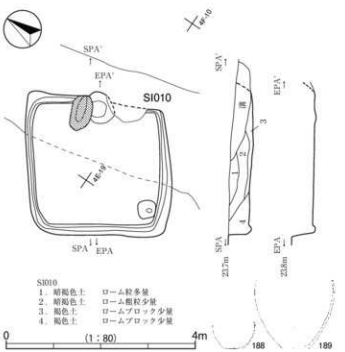


第24図　ＳＩ００９

雲母細粒が目立つ。焼成はやや不良で軟質である。180・181は須恵器坏蓋でボタン状のつまみをもつ。胎土の特徴から常陸産の可能性がある。180のかえりは短く端部が直下する。胎土には白色小石・砂粒が目立ち、雲母細粒は微量含まれる。焼成はやや不良である。181のかえりの突起は小さい。頂部のヘラ切りとヘラケズリでは回転方向が逆になっている。色調は濃い灰色で、胎土に多量の白色小石・砂粒が含まれる。182は須恵器坏の体部下位から底部破片である。胎土には白色微砂粒が目立ち、色調は濃い灰色を呈する。183・184は土師器坏で、ともに器面にはまだらに剥がれたような跡があり、黒色処理されていた可能性がある。183は口縁が大きく開く。184は口縁端部が

使用により部分的に欠損している。油煙の痕跡があり、灯明皿として使用していた可能性がある。185は土師器甕の底部である。外面をヘラケズリし、器壁を非常に薄く仕上げる。特徴から武蔵型甕の可能性がある。186は褐色系の須恵器甕の胴部破片である。外面はタタキ目、内面には当て具痕が強く残る。187は土師器甕である。器壁が薄く、胴部下半は縦方向のミガキ、胎土には雲母細粒・白色砂粒が目立つ。典型的な常陸型甕である。金8は小型の刀の破片である。石1は凝灰岩製紡錘車で東壁際から出土した。側面に10本の線刻がみられる。表面は磨滅気味である。

SI010（第25図、図版5）〈4E-19グリッド〉
調査区中央の東に位置にある。近世の溝で東半分が削平される。平面形は方形で、主軸方位N-56°-E、規模は主軸長2.94m、幅3.02m、深さ49cmである。周溝は全周し、床面の南西隅に平面方形のピットが検出された。カマドはほかの住居跡と異なり、北東壁中央に付設される。カマドは後世に撹乱され、左袖基底部と火床部のみ遺存する。カマド右脇にある大きなピットは溝に伴うものである。



第25図　ＳＩ０１０

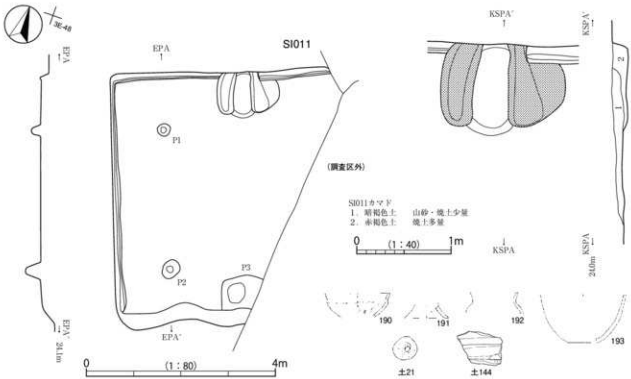
遺構の撹乱が多いため、遺物の出土は少ない。甕類では常陸産が主体で、在地産・武蔵産は微量である。坏類は出土が少なく実測できるものはない。須恵器坏蓋には雲母粒子が含まれる。

188・189は土師器甕である。188はヘラケズリにより器壁が非常に薄く、底部径は小さい。胎土には白色微砂粒が少量、白色針状物質が微量含まれ、武蔵型甕と考えられる。189の胎土は白色砂粒・小石が目立ち、雲母細粒が含まれ、胴部下半にミガキ調整が施される常陸型甕である。

SI011（第26図、図版5）〈4E-49グリッド〉調査区南東の位置にある。平面形は方形で、主軸方位はN-21°-W、規模は主軸長5.37m、幅は不明、深さは27cmである。周溝は北壁と西壁沿いにみられ、主柱穴は2本検出された。柱穴の深さは比較的浅めの掘り方である。貯蔵穴は南壁の中央壁沿い、カマドは北西壁中央に付設される。カマドの袖部は基底面のみ遺存する。

撹乱のため遺物の出土は少なく、接合個体も少ない。甕類は在地産がほとんどで、常陸産は小破片のみの出土である。坏類は須恵器模倣の破片が多く、赤彩される坏が主体で、黒色処理される坏は少量である。

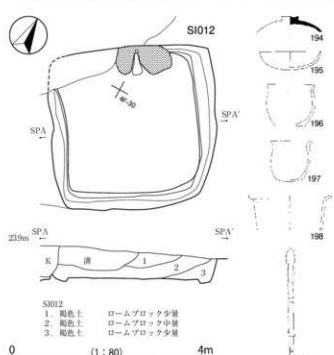
190は土師器坏破片である。口縁は短く外反する。191は土師器高坏脚部の破片である。短脚の裾部と考えられる。192は土師器小型甕である。口縁は短く直線的に立ち上がる。内面は黒色で、粘土紐の接合痕がみられる。193は土師器甕の胴部下半から底部破片である。また、覆土中より土玉（土21）と埴輪片（土144）が出土した。埴輪は円筒埴輪の凸帯部分付近で、円形の透かしの一部が確認できる。凸帯は低く、なでつけもやや不良である。色調はやや赤みがあり、焼成は良好である。胎土には赤褐色スコリアがやや目立つ。



第26図　ＳＩ０１１

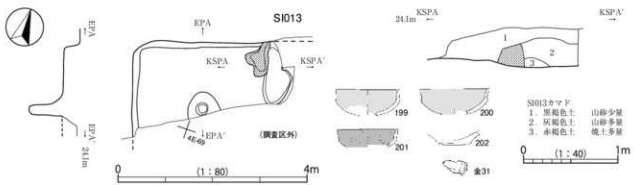
SI012（第27図、図版５）〈4F-30グリッド〉調査区東南端の位置にある。全体的に溝や撹乱で遺存が不良である。平面形は方形で、主軸方位Ｎ-31°-Ｗ、規模は主軸長3.48ｍ、幅は3.49ｍ以上、深さは67㎝である。周溝は北西部が撹乱により不明だが、他の部分は全て巡る。柱穴は検出されなかった。カマドは北西壁中央のやや東に付設され、火床面の被熱痕が顕著に認められる。

撹乱のため遺物の出土は非常に少ない。遺類は在地産が多く、常陸産は小破片のみである、坏類は破片資料の中に赤彩された非ロクロ土師器及び常陸産の須恵器蓋の小破片が含まれる。



第27図　ＳＩ０１２

194は須恵器坏蓋である。ボタン状のつまみをもつ。胎土には白色砂粒と雲母細粒が多く含まれ、常陸産と考えられる。やや軟質で、器面はざらつく。外面頂部は回転ヘラケズリ調整である。195は土師器坏である。器高が低く、口縁はわずかに外反しながら立ち上がる。内面はススで黒い部分が多い。196・197は土師器小型甕で、器高などがほぼ同規模である。196は外面調整が横方向を主体で、底面を平らに整形する。197は外面調整が縦方向のヘラケズリを主体とし、底面がやや丸みを帯びる。198は土師器甑の口縁部付近破片である。頸部は屈曲がほとんどない。金３は長三角形式の長頸鏃であ



第28図　ＳＩ０１３

る。鍬身部は錆がひどく、厚さは不明瞭である。棟篦被は全面に突出しているようにみえる。

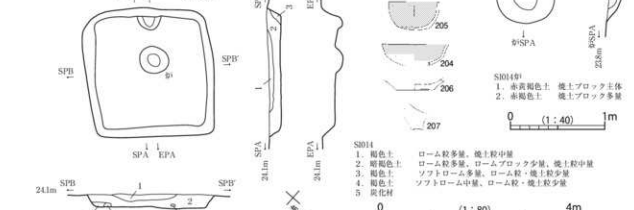
SI013（第 28 図、図版５）〈4E-59 グリッド〉調査区の南東の位置にあり、遺構の一部は調査区外である。平面形は方形で、主軸方位はＮ -19° - Ｗ、深さは 44㎝である。周溝はなく、２段掘りの主柱穴１本のみ検出した。カマドは北壁の中央に付設され、奥壁は直線的に立ち上がる。

住居跡の一部の調査のため遺物の出土は非常に少ない。甕類は掲載資料を除くと在地産・常陸産とも小破片のみである。坏類は破片資料にもロクロ土師器片が含まれない。

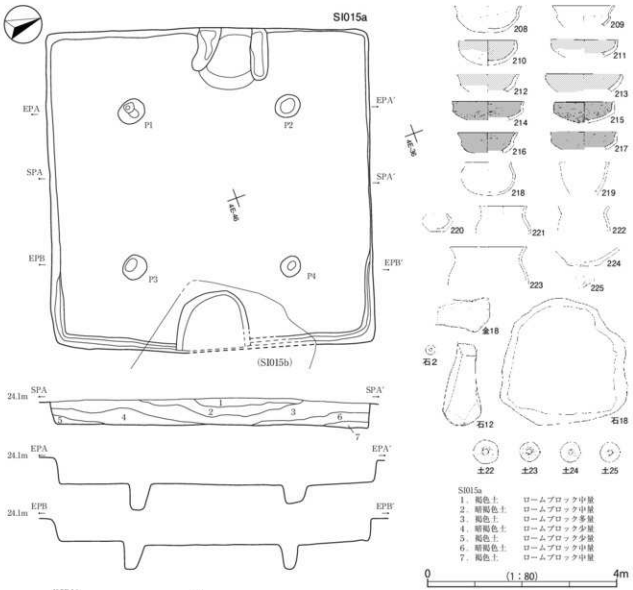
199 ～ 201 は土師器坏の破片である。体部と口縁の境に明瞭な稜をもつ、須恵器模倣坏である。202 は甕底部の破片である。胎土に白色小石・砂粒が非常に多く、雲母細粒は微量含まれ、常陸産の可能性が高い。底面外周は使用のため磨滅し、器面も被熱のためかなりざらつく。金 31 は鍛冶炉の炉壁破片の可能性がある。

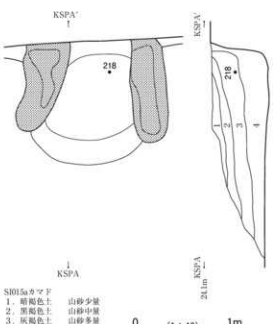
SI014（第 29 図、図版５）〈4E-57 グリッド〉 調査区南東の位置にある。平面形は正方形に近く、主軸方位Ｎ -44° - Ｗ、規模は一辺約 2.7 m、深さは 30㎝である。周溝はなく、北壁中央沿いに半円形のピットが検出された。床面中央やや北西寄りに平面形が円形の炉が付設される。

遺物の出土は総重量で 2kg と少ない。甕類は在地産が主体で、常陸産・武蔵産破片はわずかである。坏類は赤彩される個体が多いが、破片資料では黒色処理個体も相当量含まれる。ミガキが施され、赤彩さ



第29図　ＳＩ０１４





第30図　ＳＩ０１５a

れた小型壺の小破片も出土した。

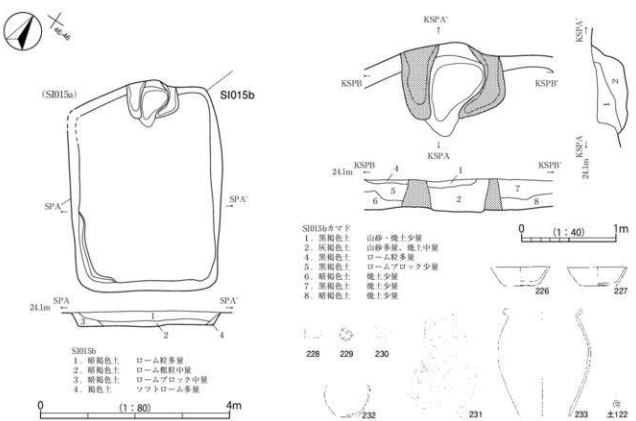
203・204は土師器坏である。203は内外面とも口縁を含めて丁寧なミガキ調整、204は部分的に赤彩される。205は土師器塊である。半球状でやや整形は雑である。206は土師器甕の底部である。胎土に非常に多量の白色小石・砂粒と赤褐色スコリア粒が含まれ、常陸産の可能性が強い。207は土師器甑の底部破片である。ヘラケズリにより器壁は薄く仕上げられる。

SI015a（第30図、図版５）〈4E-45グリッド〉調査区中央南寄りの位置にあり、東側をSI015bに壊されている。平面形は方形で、主軸方位N -71° - W、規模は主軸長6.71 m、幅6.79 m、深さ53㎝である。覆土はレンズ

状の堆積であるが、いずれの層もローム塊を多く含み、人為的に埋め戻された可能性がある。周溝は東側に部分的にみられ、主柱穴４本が検出された。東壁中央沿いに深さ約 10㎝の浅い貯蔵穴があり、周囲に１㎝～４㎝の高さの帯状の高まりをもつ。カマドは西壁中央に付設される。奥壁は直立し、火床部の被熱は顕著であった。

遺物は比較的多く出土した。甕類では在地産が多く、常陸産破片が一定量出土した。武蔵産は小破片で微量である。坏類は、破片資料を含めると赤彩坏の方が黒色処理された坏より多い。実測できなかったが破片で塊形のミニチュア土器が出土している。

208 ～ 217 は土師器坏である。208 ～ 213 は赤彩または胎土自体が赤みを帯びる色調の坏である。ナデやミガキ調整されるものの、器面はややざらつく。214 ～ 217 は内外面ともに黒色処理され、口縁部も含めて器面を丁寧にヘラミガキ調整する共通の特徴をもつ。218 は土師器塊である。胴部に丸みがあり、口縁は短く立ち上がる。外面は胎土自体が赤みを帯びる。219 は土師器鉢の口縁部から胴部破片である。頸部は屈曲なく、なだらかである。外面は被熱のためかざらつく。220 は土師器小型壺の胴部から底部である。内外面に粘土紐接合痕を残す。頸部に近い部分はハケ目が薄く残る。底面はヘラケズリでやや凹む。胎土に砂粒の混入は少ない。221 ～ 223 は土師器甕の口縁部破片である。いずれも頸部の屈曲は弱く、器面は被熱し荒れている。221・222 は小型甕で、胎土に白色砂粒が多く含まれる。特に 221 はやや大きめの砂粒が多く含まれ、雲母細粒もみられることから常陸産と考えられる。224 は土師器甕の底部である。底面周辺部は使用のため磨滅し、底面中央部はやや丸みをもつ。225 は土師器坏の底部で内面に「中」の線刻がある。底面には回転糸切り痕が残るロクロ土師器であり、出土位置は SI015a であるが、切り合っている SI015b にも同様のヘラ書き土師器片が出ていることから混入の可能性が高い。覆土中から土玉（土 22



第31図　ＳＩ０１５ｂ

～土25）が出土した。いずれの個体も表面が丁寧にナデ調整される。金18は不明鉄製品である。厚い板状のもので、丸みを持ちながら曲げられている。他に、滑石製の臼玉（石2）と砥石（石12）、台石（石18）が1点ずつ出土した。

SI015b（第31図、図版5）〈4E-46グリッド〉調査区中央南寄りの位置にあり、SI015aを壊して構築される。平面形は縦長方形で、主軸方位N-35°-W、規模は主軸長4.30m、幅3.22m、深さ約40cmである。床面は凹凸があり、周溝が南西隅にわずかにみられる。主柱穴は検出されなかった。カマドは北西壁中央のSI015aの覆土上に構築される。袖部の遺存は良好で、奥壁はなだらかに立ち上がる。

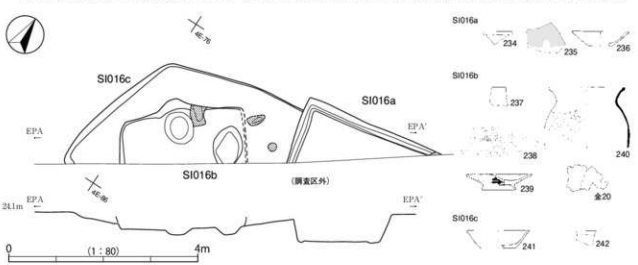
出土遺物は少ない。甕類は重量比で常陸産が在地産より多く出土した。坏類はロクロ土師器が主体で、非ロクロ土師器では赤彩された個体が破片資料に含まれる。胎土に雲母粒の含まれる須恵器坏蓋破片が確認できる。

226・227はロクロ整形の土師器坏である。底面は回転糸切り後、周囲に回転ヘラケズリ調整を施す。226の底面に刻状の圧痕がみられる。228は須恵器坏の口縁部破片である。胎土に白色微砂粒が多く含まれる。229は土師器坏の底部破片で、底面に格子状にヘラ書きがみられる。格子内には葉脈状の細線がみられる。230は須恵器甕の肩部破片である。外面に強くタタキ目が残る。器面の色調は濃い灰色であるが、断面はセピア色である。胎土には白色微砂粒が少量含まれる。231は須恵器大甕の胴部破片である。胎土に白色小石・砂粒が目立ち、常陸産と考えられる。232は土師器小型甕である。外面のヘラケズリにより、器壁を非常に薄く仕上げている。底面も一方向のヘラケズリ痕が明瞭にのこる。小型の武蔵型甕と考えられる。233は土師器甕である。胎土に白色砂粒・小石が目立ち、雲母細粒も含まれ、胴部下半をヘラミガキすることから常陸型甕と考えられる。口縁は短く、端部を内傾するようにつまみ上げて整形している。他に覆土中から小型土錘（土122）が1点出土した。

SI016a（第32図、図版6）〈4E-77グリッド〉調査区の南東際の中央にあり、SI016b・SI016cと重複する。本遺構の大半は調査区外である。北東隅と北壁のカマドの一部を検出した。北東隅は壁がしっかりと遺存しているため、主軸をN-10°-Wとした。竪穴の深さは58cmで、周溝が巡る。

部分的な調査のため遺物の出土量は非常に少ない。甕類は胴部破片がほとんどで、器形の分かるものはない。坏類も小破片のみで、ロクロと非ロクロ土師器が確認できる。

234は須恵器甕の口縁部破片である。胎土に白色微砂粒が目立ち、雲母細粒が微量含まれ、常陸産須恵



第32図　ＳＩ０１６

器の可能性がある。色調は濃い灰色である。口縁部の内面には細い沈線状の筋が巡る。235は須恵器壺の胴部破片で、上部には自然釉が付着する。胎土は緻密で、焼成は良好である。東海産（猿投）の可能性が高い。236はロクロ整形の土師器坏である。器高が低く小型である。内外面ともひどく被熱しており、器面が部分的に剥離する。

SI016b（第32図、図版6）〈4E-76グリッド〉調査区南東際の中央の位置にあり、SI016cを壊して構築される。遺構の大半は調査区域外である。竪穴の掘り込みは浅く、東側の壁はSI016aと重複する。規模は床面の傾きとカマドの位置などを勘案して2.7m程度の幅と想定される。主軸方位はN-34°-Wである。カマドは北西壁に付設され、右袖の一部と火床部のみ残存する。火床面には被熱痕が顕著にみられた。カマドの南東には楕円形の土坑があるが、本遺構かSI016cに付属するものか不明である。

部分的な調査のため遺物量は少ない。甕類では、在地産と常陸産の重量比は同程度であった。武蔵産は小破片が4点出土した。坏類は破片資料内にロクロ土師器がやや多く、内面黒色処理される破片もみられ、非ロクロ土器で赤彩された坏もわずかに出土した。

237はロクロ整形の土師器坏破片である。内面は器壁がやや荒れて部分的に剥離する。239は土師器高台付坏である。体部外面には墨書がみられ、底面には墨が付着する。坏部内面は丁寧にミガキ調整が施される。238・240は須恵器甕である。238は器壁が薄い胴部破片で、胎土に白色砂粒と雲母細粒が目立つ。常陸産須恵器の可能性がある。240は胎土に白色微砂粒が多く、雲母細粒が微量含まれる。口縁部内面に細沈線状の凹みが巡る。外面はタタキ目、内面は当て具痕が強く残る。器厚は薄く、焼成は良好であるが、やや軟質で器面もざらつく。特徴から常陸産須恵器か下総三和窯の可能性が考えられる。金20は塊形鍛冶滓である。

SI016c（第32図、図版6）〈4E-76グリッド〉調査区南東際の中央の位置にあり、SI016bと重複する。不正形で、床面も遺構中央部に向かって傾斜するなど、竪穴としては整っていない。遺構の中央部をSI016bに壊され、遺構の大半が調査区外にあるため、規模は不明である。東側の床面に粘土が2か所で出土した。カマドの袖部とも考えられるが、火床部は検出されなかった。SI016b住居内にある楕円形の土坑については、本遺構に帰属する可能性もある。

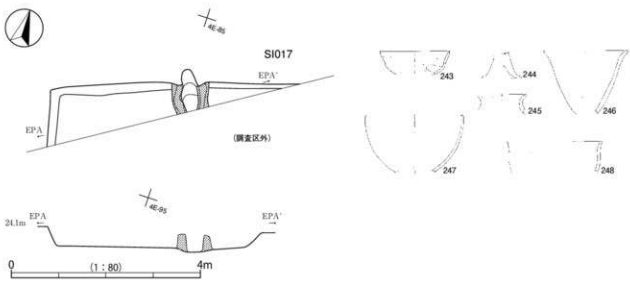
遺構の掘り込みは浅く、調査面積も狭いため、遺物の出土は非常に少ない。甕類では常陸産の比較的薄手の破片のみ出土した。坏類は掲載資料以外では赤彩された坏破片2点とロクロ土師器片1点のみである。

241は土師器坏である。ロクロ整形で、体部下端と底面は回転ヘラケズリ調整である。242は土師器甕の口縁部破片である。口縁端部の屈曲が強い。胎土に多量の白色砂粒と雲母細粒が少量含まれることから、常陸産と考えられる。

SI017（第33図、図版6）〈4E-84グリッド〉調査区南東際の中央の位置にあり、遺構の大半が調査区外に延び、北西隅と北壁の一部が検出されたのみである。主軸方位はN-20°-Wで、深さは40cmである。北壁中央にカマドが付設される。カマドの遺存は良く、奥壁は緩やかに立ち上がる。

出土遺物は少ない。甕類では在地産が主体で、常陸産は小破片のみ、武蔵産破片は4点のみ確認できた。坏類は赤彩、黒色処理された個体が破片資料で同量みられる。口縁の高さは高めで、赤彩された破片は口縁の形状が多様である。

243は土師器坏である。口縁はやや内湾しながら立ち上がる。器壁は薄く丁寧に整形される。244は土師器高坏の脚部である。脚部は内実で、裾部近くのみ削りだす。胎土に白色砂粒が多量、雲母細粒がわず



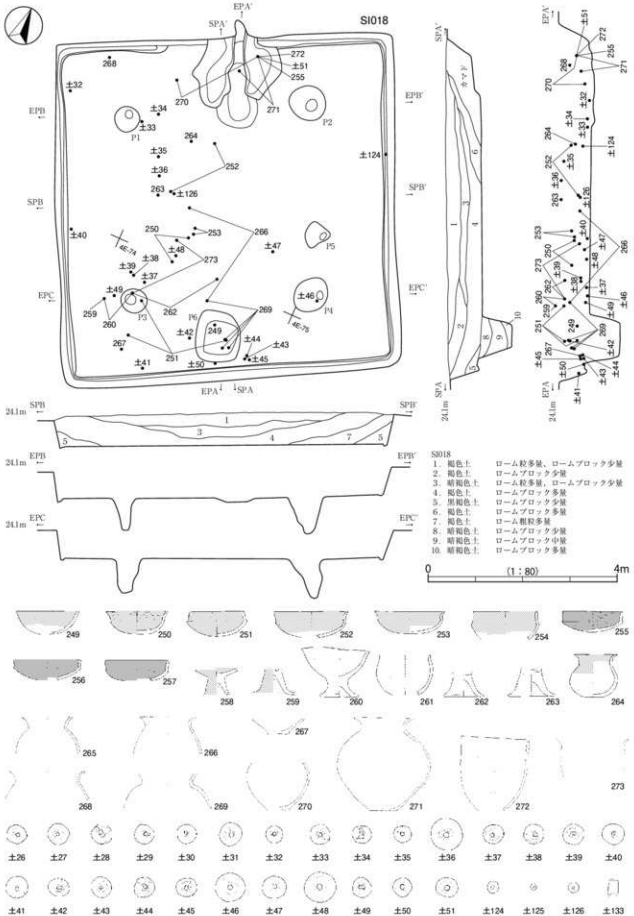
第33図　ＳＩ０１７

かに含まれ、常陸産の可能性がある。245は土師器小型甕の口縁部の破片である。口縁は強く外反し、内外面ともススが付着する。246は土師器甑である。復元実測のため、底径が本来より小さくなっている可能性がある。器厚があり、器面の調整が雑である。247は土師器甕の胴部下半である。底部が平らに欠け、破断面が磨滅しているため甑に再利用した可能性がある。外面の色調が特に白みを帯びる。248は土師器甑の口縁部破片である。頸部の屈曲はほとんどなく、内面は丁寧にヘラケズリ調整される。

SI018（第34・35図、図版6）〈4E-64グリッド〉調査区南東部中央の位置にあり、南側にSI017、西側にSI019が位置する。平面形は方形で、主軸方位Ｎ-26°-Ｗ、規模は主軸長7.38ｍ、幅7.23ｍ、深さ約68㎝である。覆土はレンズ状堆積で、上下層はローム塊を多量に含み、人為的に埋め戻された可能性が高い。周溝はカマドの左袖付近を除きほぼ全周する。主柱穴４本、ほかにピット１本及び貯蔵穴が検出された。主柱穴の平面は略円形である。P5はP2とP4の間に位置し、不正形で主柱穴と比べ浅い。貯蔵穴は南壁中央沿いにあり、平面形は隅丸方形で、底面は平坦である。覆土は下層ほどローム塊が含まれる量が多い。北壁中央にカマドが付設される。火床部には凹凸があり、焼土が顕著である。

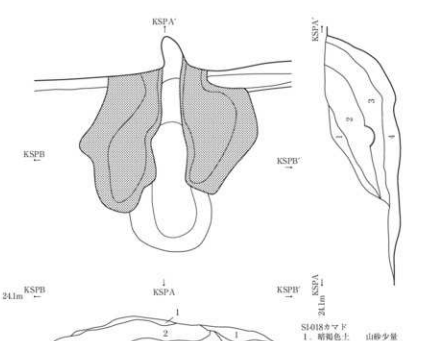
今回の調査で遺物量が最も豊富な竪穴の一つである。比較的大きな破片は、西側半分に集中する傾向がある。甕類は在地産が主体であるが、常陸産も重量比でその３分の１の量を占める。武蔵産は破片が４点のみである。坏類は赤彩された個体が多く、黒色処理された個体も一定量出土した。破片資料を含めるとその割合は３：１である。他に断面の色調がセピア色の須恵器坏破片が２点出土した。

249～257は土師器坏である。249～253は赤彩される個体で、口縁部が外反する形状のものが主体である。251は口縁が内傾し、胎土も白みを帯びて異質である。255～257は黒色処理される。赤彩される個体より器高が低く、口縁がやや短く内傾する。口縁部も含めて内外面丁寧なミガキ調整が施される特徴がある。260は土師器高坏である。坏部が椀状で脚部は短く、全体的にゆがみがある。261は土師器椀ないしは260と同様な脚部がつく高坏と考えられる。258・259・262・263は土師器高坏の脚部である。特に262は被熱し、器面が荒れている。263は柱状部を内実で成形し、裾部に近い部分のみ削っているため重い。264は広口の小型壺である。頸部から口縁のみ赤彩される。底部は径の小さい平底である。265～271は土師器甕である。口縁は比較的屈曲が強く外反し、胴部の張りは中位やや上で最大となるものが主



SI018
1. 褐色土　ローム粒多量、ロームブロック少量
2. 褐色土　ロームブロック少量
3. 暗褐色土　ローム粒多量、ロームブロック少量
4. 褐色土　ロームブロック多量
5. 黒褐色土　ロームブロック少量
6. 褐色土　ロームブロック多量
7. 褐色土　ローム粗粒多量
8. 暗褐色土　ロームブロック少量
9. 暗褐色土　ロームブロック中量
10. 暗褐色土　ロームブロック多量

第34図　ＳＩ０１８（１）



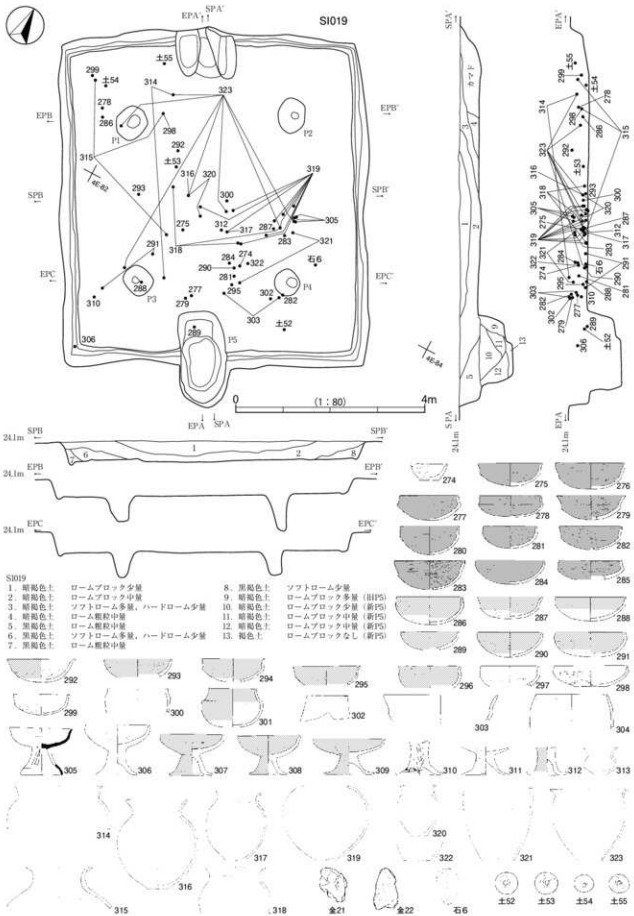
第35図　ＳＩ０１８（２）

体である。267・270の底部は底面がやや凹む。269～271の胎土は多量の白色砂粒・小石と少量の雲母細粒を含み、常陸産と考えられるが、270は胎土に砂粒の含有量が少ない。272・273は土師器甑である。272は口縁の屈曲は弱く、内面が縦方向のヘラケズリを主体とする。273は鬲弾状で、口縁がほぼ直立する。内面にはスス状の物質が多く付着する。土製品では土玉（土26～土51）が多く出土した。竪穴の西半分からの出土が多く、特に南壁近くの個体は床面に近い。小型の土玉が主体だが、径25mmの大型個体も含まれる。土玉の他に、丸玉（土125・土126）・管玉様の小型土錘（土124）、棒状不明土製品（土133）が出土した。

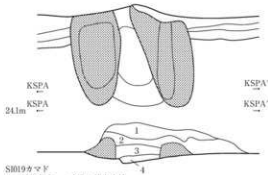
SI019（第36・37図、図版6）〈4E-72グリッド〉調査区南東寄りの南部にあり、東側にはSI018がほぼ軸を揃えて位置する。平面形は縦長方形で、主軸方位N-28°-W、規模は主軸長7.04m、幅6.50m、深さは約30cmである。周溝は張出し部を除いて全周し、主柱穴は4本検出された。柱穴は円形で、覆土は上層が暗褐色土、下層が褐色土である。南壁ほぼ中央に張出し貯蔵穴が付設される。張出し貯蔵穴は、掘り直されている。方形の穴がまず壁際に掘られ、次に楕円形の穴が住居跡外にはみ出した形で掘られた。方形の貯蔵穴の覆土には多量のローム塊が含まれるため、一気に埋め戻されたと考えられる。カマドは北壁中央に付設され、遺存は比較的良好で、火床部には焼土が多量に含まれる。

遺物は非常に多い。竪穴全体から出土しているが、カマド周辺は比較的少ない。甕類は在地産が主体であるが、常陸産も重量比でその3分の1の量が出土した。坏類は実測個体数では赤彩と黒色処理された坏はほぼ同数であるが、破片資料では赤彩されたものが倍以上多い。また、坏・高坏の個体数が多く、塊類は少ない。

274は塊形のミニチュア土器である。粘土紐を巻き上げて成形し、器面は丁寧なナデ調整である。口縁部を打ち欠いたように見える。275～299は土師器坏で、ほとんどの個体が赤彩か黒色処理の塗彩された土器である。赤彩された坏は、塊状に内湾する形状や口縁が屈曲して短く外反する形状、須恵器坏蓋の模倣とさまざまで、すべて丸底である。黒色処理された坏は、ほとんどが体部と口縁の境の稜をしっかりつくり出す須恵器模倣の形状である。赤彩にはなかった坏身模倣もみられる。口縁部を含めたヘラミガキが内外面とも丁寧に施される。276は内面が細かいヘラミガキ調整で、体部外面は手持ちで回転ヘラケズリをした痕跡がみられる。口縁部が高く、緩く内湾しながら立ち上がる特徴的な形状である。280は体部


SI019
EPA'
SPA'
EPB
EPB'
SPB
SPB'
EPC
EPC'
P1
P2
P3
P4
P5
4E-82
4E-84
石6
0
(1 : 80)
4m
24.1m
SI019
1．暗褐色土　ロームブロック少量
2．暗褐色土　ロームブロック中量
3．暗褐色土　ソフトローム多量，ハードローム少量
4．暗褐色土　ローム粗粒中量
5．黒褐色土　ローム粗粒中量
6．黒褐色土　ソフトローム多量，ハードローム少量
7．黒褐色土　ローム粗粒中量
8．黒褐色土　ソフトローム少量
9．暗褐色土　ロームブロック多量（旧P5）
10．暗褐色土　ロームブロック少量（新P5）
11．暗褐色土　ロームブロック中量（新P5）
12．暗褐色土　ロームブロック中量（新P5）
13．褐色土　ロームブロックなし（新P5）
金21
金22
石6
±52
±53
±54
±55

第36図　ＳＩ０１９（１）



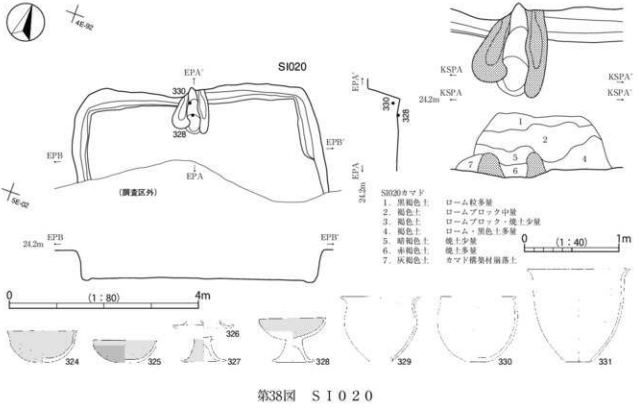
第37図　ＳＩ０１９（２）

が高く、内面は暗文を意識したヘラミガキが施される。284は黒色処理の遺存が悪い。屈曲がなく、口縁が弱く内湾する。288は他の坏に比べ胎土に含まれる砂粒が大きく多量であるが、雲母細粒はほとんど含まれない。299は小型で、須恵器を忠実に模倣している。器厚が薄く、胎土自体が赤みを帯びる。298の胎土は白みがあり精緻である。塗彩の痕跡がなく、平底状にヘラケズリされ、内面は暗文状にヘラミガキが施されるなど異質である。296・301は土師器塊である。301は成形が丁寧で、体部と口縁部の境の稜が明瞭、口縁が緩く外反し端部は肥厚する。300・302～304は土師器鉢の口縁部破片である。300・302・304は口縁の屈曲は弱く、胴部は張りがない。302は内面がミガキは縦方向で非常に丁寧である。303は大型の鉢で、屈曲が明瞭、内面のナデはミガキのように丁寧である。305は須恵器高坏である。脚部の３方向に透かしをもつ。色調は灰色で、胎土は緻密、焼成は良好である。坏部の体部下半は回転ヘラケズリ調整である。内外面にスス状の黒色物質がかすかに付着する。289・306～312は土師器高坏で、すべて短脚である。坏部は通常の坏と同形状で、ほとんどが赤彩される。成形時の脚部柱状部のくりぬき方にバラエティがあり、ヘラケズリの程度が一定していない。310は脚部の４方向に透かしが入る須恵器の模倣である。脚部外面は全面にヘラミガキされるが、丁寧ではない。裾部端部が肥厚する。313は土師器小型壺である。全体的に器壁が厚く、底部は小さい平底である。314～320は土師器甕である。315は非常に大型の甕破片で、胴部が大きく張る。胎土には白色微砂粒が目立つ。316は胎土に多量の白色小石・砂粒、少量の雲母細粒が含まれる。口縁は単口縁で、胴部下半を中心に斜め方向のヘラミガキ調整が施された典型的な常陸型甕である。底面は使用により磨滅している。317は中型甕である。胎土はやや白みを帯び、砂粒が少なく、器面はやや軟質である。320は長胴の小型甕である。口縁の立ち上がりは直線的である。胎土はやや赤みを帯びる。底面は平らでなく、やや膨らむ。321～323は土師器甑である。321は長胴形で、内外面とも全面縦方向のヘラミガキが密に施される。323は口縁が強く外反し、やや肩部が張り、底部に向かってすぼまる。外面のヘラケズリは丁寧で、ミガキ状に光沢をもつ。他に鉄滓（金21・22）の小片が出土した。金22はP5内の覆土中から出土した。床面直上からは大型の剣形石製模造品（石６）が出土した。鏡が表現されるが中心線ではなく、研磨も荒い。土玉（土52～土55）が複数出土したが、集中はみられず、覆土中からの出土である。

SI020（第38図、図版６）〈4E-92グリッド〉調査区南部の南東際にあり、竪穴の南側３分の２は調査区外にあたる。平面形は方形で、主軸方位Ｎ-25°-Ｗ、主軸長は不明、幅5.26ｍ、深さ約33㎝である。周溝は東壁沿いの一部を除いて巡る。調査できた床面の範囲内には主柱穴は検出されなかった。北壁中央にカマドが付設される。火床面には焼土が多量に堆積していた。

竪穴全面の調査ではないため出土遺物は少ない。甕類は在地産が主体で、常陸産・武蔵産はわずかの出土である。坏類は赤彩される個体が主体で、破片資料には小型の坏が含まれる。

324・325は土師器坏である。324は体部高があり、口縁部が直立気味に外反する。325はやや小型の坏で、内面は赤彩、外面は黒色処理される。326～328は短脚の土師器高坏である。327・328は赤彩され、



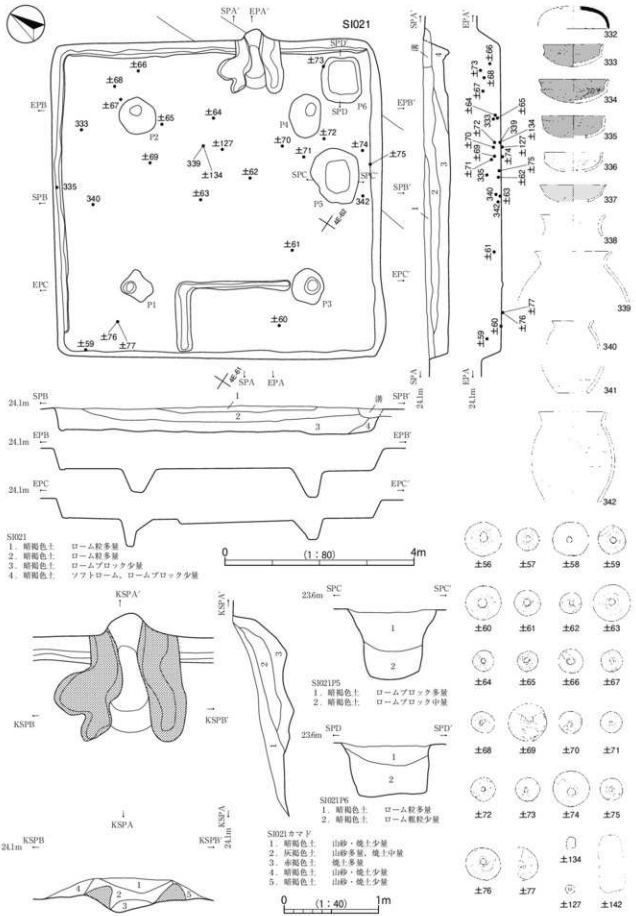
第38図　ＳＩ０２０

326は胎土自体黒色化している。328は被熱により器面が部分的に剥落する。329・330は鉢状の浅い土師器甕である。329は口縁部が大きく外反し、胴部下半が急にすぼまる。330は頸部の屈曲がなく、上半部のみ内外面ともにススが付着する。胎土に白色砂粒が多量に含まれる。331は土師器瓶である。頸部の屈曲は弱く、緩やかに口縁部が外反する。胎土には赤褐色スコリア粒が目立つ。

SI021（第39図、図版６）〈4E-51グリッド〉調査区の中央部南寄りの位置にある。平面形は方形で、主軸方位Ｎ-56°-Ｅ、規模は主軸長6.70ｍ、幅6.92ｍ、深さは56cmである。主柱穴は４本検出した。床面南東隅には２基の貯蔵穴があり、南壁際中央にある貯蔵穴（P5）は上場の形が崩れているが、下場はしっかりとした方形を呈する。東隅にある貯蔵穴（P6）は方形である。周溝は東壁及び北壁沿いで検出された。P1とP3の間には平面形がＬ字形の間仕切り溝がある。北東壁中央のやや東寄りにカマドが付設され、奥壁は緩やかに立ち上がる。火床面の上面には焼土が多量に堆積していた。

遺物は比較的多く出土した。土器類のほかに土玉も竪穴全体から多く出土した。甕類では在地産が多く、その破片には赤褐色スコリア粒が目立つ。破片資料で研ぎ痕のみられる個体が出土した。常陸産破片も出土しているが胴部破片のみである。武蔵産破片は１点確認できた。坏類は掲載資料では黒色処理された個体が主体だが、破片資料では小破片ながら赤彩された坏も同量確認できる。他に実測できなかったが、高坏の裾部破片、ミニチュア土器破片が出土している。

332は須恵器坏蓋である。胎土に白色小石・砂粒が多量に含まれる。天井部は回転ヘラケズリ調整、器厚は全体的に厚めである。333～337は土師器坏である。333～335は内外面ともに口縁部も含めてミガキ調整の後、黒色処理される。336も恐らく黒色処理されていた可能性は高い。337の器高は低く、口縁が大きく開く。内外面ともに赤彩される。338・339・340・342は土師器甕である。339は胴部に張りのある大型の甕である。口縁端部はわずかに膨らみ、横位に細沈線が巡る。338・342は頸部の屈曲の弱い長


SI021
SI021
1．暗褐色土　ローム粒多量
2．暗褐色土　ローム粒多量
3．暗褐色土　ロームブロック少量
4．暗褐色土　ソフトローム、ロームブロック少量
0 (1：80) 4m
SI021P5
1．暗褐色土　ロームブロック多量
2．暗褐色土　ロームブロック中量
SI021P6
1．暗褐色土　ローム粒多量
2．暗褐色土　ローム粗粒少量
SI021カマド
1．暗褐色土　山砂・焼土少量
2．灰褐色土　山砂多量、焼土中量
3．赤褐色土　焼土多量
4．暗褐色土　山砂・焼土少量
5．暗褐色土　山砂・焼土少量
0 (1：40) 1m

第39図　ＳＩ０２１

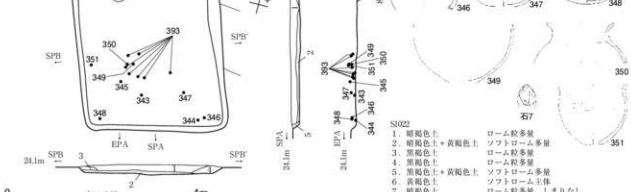
胴化した甕である。胎土・口縁部の特徴から同一個体の可能性がある。340は口縁部の短い小型甕の破片である。341は土師器甑の底部破片である。全体的に器厚があり、しっかりとした作りである。内面のヘラケズリ痕は明瞭で、ミガキ調整はみられない。土142はやや細身の支脚である。カマドから出土し、遺存は良好である。土玉（土56～土77）は多数出土した。小型の土玉と径40mmを超える大型の土玉が含まれる。出土位置にまとまりはなく、床面出土の個体はほとんどない。他に土製小型丸玉（土127）が床面直上から出土した。器面は丁寧なナデ調整である。土134は棒状土製品の小破片で、色調は赤みを帯びる。これもほぼ床面直上からの出土である。

SI022（第40図、図版7）〈4E-32グリッド〉調査区のほぼ中央の位置にある。平面形はややゆがんだ方形で、主軸方位N -69° - E、規模は主軸長3.26 m、幅3.10 m、深さ約20cmである。床面には凹凸があり、覆土は暗褐色土を主体とする。カマドや炉、周溝、主柱穴は検出されず、東壁沿いにピットを1本のみ検出された。ピットの規模は46cm×39cm、深さは30cmである。

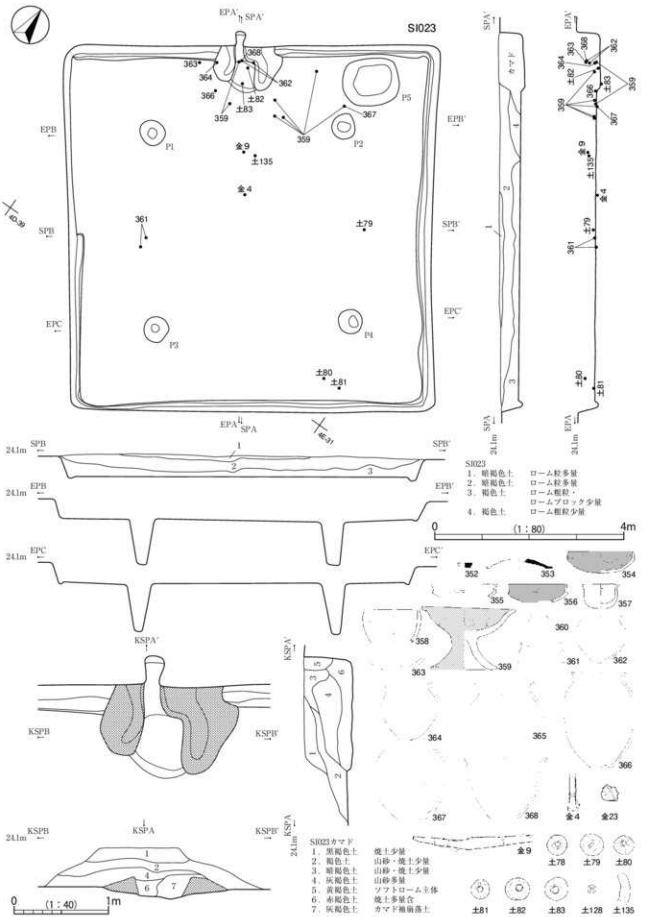
浅い竪穴ではあるが、西側部分を中心に遺物が出土した。また、覆土中から出土した須恵器大甕の破片がSI-024から出土した須恵器と接合した。甕類はほとんどが在地産である。坏類は赤彩された個体が主体で、黒色処理されたものは破片で4点のみである。

343～345・347・348は土師器坏である。口径・器高とも比較的大きめの個体で占められる。346は土師器埦である。底部のみ完全に欠損している。口縁部は短く直立する。体部の上位には細いヘラで連続した斜めの深いナデが施される。内面の色調は黒色である。348は口縁部内面まで丁寧な細かいヘラミガキ調整が施される。349は土師器甕の胴部下半から底部である。被熱のため、内外面ともに器面が著しく荒れており、赤白く発色している。350は土師器甕の口縁部破片である。胴部には張りがあり、口縁部の上位が大きく外反する。頸部内面には明瞭な稜が巡る。また、胴部内面には粘土紐接合痕が残る。351は土師器小型甑である。ほぼ完形で、胴部はほとんど張らず、底部に向かってすぼまる。底面に径3.2cmの孔が一孔穿たれる。また、覆土中から剣形石製模造品と考えられる破片（石7）が出土した。

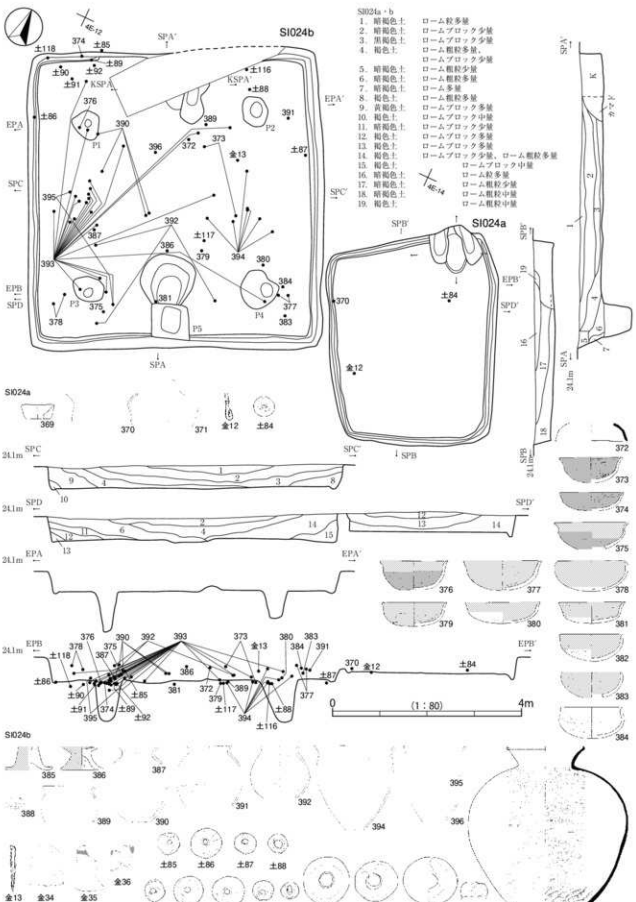
SI023（第41図、図版7）〈4E-20グリッド〉調査区中央の位置にある。平面形は方形で、主軸方位N -35° - W、規模は主軸長7.60 m、幅7.70 m、深さ42cmである。周溝は西壁沿いの北部を除いて巡る。主柱穴は4本、貯蔵穴は北隅で検出された。北西壁中央にカマドが付設され、奥壁は垂直に立ち上がる。カマド前面には、



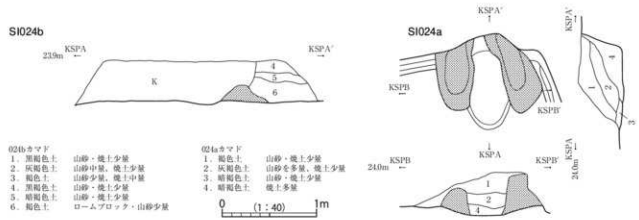
第40図　ＳＩ０２２


SI023
EPA'
SPA'
EPB
EPB'
SPB
SPB'
EPC
EPC'
P1
P2
P3
P4
P5
SI023
1. 暗褐色土　ローム粒多量
2. 暗褐色土　ローム粒多量
3. 褐色土　ローム粗粒・ロームブロック少量
4. 褐色土　ローム粗粒少量
0
(1 : 80)
4m
KSPA'
KSPB
KSPB'
KSPA
SI023カマド
1. 黒褐色土　焼土少量
2. 褐色土　山砂・焼土少量
3. 暗褐色土　山砂・焼土少量
4. 灰褐色土　山砂多量
5. 黄褐色土　ソフトローム主体
6. 赤褐色土　焼土多量含
7. 灰褐色土　カマド補崩落土
0
(1 : 40)
1m

第41図　ＳＩ０２３


SI024b
SI024a
SI024a・b
1. 暗褐色土　ローム粒多量
2. 暗褐色土　ロームブロック少量
3. 黒褐色土　ロームブロック少量
4. 褐色土　ローム粗粒多量、ロームブロック少量
5. 暗褐色土　ローム粗粒少量
6. 暗褐色土　ローム粗粒多量
7. 暗褐色土　ローム多量
8. 褐色土　ローム粗粒多量
9. 黄褐色土　ロームブロック多量
10. 褐色土　ロームブロック中量
11. 暗褐色土　ロームブロック少量
12. 褐色土　ロームブロック少量
13. 褐色土　ロームブロック多量
14. 褐色土　ロームブロック少量、ローム粗粒多量
15. 褐色土　ロームブロック中量
16. 暗褐色土　ローム粒多量
17. 暗褐色土　ローム粗粒少量
18. 暗褐色土　ローム粗粒少量
19. 褐色土　ローム粗粒中量
カクラン
0　(1:80)　4m

第42図　ＳＩ０２４（１）



第43図　ＳＩ０２４（２）

土師器高坏が逆位に置かれ、カマド内から甑や支脚破片、左袖脇から甕が出土した。

遺物は比較的多く出土したが、特に、カマド周辺からの出土が目立つ。甕類は在地産が主体である。常陸産の口縁部破片には、単口縁と口縁端部の屈曲する個体の両方が確認できる。少量であるが武蔵産の胴部破片も出土した。坏類は掲載資料では黒色処理が主体であるが、破片資料では無彩の破片数が最も多く、赤彩された個体も相当量確認できた。

352は須恵器蓋の摘み部分である。全体的に赤みを帯び、胎土には白色微砂粒とともに白色針状物質が目立つ。353は須恵器坏蓋の破片である。返しはやや丸みを帯びる。天井部は回転ヘラケズリ調整である。胎土に白色砂粒が目立つが、雲母細粒はほとんど含まれない。354～356は土師器坏である。354の口縁端部は内削ぎされる。355・356は小破片からの復元実測である。口縁部・器高とも低めである。口縁部も含めて丁寧なヘラミガキ調整が施される。357は埦形のミニチュア土器である。口縁部は丁寧にヨコナデ調整が施される。358は土師器鉢の破片である。内面は黒い色調である。359は口縁端部が外反する大型の土師器高坏で、器壁も全体的に厚い。坏部は内外面とも丁寧なヘラミガキ調整だが、脚部内面の調整は雑である。360～367は土師器甕である。360は口縁部の小破片である。胎土に白色砂粒・雲母粒が目立つ。口縁端部はわずかにつまみあげられた形状である。361・362は小型甕で口縁が短く直立する形状である。362の内面のヘラナデ痕が顕著に残る。365の外面は縦方向のヘラケズリ痕、内面はケズリに近いヘラナデで筋が強く残る。363は底部破片だが、破面は磨れて、再利用していた可能性がある。底部中央部分が黒く焦げる。364は小型甕である。底面は平らではなく、わずかに膨らむ。中心部の器厚は非常に薄い。内外面ともに砂っぽい茶褐色物質が多く付着する。口縁部はやや肥厚する。366は長胴化した甕である。頸部のくびれは緩やかで、口縁は短い。368は土師器甑である。胴部は張らず。底部に向かい緩やかにすぼまる。口径の割に器高は低く寸胴である。内面は丁寧なヘラミガキ調整が施される。金４は鉄鎌の棘篦被のある頸部破片と考えられる。土製品では土78～土83は土玉で、カマドや壁寄りから出土した。また、土製小玉（土128）・鉄製刀子（金９）・鉄滓小片（金23）も１点ずつ覆土中から出土した。

SI024a（第42・43図、図版７）〈4E-12グリッド〉調査区中央部にあり、西側にSI024bが隣接する。平面形は縦長方形で、主軸方位N -25° - W、規模は主軸長4.48ｍ、幅3.62ｍ、深さ約27㎝である。覆土は南側の一方向から埋まっており、人為的に埋め戻されたと考えられる。周溝は全周するが、主柱穴などは検出されなかった。北壁の東に偏った位置にカマドが付設される。カマドは小型ではあるが、遺存は比較的良好で、奥壁は緩やかに立ち上がる。

遺物の出土は非常に少なく、甕類は在地産が多いが、常陸産・武蔵産の破片も一定量出土した。坏類は小破片のみで実測可能なものはなく、赤彩破片が目立つ。黒色処理された破片に須恵器模倣坏の破片がわずかに確認できる。ロクロ須恵器坏の小破片が2点出土している。

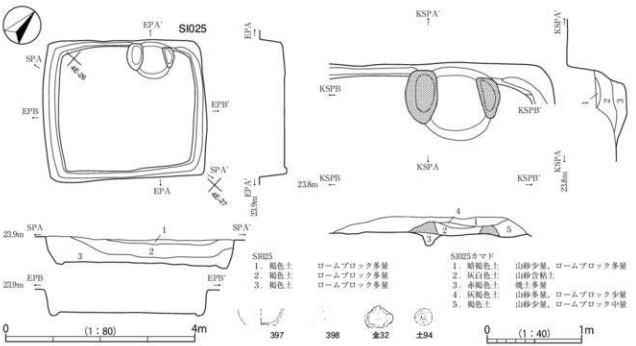
369は坏形のミニチュア土器である。手捏ね成形で、内外面とも荒いナデ、底部には木葉痕がみられる。370・371は土師器甕の破片である。370は口縁が直線的に大きく開き、器壁はヘラケズリにより非常に薄く仕上げている。371は胎土に白色小石・砂粒が多く、雲母細粒も含まれ、底部には縦方向のヘラミガキが施される常陸型甕である。他に土玉（土84）と折れ曲がった釘（金12）が出土した。

SI024b（第42・43図、図版7）〈4E-14グリッド〉調査区中央部にありSI024aと隣接する。平面形は方形で、主軸方位N-27°-W、規模は主軸長6.29m、幅6.28m、深さ約48cmである。床面には凹凸がみられる。周溝は一部を除いて巡り、主柱穴は4本検出された。主柱穴の平面形状はいずれも不整円形である。南壁中央部にある貯蔵穴は平面方形で、カマド側に低い土手状の高まりを伴う。カマドは北壁中央に付設されるが、遺存は不良で、右袖の一部と火床部と考えられる窪みがみられる程度である。

遺物は全体から非常に多く出土した。甕類はほとんどが在地産で占められる。常陸産は少量、武蔵産破片は5点のみの出土である。坏類は破片資料を含めて赤彩された個体が黒色処理された個体より多い。無彩の土器破片も相当量出土した。ロクロ土師器は破片で4点確認できた。

372は須恵器坏蓋の破片である。胎土に白色微砂粒が少量含まれる。天井部は回転ヘラケズリが施される。373～384は土師器坏である。赤彩される個体は総じて器高が高く、口縁が強く外反するものが主体の形状である。黒色処理された374は器高が低く、口縁部も含めて丁寧なヘラミガキ調整が施される。376は椀状で、底部は平底を意識している。内面はヘラケズリ後、暗文状のミガキが施される。379は体部外面に研ぎ痕が多くみられる。全体的に器面が磨滅する。380・381の底面には「×」印に線刻が施される。382は胎土がざらつき、黒色のスコリア状の物質がみられる。383は底部と口縁の一部が欠けており、意図的に打ち欠いた可能性がある。385・386は土師器高坏の脚部である。どちらも短脚で、外面は赤彩される。388は褐色系の須恵器甕頸部の小破片である。外面にタタキ目がみられる。387・389～392は土師器甕である。390は全体的に器壁が厚く、特に底部は分厚く、内部中央が膨らむ。外面はミガキで丁寧に調整される。389・391・392は口縁が短く、胴部が張る。内面のヘラナデ痕が明瞭である。393の須恵器大甕は、本竪穴以外に隣接するSI-019・022・023・031からも破片が出土した。底部がややいびつだが整形は丁寧で、焼成も良好である。口縁端部はつまみ上げられる様に短く直立する。肩部・口縁部には自然釉が付着する。外面はタタキ目とカキ目状の横方向のナデ調整、内面には同心円文の当て具痕が確認できる。393のみ掲載図のスケールは6分の1とした。394～396は土師器甑である。胴部はほとんど張らず、口縁の反りも少ない。金13は覆土中層から出土した鉄釘である。金34～36は羽口破片である。やや白みのある胎土で、部分的にススが付着し、熱で変色している。図では変色部をトーンで示した。金35・36は同一個体の可能性がある。他に土玉（土85～土93）が住居北西コーナーに比較的まとまって出土した。土116～土118は大型の土錘である。土131は土器片錘状の破片である。側面は丁寧に磨ってある。

SI025（第44図、図版7）〈4E-16グリッド〉調査区中央の位置にあり、SI008a・cと近接する。平面形は横長の方形で、主軸方位N-45°-W、規模は主軸長2.92m、幅3.45m、深さは50cmである。覆土には各層にローム塊が含まれるため、人為的な埋戻しの可能性が高い。床面には周溝が全周するが、柱穴などは検出されなかった。カマドは北西壁の東寄りに付設される。



第44図　ＳＩ０２５

竪穴が小規模であり、遺物の出土は非常に少ない。甕類では在地産がやや多い。常陸産はやや薄手の破片、武蔵産破片は３点の小破片のみ出土した。坏類は破片資料でロクロ土師器・須恵器、内面黒色処理坏、赤彩坏も小破片で確認できた。

397 は土師器小型坏である。内面は被熱し、底部を中心に剥離する。スス状が付着し、口縁は一部欠けて灯明皿としての使用が想定できる。底面は無調整で、木葉痕がみられる。体部外面には粘土紐接合痕が部分的にみられる。398 は須恵器甕の胴部小破片である。胎土は精緻で、器厚が薄く、焼成は良好である。外面はタタキ目、内面は同心円文の当て具痕がみられる。金 32 は坩堝の底部の可能性のある小破片である。底面はガラス化し、内面に薄緑色の物質が付着する。他に覆土中から土玉（土 94）が１点出土した。

SI026（第 45 図、図版７）〈4E-00 グリッド〉調査区の中央やや北寄りの位置にある。平面形は方形で、主軸方位Ｎ -73° - Ｗ、規模は主軸長 3.40 m、幅 3.48 m、深さは 60㎝である。床面には周溝が全周するが、柱穴などは検出されなかった。西壁中央にカマドが付設され、袖部の遺存は良好であった。

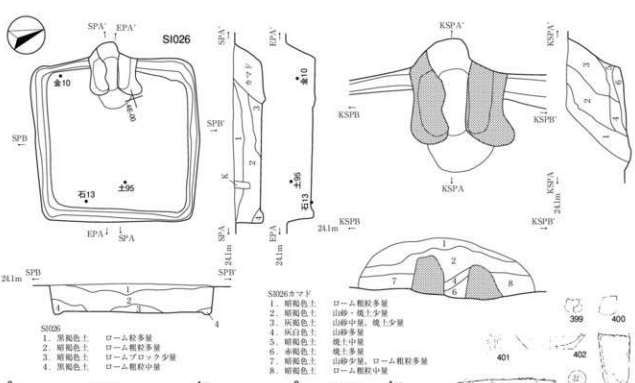
遺物の出土は少ない。甕類では在地産はすべて小片で、口縁部が含まれない。常陸産は胴部下半部にミガキ調整された破片が確認できた。器厚はやや薄手である。武蔵産の破片は２点出土した。坏類は土師器ではほぼ非ロクロの個体で占められ、赤彩・黒色処理破片も含まれるが、すべて小片である。須恵器坏破片にはロクロ坏の破片があり、雲母の含まれる個体も確認できた。

399 はミニチュア土器である。手捏ね成形で、器面は雑なナデ調整である。胎土自体赤く発色する。400 はロクロ須恵器坏破片である。胎土に雲母細粒が少量含まれる。器面は磨滅してざらつく。401 は褐色系の須恵器甕の胴部小破片である。外面にタタキ目がみられる。402 は土師器甕の底部破片である。胎土に白色砂礫・砂粒・雲母細粒が含まれ、外面にはやや太めのヘラミガキが施されることから、常陸甕と考えられる。他に東壁際の床面直上から砥石（石 16）と覆土中から土玉（土 95）が出土した。金 10 は覆土中層から出土した鉄製の刀子である。

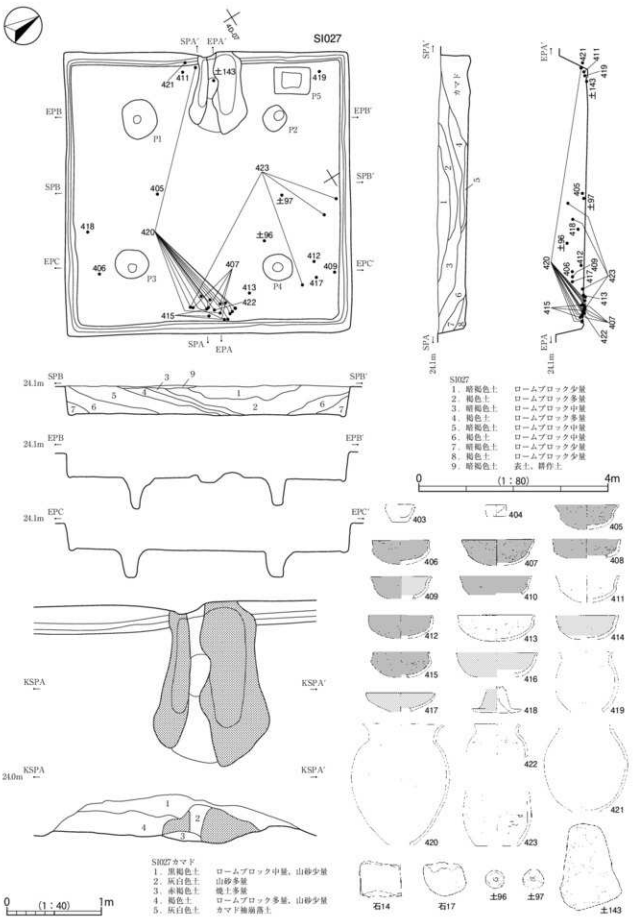
SI027（第46図、図版８）〈4D-07グリッド〉本調査区中央の西側の位置にある。平面形は方形で、主軸方位N -60° - W、規模は主軸長5.94 m、幅6.03 m、深さは60cmである。覆土は暗褐色土と褐色土が互層となり、堆積角度も急なため、人為的な埋戻しの可能性が高い。周溝は全周し、主柱穴４本と貯蔵穴が検出された。北西壁中央にカマドが付設され、奥壁は直線的に立ち上がる。

遺物は竪穴の壁寄りから出土する傾向にある。甕類は在地産が主体である。常陸産は、器壁の厚い破片で、口縁は単口縁で磨滅しているものがみられた。武蔵産がわずかに出土した。坏類は破片を含め、やや黒色処理された個体の方が多い。破片資料の中に高坏の短脚部が３個体分確認できた。また、破片のため実測できなかったが、ミニチュア土器の破片が５個体分以上出土した。

403･404はミニチュア土器である。どちらも凹凸が多く、雑な整形である。405～415は土師器坏である。器高は総じて高めで、底部の丸みが強い。黒色処理された坏は須恵器模倣であるが、赤彩された坏の形状はバラエティがある。407の口縁部は弱く内湾しながら外に開いて立ち上がる。胎土は精緻、色調はやや白みを帯び、赤褐色スコリアが目立つ。内面には「米」字に暗文状ヘラミガキが施される。412の器壁は全体的に厚く、口縁部は直立する。416・417は高坏の坏部の可能性が高い。418は土師器高坏の脚部である。脚部を内実の状態からヘラケズリで粘土を削りだしている。裾部には木葉痕が残る。419～422は土師器甕である。419は小型甕で、被熱のため器面が荒れている。外面には斜め方向のヘラミガキが特徴的にみられる。420はやや薄手の甕で、底部径は小さい。口縁部はやや高く、先端部が弱く外反する。421は被熱で器面が著しく荒れている。外面は縦方向のヘラケズリ調整である。底部の外縁は使用により磨れている。422は小型甕で、内面にはヘラケズリ痕が残る。423は土師器甑の胴部下半である。内面のミガキは横方向が主体である。土143はカマド火床部から出土した支脚で、比較的小型である。他に砥石（石14）・軽石（石17）・土玉（土96・土97）が覆土中から出土した。



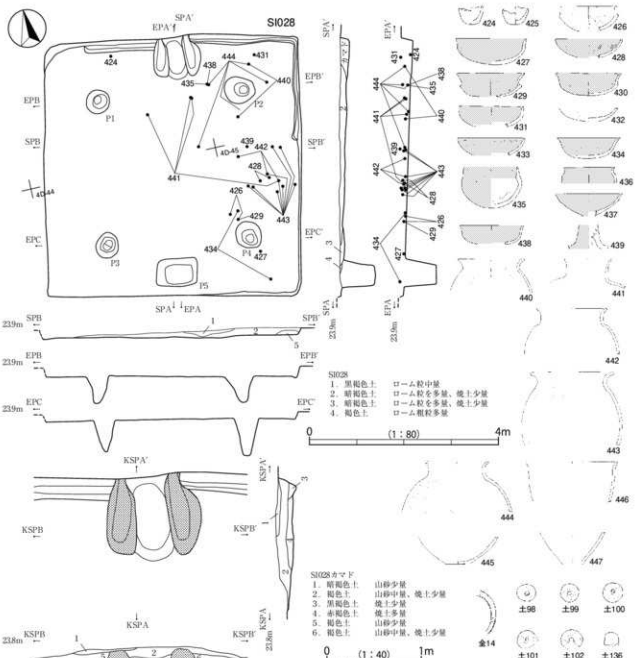
第45図　ＳＩ０２６



SI027
1．暗褐色土　ロームブロック少量
2．褐色土　ロームブロック多量
3．暗褐色土　ロームブロック中量
4．褐色土　ロームブロック多量
5．暗褐色土　ロームブロック中量
6．褐色土　ロームブロック中量
7．暗褐色土　ロームブロック少量
8．褐色土　ロームブロック少量
9．暗褐色土　表土、耕作土

SI027カマド
1．黒褐色土　ロームブロック中量、山砂少量
2．灰白色土　山砂多量
3．赤褐色土　焼土多量
4．褐色土　ロームブロック多量、山砂少量
5．灰白色土　カマド崩落土

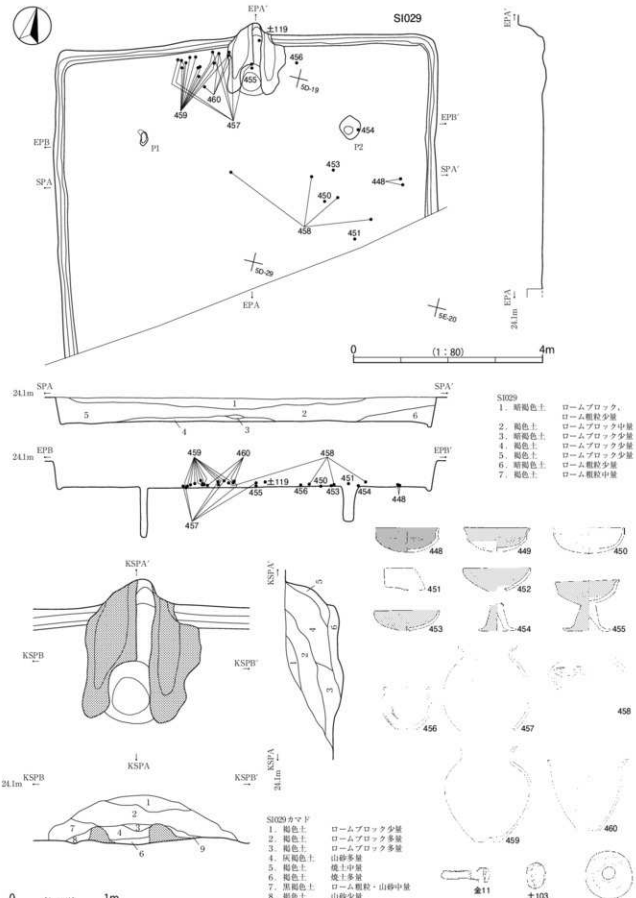
第46図　ＳＩ０２７



第47図　ＳＩ０２８

SI028（第47図、図版８）〈4D-44グリッド〉調査区の南部にあり、周辺の竪穴住居跡と離れている。本遺構の西側は浅い谷津になっており、本集落の西端の竪穴住居跡である可能性がある。平面形は方形で、主軸方位Ｎ-11°-Ｅ、規模は主軸長5.53ｍ、幅5.45ｍ、深さは20cmである。床面には周溝が北壁側と東壁の北部にかけて巡り、主柱穴４本と南壁際中央で貯蔵穴が検出された。貯蔵穴は、カマド対面に位置し、平面形状が長方形で掘り込みがしっかりしている。北壁中央にカマドが付設されるが、奥壁の掘込みはほとんどない。火床面の上面からは、支脚破片が出土した。

遺物は竪穴東半分からの出土が多い。甕類は在地産が主体である。常陸産は厚さのある胴部破片のみで非常に少ない。坏類は塊状のやや器高の高い赤彩された坏が主体で、黒色処理破片はほとんど含まれない。


SI029
EPA'
±119
456
455
5D-19
460
459
457
454
P1
P2
EPB
EPB'
SPA
SPA'
453
448
450
458
451
5D-29
EPA
5E-20
24.1m
0
(1 : 80)
4m
SI029
1. 暗褐色土　ロームブロック、ローム粗粒少量
2. 褐色土　ロームブロック中量
3. 暗褐色土　ロームブロック少量
4. 褐色土　ロームブロック少量
5. 褐色土　ロームブロック少量
6. 暗褐色土　ローム粗粒少量
7. 褐色土　ローム粗粒中量
KSPA'
KSPB
KSPB'
KSPA
KSPB'
KSPA'
KSPA
KSPB
KSPB'
24.1m
SI029カマド
1. 褐色土　ロームブロック少量
2. 褐色土　ロームブロック多量
3. 褐色土　ロームブロック多量
4. 灰褐色土　山砂多量
5. 褐色土　焼土中量
6. 褐色土　焼土多量
7. 黒褐色土　ローム粗粒・山砂中量
8. 褐色土　山砂少量
9. 褐色土　山砂少量
0
(1 : 40)
1m
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458
459
460
金11
±103
±119

第48図　ＳＩ０２９

424・425 はミニチュア土器である。手捏ね成形で、ほぼ同形状である。426 ～ 434 は土師器坏である。口縁形状は多様で、ほとんどの個体が赤彩され、内面が剥落する個体が多い。429 は体部と口縁の境の稜が鋭くつくり出され、内面は暗文状にヘラミガキが施される。430 は内面の剥離が著しい。432 は底部外面に「×」印がヘラ書きされる。435・436 は土師器埦である。435 は口縁部が直立し、内外面とも器面がまだらに剥落している。436 の口縁は短く、強く外反する。437 ～ 439 は土師器高坏である。437・438 は坏部で、口縁は短く緩やかに外反する。439 は脚部で、胎土の色調は白みを帯びる。440 から 445 は土師器甕である。440 の口縁は比較的短く外反し、外面は横方向のヘラケズリ調整が施される。441 は口縁が高く、中位に横方向の突線を有する。広口壺とするべきかもしれない。特に内面が著しく剥離する。442 は頸部に稜を有し、口縁は直立後、端部のみ外反する。器面は内外面とも部分的に剥離する。443 は大型で器厚があり、外面は縦方向のヘラケズリ痕を明瞭に残す。444 は胴部が大きく張り、外面に幅広のハケ目が施される。胎土自体赤みがあり、焼成は良好である。445 は底部付近で、外面は強いヘラケズリが施され面を有する。底面は一方向のヘラケズリである。446・447 は土師器甑である。いずれの個体も胎土に赤褐色スコリア粒が目立つ。446 は口縁部破片で、頸部の屈曲がなく胴部へ直線的につながる。447 は底部付近破片である。他に土玉（土 98 ～土 102）が出土している。そのうち 4 点はカマド内から出土し、他の個体に比べ器面がやや荒れているようにみえる。金 14 は鉄釘である。土 136 は不明土製品の破片である。器面は赤みを帯びる。

SI029（第 48 図、図版 8）〈5D-18 グリッド〉調査区の南端にあり、遺構の南側約 1/3 が調査区外にあたる。平面形は方形で、主軸方位 N -16° - W、幅 8.04 m、深さは約 50cmである。床面には周溝が巡る。主柱穴はカマド側の 2 本が検出され、P1 は非常に小さい。北壁中央にカマドが付設され、袖部の遺存状態は比較的良好である。カマド奥壁は直立後になだらかに立ち上がる。

竪穴を全掘をしていないため遺物の出土は多くない。カマド左袖側と竪穴東半分からの出土が目立つ。甕類は在地産が主体である。常陸産は 458 がその可能性があるが、破片数は少ない。破片資料に被熱した単口縁がある。坏類は赤彩個体が主体で、黒色処理された個体は少量である。

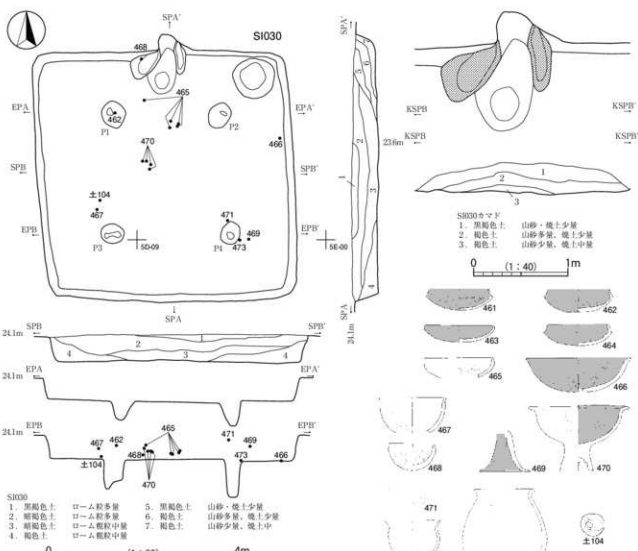
448 ～ 450 は土師器坏である。448 は内外面とも全面黒色処理される。口縁部も含め丁寧にヘラミガキ調整が施される。449 の内面は放射状に丁寧なヘラミガキ調整で、内面と口縁部外面が赤彩される。450 は口縁の屈曲がほとんどなく、胎土に白色微砂粒が目立つ。451 は土師器鉢の口縁部破片である。内外面ともに器面が黒色で、口径が非常に大きい。452 ～ 455 は土師器高坏である。いずれも赤彩され、胎土もやや白みを帯びる。脚部は短く、全体的な整形は丁寧である。456 ～ 459 は土師器甕である。456 は広口の小型甕である。器壁が厚く、器面は砂っぽくざらつく。底部外周は磨滅し、胴部外面には刃物による研ぎ痕がみられる。457 は口縁が比較的短く、肩部は張らず、胴部中位が膨らむ。胴部内面には茶褐色物質が付着する。458 の大型甕の胴部にも研ぎ痕がみられる。459 の大型甕は口縁部がやや高く直立気味に立ち上がりながら外反する。肩部が張り、胴部下位に向かって直線的にすぼまる。胴部外面は縦方向のヘラケズリ調整が主体である。460 は土師器甑である。口縁部はくの字に弱く屈曲し、胴部はほとんど張らない。金 11 は鉄製の刀子の柄の部分と考えられる。ほぼ床面直上からの出土である。土 103 は比較的大型の土玉の破片と考えられるが遺存が悪い。土 119 はカマド内から出土した大型の土錘で一部欠損する。

SI030（第 49 図、図版 8）〈4D-99 グリッド〉調査区の南側で、SI029 の北側に隣接した位置にある。平面形はややいびつな方形で、主軸方位 N - 1° - W、規模は主軸長 5.28 m、幅 5.45 m、深さ 61cmである。

覆土はレンズ状に堆積する。床面には凹凸があり、周溝は巡らず、主柱穴４本と北東隅に貯蔵穴が検出された。貯蔵穴は平面形状が円形で、底面はほぼ平坦である。北壁中央にカマドが付設されるが、右袖の遺存状態は不良である。カマド奥壁は緩やかに立ち上がる。

遺物の出土は、カマド前面部分にやや集中してみられた。甕類では在地産が主体である。常陸産は厚さのある小破片のみで、武蔵産破片は確認できなかった。坏類は実測個体では黒色処理された坏が主体であるが、破片資料では赤彩されたやや厚めの個体が目立つ。また、小型の壺口縁破片も確認できた。

461 ～ 465 は土師器坏である。いずれも器高が低く、内外面ともに黒色処理される。461・462・464 の口縁端部は使用のため磨滅が著しい。466 ～ 468 は土師器埦・鉢である。466 は大型の鉢か大型高坏の坏部の可能性がある。内外面とも雑にヘラミガキ調整され、黒色処理が施される。467 の胎土は白みが強く、異質である。468 は小型で半球状の底部である。胎土は砂っぽく、器面がざらつく。口縁部は使用のためか磨滅し、部分的に欠ける。469・470 は黒色処理された土師器高坏である。469 はラッパ状脚部で、器壁が薄く丁寧に成形される。470 は坏部が大型で埦状、口縁端部が強く外反する。内外面ともに雑なヘラミガキ調整である。471 は須恵器大甕の肩部破片である。色調は器面が濃い灰色で、断面の内部はセピア色である。胎土に白色微砂粒が目立つ。472・473 は土師器甕である。472 は小型甕で、底面を平らにヘラケ



第49図　ＳＩ０３０

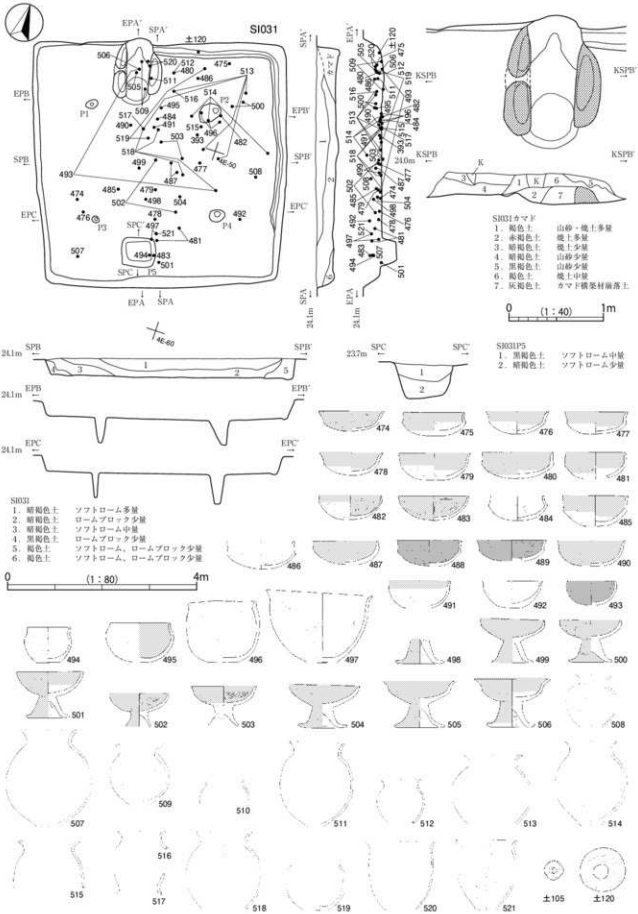
ズリでつくり出す。473は厚さのある口縁は短く、胴部は中位が緩やかに張る。内外面とも被熱のため器面が荒れ、内面には茶褐色物質が付着する。他に土玉（土104）が1点出土した。

SI031（第50図、図版8）〈4D-59グリッド〉調査区の南部中央、SI029・SI032の大型竪穴の間に位置する。平面形は方形で、主軸方位N-20°-W、規模は主軸長5.63m、幅5.30m、深さ約40cmである。床面には凹凸がみられ、周溝はカマド右袖付近から北東隅、東壁沿いにあり、主柱穴4本と貯蔵穴が検出された。主柱穴はP1とP3の規模が特に小さい。南壁際の貯蔵穴はカマドの正面に位置し、平面形は長方形である。北壁中央の西寄りにカマドが付設される。遺存は悪く、奥壁は緩やかに立ち上がる。

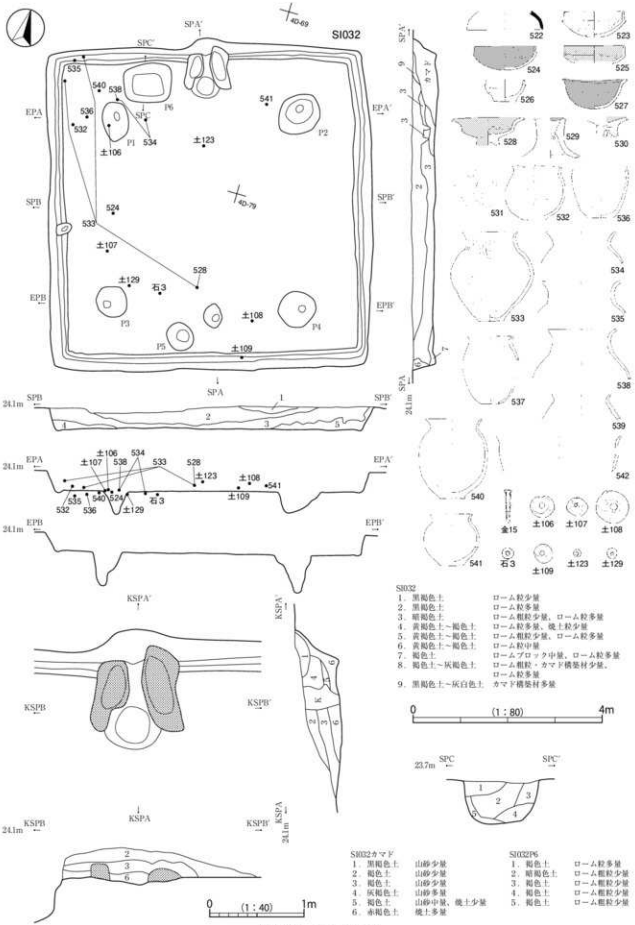
遺物は覆土下層を中心に全体から多量に出土した。甕類は在地産が主体である。常陸産は底部破片が3個体分程度で、全体に厚さのある破片資料のみである。武蔵産破片は3点のみで非常に少ない。坏類は破片資料では黒色処理されたものが多いが、小破片である。全体的に磨滅した破片が目立つ。高坏は掲載資料の他に4個体分の脚部破片が出土した。

474～491は土師器坏で須恵器模倣坏である。赤彩される個体が多い。器高が高く、口縁は直立気味で端部へ緩やかに外反する形状が主体で、口縁部が内傾する個体は少ない。480・481の底部内面には赤彩で「×」印がつく。488・489の黒色処理された個体は、口縁部も含めてヘラミガキ調整が施される。490・491は底部が平底様にやや平らである。492～495は土師器塊である。坏より器高があり、平底気味で、口縁と体部との境の稜が緩やかな個体を塊とした。492・493は半球状で、494はヘラケズリにより平底をつくり出し、丁寧に成形される。496・497は土師器鉢である。496は胴部が張らない寸胴状で、口縁は内削ぎ状に内面に稜をもつ。全体的にいびつで、調整もやや雑である。497は口縁が弱く外反し、底部に向かって緩やかにすぼまる。外面の口縁部直下には粘土紐接合痕が部分的に残る。内面は丁寧なナデ調整である。498～506は土師器高坏である。すべて短脚で、坏部は塊形である。坏部は大きく外反する個体より直立気味か緩やかに内湾する個体が主体である。ほとんどの脚部は裾部以外をヘラケズリにより粘土を刳りぬいて成形するが、502・503は刳りぬかず、脚部下部から裾部を成形している。505は口縁端部のほぼ全周が細かく割れており、人為的に打ち欠いた可能性が高い。内面には黒色物質が付着する。507～520は土師器甕である。507は大型甕で、口縁端部が肥厚する。全体的に丁寧な成形であるが、器壁は厚い。508・509は小型甕で口縁部の一部を欠き、底部は完全には平らでない。509の胴部外面にはヘラケズリの際についた細い沈線が斜めに部分的にみられる。510は口縁が短く直立する形状で特殊である。511は大型甕であるが、底径は非常に小さい。外面は縦方向のヘラケズリ調整を主体とする。513の口縁は強く外反し、胴部の張りも強い。外面は縦方向のヘラケズリ調整が主体で、内面は丁寧なヘラナデ調整である。514は口縁端部のみ外反する。胴部下位にはヘラケズリした粘土をこすりつけたような部分がある。内面は底部付近が焦げて黒ずんでいる。517-519はともに非常に強く被熱したため、胎土自体赤く発色し、器面が荒れている。また、胎土に白色砂粒を多く含むため常陸型甕の可能性がある。同一個体と思われる518は胴部が球状に張る形状である。被熱により胎土自体が赤く発色し、器面も荒れている。520・521は土師器甑である。甕の個体数に比べ非常に少ない。胴部はほとんど張らない形状で、器高もほぼ同じであるが、520は内外面とも横方向のヘラケズリが主体で、ヘラミガキ調整が施され、521は縦方向のヘラケズリを主体とする。他に覆土中～土玉（土105）が1点と、壁際から大型の土錘が1点（土120）出土した。

SI032（第51図、図版8）〈4D-78グリッド〉調査区南部の位置にある。平面形は方形で、主軸方位N-17°-W、規模は主軸長6.78m、幅6.83m、深さ約45cmである。床面には多少の凹凸がみられ、周溝と主柱穴4本


SI031
SI031カマド
1．褐色土　山砂・焼土多量
2．赤褐色土　焼土多量
3．暗褐色土　焼土少量
4．暗褐色土　山砂少量
5．黒褐色土　山砂少量
6．褐色土　焼土中量
7．灰褐色土　カマド構築材崩落土
SI031P5
1．黒褐色土　ソフトローム中量
2．暗褐色土　ソフトローム少量
SI031
1．暗褐色土　ソフトローム多量
2．暗褐色土　ロームブロック少量
3．暗褐色土　ソフトローム中量
4．黒褐色土　ロームブロック少量
5．褐色土　ソフトローム、ロームブロック少量
6．褐色土　ソフトローム、ロームブロック少量
0　(1：40)　1m
0　(1：80)　4m

第50図　ＳＩ０３１



SI032
1. 黒褐色土　ローム粒少量
2. 黒褐色土　ローム粒多量
3. 暗褐色土　ローム粒粒少量、ローム粒多量
4. 黄褐色土～褐色土　ローム粒多量、焼土粒少量
5. 黄褐色土～褐色土　ローム粒粒少量、ローム粒多量
6. 黄褐色土～褐色土　ローム粒中量
7. 褐色土　ロームブロック中量、ローム粒多量
8. 褐色土～灰褐色土　ローム粒粒・カマド構築材少量、ローム粒多量
9. 黒褐色土～灰白色土　カマド構築材多量

SI032カマド
1. 黒褐色土　山砂少量
2. 褐色土　山砂少量
3. 褐色土　山砂少量
4. 灰褐色土　山砂多量
5. 褐色土　山砂中量、焼土少量
6. 赤褐色土　焼土多量

SI032P6
1. 褐色土　ローム粒多量
2. 暗褐色土　ローム粒粒少量
3. 褐色土　ローム粒粒少量
4. 褐色土　ローム粒粒少量
5. 褐色土　ローム粒粒少量

第51図　ＳＩ０３２

が検出された。主柱穴の平面形はP1が楕円形で、他は円形である。主柱穴覆土は上層が暗褐色土で、下層が褐色土である。竪穴北側には入口ピットと考えられる柱穴2本と貯蔵穴が検出された。貯蔵穴はカマド左袖側にあり、平面形は長方形、底面がやや丸みを帯びる。カマドは北壁中央に付設され、両袖ともに遺存が良好である。カマド火床面の上面には焼土が顕著にみられた。

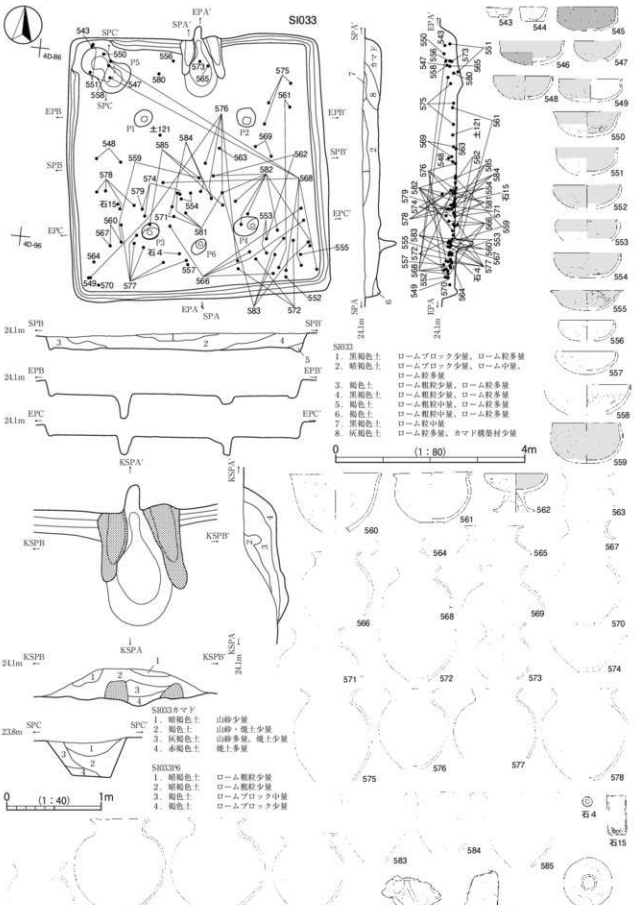
遺物は比較的多く出土したが、特に西側、貯蔵穴周辺からの出土が目立つ。甕類では在地産が主体である。常陸産は厚さがあり、器面は丁寧なナデ調整される破片が目立つ。武蔵産は破片で1点のみであった。坏類では赤彩された個体が黒色処理された個体よりやや多い程度である。

522は須恵器坏蓋の口縁部である。色調は灰色で、胎土に白色砂粒が目立つ。推定口径は16cmと大きい。523・524・525は土師器坏である。須恵器坏身の丁寧な模倣である。口縁部も含めヘラミガキ調整が施される。526は埦形のミニチュア土器である。口縁部が欠損してほとんどないが、強く外反する形状と考えられる。外面には明瞭に粘土紐接合痕が確認できる。底部は厚さのある平底である。527は土師器埦である。体部は半球状で、底部は丸底、口縁が強く外反する。内面は炭素吸着による黒色処理である。528・529・530は土師器高坏である。中型の高坏と考えられ、528・530は赤彩、529は坏部内面が黒色処理される。530は脚部の4方向に透かしが入るものである。531は須恵器大甕の胴部破片である。色調は薄い灰色で、胎土は精緻である。外面タタキ目、内面は同心円文の当て具痕が確認できる。532～542は土師器甕である。多種の形状が出土した。532・533・536・539は全体的に雑な整形で、内面の細かいヘラケズリ痕がほとんど残ったままで、外面もナデ付けした痕跡を多く残し、形状もいびつである。532の底部は雑にヘラケズリにしてつくり出している。535・538は口縁が直立した後、端部が外反する形状である。胎土に多くの白色砂粒、微量の雲母粒が含まれ、常陸型甕と考えられる。541は小型甕で、胴部は内外面ともに黒色を呈する。542は口縁部と胴部の境に段差をもち、屈曲なく続いているため甑の可能性がある。金15は鉄釘である。他に石製の臼玉（石3）1点、土製品では土玉（土106～土109）4点、小型の細い土錘（土123）1点、小型丸玉（土129）1点が出土した。

SI033（第52図、図版9）〈4D-86グリッド〉調査区南部のSI034とならんだ位置にある。平面形は方形で、主軸方位N-9°-W、規模は主軸長5.53m、幅5.51m、深さ約30cmである。床面には多少の凹凸がみられる。覆土にはローム粒・ローム塊が多く、埋め戻された可能性がある。周溝は貯蔵穴部分以外全周する。主柱穴は4本と出入口ピット1本が検出された。主柱穴の平面形はP1・P3・P4が楕円形状で、P2が略円形で他の竪穴と比較して浅い掘り込みである。柱穴覆土は上層が暗褐色土で、下層が褐色土である。竪穴北西隅の貯蔵穴は平面が不整形である。楕円形の貯蔵穴を北西隅に掘り直したためと思われる。新しい貯蔵穴の深さは43cm、古い貯蔵穴の深さは38cmである。北壁中央にカマドが付設され、火床部が他の竪穴よりも深く掘り込まれる。火床面の上面には焼土が多量にあり、煙道部は屋外まで張り出す。

遺物は非常に多く出土した（総重量40.5kg）。特に住居南側半分・カマド周辺・貯蔵穴周辺からの出土が目立つ。甕類では在地産が主体で、常陸産は素口縁で厚さのある破片が確認できる。坏類ではほとんど赤彩された椀に近い個体で占められ、破片資料でも黒色されたものは非常に少ない。高坏は掲載資料以外に短脚部が2点出土した。

543・544は平底の坏のミニチュア土器である。口縁は短く外反し、底部は径の小さい平底である。545～558は土師器坏である。赤彩される個体がほとんどで、545のみ黒色処理される。545は須恵器坏を比較的忠実に模倣し、口縁部が長く直立する。546は赤・黒の両方の塗彩が施されている可能性がある。形


SI033
SI033
1. 黒褐色土　ロームブロック少量、ローム粒多量
2. 暗褐色土　ロームブロック少量、ローム中量、ローム粒多量
3. 褐色土　ローム粗粒少量、ローム粒多量
4. 黒褐色土　ローム粗粒少量、ローム粒多量
5. 褐色土　ローム粗粒中量、ローム粒多量
6. 褐色土　ローム粗粒中量、ローム粒多量
7. 黒褐色土　ローム粒中量
8. 灰褐色土　ローム粒多量、カマド構築材少量
0　(1：80)　4m
SI033カマド
1. 暗褐色土　山砂少量
2. 褐色土　山砂・焼土少量
3. 灰褐色土　山砂多量、焼土少量
4. 赤褐色土　焼土多量
SI033P6
1. 暗褐色土　ローム粗粒少量
2. 暗褐色土　ローム粗粒少量
3. 褐色土　ロームブロック中量
4. 褐色土　ロームブロック少量
0　(1：40)　m
金28
金33
±121

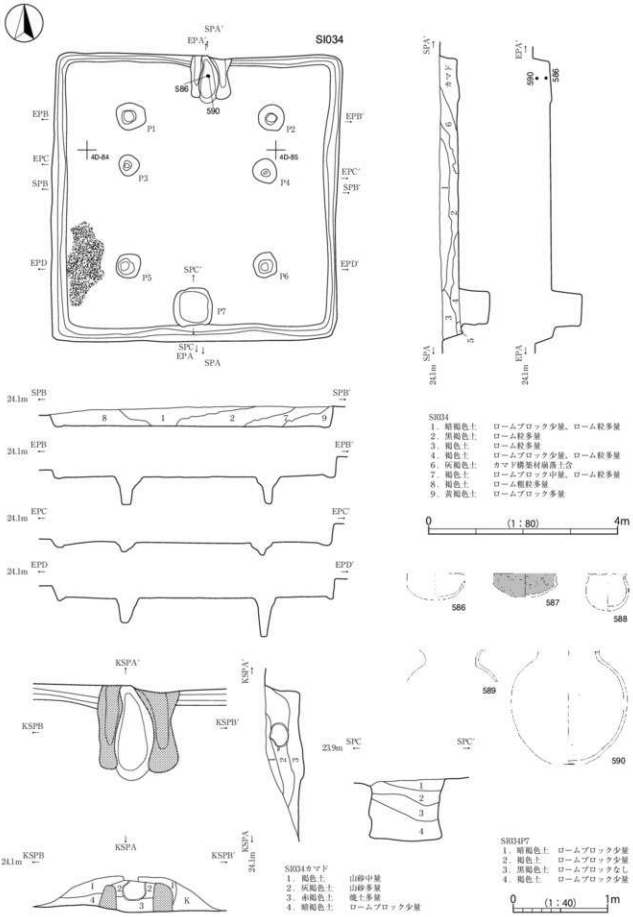
第52図　ＳＩ０３３

状は緩やかに口縁が内湾するもの、外反するもの、須恵器坏の模倣など様々であるが、塊状の形態のものが多い。549の底部外面には「×」印にヘラ書きがみられる。550・555は口縁部が強く外反する形状であるが、内面を放射状のヘラミガキで丁寧に調整する特徴が共通する。548・558・552は坏部の一部であるが、高坏の可能性がある。558は大型の坏で内外面ともミガキが丁寧である。559～561は土師器鉢である。560は胎土に赤褐色スコリア粒が目立ち、やや軟質である。562は大型の土師器高坏である。浅い塊状の坏部に短い脚部がつく。脚部の内面は強いヘラケズリで粘土を切りとっている。563～582は土師器甕である。大きさは様々であるが、口縁が強く外反し、胴部は中位からやや上が強く張る形状のものがほとんどである。外面調整は横または斜めのヘラケズリが主体で、部分的にミガキ調整が施される点も共通する。大型品には口縁部の付け根部分がやや凹む個体も多くみられる。563・569・573は頸部が比較的狭く、口縁部が高い、壺形に近い形状である。573は特に全体にミガキ調整が施され、胴部も球状に近い。578は口縁部と胴部の内面の境に稜が明瞭につくり出される。578・576・579・564は被熱のため器壁は荒れており、橙色に変色している部分がある。567・575は胎土に多量の白色砂粒・小石、微量の雲母細粒が含まれる。常陸型甕と考えられる。575は他に比べると胴部の張りが弱く、ゆがみがある。胴部外面の底部付近には縦方向のヘラミガキ調整が施される。580・581は部分的に欠損部があるものの、口縁部から底部にかけて復元できた個体である。器壁が厚く、重量がある。583～585は土師器甑である。頸部の屈曲が弱く、胴部の張りが少なく、胴部は縦方向のヘラケズリが主体である。583・585は胎土、整形ともに酷似する。584はやや小型で、比較的器厚がある。支脚破片と大型の土錘（土121）、滑石製臼玉（石4）、砥石（石15）が、やや床面から浮いた位置から出土した。金28は土が焼けたもので、土壁の一部の可能性も考えられる。金33は軽石で、表面が赤みを帯びる。

SI034（第53図、図版9）〈4D-84グリッド〉調査区南西部、今回の調査区内ではSI028とともに最も西の位置にある。平面形は正方形に近く、主軸方位N－2°－E、規模は主軸長6.07m、幅6.03m、深さ37cmである。床面には周溝が全周し、主柱穴6本と貯蔵穴が検出された。主柱穴は2列で3本が並ぶ。中間の柱穴はカマド側の柱穴に片寄って配置され、他の柱穴より掘り込みが浅い。貯蔵穴は、南壁中央の壁際にあり、平面形は隅丸方形、底面は平坦である。カマドは北壁中央に付設され、袖部の遺存は良好であった。カマド奥壁は直角に近い立ち上がりである。カマドの火床面から10cmほど浮いた位置で土師器甕が出土した。出土状況からカマドを壊した際に置かれた可能性がある。

遺物はあまり出土しなかった。甕類は重量では常陸産の破片の方が在地産より多い。破片資料であるが赤彩された小型壺も出土した。坏類では赤彩個体が黒色処理個体より多く出土しているが、量は少なく、小破片が多い。赤彩された坏は口縁高の高いものが目立つ。

586・587は土師器坏である。586はやや小型の坏で、底部の一部が打ち欠かれたように欠損する。587は胎土がやや軟質で、部分的に磨滅する。588はミニチュアの甕形土器である。器面は剥落しているが、赤彩されていた可能性がある。口縁部上端はやや波打ち、胴部は丁寧に磨かれる。589は土師器甕の口縁部の破片である。内面の口縁部と胴部の境にしっかりとした稜がつくり出される。590は土師器の大型甕である。胎土に多量の白色小石・砂粒と少量の雲母細粒が含まれ、常陸型甕と考えられる。口縁部は全体が欠損するが、頸部の欠損端の高さがほぼ同じでしかも磨滅しており、再利用されていた可能性がある。


SI034
SPA'
EPA'
586
590
EPB
EPB'
P1
P2
4D-84
4D-85
EPC
EPC'
SPB
SPB'
P3
P4
EPD
EPD'
P5
P6
SPC'
P7
SPC
EPA
SPA
24.1m
SPB
SPB'
EPB
EPB'
EPC
EPC'
EPD
EPD'
KSPA'
KSPB
KSPB'
KSPA
23.9m
SPC
SPC'
カマド
SI034
1. 暗褐色土　ロームブロック少量、ローム粒多量
2. 黒褐色土　ローム粒多量
3. 褐色土　ローム粒多量
4. 褐色土　ロームブロック少量、ローム粒多量
6. 灰褐色土　カマド構築材崩落土含
7. 褐色土　ロームブロック中量、ローム粒多量
8. 褐色土　ローム粒多量
9. 黄褐色土　ロームブロック多量
0
(1 : 80)
4m
586
587
588
589
590
SI034カマド
1. 褐色土　山砂中量
2. 灰褐色土　山砂多量
3. 赤褐色土　焼土多量
4. 暗褐色土　ロームブロック少量
SI034P7
1. 暗褐色土　ロームブロック少量
2. 褐色土　ロームブロック少量
3. 黒褐色土　ロームブロックなし
4. 褐色土　ロームブロック少量
0
(1 : 40)
1m

第53図　ＳＩ０３４

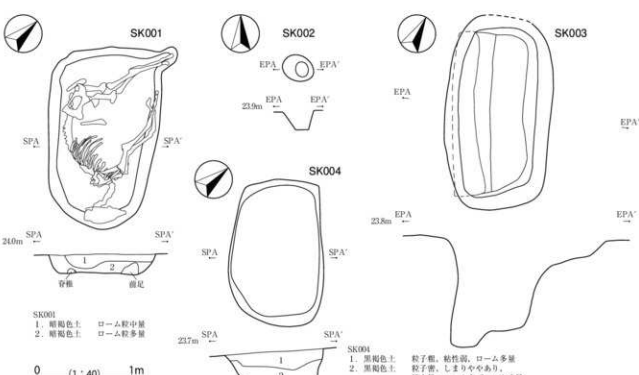
2　土坑　（第54図、図版10）

SK001〈3D-96グリッド〉調査区中央部の北西側、SI027の隣りに位置する。平面形は北側の角に突出部をもつ長方形で、長軸方位はN -137° - E、規模は長軸長1.85 m、幅1.17 m、深さ約20cmである。頭位を南東にして1頭のウマが横臥の状態で埋葬されていた。全体的に遺存状態は良好である。他には須恵器坏破片や砥石が出土した。時期は特定できないが近世の可能性が高い。

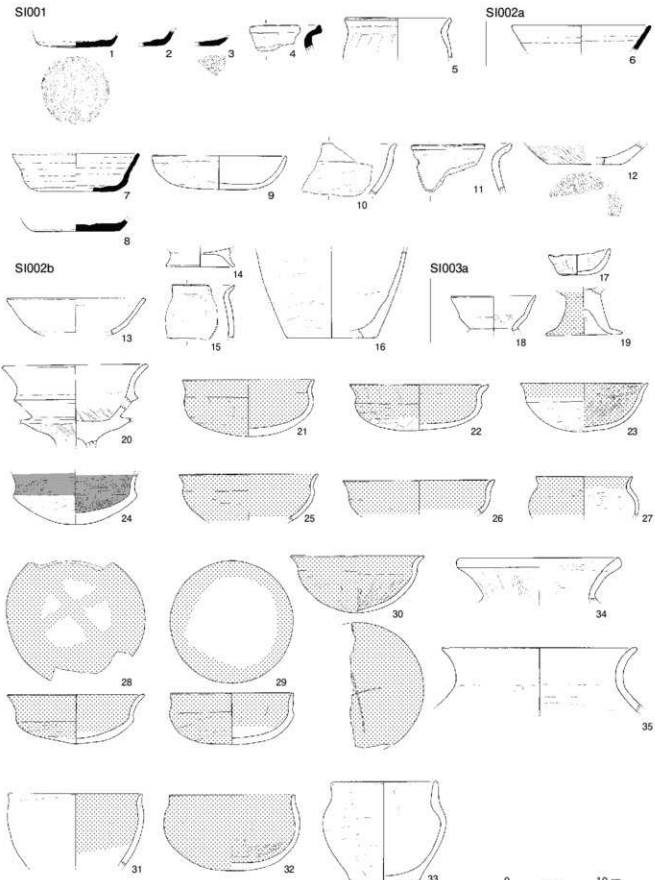
SK002〈4D-06グリッド〉SK002の南、SI027の西側に位置する。平面形は円形で規模は31cm× 28cm、深さ19cmの小型の土坑であり、覆土から骨片が出土している。時期は特定できなかった。

SK003〈4E-19グリッド〉調査区の東南部に位置する。形状は長方形で、規模は長軸長2.05 m、幅1.11 mであり、横穴状の掘り込みを有する。いわゆる有天井土坑である。天井部は土圧により崩落し、遺存は不良である。長軸方位はN -27° - Wである。下底面の規模は、長軸長1.75 m、幅0.3 m、深さ1.16 mである。長軸方向の西側が東側より20cmほど深く掘り込まれ、西側に横穴状に15cm掘り込まれている。遺物は出土していないが、時期は他の検出遺構から考えて、古墳時代後半期から平安時代と推測される。

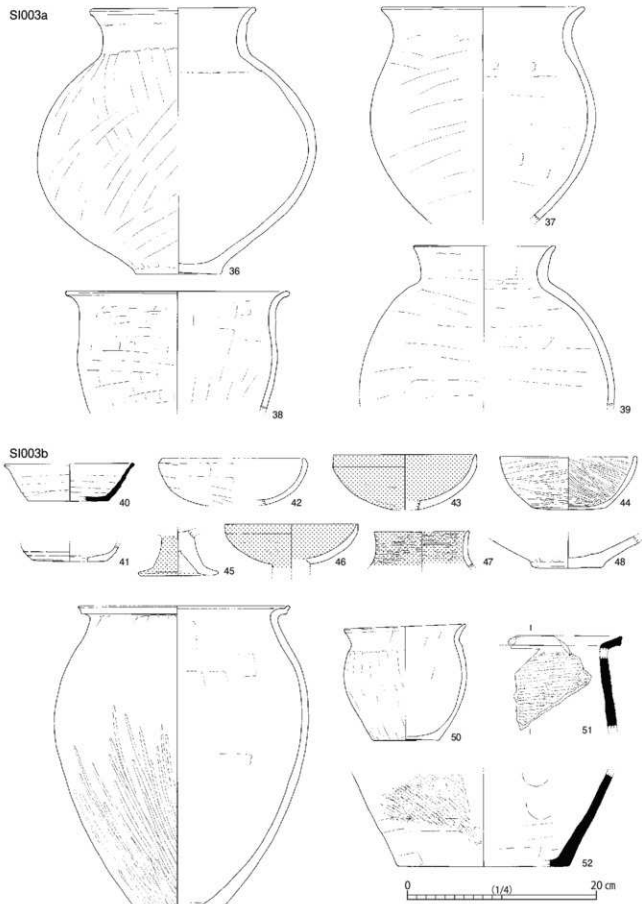
SK004〈4D-05グリッド〉平面形状は不整長方形で、長軸方位はN -137° - E、規模は長軸長1.6 m、幅1.0 m、深さ0.35 mである。遺物は、古墳時代と考えられる土師器小片が少量出土した。



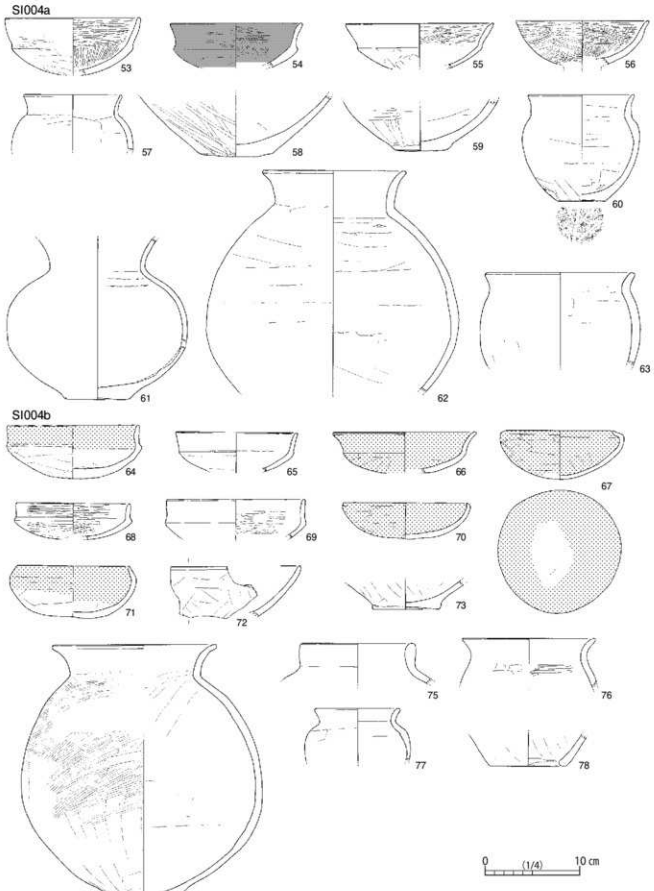
第54図　ＳＫ００１～ＳＫ００４


SI001
SI002a
SI002b
SI003a
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
34
35
31
32
33
0
(1/4)
10 cm

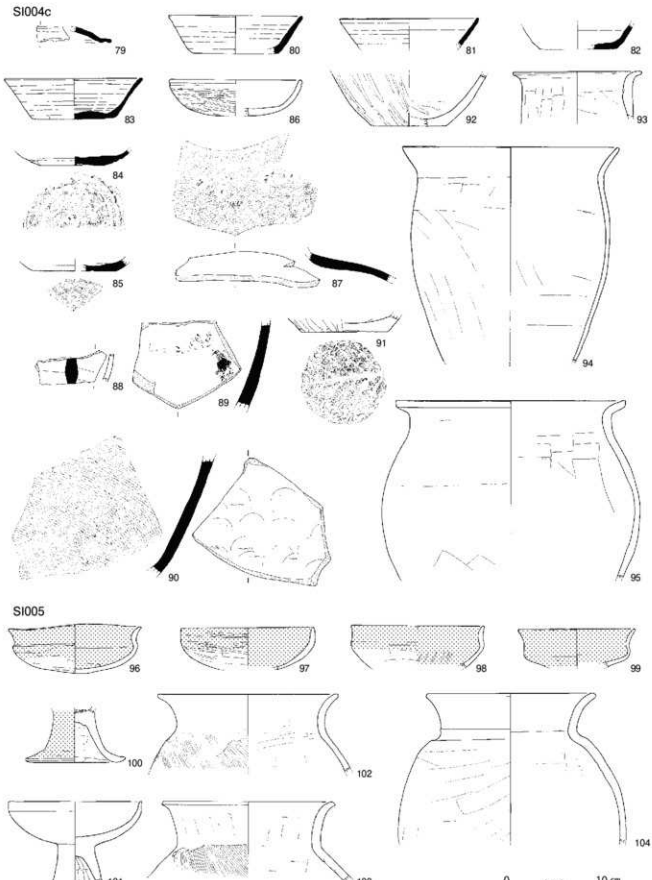
第55図　土器類（1）


SI003a
36
37
38
39
SI003b
40
42
43
44
41
45
46
47
48
49
50
51
52
0
(1/4)
20 cm

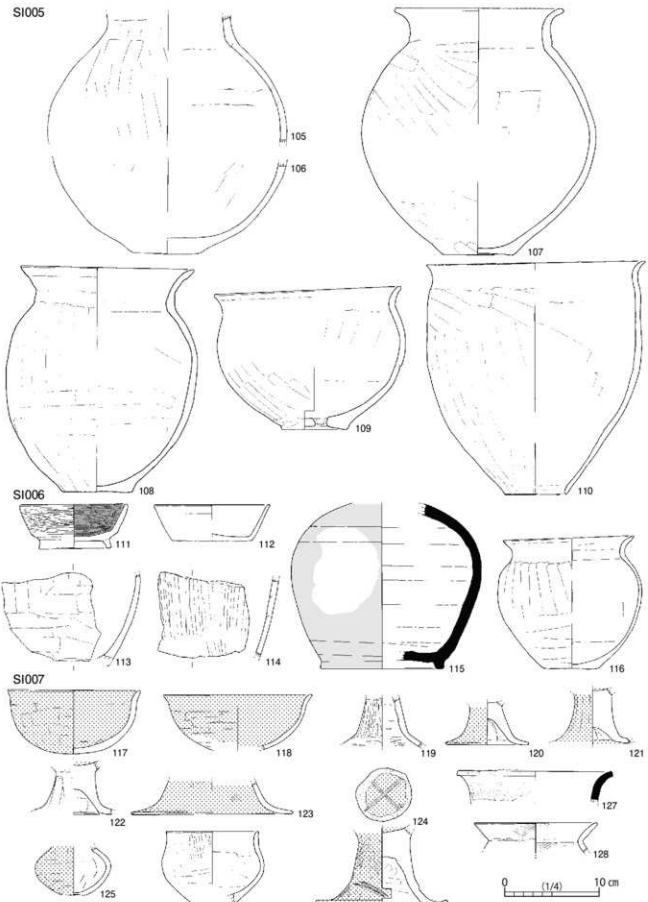
第56図　土器類（2）


SI004a
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
SI004b
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
0 (1/4) 10 cm

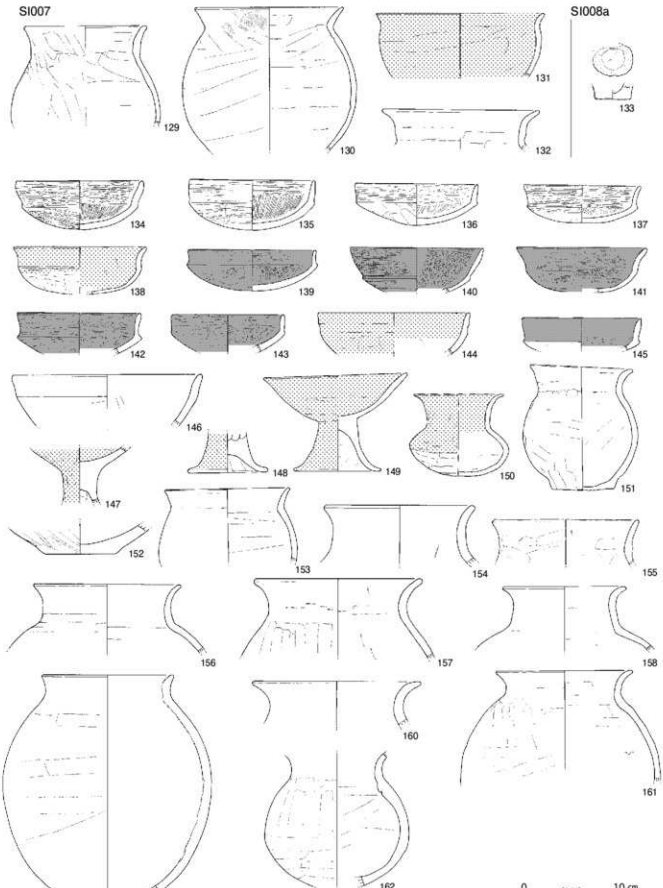
第57図　土器類（3）


SI004c
79
80
81
82
83
86
92
93
84
85
87
94
88
89
91
90
95
SI005
96
97
98
99
100
102
104
101
103
0
(1/4)
10 cm

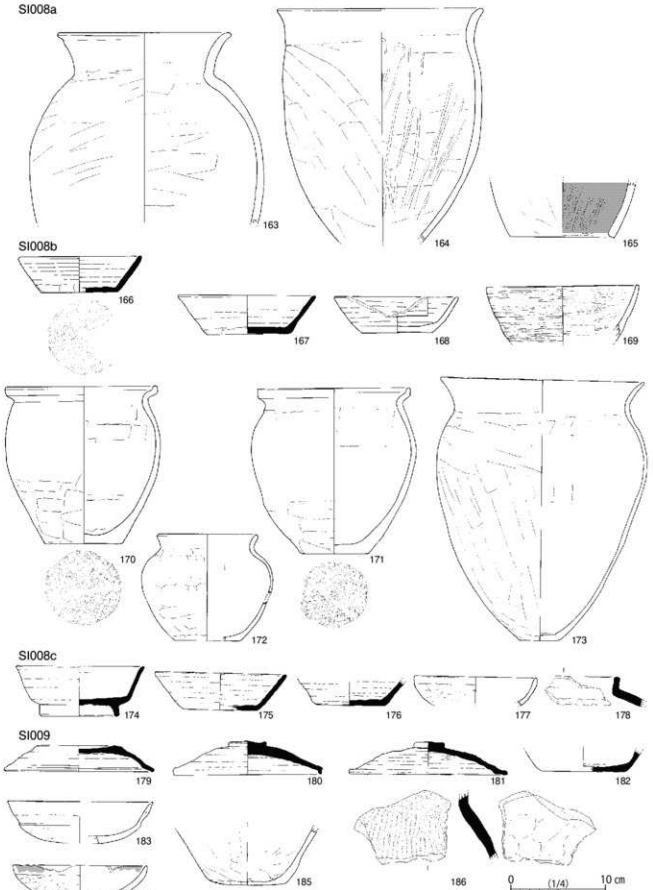
第58図　土器類（4）


SI005
105
106
107
108
109
110
SI006
111
112
113
114
115
116
SI007
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
0 (1/4) 10 cm

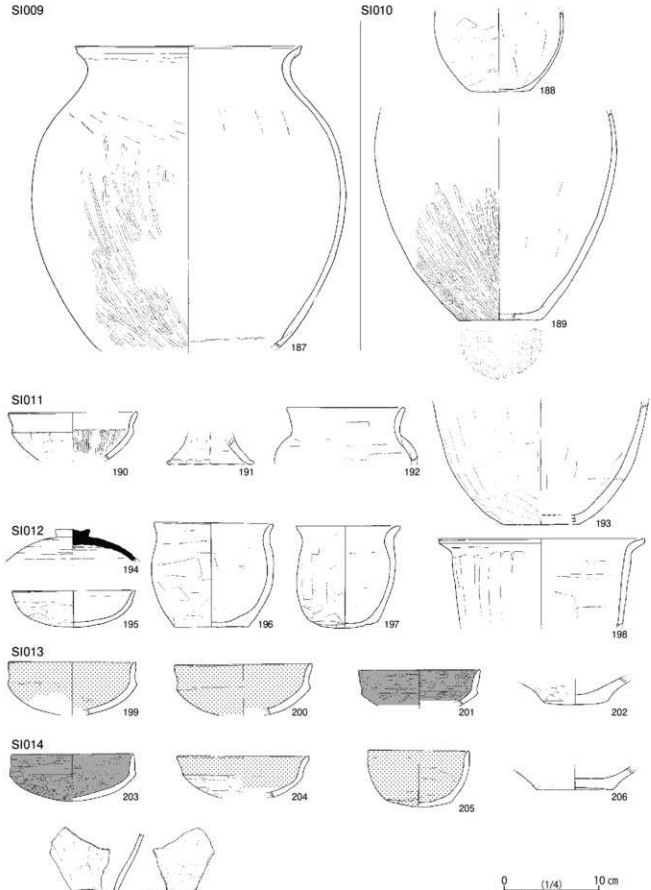
第59図　土器類（5）


SI007
SI008a
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
0
(1/4)
10 cm

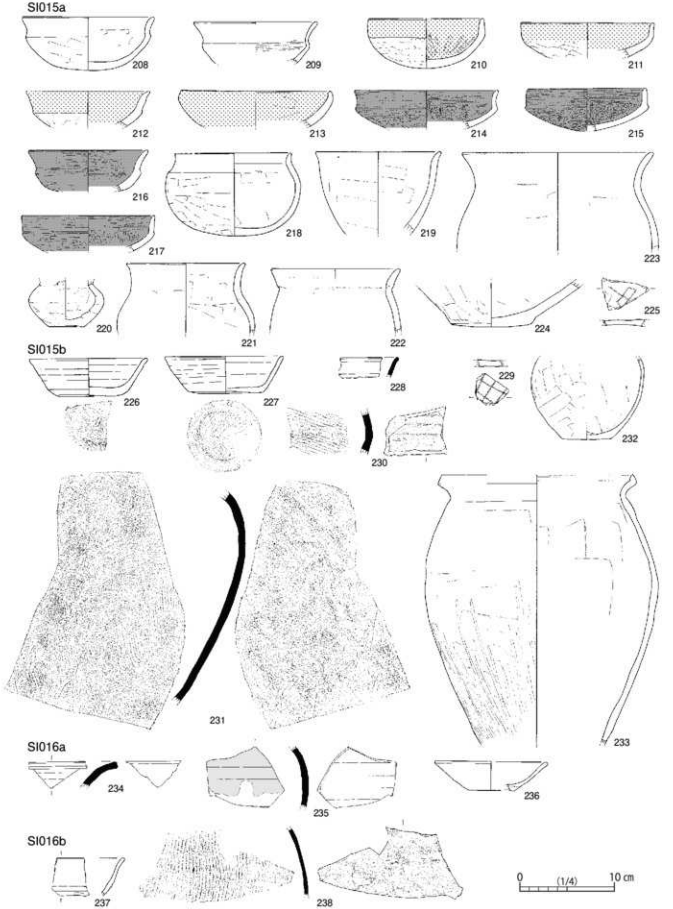
第60図　土器類（6）


SI008a
163
164
165
SI008b
166
167
168
169
170
171
172
173
SI008c
174
175
176
177
178
SI009
179
180
181
182
183
184
185
186
0 (1/4) 10 cm

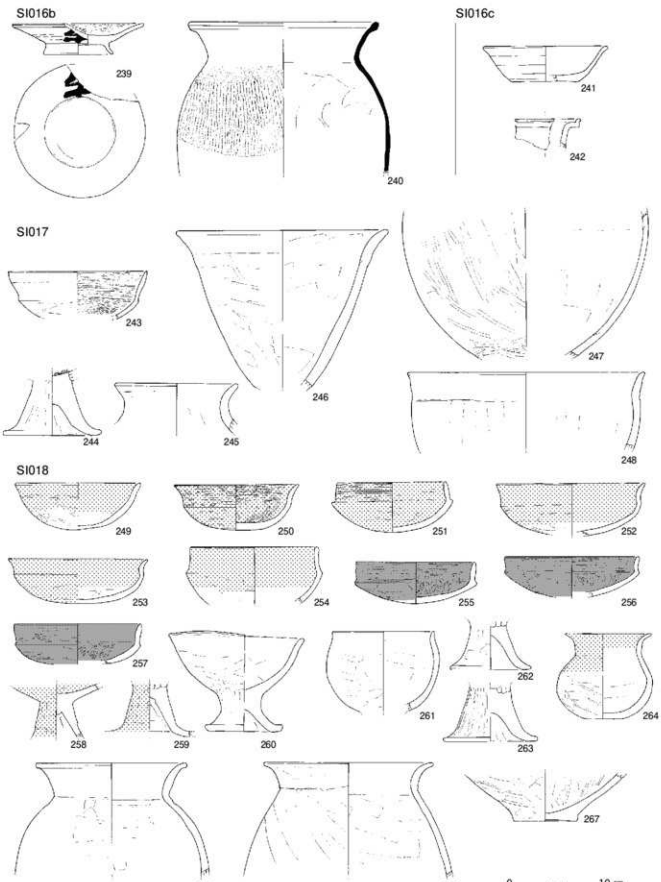
第61図　土器類（7）


SI009
187
SI010
188
189
SI011
190
191
192
193
SI012
194
195
196
197
198
SI013
199
200
201
202
SI014
203
204
205
206
207
0 (1/4) 10 cm

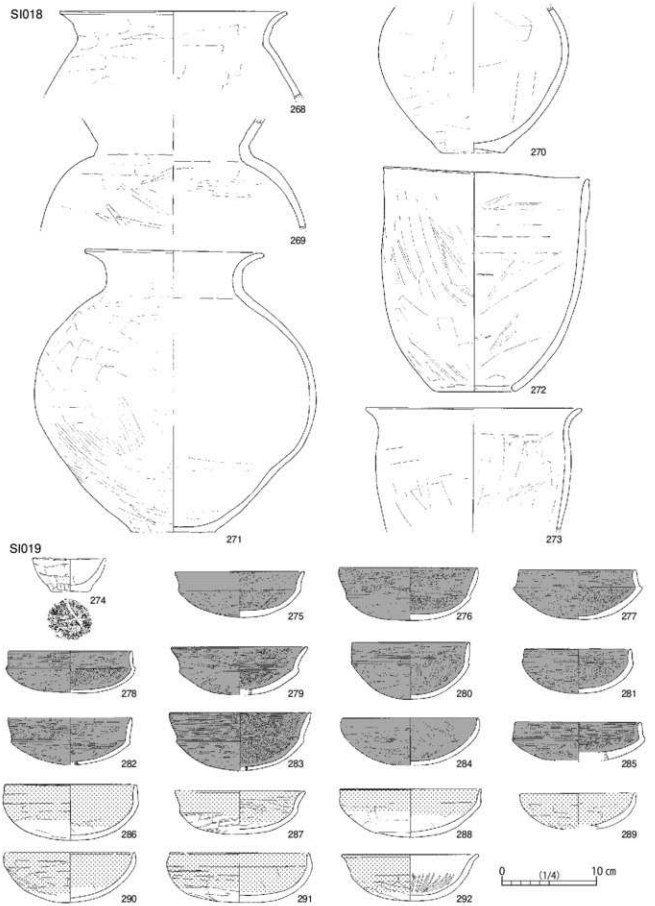
第62図　土器類（8）


SI015a
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
223
220
221
222
224
225
SI015b
226
227
228
229
232
230
231
233
SI016a
234
235
236
SI016b
237
238
0 (1/4) 10 cm

第63図　土器類（9）


SI016b
239
240
SI016c
241
242
SI017
243
244
245
246
247
248
SI018
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
0 (1/4) 10 cm

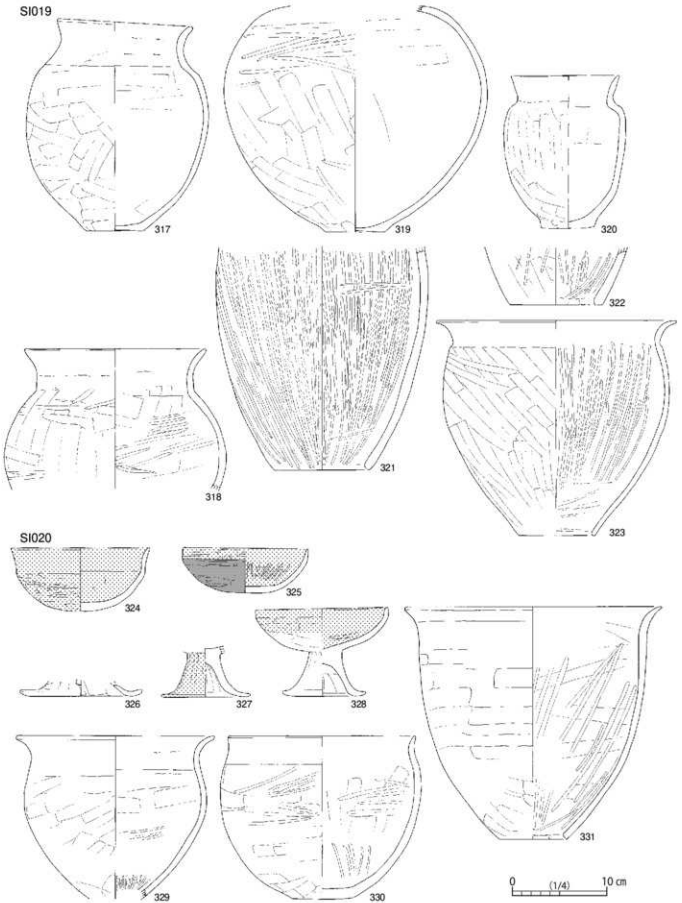
第64図　土器類（10）


SI018
268
269
271
270
272
273
SI019
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
0
(1/4)
10 cm

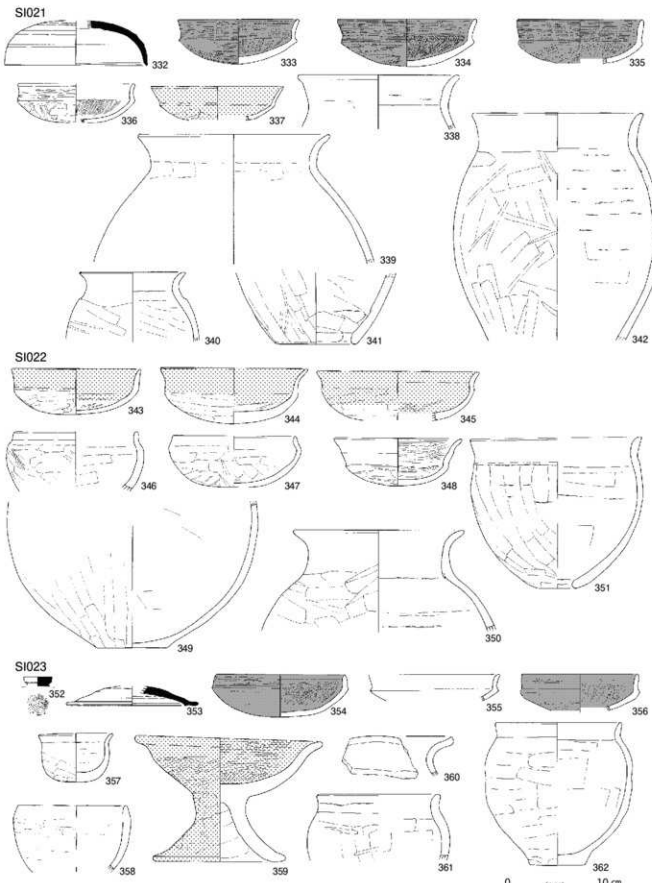
第65図　土器類（11）

SI019

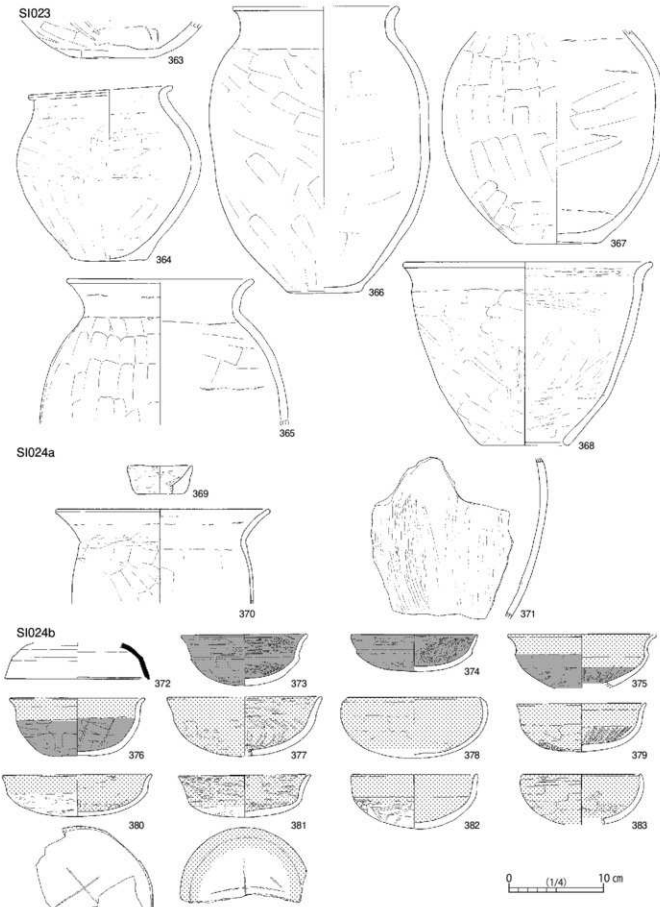
第66図　土器類（12）


SI019
317
319
320
322
318
321
323
SI020
324
325
326
327
328
331
329
330
0 (1/4) 10 cm

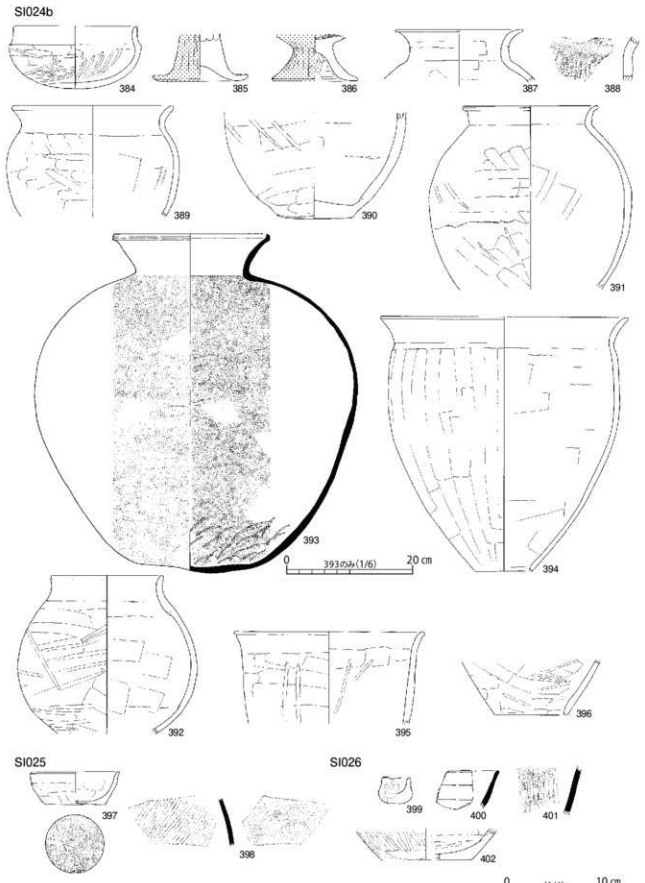
第67図　土器類（13）


SI021
332
333
334
335
336
337
338
339
340
341
342
SI022
343
344
345
346
347
348
349
350
351
SI023
352
353
354
355
356
357
358
359
360
361
362
0
(1/4)
10 cm

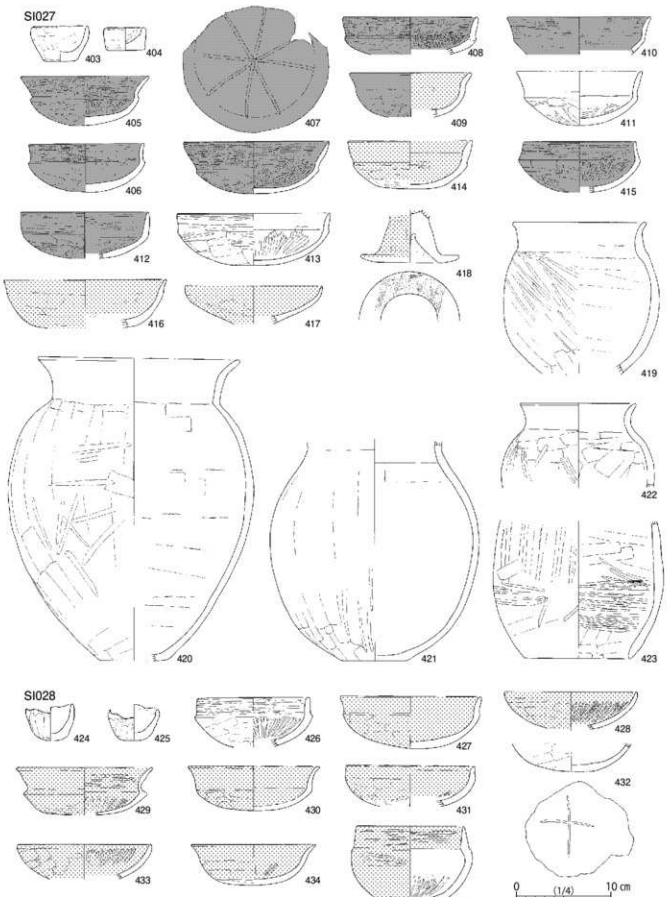
第68図　土器類（14）


SI023
363
364
366
367
365
368
SI024a
369
370
371
SI024b
372
373
374
375
376
377
378
379
380
381
382
383
0 (1/4) 10 cm

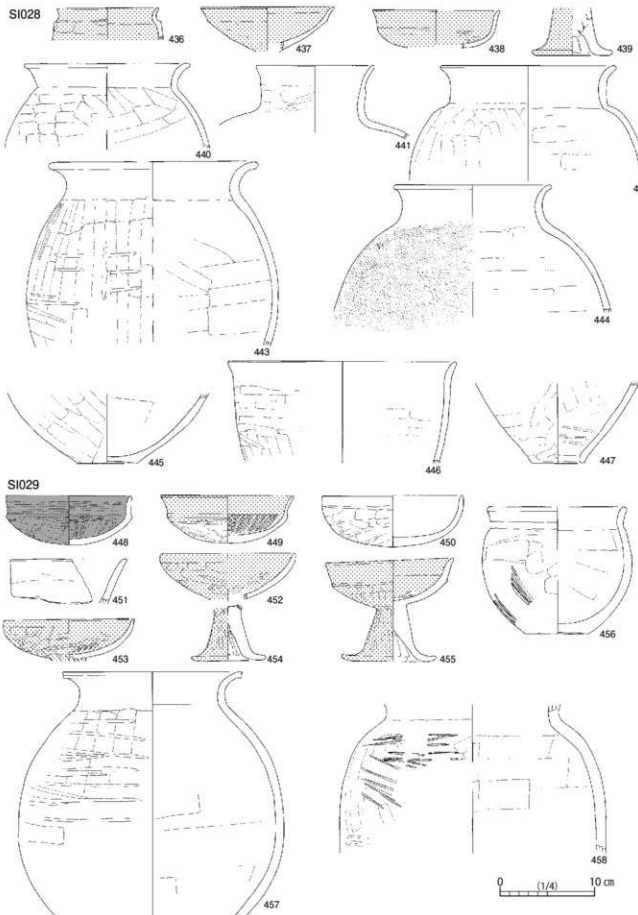
第69図　土器類（15）


SI024b
384
385
386
387
388
389
390
391
393
393のみ(1/6)
0
20 cm
394
392
395
396
SI025
397
398
SI026
399
400
401
402
0
(1/4)
10 cm

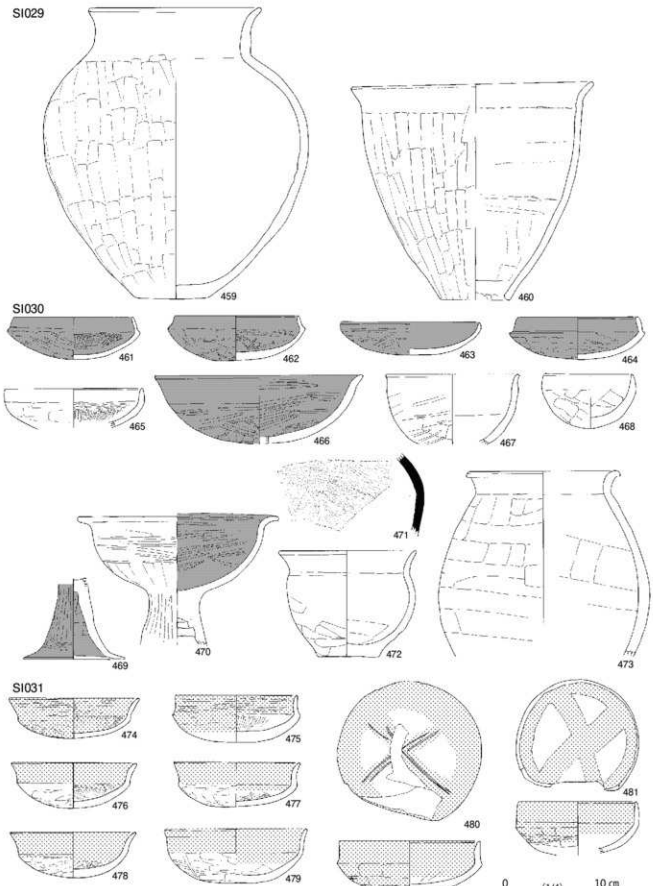
第70図　土器類（16）


SI027
403
404
405
406
407
408
409
410
411
412
413
414
415
416
417
418
419
420
421
422
423
SI028
424
425
426
427
428
429
430
431
432
433
434
435
0
(1/4)
10 cm

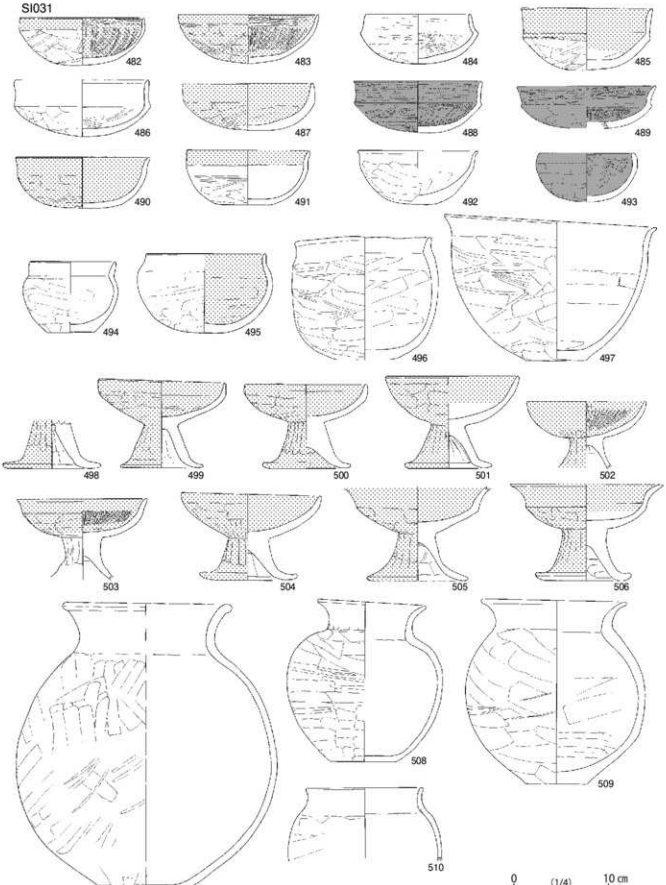
第71図　土器類（17）


SI028
436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
446
447
SI029
448
449
450
451
452
456
453
454
455
457
458
0 (1/4) 10cm

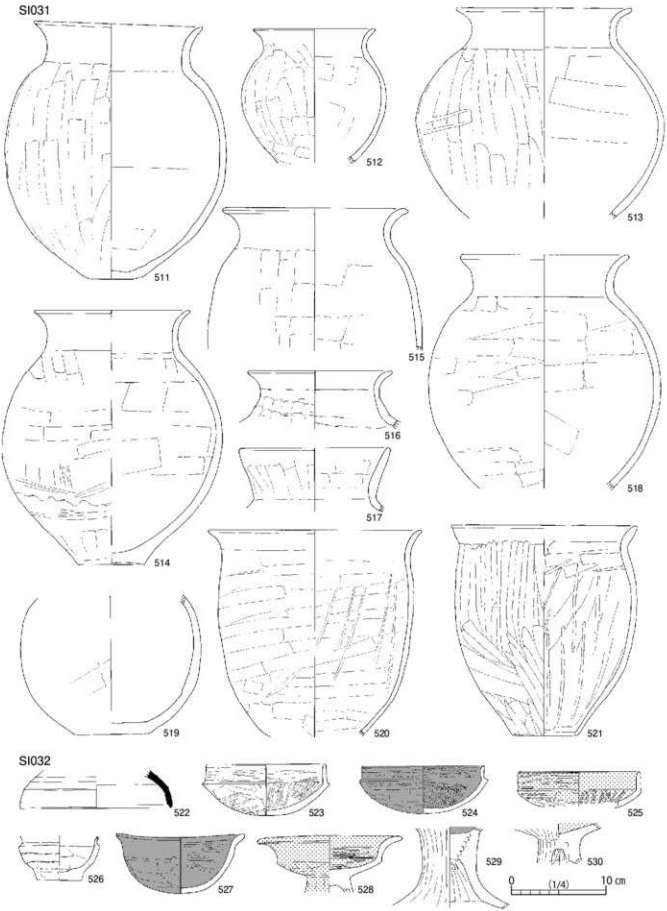
第72図　土器類（18）


SI029
459
460
SI030
461
462
463
464
465
466
467
468
469
470
471
472
473
SI031
474
475
476
477
478
479
480
481
0
(1/4)
10 cm

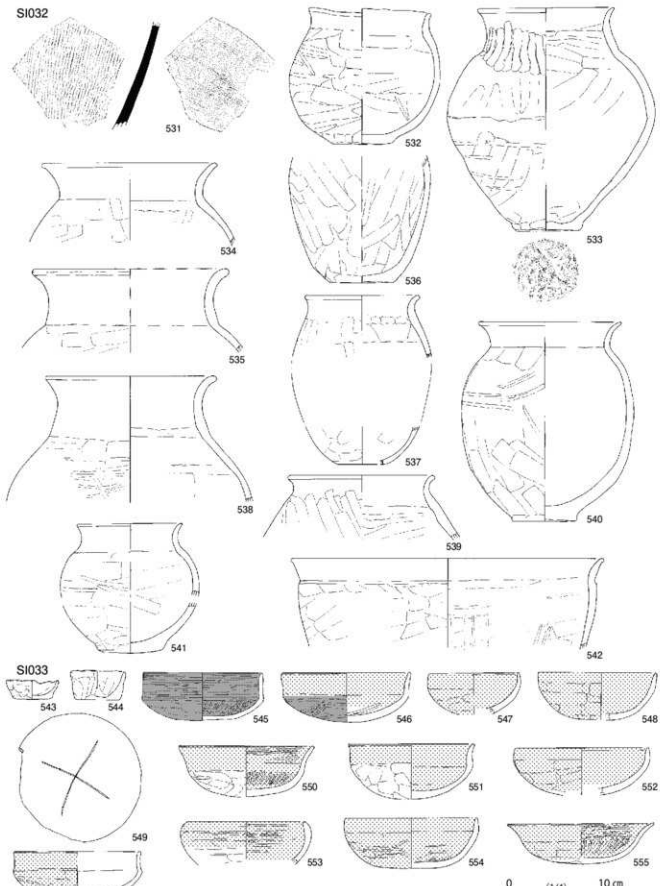
第73図　土器類（19）


SI031
482
483
484
485
486
487
488
489
490
491
492
493
494
495
496
497
498
499
500
501
502
503
504
505
506
507
508
509
510
0 (1/4) 10 cm

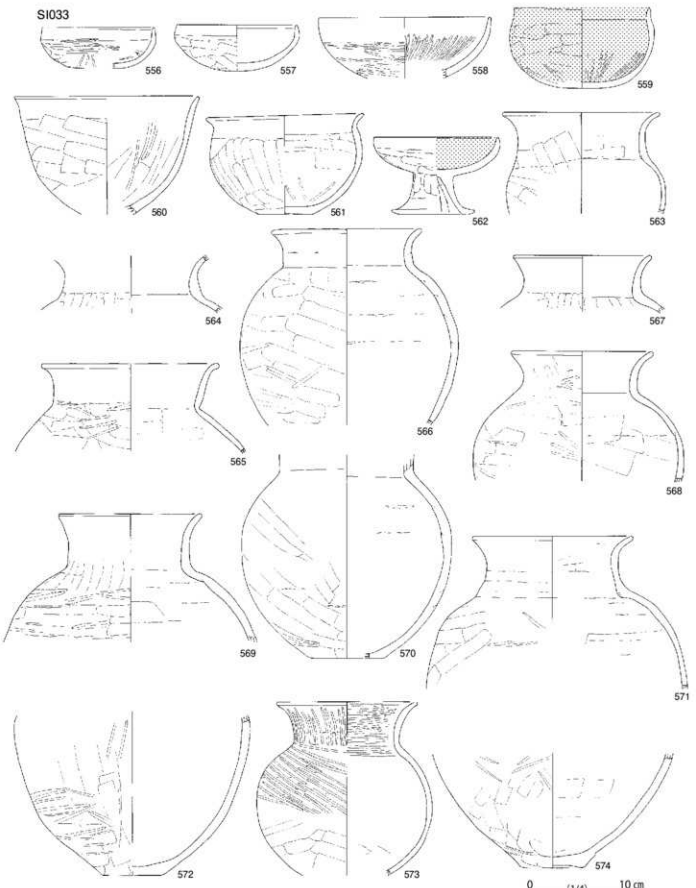
第74図　土器類（20）


SI031
511
512
513
514
515
516
517
518
519
520
521
SI032
522
523
524
525
526
527
528
529
530
0
(1/4)
10 cm

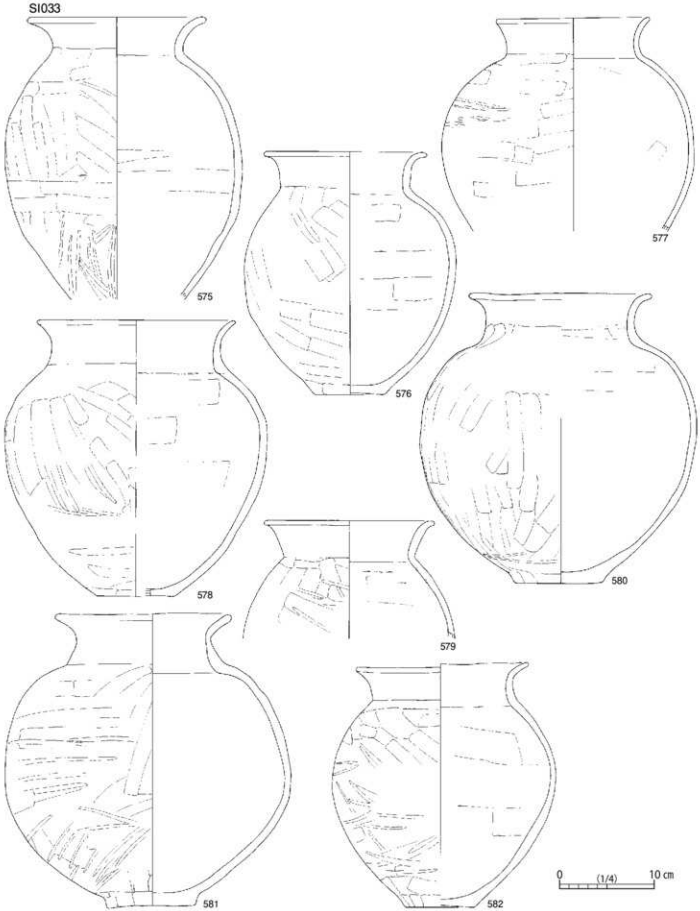
第75図　土器類（21）


SI032
531
532
533
534
535
536
537
538
539
540
541
542
SI033
543
544
545
546
547
548
549
550
551
552
553
554
555
0
(1/4)
10 cm

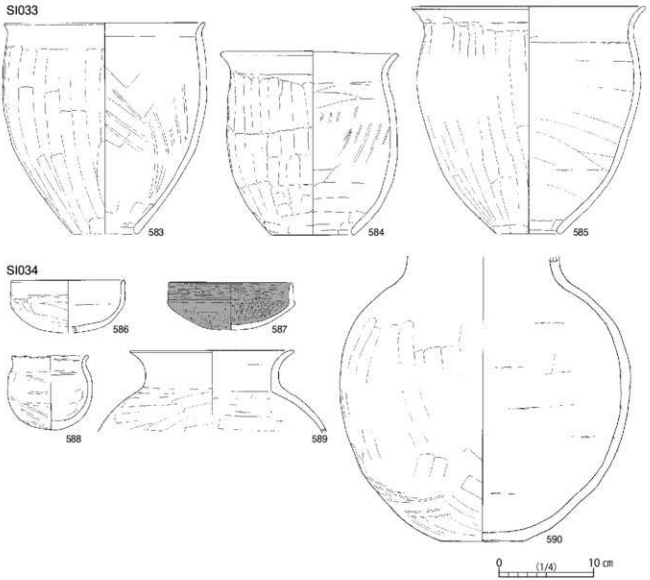
第76図　土器類（22）


SI033
556
557
558
559
560
561
562
563
564
565
566
567
568
569
570
571
572
573
574
0
(1/4)
10 cm

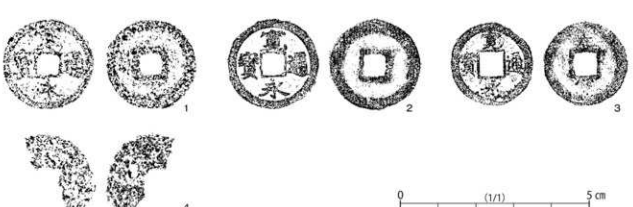
第77図　土器類（23）



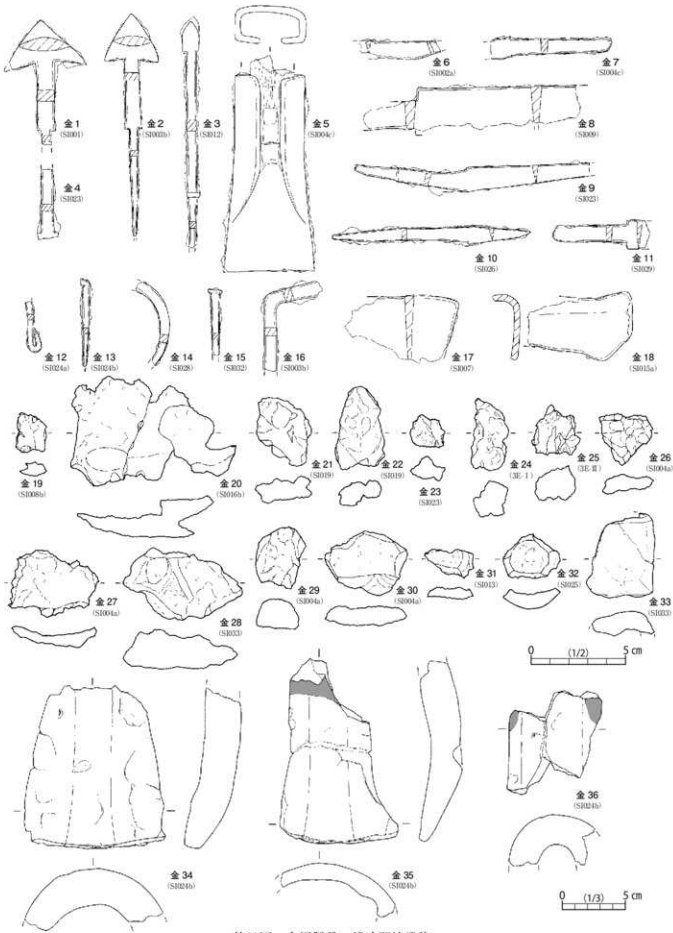
第78図　土器類（24）



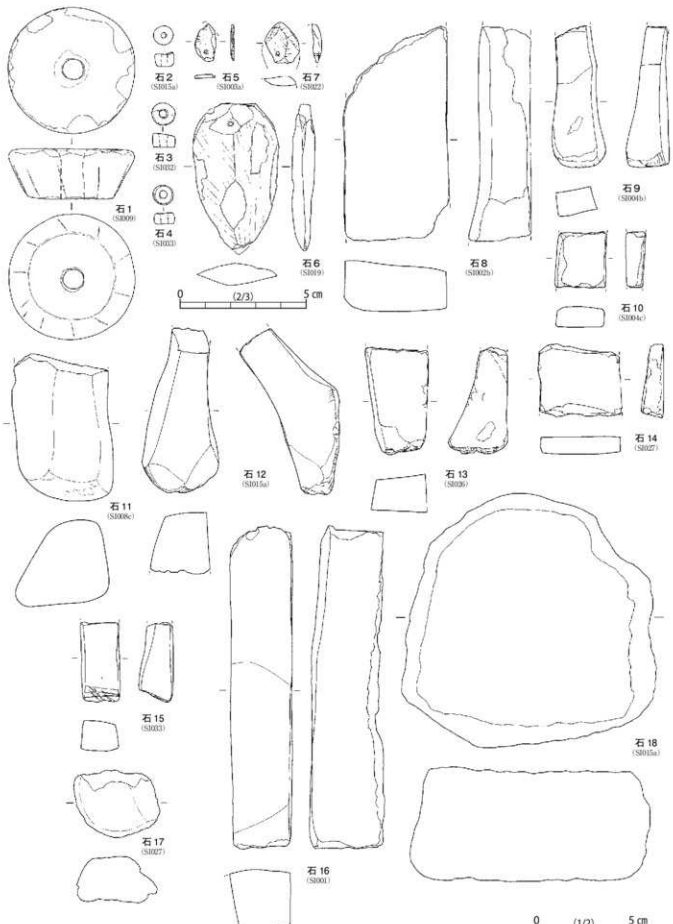
第79図　土器類（25）



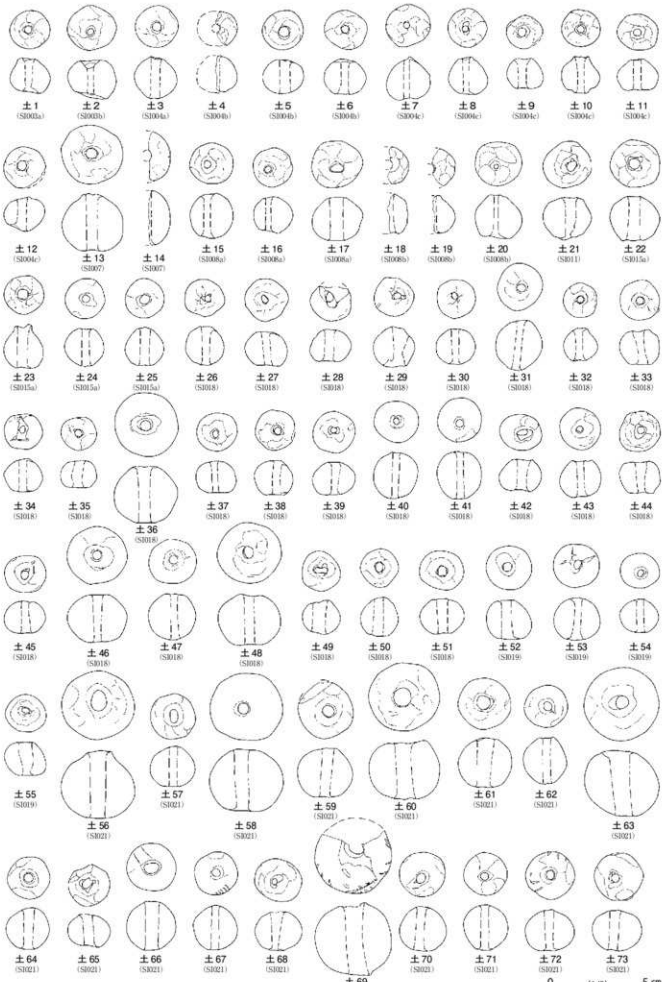
第80図　銭　貨



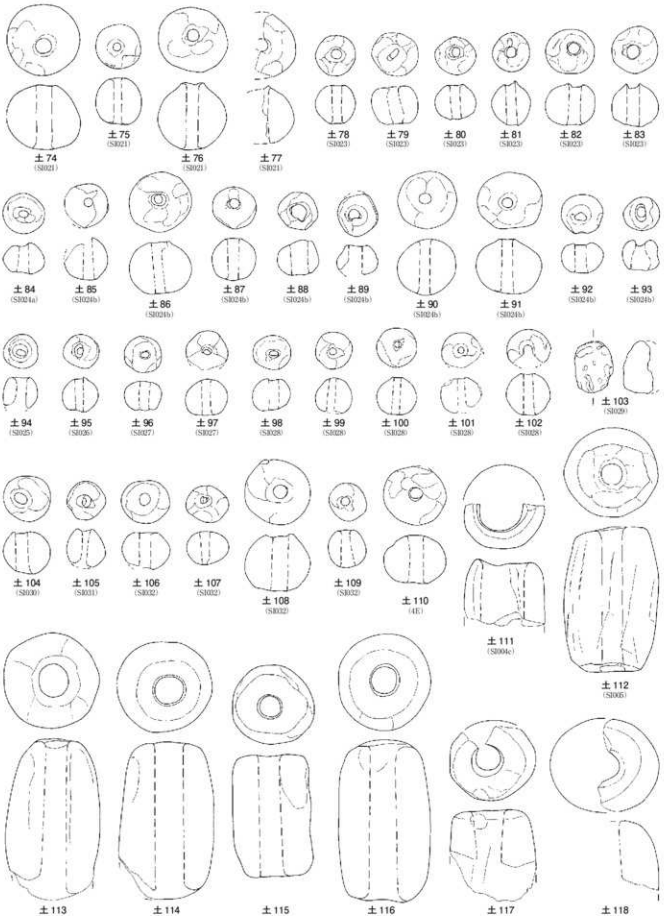
第81図　金属製品・鍛冶関連遺物


石1
(S1009)
石2
(S1015a)
石3
(S1032)
石4
(S1033)
石5
(S1003a)
石6
(S1019)
石7
(S1022)
石8
(S1002b)
石9
(S1004b)
石10
(S1004c)
石11
(S1008c)
石12
(S1015a)
石13
(S1026)
石14
(S1027)
石15
(S1033)
石16
(S1001)
石17
(S1027)
石18
(S1015a)
0 (2/3) 5 cm
0 (1/2) 5 cm

第82図　石製品

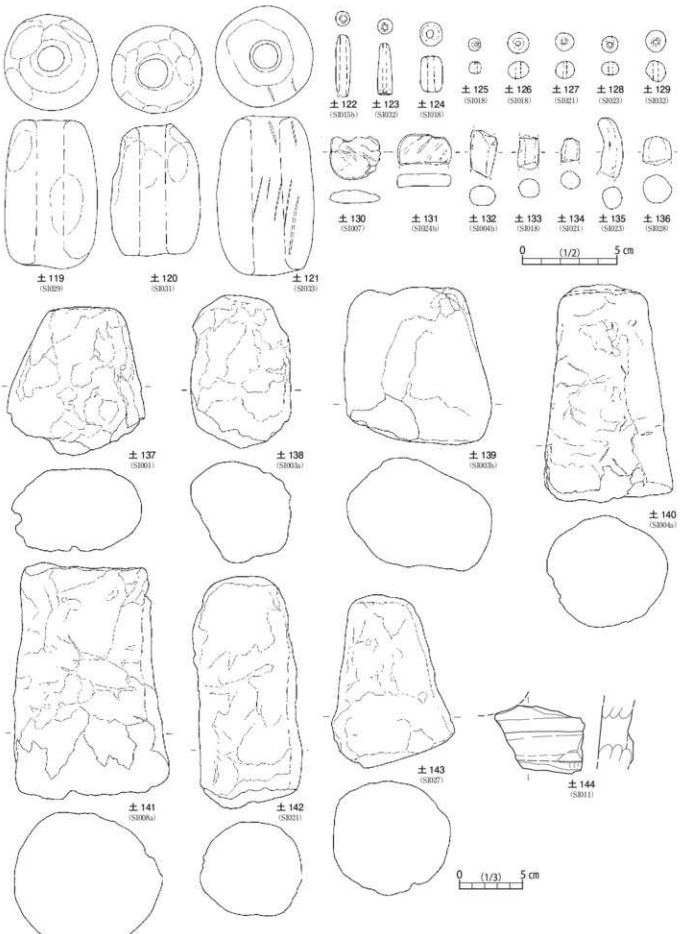

± 1 (S1002a)
± 2 (S1002b)
± 3 (S1004a)
± 4 (S1004b)
± 5 (S1004b)
± 6 (S1004b)
± 7 (S1004c)
± 8 (S1004c)
± 9 (S1004c)
± 10 (S1004c)
± 11 (S1004c)
± 12 (S1004c)
± 13 (S1007)
± 14 (S1007)
± 15 (S1008a)
± 16 (S1008a)
± 17 (S1008a)
± 18 (S1008b)
± 19 (S1008b)
± 20 (S1008b)
± 21 (S1011)
± 22 (S1013a)
± 23 (S1015a)
± 24 (S1015a)
± 25 (S1015a)
± 26 (S1018)
± 27 (S1018)
± 28 (S1018)
± 29 (S1018)
± 30 (S1018)
± 31 (S1018)
± 32 (S1018)
± 33 (S1018)
± 34 (S1018)
± 35 (S1018)
± 36 (S1018)
± 37 (S1018)
± 38 (S1018)
± 39 (S1018)
± 40 (S1018)
± 41 (S1018)
± 42 (S1018)
± 43 (S1018)
± 44 (S1018)
± 45 (S1018)
± 46 (S1018)
± 47 (S1018)
± 48 (S1018)
± 49 (S1018)
± 50 (S1018)
± 51 (S1018)
± 52 (S1019)
± 53 (S1019)
± 54 (S1019)
± 55 (S1019)
± 56 (S1021)
± 57 (S1021)
± 58 (S1021)
± 59 (S1021)
± 60 (S1021)
± 61 (S1021)
± 62 (S1021)
± 63 (S1021)
± 64 (S1021)
± 65 (S1021)
± 66 (S1021)
± 67 (S1021)
± 68 (S1021)
± 69 (S1021)
± 70 (S1021)
± 71 (S1021)
± 72 (S1021)
± 73 (S1021)
0 (1/2) 5 cm

第83図　土製品（1）



第84図　土製品（2）

0 (1/2) 5cm


± 119 (SI029)
± 120 (SI031)
± 121 (SI033)
± 122 (SI015b)
± 123 (SI032)
± 124 (SI018)
± 125 (SI018)
± 126 (SI018)
± 127 (SI021)
± 128 (SI023)
± 129 (SI032)
± 130 (SI007)
± 131 (SI024b)
± 132 (SI004b)
± 133 (SI018)
± 134 (SI021)
± 135 (SI023)
± 136 (SI028)
0 (1/2) 5 cm
± 137 (SI001)
± 138 (SI003a)
± 139 (SI003b)
± 140 (SI004a)
± 141 (SI006a)
± 142 (SI021)
± 143 (SI027)
± 144 (SI011)
0 (1/3) 5 cm

第85図　土製品（3）

第３表　土器類観察表

No.	遺構No.	種　類	器　種	法　量（cm）		遺存度	胎　土	色調・焼成		技　法		備　考
1	SI001	須恵器	坏	口 径	－	底部のみ	各種微砂粒多量	内　面	にぶい黄橙 10YR5/3	内　面	ロクロナデ	
				底 径	7.4			外　面	灰黄 2.5Y6/2	外　面	ロクロナデ	
				器 高	(1.4)			焼　成	良好	底 外 面	回転ヘラ切り後手持ケズリ	
2	SI001	須恵器	坏	口 径	－	体部下～底部破片	精緻、細粒含	内　面	灰 5Y6/1	内　面	ロクロナデ	
				底 径	－			外　面	灰 5Y6/1	外　面	ロクロナデ	
				器 高	(1.6)			焼　成	良好	底 外 面	手持ケズリ	
3	SI001	須恵器	坏	口 径	－	体部下～底部破片	白色砂粒・白色斑状物質含	内　面	黄灰 2.5Y4/1	内　面	ロクロナデ	
				底 径	－			外　面	灰オリーブ 7.5Y4/2	外　面	ロクロナデ	北武蔵産
				器 高	(0.9)			焼　成	良好	底 外 面	回転ケズリ	
4	SI001	須恵器	甕	口 径	－	口縁部破片	各種微砂粒中量	内　面	黄灰 2.5Y6/1	内　面	ナデ	
				底 径	－			外　面	灰 5Y6/1	外　面	ナデ	
				器 高	(2.5)			焼　成	良好	底 外 面	－	
5	SI001	土師器	甕	口 径	(11.0)	口縁部 20% 胴部 5%	各種微砂粒中量	内　面	褐 7.5YR4/3	内　面	ナデ　ヘラナデ	
				底 径	－			外　面	にぶい赤褐 5YR5/4	外　面	ナデ　ケズリ	
				器 高	(4.2)			焼　成	良好	底 外 面	－	
6	SI002a	須恵器	坏	口 径	(14.6)	口縁部 10%	雲母細粒多量	内　面	灰黄 2.5Y6/2	内　面	ロクロナデ	
				底 径	－			外　面	灰黄褐 10YR6/2	外　面	ロクロナデ	雲隠産
				器 高	(2.7)			焼　成	良好	底 外 面	－	
7	SI002a	須恵器	坏	口 径	(13.4)	全体 10%	白色砂粒・雲母細粒含	内　面	黄灰 2.5Y4/1	内　面	ロクロナデ	
				底 径	(8.0)			外　面	黄灰 2.5Y4/1	外　面	ロクロナデ	雲隠産
				器 高	4.0			焼　成	良好	底 外 面	回転ヘラ切り後手持ケズリ	
8	SI002a	須恵器	坏	口 径	－	胴部 5% 底部 100%	白色小石・白色砂粒・雲母含	内　面	黄灰 2.5Y5/1	内　面	ロクロナデ	
				底 径	9.5			外　面	黄灰 2.5Y4/1	外　面	ロクロナデ	雲隠産
				器 高	(1.3)			焼　成	良好	底 外 面	回転ヘラ切り後手持ケズリ	
9	SI002a	土師器	坏	口 径	14.2	全体 70%	各種微砂粒少量	内　面	にぶい赤褐 5YR5/4	内　面	ナデ	
				底 径	－			外　面	にぶい赤褐 5YR5/4	外　面	ケズリ後ナデ	
				器 高	3.6			焼　成	良好	底 外 面	－	
10	SI002a	土師器	坏	口 径	－	口縁部破片	各種微砂粒少量	内　面	にぶい褐 7.5YR5/4	内　面	ナデ　ミガキ	
				底 径	－			外　面	にぶい褐 7.5YR5/3	外　面	ナデ　ケズリ	
				器 高	(5.0)			焼　成	良好	底 外 面	－	
11	SI002a	土師器	甕	口 径	－	口縁部 5% 胴部 5%	白色小石・雲母多量	内　面	にぶい赤褐 5YR5/4	内　面	ナデ	
				底 径	－			外　面	にぶい褐 7.5YR5/3	外　面	ナデ	雲隠産
				器 高	(5.0)			焼　成	良好	底 外 面	－	
12	SI002a	土師器	甕	口 径	－	底部破片	雲母細粒・白色粒子多量	内　面	灰オリーブ 7.5Y4/2	内　面	ヘラナデ	
				底 径	(7.8)			外　面	灰オリーブ 7.5Y4/2	外　面	ミガキ	雲隠産
				器 高	(2.2)			焼　成	良好	底 外 面	木葉痕	
13	SI002b	土師器	坏	口 径	(14.6)	口縁部 20%	白色砂粒中量	内　面	明赤褐 5YR5/6	内　面	ロクロナデ	
				底 径	－			外　面	明赤褐 5YR5/6	外　面	ロクロナデ回転ケズリ	
				器 高	(5.6)			焼　成	良好	底 外 面	－	
14	SI002b	土師器	高台付坏	口 径	－	底部 25%	白色微砂粒少量	内　面	にぶい橙 7.5YR6/4	内　面	ナデ	
				底 径	(7.0)			外　面	にぶい褐 7.5YR5/4	外　面	ロクロナデ	
				器 高	(2.0)			焼　成	良好	底 外 面	ナデ	
15	SI002b	土師器	甕	口 径	－	口縁部破片	各種微砂粒少量	内　面	にぶい褐 7.5YR5/3	内　面	ナデ　ヘラナデ	
				底 径	－			外　面	にぶい褐 7.5YR5/4	外　面	ナデ　ヘラナデ	
				器 高	(5.6)			焼　成	良好	底 外 面	－	
16	SI002b	土師器	甕	口 径	－	胴部 20% 底部 10%	各種微砂粒中量	内　面	にぶい黄褐 10YR5/3	内　面	ヘラナデ	
				底 径	(9.4)			外　面	にぶい黄褐 10YR5/3	外　面	ケズリ後ヘラナデ	
				器 高	(9.2)			焼　成	良好	底 外 面	ケズリ	
17	SI003a	ミニチュア土器		口 径	6.3	全体 70%	各種砂粒少量	内　面	褐 灰 5Y3/1	内　面	ナデ	
				底 径	4.5			外　面	にぶい褐 2.5Y4/4	外　面	ケズリ後指圧ナデ	球形
				器 高	2.7			焼　成	良好	底 外 面	－	手づくね
18	SI003a	土師器	壺	口 径	(9.0)	口縁部 10% 胴部 0%	各種砂粒少量	内　面	褐 7.5YR4/3	内　面	ナデ　ハケ　ナデ	
				底 径	－			外　面	にぶい褐 7.5YR5/4	外　面	ナデ　ハケ　ナデ	
				器 高	(3.6)			焼　成	良好	底 外 面	－	
19	SI003a	土師器	高坏	口 径	－	胴部 5% 底部 10%	各種砂粒少量、赤色スコリア・白色砂粒微量	内　面	にぶい赤褐 2.5YR4/3	内　面	ミガキ	
				底 径	－			外　面	にぶい赤褐 5YR4/3	外　面	ケズリ	内面外面赤彩
				器 高	(8.6)			焼　成	良好	底 外 面	ナデ	
20	SI003a	土師器	高坏	口 径	(15.4)	口縁部 25% 胴部 5%	各種砂粒少量	内　面	にぶい赤褐 5YR4/4	内　面	ナデ　ミガキ	
				底 径	－			外　面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	外　面	ナデ　ヘラナデ後ミガキ	
				器 高	(8.6)			焼　成	良好	底 外 面	－	
21	SI003a	土師器	坏	口 径	13.8	全体 90%	各種微砂粒少量	内　面	にぶい赤褐 2.5YR4/3	内　面	ナデ	
				底 径	－			外　面	褐 10YR4/4	外　面	ナデ後ケズリ後ナデ	内外面赤彩
				器 高	6.0			焼　成	良好	底 外 面	－	
22	SI003a	土師器	坏	口 径	14.6	全体 90%	各種微砂粒少量	内　面	褐 10YR4/4	内　面	ナデ後ミガキ	
				底 径	－			外　面	にぶい赤褐 5YR4/4	外　面	ナデ　ケズリ	内外面赤彩
				器 高	4.9			焼　成	良好	底 外 面	－	
23	SI003a	土師器	坏	口 径	13.4	全体 60%	各種微砂粒少量、石英粒子含	内　面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	内　面	ナデ後ミガキ	
				底 径	－			外　面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	外　面	ナデ　ケズリ後ミガキ	内外面赤彩
				器 高	5.1			焼　成	良好	底 外 面	－	
24	SI003a	土師器	坏	口 径	－	全体 40%	各種砂粒少量、赤色スコリア含	内　面	黒褐 10YR3/1	内　面	ナデ後強いミガキ	内面黒色処理
				底 径	－			外　面	黒褐 10YR3/1	外　面	ミガキ	外面黒色処理？
				器 高	(5.3)			焼　成	良好	底 外 面	－	
25	SI003a	土師器	坏	口 径	(14.6)	口縁部 15% 胴部 15%	各種砂粒少量、石英粒子含	内　面	赤褐 5YR3/2	内　面	ナデ	
				底 径	－			外　面	にぶい赤褐 2.5YR4/3	外　面	ナデ　ケズリ後ナデ	内外面赤彩
				器 高	(3.6)			焼　成	良好	底 外 面	－	

No	遺構No.	種 類	器 種	法 量 (cm)			遺存度	胎 土	色調・焼成			技 法		備 考
26	SI003a	土師器	坏	口 径	(14.6)		口縁部 25% 胴部 5%	各種砂粒多量，白色砂粒・白色針状含	内 面	鈍赤褐 5YR3/2	内 面	ナデ		内外面赤彩
				底 径	−				外 面	にぶい赤褐 2.5YR4/3	外 面	ナデ ケズリ後ナデ		
				器 高	(4.9)				焼 成	良好	底 外 面	−		
27	SI003a	土師器	坏	口 径	(10.2)		口縁部 5% 底部 15%	白色砂粒微量	内 面	赤褐 10R4/4	内 面	ナデ ヘラナデ		内外面赤彩
				底 径	−				外 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	外 面	ナデ ケズリ後ナデ		
				器 高	(4.1)				焼 成	良好	底 外 面	−		
28	SI003a	土師器	坏	口 径	14.4		全体 80%	各種微砂粒中量	内 面	褐 10YR4/4	内 面	ナデ ヘラナデ		内外面赤彩
				底 径	−				外 面	褐 10YR4/4	外 面	ナデ ケズリ		
				器 高	5.2				焼 成	良好	底 外 面	−		
29	SI003a	土師器	坏	口 径	13.0		全体 90%	各種微砂粒少量	内 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	内 面	ナデ ヘラナデ		内外面赤彩
				底 径	−				外 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	外 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ		
				器 高	5.4				焼 成	良好	底 外 面	−		
30	SI003a	土師器	坏	口 径	(14.0)		全体 40%	各種微砂粒少量	内 面	赤褐 10R3/4	内 面	ナデ ヘラナデ後ミガキ		内外面赤彩
				底 径	−				外 面	赤褐 10R3/4	外 面	ナデ ケズリ後ナデ		
				器 高	6.1				焼 成	良好	底 外 面	ヘラ描き		
31	SI003a	土師器	鉢	口 径	(14.1)		口縁部 30% 底部 20%	各種砂粒少量	内 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	内 面	ナデ後ヘラナデ		内面赤彩
				底 径	−				外 面	にぶい赤褐 2.5YR5/4	外 面	ケズリ後ナデ		
				器 高	(7.7)				焼 成	良好	底 外 面	−		
32	SI003a	土師器	坏	口 径	13.0		全体 100%	各種砂粒少量，石英粒含	内 面	褐赤 10R3/4	内 面	ナデ ヘラナデ後ミガキ		内外面赤彩
				底 径	−				外 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	外 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ		
				器 高	8.0				焼 成	良好	底 外 面	−		
33	SI003a	土師器	小型甕	口 径	11.3		全体 80%	各種砂粒少量	内 面	黒褐 7.5YR2/2	内 面	ナデ後ヘラナデ		外面一部赤彩 (範囲不明瞭)
				底 径	6.5				外 面	にぶい褐 7.5YR5/4	外 面	ナデ後ケズリ		
				器 高	10.8				焼 成	良好	底 外 面	−		
34	SI003a	土師器	甕	口 径	(17.2)		口縁部 20% 胴部 5%	各種砂粒少量	内 面	にぶい赤褐 5YR5/4	内 面	ナデ後ハケ		
				底 径	−				外 面	にぶい赤褐 5YR5/4	外 面	ナデ後ハケ		
				器 高	(4.5)				焼 成	やや不良	底 外 面	−		
35	SI003a	土師器	甕	口 径	(20.6)		口縁部 40%	各種砂粒中量，石英粒含	内 面	にぶい黄褐 10YR5/3	内 面	ナデ ヘラナデ		
				底 径	−				外 面	にぶい褐 7.5YR5/3	外 面	ナデ ケズリ		
				器 高	(6.8)				焼 成	良好	底 外 面	−		
36	SI003a	土師器	甕	口 径	17.5		全体 90%	白色砂粒含	内 面	にぶい赤褐 5YR4/4	内 面	ナデ ヘラナデ		
				底 径	9.0				外 面	明赤褐 2.5YR5/6	外 面	ナデ ケズリ後ヘラナデ		
				器 高	28.1				焼 成	良好	底 外 面	−		
37	SI003a	土師器	甕	口 径	(21.0)		口縁部 45% 胴部 30%	各種砂粒少量，白色砂粒含	内 面	褐 7.5YR4/3	内 面	ナデ ヘラナデ		
				底 径	−				外 面	灰黄褐 10YR4/2	外 面	ナデ ケズリ後ナデ		
				器 高	(22.6)				焼 成	良好	底 外 面	−		
38	SI003a	土師器	甕	口 径	(23.6)		口縁部 70% 胴部 10%	各種砂粒少量，赤色スコリア含	内 面	にぶい赤褐 2.5YR4/3	内 面	ナデ ヘラナデ→部ミガキ		
				底 径	−				外 面	にぶい赤褐 2.5YR4/3	外 面	ナデ後ケズリ		
				器 高	(12.5)				焼 成	良好	底 外 面	−		
39	SI003a	土師器	甕	口 径	(14.7)		口縁部 60% 胴部 30%	各種砂粒少量，白色砂粒微量	内 面	にぶい赤褐 5YR4/4	内 面	ナデ ヘラナデ		
				底 径	−				外 面	にぶい赤褐 5YR4/4	外 面	ヘラナデ ケズリ後ミガキ		
				器 高	(17.2)				焼 成	良好	底 外 面	−		
40	SI003b	須恵器	坏	口 径	13.8		全体 60%	各種砂粒少量，雲母細粒子含	内 面	灰黄褐 10YR5/2	内 面	ロクロナデ		雲跡産
				底 径	(8.5)				外 面	赤灰 2.5YS/1	外 面	ロクロナデ 手持ケズリ		
				器 高	4.0				焼 成	良好	底 外 面	手持ケズリ		
41	SI003b	土師器	坏	口 径	−		胴部 5% 底部 20%	各種砂粒少量，雲母細粒・赤色スコリア含	内 面	にぶい褐 7.5YR5/4	内 面	ロクロナデ		
				底 径	(8.0)				外 面	にぶい褐 7.5YR5/4	外 面	ロクロナデ		
				器 高	(2.0)				焼 成	良好	底 外 面	手持ケズリ		
42	SI003b	土師器	坏	口 径	(15.0)		全体 25%	各種砂粒多量	内 面	褐 7.5YR4/3	内 面	ミガキ		
				底 径	−				外 面	にぶい褐 5YR5/4	外 面	ナデ後ケズリ		
				器 高	(4.9)				焼 成	良好	底 外 面	−		
43	SI003b	土師器	坏	口 径	(15.0)		全体 30%	各種砂粒少量	内 面	赤褐 10R4/4	内 面	ナデ		
				底 径	−				外 面	赤褐 10R5/4	外 面	ナデ ケズリ後ナデ		内外面赤彩
				器 高	(5.8)				焼 成	良好	底 外 面	−		
44	SI003b	土師器	坏	口 径	14.5		全体 70%	各種砂粒少量，赤色スコリア含	内 面	黒褐 7.5YR3/1	内 面	ナデ後ミガキ		
				底 径	7.7				外 面	黒褐 7.5YR3/1	外 面	ケズリ後ナデ ミガキ		
				器 高	5.5				焼 成	良好	底 外 面	ケズリ後ナデ ミガキ		
45	SI003b	土師器	高杯	口 径	−		脚部 70%	各種砂粒多量	内 面	褐 7.5YR4/3	内 面	ケズリ後ナデ		
				底 径	8.4				外 面	灰褐 5YR4/2	外 面	ケズリ ナデ		内外面赤彩
				器 高	(4.8)				焼 成	良好	底 外 面	−		
46	SI003b	土師器	高杯	口 径	(14.0)		口縁部 15% 底部 20%	各種砂粒中量，白色微砂粒含	内 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	内 面	ナデ		
				底 径	−				外 面	にぶい赤褐 2.5YR5/4	外 面	ナデ ケズリ後ナデ		内外面赤彩
				器 高	(4.2)				焼 成	良好	底 外 面	−		
47	SI003b	土師器	壺	口 径	(10.0)		口縁部 25%	各種砂粒少量	内 面	にぶい赤褐 2.5YR4/3	内 面	ナデ ミガキ		内外面赤彩
				底 径	−				外 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	外 面	ナデ ミガキ		
				器 高	(3.8)				焼 成	良好	底 外 面	−		
48	SI003b	土師器	壺	口 径	7.6		底部 100%	各種砂粒多量，白色砂粒目立つ	内 面	灰黄褐 10YR4/2	内 面	調整の為不明瞭		
				底 径	(3.5)				外 面	灰褐 7.5YR4/2	外 面	調整の為不明瞭		
				器 高					焼 成	良好	底 外 面	ナデ		
49	SI003b	土師器	甕	口 径	22.0		全体 90%	各種砂粒多量，雲母細粒・白色小石目立つ	内 面	褐 7.5YR4/3	内 面	ナデ ヘラナデ		雲跡産
				底 径	7.8				外 面	にぶい褐 7.5YR5/4	外 面	ナデ ヘラナデ ミガキ		
				器 高	32.5				焼 成	良好	底 外 面	ナデ		
50	SI003b	土師器	甕	口 径	13.0		全体 70%	各種砂粒少量	内 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	内 面	ナデ後ヘラナデ		
				底 径	6.9				外 面	赤褐 5YR4/8	外 面	ナデ後ケズリ		
				器 高	12.2				焼 成	良好	底 外 面	ヘラナデ		

No.	遺構No.	種 類	器 種	法 量 (cm)			造存度	胎 土	色調・焼成		技 法		備 考
51	SI003b	須恵器	甕	口 径	–		口縁部破片	各種砂粒多量，雲母片含	内 面	灰黄褐 10YR5/2	内 面	–	壺鉢産
				底 径	–				外 面	赤灰 2.5Y5/1	外 面	–	
				器 高	(9.2)				焼 成		底 外 面	–	
52	SI003b	須恵器	甕	口 径	–		胴部 20%	各種砂粒少量	内 面	灰黄褐 10YR6/2	内 面	ヘラナデ　当て具痕	下総地域産
				底 径	(18.0)		底部 10%		外 面	灰赤 2.5YR6/2	外 面	タタキ後ナデリ	
				器 高	(9.8)				焼 成	良好	底 外 面	–	
53	SI004a	土師器	坏	口 径	(14.4)		口縁部 40%	赤色スコリア目立つ	内 面	にぶい褐 7.5YR5/3	内 面	ナデ　ヘラナデ後ミガキ	
				底 径	–		胴部 30%	白色砂粒・白色針状	外 面	にぶい赤褐 5YR5/4	外 面	ナデ　ヘラナデ　ケズリ　ミガキ	
				器 高	(6.0)			微量	焼 成	良好	底 外 面	–	
54	SI004a	土師器	坏	口 径	(14.0)		口縁部 10%	各種砂粒少量	内 面	灰褐 7.5YR4/2	内 面	ナデ後ミガキ	内外面黒色処理（漆）
				底 径	–		胴部 10%		外 面	灰赤 2.5YR4/2	外 面	ナデ　ケズリ後ミガキ	
				器 高	(4.7)				焼 成	良好	底 外 面	–	
55	SI004a	土師器	坏	口 径	(15.0)		口縁部 25%	各種砂粒少量，白色砂粒微量	内 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	内 面	ナデ後ミガキ	
				底 径	–		胴部 15%		外 面	暗赤褐 2.5YR3/6	外 面	ナデ後ミガキ　ケズリ後ナデ	
				器 高	(4.7)				焼 成	良好	底 外 面	–	
56	SI004a	土師器	高坏	口 径	14.0		口縁部 90%	各種砂粒多量，白色砂粒目立つ	内 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	内 面	ナデ　ミガキ	
				底 径	–		胴部 95%		外 面	にぶい赤褐 5YR4/4	外 面	ナデ　ケズリ後ミガキ	
				器 高	(4.6)				焼 成	良好	底 外 面	–	
57	SI004a	土師器	甕	口 径	(10.3)		胴部 20%	各種砂粒少量，白色砂粒台	内 面	にぶい赤褐 5YR4/4	内 面	ナデ　ヘラナデ	
				底 径	–		底部 10%		外 面	にぶい赤褐 5YR4/4	外 面	ナデ	
				器 高	(5.9)				焼 成	良好	底 外 面	–	
58	SI004a	土師器	甕	口 径	–		胴部 10%	各種砂粒多量，雲母石英粒目立つ	内 面	灰褐 10YR4/2	内 面	ヘラナデ	壺鉢産
				底 径	(7.8)		底部 100%		外 面	灰褐 7.5YR4/2	外 面	ミガキ	
				器 高	(6.5)				焼 成	良好	底 外 面	ミガキ	
59	SI004a	土師器	甕	口 径	–		胴部 10%	各種砂粒多量，白色砂粒目立つ	内 面	にぶい赤褐 5YR5/4	内 面	ヘラナデ	
				底 径	5.3		底部 100%		外 面	にぶい赤褐 5YR5/4	外 面	ケズリ　一部ミガキ	
				器 高	(5.3)				焼 成	良好	底 外 面	ヘラナデ	
60	SI004a	土師器	甕	口 径	(11.5)		全体 50%	各種砂粒少量，白色砂粒含	内 面	褐 7.5YR4/3	内 面	ナデ　ヘラナデ	
				底 径	5.0				外 面	灰褐 5YR4/2	外 面	ナデ　ケズリ	
				器 高	(11.3)				焼 成	良好	底 外 面	木葉痕	
61	SI004a	土師器	甕	口 径	–		全体 40%	各種砂粒中量，赤色スコリア含	内 面	にぶい橙 7.5YR6/4	内 面	ヘラナデ？	土師地域産？
				底 径	7.0				外 面	にぶい赤褐 5YR5/4	外 面	ミガキ？	
				器 高	(17.0)				焼 成	良好	底 外 面	–	
62	SI004a	土師器	甕	口 径	15.1		口縁部 95%	各種砂粒少量，白色砂粒・赤色スコリア微量	内 面	にぶい赤褐 5YR5/4	内 面	ナデ　ヘラナデ	
				底 径	–		胴部 25%		外 面	にぶい赤褐 5YR5/4	外 面	ナデ　ヘラナデ	
				器 高	(23.4)				焼 成	良好	底 外 面	–	
63	SI004a	土師器	甕	口 径	(15.8)		口縁部 25%	各種砂粒少量，白色砂粒含	内 面	灰褐 7.5YR4/2	内 面	ナデ　ヘラナデ	
				底 径	–		胴部 30%		外 面	にぶい赤褐 2.5YR4/3	外 面	ナデ　ケズリ	
				器 高	(9.8)				焼 成	良好	底 外 面	–	
64	SI004b	土師器	坏	口 径	13.9		全体 80%	各種砂粒少量，白色砂粒少量	内 面	にぶい褐 7.5YR5/3	内 面	ナデ　ヘラナデ	内外面赤彩
				底 径	–				外 面	褐 7.5YR4/4	外 面	ナデ　ケズリ	
				器 高	5.6				焼 成	良好	底 外 面	–	
65	SI004b	土師器	坏	口 径	(12.8)		口縁部 30%	各種砂粒少量，白色砂粒・赤色スコリア微量	内 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	内 面	ナデ	土師地域産
				底 径	–		胴部 20%		外 面	明赤褐 2.5YR5/6	外 面	ナデ　ケズリ後ナデ	
				器 高	(4.1)				焼 成	良好	底 外 面	–	
66	SI004b	土師器	坏	口 径	(15.2)		口縁部 25%	各種砂粒少量，白色砂粒少量	内 面	にぶい赤褐 10R4/4	内 面	ナデ　ヘラナデ	内外面赤彩
				底 径	–		胴部 20%		外 面	にぶい赤褐 10R4/4	外 面	ナデ　ケズリ	
				器 高	(4.3)				焼 成	良好	底 外 面	–	
67	SI004b	土師器	坏	口 径	11.1		全体 100%	各種砂粒少量，白色砂粒含	内 面	にぶい赤褐 10R4/4	内 面	ナデ　ヘラナデ	内外面赤彩
				底 径	–				外 面	にぶい赤褐 10R4/4	外 面	ナデ　ケズリ後ナデ	
				器 高	5.1				焼 成	良好	底 外 面	–	
68	SI004b	土師器	坏	口 径	(12.0)		口縁部 20%	各種砂粒多量	内 面	にぶい褐 7.5YR5/3	内 面	ナデ　ミガキ	
				底 径	–		胴部 10%		外 面	にぶい赤褐 5YR5/4	外 面	ナデ　ケズリ後ミガキ	
				器 高	(3.8)				焼 成	良好	底 外 面	–	
69	SI004b	土師器	坏	口 径	(14.6)		口縁部 20%	白色針状・白色砂粒雲母細粒・褐色粒含	内 面	にぶい赤褐 5YR4/4	内 面	ミガキ	
				底 径	–		胴部 5%		外 面	にぶい赤褐 5YR5/4	外 面	ミガキ　ケズリ後ミガキ	
				器 高	(4.1)				焼 成	良好	底 外 面	–	
70	SI004b	土師器	坏	口 径	13.0		全体 90%	各種砂粒多量，白色砂粒含	内 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	内 面	ナデ	内外面赤彩
				底 径	–				外 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	外 面	ナデ　ケズリ後ナデ	
				器 高	3.8				焼 成	良好	底 外 面	–	
71	SI004b	土師器	坏	口 径	–		全体 70%	各種砂粒少量，白色砂粒・赤色スコリア微量	内 面	暗赤褐 2.5YR3/4	内 面	ナデ　ヘラナデ	内外面赤彩
				底 径	–				外 面	にぶい赤褐 2.5YR4/3	外 面	ナデ　ケズリ	
				器 高	5.5				焼 成	良好	底 外 面	–	
72	SI004b	土師器	鉢	口 径	–		口縁部 15%	各種砂粒少量，白色砂粒微量	内 面	にぶい赤褐 5YR4/4	内 面	ナデ　ヘラナデ	
				底 径	–		胴部 10%		外 面	にぶい赤褐 5YR5/4	外 面	ナデ　ケズリ後ナデ	
				器 高	(5.4)				焼 成	良好	底 外 面	–	
73	SI004b	土師器	甕	口 径	–		底部 95%	各種砂粒中量，白色砂粒含	内 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	内 面	ヘラナデ	
				底 径	(7.0)				外 面	灰褐 7.5YR4/2	外 面	ケズリ	
				器 高	(3.0)				焼 成	良好	底 外 面	ケズリ	
74	SI004b	土師器	甕	口 径	(17.3)		全体 50%	各種砂粒中量，白色砂粒・赤色スコリア少量	内 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	内 面	ナデ　ケズリ　ヘラナデ	
				底 径	(7.8)				外 面	にぶい赤褐 5YR5/4	外 面	ナデ　ハケ後ケズリ	
				器 高	36.8				焼 成	良好	底 外 面	ヘラナデ	

No	遺構No.	種 類	器 種	法 量 (cm)			造存度	胎 土	色調・焼成		技 法		備 考
75	SI004b	土師器	甕	口 径	(12.1)	口縁部 20%	口縁部 20% 胴部 5%	各種砂粒少量、白色砂粒・赤色スコリア含	内 面	にぶい赤褐 5YR4/3	内 面	ナデ ヘラナデ	
				底 径	−				外 面	褐灰 7.5YR4/1	外 面	ナデ ヘラナデ	
				器 高	(4.3)	胴部 5%			焼 成	良好	底 外 面	−	
76	SI004b	土師器	甕	口 径	(14.0)	口縁部 25%	口縁部 25%	赤色スコリア多量、白色砂粒多量	内 面	にぶい赤褐 5YR5/4	内 面	ナデ ヘラナデ後ミガキ	
				底 径	−				外 面	にぶい赤褐 5YR5/4	外 面	ナデ ケズリ	
				器 高	(5.2)				焼 成	良好	底 外 面	−	
77	SI004b	土師器	甕	口 径	(9.0)	口縁部 40% 胴部 15%		各種砂粒少量、白色砂粒含	内 面	にぶい赤褐 5YR4/4	内 面	ナデ ヘラナデ	
				底 径	−				外 面	褐 7.5YR4/4	外 面	ケズリ後ナデ	
				器 高	(5.6)				焼 成	良好	底 外 面	−	
78	SI004b	土師器	甕	口 径	−	胴部 5% 底部 25%		各種砂粒少量、白色砂粒微量	内 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	内 面	ミガキ ヘラナデ	
				底 径	(8.0)				外 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	外 面	ケズリ後ナデ	
				器 高	(3.4)				焼 成	良好	底 外 面	ケズリ	
79	SI004c	須恵器	蓋	口 径	−	底部破片		各種砂粒多量、雲母片含	内 面	赤灰 2.5YR5/1	内 面	ロクロナデ	
				底 径	−				外 面	灰赤 2.5YR6/2	外 面	ロクロナデ 回転ケズリ	窯跡産
				器 高	(1.7)				焼 成	良好	底 外 面	−	
80	SI004c	須恵器	坏	口 径	(14.2)	全体 20%		各種砂粒多量、雲母細粒目立つ	内 面	灰 2.5YR5/2	内 面	ロクロナデ	
				底 径	(9.0)				外 面	にぶい橙 2.5YR6/3	外 面	ロクロナデ 回転ケズリ	窯跡産
				器 高	4.0				焼 成	良好	底 外 面	下端回転ケズリ	
81	SI004c	須恵器	坏	口 径	(14.8)	口縁部 25%		各種砂粒中量、白色針状物質・白色砂粒含	内 面	灰赤 2.5YR5/2	内 面	ロクロナデ	
				底 径	−				外 面	灰黄褐 10YR5/2	外 面	ロクロナデ	北武蔵産？
				器 高	(3.1)				焼 成	良好	底 外 面	−	
82	SI004c	須恵器	坏	口 径	−	底部 25%		各種砂粒多量、雲母細粒・赤色スコリア多量	内 面	にぶい褐 7.5YR5/3	内 面	ロクロナデ	
				底 径	(8.0)				外 面	にぶい黄褐 10YR5/3	外 面	ロクロナデ 手持ケズリ	
				器 高	(2.6)				焼 成	良好	底 外 面	−	
83	SI004c	須恵器	坏	口 径	14.6	全体 60%		各種砂粒多量、雲母目立つ	内 面	灰 5Y6/1	内 面	ロクロナデ	
				底 径	8.6				外 面	灰 5Y6/1	外 面	ロクロナデ	窯跡産
				器 高	4.3				焼 成	良好	底 外 面	回転ヘラ切り後手持ケズリ	
84	SI004c	須恵器	坏	口 径	−	胴部 5% 底部 50%		各種砂粒多量、雲母片目立つ	内 面	暗灰黄 2.5Y5/2	内 面	ロクロナデ	
				底 径	8.7				外 面	灰褐 7.5YR5/2	外 面	ロクロナデ 手持ケズリ	窯跡産
				器 高	(1.6)				焼 成	良好	底 外 面	ヘラ切り後手持ケズリ	
85	SI004c	須恵器	坏	口 径	−	底部 20%		各種砂粒少量	内 面	灰黄 2.5Y6/2	内 面	ロクロナデ	東海地域産？ 底面ヘラ書き
				底 径	(8.9)				外 面	灰黄 2.5Y6/2	外 面	回転ケズリ	
				器 高	(1.3)				焼 成	良好	底 外 面	回転ケズリ	
86	SI004c	土師器	坏	口 径	(14.0)	全体 30%		白色砂粒・赤色スコリア少量	内 面	にぶい褐 7.5YR5/4	内 面	ミガキ	
				底 径	−				外 面	褐 7.5YR6/4	外 面	ナデ ケズリ後ミガキ	
				器 高	(3.8)				焼 成	良好	底 外 面	−	
87	SI004c	須恵器	甕	口 径	−	胴部破片		各種砂粒少量	内 面	褐灰 10YR6/1	内 面	ナデ 当て具痕	
				底 径	−				外 面	赤灰 2.5YR5/1	外 面	タタキ	外面自然釉
				器 高	(3.0)				焼 成	良好	底 外 面	−	
88	SI004c	土師器	甕	口 径	−	胴部破片		各種砂粒多量、雲母粒・石英粒多量	内 面	明褐 7.5YR5/6	内 面	ナデ	窯跡産 墨書
				底 径	−				外 面	にぶい褐 5YR5/4	外 面	ケズリ	
				器 高	(2.8)				焼 成	良好	底 外 面	−	
89	SI004c	須恵器	甕	口 径	−	胴部破片		各種砂粒少量	内 面	灰 5Y6/1	内 面	当て具痕（同心円）	東海地域産 転用硯
				底 径	−				外 面	褐灰 10YR5/1	外 面	タタキ 墨痕	
				器 高	(8.6)				焼 成	良好	底 外 面	−	
90	SI004c	須恵器	甕	口 径	−	胴部破片		各種砂粒多量、雲母粒含	内 面	赤灰 2.5YR5/1	内 面	当て具痕（無文）	
				底 径	−				外 面	赤灰 2.5YR5/1	外 面	タタキ	窯跡産
				器 高	(13.4)				焼 成	良好	底 外 面	−	
91	SI004c	土師器	甕	口 径	−	底部 100%		各種砂粒多量、雲母石英・白色砂粒多量	内 面	にぶい赤褐 5YR4/4	内 面	ヘラナデ	
				底 径	9.0				外 面	にぶい赤褐 5YR4/3	外 面	ミガキ	窯跡産
				器 高	(1.8)				焼 成	良好	底 外 面	木葉痕	
92	SI004c	土師器	甕	口 径	−	胴部 5% 底部 5%		各種砂粒多量、雲母・石英、白色砂粒多量	内 面	にぶい赤褐 5YR4/4	内 面	ナデ ヘラナデ	
				底 径	(7.8)				外 面	にぶい赤褐 5YR4/4	外 面	ミガキ	窯跡産
				器 高	(5.5)				焼 成	良好	底 外 面	木葉痕	
93	SI004c	土師器	甕	口 径	(13.6)	口縁部 30% 胴部 10%		各種砂粒中量、白色砂粒・石英粒含	内 面	にぶい赤褐 5YR4/4	内 面	ナデ ヘラナデ	
				底 径	−				外 面	にぶい赤褐 5YR5/4	外 面	ナデ ケズリ	
				器 高	(5.1)				焼 成	良好	底 外 面	−	
94	SI004c	土師器	甕	口 径	22.8	口縁部 60% 胴部 30%		黒色粒子・白色砂粒含	内 面	明赤褐 2.5YR5/6	内 面	ナデ ヘラナデ	
				底 径	−				外 面	明赤褐 2.5YR5/6	外 面	ナデ ケズリ	武蔵産
				器 高	(22.7)				焼 成	良好	底 外 面	−	
95	SI004c	土師器	甕	口 径	(24.2)	口縁部 5% 胴部 20%		白色小石・雲母多量、赤色スコリア含	内 面	にぶい褐 7.5YR5/4	内 面	ナデ ヘラナデ	
				底 径	−				外 面	にぶい褐 7.5YR5/4	外 面	ナデ ケズリ後ミガキ	窯跡産
				器 高	(18.9)				焼 成	良好	底 外 面	−	
96	SI005	土師器	坏	口 径	14.0	全体 100%		各種砂粒少量・白色砂粒含	内 面	明赤褐 2.5YR3/4	内 面	ナデ 工寧なナデ	
				底 径	−				外 面	にぶい橙 5YR3/6	外 面	ナデ ケズリ	内外面赤彩
				器 高	5.0				焼 成	良好	底 外 面	−	
97	SI005	土師器	坏	口 径	(14.0)	胴部 70% 脚部 60%		各種砂粒少量、白色砂粒・赤色スコリア少量	内 面	明赤褐 2.5YR3/4	内 面	ナデ・ミガキ	
				底 径	−				外 面	赤褐 5YR4/6	外 面	ナデ ケズリ後ミガキ	内外面赤彩
				器 高	(4.4)				焼 成	良好	底 外 面	−	
98	SI005	土師器	坏	口 径	(14.0)	口縁部 20% 胴部 10%		各種砂粒少量	内 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	内 面	ナデ ミガキ	
				底 径	−				外 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	外 面	ナデ ケズリ	内外面赤彩
				器 高	(4.5)				焼 成	良好	底 外 面	−	

No	遺構No.	種類	器種	法量（cm）		遺存度	胎土	色調・焼成		技法		備考
99	SI005	土師器	高坏	口径	(12.4)	口縁部20% 胴部20%	各種砂粒少量・白色砂粒含	内面	明赤褐2.5YR3/4	内面	ナデ	内外面赤彩
				底径	－			外面	明赤褐2.5YR3/4	外面	ナデ　ヘラナデ	
				器高	(4.0)			焼成	良好	底外面	－	
100	SI005	土師器	高坏	口径	－	胴部10% 脚部70%	各種砂粒少量，白色砂粒微量	内面	にぶい赤褐5YR4/3	内面	ケズリ	内外面赤彩
				底径	10.4			外面	にぶい赤褐2.5YR4/4	外面	ケズリ後ナデ	
				器高	(5.6)			焼成	良好	底外面	ナデ	
101	SI005	土師器	高坏	口径	14.0	口縁部95% 脚部100%	各種砂粒中量，白色砂粒含	内面	赤褐2.5YR4/6	内面	ナデ	外面一部赤彩 （範囲不明瞭）
								外面	にぶい赤褐5YR5/4	外面	ヘラナデ	
				器高	(8.5)			焼成	良好	底外面	－	
102	SI005	土師器	甕	口径	19.1	口縁部75% 胴部10%	各種砂粒少量，白色砂粒微量	内面	にぶい褐7.5YR5/4	内面	ナデ　ヘラナデ	
				底径	－			外面	にぶい赤褐5YR4/3	外面	ナデ後ハケ	
				器高	8.2			焼成	良好	底外面	－	
103	SI005	土師器	甕	口径	18.2	口縁部90% 胴部5%	各種砂粒少量，白色砂粒微量	内面	にぶい褐7.5YR5/4	内面	ナデ　ヘラナデ	
				底径	－			外面	にぶい褐7.5YR5/4	外面	ナデ　ヘラナデ後ハケ	
				器高	(8.3)			焼成	良好	底外面	－	
104	SI005	土師器	甕	口径	17.9	口縁部50% 胴部45%	各種砂粒少量，白色砂粒少量	内面	にぶい赤褐5YR4/3	内面	ナデ　ヘラナデ	
				底径	－			外面	にぶい赤褐5YR5/4	外面	ナデ　ケズリ後ナデ	
				器高	(15.7)			焼成	良好	底外面		
105	SI005	土師器	甕	口径	－	胴部上半45%	各種砂粒中量，白色針状物質・白色砂粒含	内面	にぶい赤褐2.5YR4/4	内面	ナデ	
				底径	－			外面	暗褐7.5YR4/3	外面	ナデ後ケズリ	
				器高	13.4			焼成	良好	底外面	－	
106	SI005	土師器	甕	口径	－	胴部15% 底部95%	各種砂粒少量，白色砂粒・赤色スコリア微量	内面	にぶい赤褐5YR5/3	内面	ナデ後ヘラナデ	
				底径	7.2			外面	にぶい赤褐5YR4/4	外面	ナデ後ヘラナデ	
				器高	9.8			焼成	良好	底外面	ヘラナデ	
107	SI005	土師器	甕	口径	17.9	全体80%	各種砂粒多量，赤色スコリア多量，白色砂粒含	内面	にぶい赤褐2.5YR5/4	内面	ナデ　ヘラナデ	
				底径	7.3			外面	にぶい赤褐2.5YR4/4	外面	ナデ　ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器高	26.1			焼成	良好	底外面	ケズリ	
108	SI005	土師器	甕	口径	18.3	全体90%	各種砂粒中量，白色砂粒・赤色スコリア含	内面	にぶい赤褐5YR5/4	内面	ナデ　ヘラナデ	
				底径	7.3			外面	明赤褐5YR5/6	外面	ナデ　ケズリ	
				器高	23.8			焼成	良好	底外面	ケズリ	
109	SI005	土師器	甑	口径	19.6	全体100%	各種砂粒多量，赤色スコリア粒・白色砂粒含	内面	にぶい赤褐5YR4/4	内面	ナデ　ケズリ	
				底径	6.8			外面	にぶい褐7.5YR5/4	外面	ナデ　ケズリ	
				器高	15.2			焼成	良好	底外面	ケズリ	
110	SI005	土師器	甑	口径	23.1	全体70%	各種砂粒中量，白色砂粒・赤色スコリア含	内面	明赤褐5YR5/6	内面	ナデ　ヘラナデ	
				底径	6.5			外面	明赤褐2.5YR5/6	外面	ナデ　ケズリ後ナデ	
				器高	24.5			焼成	良好	底外面	－	
111	SI006	土師器	高台付坏	口径	11.5	全体95%	各種砂粒少量，白色針状物質・白色砂粒少量	内面	暗灰N3/0	内面	ロクロナデ	内面黒色処理
				底径	7.6			外面	にぶい褐7.5YR5/4	外面	ロクロナデ　回転ケズリ・ナデ	
				器高	4.6			焼成	良好	底外面	回転ケズリ	
112	SI006	土師器	坏	口径	12.2	全体40%	各種砂粒少量，白色針状物質・白色砂粒微量	内面	にぶい赤褐2.5YR4/4	内面	ロクロナデ	
				底径	8.4			外面	にぶい赤褐5YR4/4	外面	ロクロナデ	
				器高	3.8			焼成	良好	底外面	手持ケズリ	
113	SI006	土師器	甕	口径	－	胴部破片	白色砂粒多量	内面	にぶい赤褐5YR4/3	内面	ヘラナデ	
				底径	－			外面	にぶい赤褐5YR4/3	外面	ケズリ	
				器高	(9.3)			焼成	良好	底外面	－	
114	SI006	土師器	甕	口径	－	胴部破片	各種砂粒多量，雲母・石英粒目立つ	内面	にぶい褐7.5YR5/4	内面	調整不明瞭	常陸産
				底径	－			外面	にぶい褐7.5YR5/4	外面	ミガキ	
				器高	(8.2)			焼成	良好	底外面	－	
115	SI006	須恵器	長頸壺	口径	－	胴部40% 底部40%	各種砂粒中量，白色小石含	内面	赤灰2.5Y5/1	内面	回転ナデ　工具のあたり痕	外面自然釉 常陸産？
				底径	(13.0)			外面	灰黄褐10YR4/2	外面	回転ナデ　回転ケズリ	
				器高	(17.4)			焼成	良好	底外面	回転ナデ　ヘラナデ	
116	SI006	土師器	甕	口径	13.8	全体90%	各種砂粒中量，雲母・赤色スコリア含	内面	褐7.5YR4/3	内面	ナデ　ヘラナデ	常陸産？
				底径	6.0			外面	にぶい黄褐10YR5/3	外面	ナデ　ケズリ後一部ミガキ	
				器高	14.0			焼成	良好	底外面	ケズリ後ナデ	
117	SI007	土師器	埦	口径	14.0	全体95%	各種砂粒中量，白色砂粒含	内面	暗赤褐2.5YR3/3	内面	ナデ　ヘラナデ	内外面赤彩
				底径	－			外面	にぶい赤褐2.5YR4/4	外面	ナデ　ケズリ	
				器高	6.8			焼成	良好	底外面	－	
118	SI007	土師器	埦	口径	(15.6)	口縁部50% 胴部30%	各種砂粒少量，白色砂粒・赤色スコリア少量	内面	にぶい赤褐2.5YR4/4	内面	ナデ　ヘラナデ	内外面赤彩
				底径	－			外面	にぶい赤褐2.5YR4/4	外面	ナデ　ケズリ	
				器高	(5.8)			焼成	良好	底外面	－	
119	SI007	土師器	高坏	口径	－	脚部70%	各種砂粒少量	内面	にぶい赤褐5YR5/4	内面	ナデ　ハケ	
				底径	－			外面	明赤褐2.5YR5/6	外面	ミガキ	
				器高	(5.2)			焼成	良好	底外面	－	
120	SI007	土師器	高坏	口径	－	脚部30%	各種砂粒少量，白色砂粒微量	内面	褐7.5YR4/3	内面	ヘラナデ後ナデ	外面赤彩 内面ヘラ書き
				底径	8.4			外面	にぶい赤褐2.5YR4/4	外面	ナデ後ケズリ	
				器高	(4.5)			焼成	良好	底外面	ナデ	
121	SI007	土師器	高坏	口径	－	脚部95%	各種砂粒少量，白色砂粒含	内面	灰黄褐10YR4/2	内面	ケズリ	内外面赤彩
				底径	－			外面	にぶい赤褐5YR5/4	外面	ヘラナデ　ケズリ　ナデ	
				器高	(5.8)			焼成	良好	底外面	ナデ	

No	遺構No.	種 類	器 種	法 量 (cm)	遺存度	胎 土	色調・焼成	技 法	備 考
122	SI007	土師器	高坏	口 径 – 底 径 (8.1) 器 高 (5.6)	脚部 60%	各種砂粒中量、白色砂粒・赤色スコリア含	内 面 にぶい赤褐 2.5YR4/4 外 面 褐 7.5YR4/4 焼 成 良好	内 面 ヘラナデ 外 面 ヘラナデ 底 外 面 –	内面赤彩
123	SI007	土師器	高坏	口 径 – 底 径 (17.0) 器 高 3.5	脚部 15%	各種砂粒少量、白色砂粒微量	内 面 にぶい赤褐 2.5YR5/4 外 面 にぶい赤褐 2.5YR4/4 焼 成 良好	内 面 ナデ 外 面 ナデ 底 外 面 –	内外面赤彩
124	SI007	土師器	高坏	口 径 – 底 径 14.0 器 高 (8.5)	脚部 40%	各種砂粒中量、赤色スコリア含	内 面 にぶい赤褐 2.5YR4/4 外 面 褐 10R4/4 焼 成 良好	内 面 ナデ ヘラナデ 外 面 ナデ後ミガキ 底 外 面 ナデ	内外面赤彩
125	SI007	土師器	壺	口 径 – 底 径 2.6 器 高 5.1	胴部から底部 100%	各種砂粒少量、白色砂粒・赤色スコリア少	内 面 にぶい赤褐 2.5YR4/3 外 面 赤褐 2.5YR4/6 焼 成 良好	内 面 ヘラナデ 外 面 ヘラナデ後ミガキ 底 外 面 ヘラナデ	外面赤彩
126	SI007	土師器	坏	口 径 9.8 底 径 – 器 高 (7.9)	口縁部 75% 胴部 60%	各種砂粒少量、白色砂粒微量	内 面 灰褐 5YR4/2 外 面 にぶい赤褐 5YR4/4 焼 成 良好	内 面 ナデ ヘラナデ 外 面 ナデ後ミガキ ヘラナデ 底 外 面 –	
127	SI007	須恵器	甕	口 径 (16.4) 底 径 – 器 高 3.2	口縁部細片	各種砂粒中量、白色砂粒・赤色スコリア含	内 面 灰赤 2.5YR4/2 外 面 黒褐 5YR3/1 焼 成 良好	内 面 ナデ 外 面 ナデ後タタキ 底 外 面 –	
128	SI007	土師器	甕	口 径 (13.0) 底 径 – 器 高 (3.3)	口縁部 20% 胴部 5%	各種砂粒多量、白色砂粒少量	内 面 にぶい褐 7.5YR5/4 外 面 にぶい褐 7.5YR5/4 焼 成 良好	内 面 ハケ後ナデ 外 面 ハケ後ナデ 底 外 面 –	
129	SI007	土師器	甕	口 径 (13.0) 底 径 – 器 高 (10.2)	口縁部 45% 胴部 20%	各種砂粒多量、白色砂粒微量	内 面 10YR4/2 外 面 赤褐 5YR4/8 焼 成 良好	内 面 ナデ ヘラナデ 外 面 ナデ ケズリ後ミガキ 底 外 面 –	
130	SI007	土師器	甕	口 径 (15.8) 底 径 – 器 高 (15.1)	口縁部 5% 胴部 50%	各種砂粒少量、石英粒含	内 面 にぶい褐 7.5YR5/4 外 面 にぶい赤褐 5YR5/4 焼 成 良好	内 面 ナデ ケズリ後ミガキ 外 面 ハケ後ナデ ケズリ後ミガキ 底 外 面 –	
131	SI007	土師器	鉢	口 径 (17.6) 底 径 – 器 高 (6.6)	口縁部 20% 胴部 10%	各種砂粒中量、白色砂粒含	内 面 にぶい赤褐 2.5YR4/4 外 面 にぶい赤褐 5YR4/3 焼 成 良好	内 面 ナデ ヘラナデ 外 面 ナデ ケズリ 底 外 面 –	内外面赤彩
132	SI007	土師器	甕	口 径 (16.6) 底 径 – 器 高 (4.2)	口縁部 25%	白色粘状・白色砂粒、赤色スコリア含	内 面 灰褐 7.5YR4/2 外 面 褐灰 5YR4/1 焼 成 良好	内 面 ナデ ヘラナデ 外 面 ナデ ヘラナデ 底 外 面 –	
133	SI008a	ミニチュア土器		口 径 – 底 径 3.8 器 高 (1.4)	全体 100%	各種砂粒少量、白色砂粒微細量	内 面 黒褐 10YR3/2 外 面 褐灰 7.5YR3/1 焼 成 良好	内 面 指頭圧痕 外 面 ナデ 底 外 面 ナデ	何形？ 手づくね
134	SI008a	土師器	坏	口 径 13.2 底 径 – 器 高 5.2	全体 95%	各種砂粒少量、白色砂粒微量	内 面 明赤褐 2.5YR5/6 外 面 にぶい赤褐 5YR5/4 焼 成 良好	内 面 ミガキ 外 面 ミガキ ケズリ後ミガキ 底 外 面 –	
135	SI008a	土師器	坏	口 径 13.2 底 径 – 器 高 5.3	全体 85%	各種砂粒中量、白色砂粒	内 面 明赤褐 5YR5/6 外 面 明赤褐 5YR5/6 焼 成 良好	内 面 ナデ後ミガキ 外 面 ナデ後ミガキ ケズリ後ミガキ 底 外 面 –	
136	SI008a	土師器	坏	口 径 (12.9) 底 径 – 器 高 4.4	全体 60%	各種砂粒多量	内 面 にぶい褐 7.5YR5/4 外 面 にぶい橙 7.5YR6/4 焼 成 良好	内 面 ナデ後ミガキ 外 面 ナデ ケズリ後一部ミガキ 底 外 面 –	外面ヘラ書き
137	SI008a	土師器	坏	口 径 (12.4) 底 径 – 器 高 3.9	全体 45%	各種砂粒少量、白色砂粒微量	内 面 にぶい褐 7.5YR5/4 外 面 にぶい褐 7.5YR5/4 焼 成 良好	内 面 ナデ後ミガキ 外 面 ナデ後ミガキ 底 外 面 –	
138	SI008a	土師器	坏	口 径 (14.0) 底 径 – 器 高 (5.0)	全体 30%	各種砂粒少量、白色砂粒含	内 面 にぶい赤褐色 2.5YR4/4 外 面 にぶい赤褐色 2.5YR4/4 焼 成 良好	内 面 ナデ ヘラナデ 外 面 ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ 底 外 面 –	内外面赤彩
139	SI008a	土師器	坏	口 径 (13.6) 底 径 – 器 高 4.3	全体 40%	各種砂粒中量、雲母・石英粒微量	内 面 褐灰 N3/0 外 面 褐灰 5YR4/1 焼 成 良好	内 面 ナデ後タタキ 外 面 ナデ後ミガキ・ケズリ 底 外 面 –	内外面黒色処理
140	SI008a	土師器	坏	口 径 14.0 底 径 – 器 高 (4.7)	口縁部 25% 胴部 25%	各種砂粒少量、白色砂粒微量	内 面 褐灰 N3/0 外 面 黒褐 10YR3/1 焼 成 良好	内 面 ミガキ 外 面 ヘラナデ後ミガキ 底 外 面 –	内外面黒色処理
141	SI008a	土師器	坏	口 径 (13.7) 底 径 – 器 高 (4.7)	口縁部 20% 胴部 20%	各種砂粒中量、中白色砂粒・赤色スコリア含	内 面 褐灰 N3/0 外 面 黒褐 10YR3/1 焼 成 良好	内 面 ナデ後タタキ 外 面 ナデ後ミガキ・ケズリ 底 外 面 –	内外面黒色処理
142	SI008a	土師器	坏	口 径 (13.0) 底 径 – 器 高 (4.3)	口縁部 25% 胴部 20%	各種砂粒多量、白色砂粒・赤色スコリア含	内 面 褐赤褐 5YR3/2 外 面 黒褐 5YR3/1 焼 成 良好	内 面 ナデ後ミガキ 外 面 ナデ後ミガキ 底 外 面 –	内外面黒色処理（漆）
143	SI008a	土師器	坏	口 径 (11.8) 底 径 – 器 高 3.9	口縁部 20% 胴部 15%	各種砂粒多量、白色砂粒含	内 面 灰褐 5YR4/2 外 面 にぶい赤褐 5YR4/3 焼 成 良好	内 面 ナデ後ミガキ 外 面 ナデ後ミガキ 底 外 面 –	内外面黒色処理
144	SI008a	土師器	坏	口 径 (16.0) 底 径 – 器 高 (4.4)	口縁部 20% 胴部 10%	各種砂粒中量、白色砂粒含	内 面 にぶい赤褐 5YR4/3 外 面 褐灰 7.5YR3/3 焼 成 良好	内 面 ナデ ヘラナデ後ミガキ 外 面 ナデ ケズリ後ミガキ 底 外 面 –	内外面赤彩
145	SI008a	土師器	坏	口 径 (12.6) 底 径 – 器 高 (3.4)	口縁部 25% 胴部 10%	各種砂粒少量、白色砂粒微量	内 面 褐灰 N3/0 外 面 黒褐 7.5YR3/1 焼 成 良好	内 面 ナデ後ミガキ 外 面 ケズリ後ナデ 底 外 面 –	内外面黒色処理
146	SI008a	土師器	坏	口 径 (20.0) 底 径 – 器 高 (5.4)	口縁部 15% 胴部 10%	各種砂粒少量、白色砂粒・赤色スコリア含	内 面 にぶい赤褐 5YR5/4 外 面 褐 10YR4/4 焼 成 良好	内 面 ナデ ヘラナデ後ミガキ 外 面 ナデ ケズリ後ナデ 底 外 面 –	

No	遺構No.	種 類	器 種	法 量 (cm)			造存度	胎 土	色調・焼成		技 法		備 考
147	SI008a	土師器	高坏	口 径	–		脚部 10%	各種砂粒少量、白色砂粒微量	外 面	にぶい赤褐 5YR4/3	内 面	ヘラナデ	内外面赤彩
				底 径	–		脚部 40%		焼 成	軟 7.5YR4/4	外 面	ケズリ	
				器 高	–				内 面	良好	底 外 面	–	
148	SI008a	土師器	高坏	口 径	–		脚部 60%	各種砂粒中量、白色砂粒含	外 面	にぶい赤褐 5YR4/4	内 面	ナデ ケズリ	外面赤彩
				底 径	8.4				内 面	褐 10YR4/6	外 面	ケズリ ナデ	
				器 高	(4.2)				焼 成	良好	底 外 面	ナデ	
149	SI008a	土師器	高坏	口 径	15.1		全体 90%	各種砂粒中量、白色砂粒含	内 面	赤褐 2.5YR4/6	内 面	ナデ→部ミガキ	内外面赤彩
				底 径	9.3				外 面	にぶい赤褐 5YR4/3	外 面	ケズリ後ナデ	
				器 高	10.3				内 面	良好	底 外 面	ナデ	
150	SI008a	土師器	壺	口 径	9.5		口縁部 45% 脚部 90%	各種砂粒少量、白色砂粒含	内 面	褐灰 5YR3/3	内 面	ナデ	内外面赤彩
				底 径	–				外 面	にぶい赤褐 7.5YR5/4	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	
				器 高	8.6				焼 成	良好	底 外 面	–	
151	SI008a	土師器	壺	口 径	–		全体 85%	各種砂粒中量、白色砂粒含	内 面	灰褐 7.5YR4/2	内 面	ナデ ヘラナデ	
				底 径	–				外 面	にぶい赤褐 5YR4/3	外 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	13.3				焼 成	良好	底 外 面	ナデ	
152	SI008a	土師器	壺	口 径	–		脚部 10% 底部 90%	各種砂粒多量、雲母細粒・石英粒目立つ	内 面	にぶい赤褐 5YR5/4	内 面	摩滅のため不明	雲除産
				底 径	(7.4)				外 面	褐 7.5YR4/3	外 面	ミガキ	
				器 高	(3.2)				焼 成	良好	底 外 面	ミガキ	
153	SI008a	土師器	壺	口 径	(13.2)		口縁部 35% 脚部 20%	各種砂粒中量、白色砂粒含	内 面	にぶい赤褐 5YR4/4	内 面	ナデ ヘラナデ	
				底 径	–				外 面	にぶい赤褐 5YR4/4	外 面	口縁部ナデ 指押痕	
				器 高	(7.8)				焼 成	良好	底 外 面	–	
154	SI008a	土師器	壺	口 径	(16.0)		口縁部 10% 脚部 5%	各種砂粒多量、石英粒・雲母粒目立つ	内 面	灰褐 7.5YR4/2	内 面	ナデ ヘラナデ	雲除産
				底 径	–				外 面	灰褐 2.5YR4/2	外 面	ナデ ヘラナデ	
				器 高	(9.2)				焼 成	良好	底 外 面	–	
155	SI008a	土師器	壺	口 径	15.4		口縁部 75%	各種砂粒中量、白色砂粒含	内 面	褐 7.5YR4/3	内 面	ナデ後ケズリ 指圧痕	
				底 径	–				外 面	にぶい褐 7.5YR5/4	外 面	ナデ後ケズリ	
				器 高	4.7				焼 成	良好	底 外 面	–	
156	SI008a	土師器	壺	口 径	(15.5)		口縁部 30% 脚部 10%	各種砂粒中量、白色砂粒含	内 面	にぶい黄褐 10YR4/3	内 面	ナデ ヘラナデ	
				底 径	–				外 面	灰黄褐 10YR4/2	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	
				器 高	(7.2)				焼 成	良好	底 外 面	–	
157	SI008a	土師器	壺	口 径	(17.8)		口縁部 30% 脚部 15%	各種砂粒中量、白色砂粒・赤色スコリア含	内 面	灰黄褐 10YR4/2	内 面	ナデ ヘラナデ	
				底 径	–				外 面	灰黄褐 10YR4/2	外 面	ナデ ケズリ	
				器 高	8.1				焼 成	良好	底 外 面	–	
158	SI008a	土師器	壺	口 径	(13.0)		口縁部 25% 脚部 10%	各種砂粒少量、白色砂粒微量	内 面	にぶい黄褐 10YR4/3	内 面	ナデ 指頭圧痕	
				底 径	–				外 面	赤褐 5YR4/6	外 面	ナデ ケズリ	
				器 高	(6.3)				焼 成	良好	底 外 面	–	
159	SI008a	土師器	壺	口 径	(13.9)		口縁部 50% 脚部 20%	各種砂粒少量、白色砂粒含	内 面	にぶい褐 7.5YR5/4	内 面	口縁部ナデ 他調整	
				底 径	–				外 面	にぶい褐 7.5YR5/4	外 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	(21.0)				焼 成	良好	底 外 面	–	
160	SI008a	土師器	壺	口 径	(17.8)		口縁部 20% 脚部 5%	各種砂粒多量、石英粒・雲母微粒目立つ	内 面	にぶい褐 7.5YR5/3	内 面	ナデ ヘラナデ	雲除産
				底 径	–				外 面	灰褐 2.5YR4/2	外 面	ナデ ヘラナデ	
				器 高	(4.7)				焼 成	良好	底 外 面	–	
161	SI008a	土師器	壺	口 径	14.4		口縁部 70% 脚部 40%	各種砂粒中量、白色砂粒含	内 面	にぶい褐 7.5YR5/4	内 面	ヘラナデ後ナデ	
				底 径	–				外 面	にぶい赤褐 5YR5/4	外 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	(11.7)				焼 成	良好	底 外 面	–	
162	SI008a	土師器	壺	口 径	–		口縁部から 脚部 40%	各種砂粒多量、白色砂粒多量	内 面	にぶい赤褐 5YR4/4	内 面	ナデ ヘラナデ	
				底 径	–				外 面	にぶい赤褐 5YR5/4	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	
				器 高	(14.1)				焼 成	良好	底 外 面	–	
163	SI008a	土師器	壺	口 径	18.2		口縁部 95% 脚部 45%	各種砂粒多量、赤色スコリア多量	内 面	明赤褐 5YR5/6	内 面	ミガキ 強いヘラナデ（筋あり）	上総産？
				底 径	–				外 面	明赤褐 5YR5/6	外 面	ナデ ケズリ後ミガキ	
				器 高	(20.1)				焼 成	良好	底 外 面	–	
164	SI008a	土師器	甕	口 径	21.7		口縁部 60% 脚部 60%	各種砂粒少量、白色針状物質・白色砂粒含	内 面	にぶい赤褐 5YR4/4	内 面	ナデ ヘラナデ後ミガキ	
				底 径	–				外 面	明赤褐 2.5YR5/6	外 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	(24.7)				焼 成	良好	底 外 面	–	
165	SI008a	土師器	甕	口 径	–		脚部 10% 底部 10%	各種砂粒中量、白色砂粒・白色針状物質微量	内 面	黒褐 10YR3/1	内 面	ミガキ ケズリ	内面黒色処理
				底 径	(11.0)				外 面	にぶい黄褐 10YR5/3	外 面	ケズリ	
				器 高	(5.8)				焼 成	良好	底 外 面	ミガキ	
166	SI008b	須恵器	坏	口 径	(13.0)		全体 40%	各種砂粒多量、石英粒目立つ	内 面	褐灰 10YR4/1	内 面	ロクロナデ	雲除産
				底 径	7.8				外 面	褐灰 10YR5/1	外 面	ロクロナデ 手持回転ケズリ	
				器 高	3.8				焼 成	良好	底 外 面	回転ヘラ切り後手持ケズリ	
167	SI008b	須恵器	坏	口 径	14.5		全体 80%	各種砂粒多量、石英粒目立つ	内 面	褐灰 7.5YR4/1	内 面	ロクロナデ	雲除産
				底 径	8.6				外 面	赤灰 2.5YR5/1	外 面	ロクロナデ 手持回転ケズリ	
				器 高	4.25				焼 成	良好	底 外 面	手持ヘラ切り	
168	SI008b	土師器	坏	口 径	13.1		全体 95%	各種砂粒中量、雲母微量	内 面	にぶい赤褐 5YR4/3	内 面	ロクロナデ	灯明皿として使用
				底 径	7.4				外 面	褐 7.5YR4/3	外 面	ロクロナデ 回転ケズリ	
				器 高	3.9				焼 成	良好	底 外 面	回転ケズリ	
169	SI008b	土師器	坏	口 径	(16.0)		口縁部 30% 脚部 30%	各種砂粒少量、白色砂粒微量	内 面	褐 7.5YR4/4	内 面	ナデ後ミガキ	
				底 径	–				外 面	褐 7.5YR4/4	外 面	ナデ後ミガキ	
				器 高	(5.0)				焼 成	良好	底 外 面	–	
170	SI008b	土師器	壺	口 径	16.1		全体 90%	各種砂粒多量、石英粒・雲母微細粒目立つ	内 面	にぶい橙 7.5YR6/4	内 面	ナデ ヘラナデ	雲除産
				底 径	8.2				外 面	にぶい橙 7.5YR6/4	外 面	ナデ ヘラナデ ケズリ	
				器 高	16.6				焼 成	良好	底 外 面	木葉痕	

No	遺構No.	種 類	器 種	法 量 (cm)			造存度	胎 土	色調・焼成		技 法		備 考
171	SI008b	土師器	甕	口 径	16.1		全体 80%	各種砂粒多量、石英粒・雲母微細粒目立つ	内 面	にぶい橙 7.5YR6/4	内 面	ナデ ヘラナデ	
				底 径	7.2				外 面	にぶい褐 7.5YR5/4	外 面	ナデ ヘラナデ ケズリ	雲除産
				器 高	17.5				焼 成	良好	底 外 面	木葉痕	
172	SI008b	土師器	甕	口 径	(10.6)		全体 25%	各種砂粒少量、白色砂粒含	内 面	黒褐 7.5YR3/2	内 面	ナデ ヘラナデ	
				底 径	6.8				外 面	赤灰 2.5YR4/1	外 面	ナデ ケズリ	
				器 高	(11.2)				焼 成	良好	底 外 面	ケズリ	
173	SI008b	土師器	甕	口 径	21.4		全体 60%	各種砂粒中量、白色砂粒・赤色スコリア含	内 面	明赤褐 5YR5/6	内 面	ナデ ヘラナデ	
				底 径	4.3				外 面	にぶい赤褐 2.5YR5/4	外 面	ナデ ケズリ	武蔵産
				器 高	27.7				焼 成	良好	底 外 面	ヘラナデ後ナデ	
174	SI008c	須恵器	高台付坏	口 径	(13.5)		全体 50%	各種砂粒多量、石英粒・雲母粒目立つ	内 面	にぶい黄橙 10YR5/3	内 面	回転ナデ	
				底 径	8.4				外 面	黒褐 10GY3/1	外 面	回転ナデ ナデ	雲除産
				器 高	5.3				焼 成	良好	底 外 面	ナデ	
175	SI008c	須恵器	坏	口 径	(13.8)		全体 25%	各種砂粒多量、石英粒・雲母微細粒目立つ	内 面	灰赤 2.5YR5/2	内 面	回転ナデ	
				底 径	(7.7)				外 面	灰赤 2.5Y6/2	外 面	回転ナデ後手持ケズリ	雲除産
				器 高	3.9				焼 成	良好	底 外 面	手持ケズリ	
176	SI008c	須恵器	坏	口 径	–		胴部 30% 底部 100%	各種砂粒多量、石英粒・雲母微細粒目立つ	内 面	赤灰 2.5YR5/1	内 面	ナデ	
				底 径	7.4				外 面	灰黄褐 10YR6/2	外 面	回転ナデ後回転ケズリ	雲除産
				器 高	(2.7)				焼 成	良好	底 外 面	回転ケズリ後回転ヘラ切り	
177	SI008c	土師器	坏	口 径	(13.0)		口縁部 60% 胴部 20%	各種砂粒少量、白色砂粒微量	内 面	暗褐 7.5YR4/3	内 面	ナデ	
				底 径	–				外 面	明赤褐 5YR5/6	外 面	ナデ後ケズリ	
				器 高	(2.9)				焼 成	良好	底 外 面	–	
178	SI008c	須恵器	短頸壺	口 径	–		口縁部破片	各種砂粒中量、白色砂粒・石英粒含	内 面	灰黄褐 10YR4/2	内 面	ナデ	
				底 径	–				外 面	灰黄褐 10YR4/2	外 面	回転ナデ	雲除産?
				器 高	(3.0)				焼 成	良好	底 外 面	–	
179	SI009	須恵器	蓋	口 径	(15.8)		全体 15%	各種砂粒少量	内 面	褐灰 5Y6/1	内 面	回転ナデ	
				天井径	(9.0)				外 面	灰黄褐 10YR6/2	外 面	回転ナデ	雲除産
				器 高	2.7				焼 成	良好	天井外 面	回転ケズリ後ナデ	
180	SI009	須恵器	蓋	口 径	(15.6)		全体 30%	各種砂粒中量、石英粒多量、雲母細粒含	内 面	にぶい黄褐 10YR5/3	内 面	回転ナデ	
				天井径	(4.0)				外 面	にぶい黄橙 10YR6/3	外 面	回転ナデ・ケズリ	雲除産
				器 高	(3.5)				焼 成	良好	天井外 面	回転ナデ	
181	SI009	須恵器	蓋	口 径	(16.8)		全体 20%	各種砂粒多量、白色小石目立つ	内 面	褐灰 10YR5/1	内 面	回転ナデ	
				底 径	3.3				外 面	褐灰 10YR5/1	外 面	回転ナデ・ケズリ・ヘラ切り	雲除産
				器 高	3.5				焼 成	良好	天井外 面	回転ナデ	
182	SI009	須恵器	坏	口 径	–		胴部 5% 底部 15%	各種砂粒多量、石英粒目立つ	内 面	褐灰 10YR4/1	内 面	回転ナデ	
				底 径	(9.0)				外 面	黒褐 5Y3/1	外 面	回転ナデ	産地不明
				器 高	(2.3)				焼 成	良好	底 外 面	回転ケズリ	
183	SI009	土師器	坏	口 径	15.3		全体 25%	各種砂粒中量、白色砂粒含	内 面	にぶい赤褐 5YR4/3	内 面	ナデ	
				底 径	–				外 面	にぶい赤褐 5YR5/4	外 面	ナデ後ケズリ	
				器 高	(4.4)				焼 成	良好	底 外 面	–	
184	SI009	土師器	坏	口 径	14.2		全体 95%	各種砂粒少量、白色砂粒微量	内 面	にぶい赤褐 5YR5/4	内 面	ナデ	
				底 径	–				外 面	にぶい橙 5YR6/4	外 面	ナデ後ケズリ	灯明皿として使用
				器 高	3.8				焼 成	良好	底 外 面	–	
185	SI009	土師器	甕	口 径	–		胴部 5% 底部 95%	各種砂粒中量、白色砂粒・赤色スコリア	内 面	にぶい赤褐 5YR4/4	内 面	ヘラナデ ミガキ	
				底 径	8.0				外 面	にぶい赤褐 5YR4/4	外 面	ケズリ	武蔵産?
				器 高	(6.1)			粒含	焼 成	良好	底 外 面	ケズリ	
186	SI009	須恵器	甕	口 径	–		胴部破片	各種砂粒多量、白色砂粒粒目立つ	内 面	褐 7.5YR4/3	内 面	ナデ タタキ	
				底 径	–				外 面	にぶい褐 7.5YR5/4	外 面	ナデ タタキ	下総産
				器 高	(7.8)				焼 成	良好	底 外 面	–	
187	SI009	土師器	甕	口 径	23.8		口縁部 15% 胴部 15%	各種砂粒多量、白色砂粒・雲母粒目立つ	内 面	にぶい黄橙 10YR5/3	内 面	ナデ ヘラナデ後ナデ	
				底 径	–				外 面	にぶい褐 7.5YR5/4	外 面	ナデ後ケズリ後ミガキ	雲除産
				器 高	(31.8)				焼 成	良好	底 外 面	–	
188	SI010	土師器	甕	口 径	–		胴部 40% 底部 50%	各種砂粒多量、白色砂粒・白色斜状物質微量	内 面	にぶい褐 7.5YR5/4	内 面	ヘラナデ後ナデ	
				底 径	(6.6)				外 面	灰黄褐 10YR6/2	外 面	ケズリ後ナデ	武蔵産
				器 高	(8.4)				焼 成	良好	底 外 面	ケズリ後ナデ	
189	SI010	土師器	甕	口 径	–		胴部 30% 底部 50%	各種砂粒中量、石英粒・雲母粒目立つ	内 面	にぶい赤褐 5YR5/4	内 面	ヘラナデ	
				底 径	8.6				外 面	にぶい赤褐 7.5YR5/3	外 面	ケズリ後ナデ ケズリ後ミガキ	雲除産
				器 高	(21.9)				焼 成	良好	底 外 面	木葉痕	
190	SI011	土師器	坏	口 径	(13.6)		胴部 30% 底部 15%	各種砂粒多量、白色砂粒目立つ	内 面	にぶい赤褐 2.5YR4/3	内 面	ナデ後ミガキ	
				底 径	–				外 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	
				器 高	(5.0)				焼 成	良好	底 外 面	–	
191	SI011	土師器	高坏	口 径	–		底部 15%	各種砂粒多量、白色砂粒微量	内 面	褐 7.5YR4/4	内 面	ヘラナデ ナデ	
				底 径	(9.1)				外 面	褐 7.5YR4/3	外 面	ケズリ後ナデ	
				器 高	(3.0)				焼 成	良好	底 外 面	–	
192	SI011	土師器	甕	口 径	(12.5)		口縁部 15% 胴部 10%	各種砂粒多量、白色砂粒・赤色スコリア少量	内 面	黒褐 7.5YR3/2	内 面	ナデ後ヘラナデ後ナデ	
				底 径	–				外 面	にぶい赤褐 5YR4/4	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	
				器 高	(5.8)				焼 成	良好	底 外 面		
193	SI011	土師器	甕	口 径	–		胴部 25% 底部 5%	各種砂粒中量、白色砂粒含	内 面	褐 7.5YR4/3	内 面	ヘラナデ ナデ	
				底 径	(7.9)				外 面	褐 7.5YR4/3	外 面	ケズリ後部分的にミガキ	
				器 高	(12.8)				焼 成	良好	底 外 面	ケズリ	
194	SI012	須恵器	蓋	口 径	(13.7)		全体 30%	各種砂粒多量、白色砂粒微量、雲母粒	内 面	にぶい黄橙 10YR5/3	内 面	ロクロナデ	
				天井径	3.2				外 面	灰赤 2.5YR5/2	外 面	回転ケズリ ロクロナデ	雲除産
				器 高	(3.2)				焼 成	良好	天井外 面	ロクロナデ	

No.	遺構No.	種類	器種	法量（cm）		遺存度	胎土	色調・焼成		技法		備考
195	SI012	土師器	坏	口径 底径 器高	(13.0) – 3.8	胴部20% 底部20%	各種砂粒少量，白色砂粒含	内面 外面 焼成	にぶい赤褐5YR4/4 にぶい褐7.5YR5/4 良好	内面 外面 底外面	ナデ ナデ　ケズリ –	
196	SI012	土師器	甕	口径 底径 器高	(12.6) 7.8 11.1	全体55%	各種砂粒中量，白色砂粒含	内面 外面 焼成	赤褐5YR4/6 にぶい赤褐5YR4/3 良好	内面 外面 底外面	ナデ　ヘラナデ ナデ　ケズリ ケズリ	粘土紐接合痕明瞭
197	SI012	土師器	甕	口径 底径 器高	(10.9) 7.0 10.8	全体80%	各種砂粒中量，白色砂粒含	内面 外面 焼成	灰褐5YR4/2 にぶい赤褐5YR5/4 良好	内面 外面 底外面	ナデ　ヘラナデ ナデ　ケズリ ケズリ	
198	SI012	土師器	甑	口径 底径 器高	(21.6) – (9.3)	全体5%	各種砂粒多量，白色砂粒目立つ	内面 外面 焼成	にぶい赤褐5YR4/4 にぶい赤褐5YR4/3 良好	内面 外面 底外面	ナデ　ヘラナデ ナデ　ケズリ後ナデ・ミガキ –	
199	SI013	土師器	坏	口径 底径 器高	(13.4) – (5.6)	全体20%	各種砂粒中量，白色砂粒微量・赤色スコリア含	内面 外面 焼成	黄褐10R5/6 にぶい赤褐2.5YR4/4 良好	内面 外面 底外面	ナデ　ヘラナデ後ナデ ナデ　ケズリ後ミガキ –	内外面赤彩
200	SI013	土師器	坏	口径 底径 器高	(14.5) – (5.3)	全体20%	各種砂粒中量，白色砂粒微量・赤色スコリア含	内面 外面 焼成	にぶい褐7.5YR5/4 にぶい褐7.5YR5/4 良好	内面 外面 底外面	ナデ ナデ　ケズリ後ミガキ 	内外面赤彩
201	SI013	土師器	坏	口径 底径 器高	(12.8) – (3.7)	口縁部25% 胴部10%	各種砂粒中量，白色砂粒含	内面 外面 焼成	暗灰N3/0 暗灰N3/0 良好	内面 外面 底外面	ヘラナデ後ミガキ ナデ後ミガキ　ケズリ後ミガキ –	内外面黒色処理
202	SI013	土師器	甕	口径 底径 器高	– (7.0) (2.9)	胴部5% 底部50%	白色石英粒極多量，赤色スコリア粒・雲母含	内面 外面 焼成	にぶい赤褐5YR5/4 褐7.5YR4/3 良好	内面 外面 底外面	ナデ ケズリ後ナデ ケズリ後ヘラナデ	常陸産
203	SI014	土師器	坏	口径 底径 器高	(12.9) – 5.0	口縁部30% 胴部75%	各種砂粒少量，白色砂粒微量	内面 外面 焼成	にぶい赤褐5YR5/4 にぶい赤褐5YR5/4 良好	内面 外面 底外面	ナデ後ミガキ ナデ後ミガキ –	内外面黒色処理
204	SI014	土師器	坏	口径 底径 器高	14.0 – (4.3)	口縁部75% 胴部40%	各種砂粒少量，白色砂粒・赤色スコリア含	内面 外面 焼成	にぶい赤褐2.5YR4/4 にぶい赤褐2.5YR4/4 良好	内面 外面 底外面	ナデ後ミガキ ナデ　ケズリ後ナデ –	内外面赤彩
205	SI014	土師器	埦	口径 底径 器高	(10.6) – 6.0	口縁部35% 胴部45%	各種砂粒中量，白色砂粒・赤色スコリア微量	内面 外面 焼成	にぶい赤褐5YR4/4 にぶい褐7.5YR5/4 良好	内面 外面 底外面	ナデ　ヘラナデ ナデ　ケズリ –	内外面赤彩
206	SI014	土師器	甕	口径 底径 器高	– 8.0 (2.3)	胴部5% 底部100%	石英粒目立つ，赤色スコリア粒微量	内面 外面 焼成	灰褐7.5YR4/2 褐7.5YR4/3 良好	内面 外面 底外面	ヘラナデ ヘラナデ ヘラナデ	常陸産
207	SI014	土師器	甑	口径 底径 器高	– – (6.9)	胴部破片	各種砂粒少量，白色砂粒含	内面 外面 焼成	明赤褐5YR5/6 にぶい褐7.5YR5/4 良好	内面 外面 底外面	ヘラナデ ケズリ後ナデ –	
208	SI015a	土師器	坏	口径 底径 器高	14.0 – 5.7	口縁部100% 胴部60%	白色砂粒目立つ，赤色スコリア少量	内面 外面 焼成	明褐2.5YR5/6 明褐2.5YR5/6 歪み有り	内面 外面 底外面	ナデ　ヘラナデ後ナデ ナデ　ケズリ後ナデ –	
209	SI015a	土師器	坏	口径 底径 器高	(13.1) – (4.4)	口縁部25% 胴部15%	各種砂粒中量，白色砂粒含	内面 外面 焼成	灰褐5YR4/2 灰褐5YR4/2 良好	内面 外面 底外面	ナデ　ミガキ　ナデ ナデ –	
210	SI015a	土師器	坏	口径 底径 器高	(12.1) – 5.3	口縁部20% 胴部60%	各種砂粒少量，白色砂粒含	内面 外面 焼成	にぶい赤褐2.5YR4/4 にぶい褐7.5YR5/4 良好	内面 外面 底外面	ナデ　ヘラナデ後ミガキ ナデ　ケズリ後ナデ –	内外面赤彩
211	SI015a	土師器	坏	口径 底径 器高	(14.1) – (3.6)	口縁部20% 胴部15%	各種砂粒少量，白色砂粒含	内面 外面 焼成	明赤褐2.5YR3/2 にぶい赤褐2.5YR4/4 良好	内面 外面 底外面	ナデ ナデ　ケズリ後ナデ –	内外面赤彩
212	SI015a	土師器	高坏	口径 底径 器高	(13.0) – (3.8)	口縁部25% 胴部25%	白色砂粒多量・赤色スコリア少量	内面 外面 焼成	にぶい赤褐5YR4/3 にぶい赤褐5YR5/4 良好	内面 外面 底外面	ナデ後丁寧なナデ ナデ　ケズリ後ナデ –	内外面赤彩
213	SI015a	土師器	坏	口径 底径 器高	(15.8) – (3.8)	口縁部25% 胴部25%	各種砂粒中量，白色砂粒含	内面 外面 焼成	にぶい赤褐2.5YR4/4 にぶい赤褐5YR4/4 良好	内面 外面 底外面	ナデ後ヘラナデ ナデ –	内外面赤彩
214	SI015a	土師器	坏	口径 底径 器高	(15.2) – (4.0)	口縁部25% 胴部15%	各種砂粒中量，白色砂粒・赤色スコリア少量	内面 外面 焼成	黒褐7.5YR3/1 黒褐7.5YR3/1 良好	内面 外面 底外面	ナデ後ミガキ ナデ後ミガキ　ケズリ –	内外面黒色処理
215	SI015a	土師器	坏	口径 底径 器高	(12.5) – 4.5	口縁部40% 胴部40%	各種砂粒少量，白色砂粒含	内面 外面 焼成	黒褐5YR3/1 黒褐5YR3/1 良好	内面 外面 底外面	ナデ後ミガキ ナデ　ケズリ後ミガキ –	内外面黒色処理
216	SI015a	土師器	坏	口径 底径 器高	(12.6) – (4.4)	口縁部10% 胴部10%	各種砂粒少量，白色砂粒微量	内面 外面 焼成	黒褐5YR3/1 黒褐10YR3/1 良好	内面 外面 底外面	ナデ後ミガキ ナデ後ミガキ　ケズリ後ナデ –	内外面黒色処理
217	SI015a	土師器	坏	口径 底径 器高	(14.0) – (3.8)	口縁部20% 胴部20%	各種砂粒少量，白色砂粒微量	内面 外面 焼成	黒褐5YR3/1 黒褐5YR3/1 良好	内面 外面 底外面	ナデ後ミガキ ナデ後ミガキ　ケズリ後ミガキ –	内外面黒色処理
218	SI015a	土師器	鉢	口径 底径 器高	(12.3) – 8.8	全体60%	各種砂粒少量，白色砂粒少量，雲母細粒微量	内面 外面 焼成	褐灰7.5YR4/1 にぶい赤褐5YR4/3 良好	内面 外面 底外面	ナデ　ヘラナデ ナデ　ケズリ後ナデ ケズリ後ナデ	外面赤発色 黒色物質付着

No.	遺構No.	種類	器種	法量（cm）		遺存度	胎土	色調・焼成		技法		備考
219	SI015a	土師器	鉢	口径	(13.2)	口縁部25% 胴部25%	各種砂粒少量,白色砂粒・赤色スコリア少量	内面	にぶい赤褐2.5YR4/4	内面	ナデ　ヘラナデ	
				底径	–			外面	にぶい赤褐5YR5/4	外面	ナデ　ケズリ後ナデ	
				器高	(8.6)			焼成	良好	底外面	–	
220	SI015a	土師器	壺	口径	–	胴部50% 底部100%	各種砂粒少量,白色砂粒含	内面	黒10YR2/1	内面	ナデ　ヘラナデ	
				底径	3.6			外面	褐10YR4/4	外面	ハケ　ケズリ後ナデ	
				器高	(4.8)			焼成	良好	底外面	ケズリ	
221	SI015a	土師器	甕	口径	(12.6)	口縁部30% 胴部15%	各種砂粒多量,石英粒・雲母粒多量	内面	褐灰7.5YR4/1	内面	ナデ　ヘラナデ	常陸産？
				底径	–			外面	赤褐5YR4/6	外面	ナデ　ケズリ後ナデ	
				器高	(7.8)			焼成	良好	底外面	–	
222	SI015a	土師器	甕	口径	13.6	口縁部45% 胴部5%	各種砂粒多量,白色砂粒目立つ	内面	黒褐7.5YR3/1	内面	ナデ　ヘラナデ	
				底径	–			外面	にぶい赤褐5YR4/3	外面	ナデ　ケズリ	
				器高	(6.8)			焼成	良好	底外面	ケズリ	
223	SI015a	土師器	甕	口径	(20.2)	口縁部30% 胴部10%	白色砂粒・白色針状物質・赤色スコリア微量	内面	にぶい褐7.5YR5/4	内面	ナデ　ヘラナデ	外面摩滅
				底径	–			外面	にぶい褐7.5YR5/4	外面	ナデ　ケズリ後ナデ	
				器高	10.2			焼成	良好	底外面	–	
224	SI015a	土師器	甕	口径	–	胴部5% 底部100%	各種砂粒少量,白色砂粒・赤色スコリア微量	内面	にぶい褐7.5YR5/4	内面	ヘラナデ	
				底径	8.5			外面	褐灰7.5YR4/1	外面	ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器高	(4.7)			焼成	良好	底外面	ナデ	
225	SI015a	土師器	坏	口径	–	底部破片	各種砂粒少量	内面	にぶい褐7.5YR5/4	内面	ロクロナデ	内面線刻「中」？
				底径	–			外面	にぶい褐7.5YR5/4	外面	–	
				器高	(0.8)			焼成	良好	底外面	糸切り回転	
226	SI015b	土師器	坏	口径	(12.4)	全体20%	各種砂粒少量,雲母微細粒少量	内面	褐7.5YR4/3	内面	ロクロナデ	底外面撚糸様圧痕
				底径	(7.2)			外面	にぶい褐5YR5/4	外面	ロクロナデ	
				器高	4.0			焼成	良好	底外面	回転糸切り	
227	SI015b	土師器	坏	口径	12.5	全体80%	各種砂粒少量,雲母微細粒微量	内面	褐7.5YR4/3	内面	ロクロナデ	
				底径	7.8			外面	にぶい赤褐5YR5/4	外面	ロクロナデ	
				器高	3.9			焼成	良好	底外面	回転ケズリ後回転糸切り	
228	SI015b	須恵器	坏	口径	–	口縁部破片	各種砂粒多量,白色砂粒目立つ	内面	褐灰10YR4/1	内面	回転ナデ	
				底径	–			外面	褐灰10YR4/1	外面	回転ナデ	
				器高	(2.1)			焼成	良好	底外面	–	
229	SI015b	土師器	坏	口径	–	底部破片	各種砂粒少量,白色微砂粒含	内面	灰褐7.5YR4/2	内面	ロクロナデ	底外面葉脈痕状線 底面ヘラ書き
				底径	–			外面	灰褐7.5YR4/2	外面	–	
				器高	–			焼成	良好	底外面	ナデ	
230	SI015b	須恵器	甕	口径	–	胴部破片	各種砂粒中量,白色砂粒含	内面	褐灰10YR4/1	内面	ナデ	
				底径	–			外面	褐灰10YR5/1	外面	タタキ　ナデ　タタキ	
				器高	(5.3)			焼成	良好	底外面	–	
231	SI015b	須恵器	甕	口径	–	胴部破片	各種砂粒多量,白色石英粒目立つ	内面	褐灰10YR4/1	内面	ナデ　当て具痕（無文）	常陸産
				底径	–			外面	灰N4/0	外面	ナデ　タタキ	
				器高	(22.3)			焼成	良好	底外面	–	
232	SI015b	土師器	甕	口径	–	胴部60% 底部100%	各種砂粒少量,白色微砂粒含	内面	灰褐5YR4/2	内面	ヘラナデ	武蔵産？ 外面赤み
				底径	5.1			外面	にぶい赤褐2.5YR4/4	外面	ケズリ	
				器高	(8.5)			焼成	良好	底外面	ケズリ	
233	SI015b	土師器	甕	口径	20.8	口縁部90% 胴部60%	各種砂粒多量,白色砂粒・雲母目立つ	内面	にぶい赤褐5YR5/4	内面	ナデ　ヘラナデ	常陸産
				底径	–			外面	にぶい褐7.5YR5/3	外面	ナデ　ヘラナデ後ナデ・ミガキ	
				器高	28.3			焼成	良好	底外面	–	
234	SI016a	須恵器	甕	口径	–	口縁部破片	各種砂粒中量,白色砂粒・雲母細粒	内面	赤灰2.5YR4/1	内面	ロクロナデ	常陸産
				底径	–			外面	褐灰5Y4/1	外面	ロクロナデ	
				器高	(2.6)			焼成	良好	底外面	–	
235	SI016a	須恵器	壺	口径	–	肩部破片	精緻	内面	赤灰2.5YR4/1	内面	ロクロナデ	東海産？ 外面自然釉
				底径	–			外面	赤灰2.5YR4/1	外面	ロクロナデ　当て具痕	
				器高	(6.4)			焼成	良好	底外面	–	
236	SI016a	土師器	坏	口径	(11.9)	全体10%	各種砂粒中量,白色砂粒含	内面	にぶい赤褐5YR4/4	内面	ナデ	内外面被熱剥離
				底径	–			外面	にぶい赤褐5YR4/4	外面	ナデ	
				器高	(3.1)			焼成	良好	底外面	ナデ	
237	SI016b	土師器	坏	口径	–	口縁部破片	各種砂粒少量,白色砂粒・白色針状物質微量	内面	褐7.5YR4/3	内面	ロクロナデ　ミガキ	
				底径	–			外面	にぶい赤褐5YR4/4	外面	ロクロナデ　手持ケズリ	
				器高	(4.0)			焼成	良好	底外面	–	
238	SI016b	須恵器	甕	口径	–	胴部破片	各種砂粒多量,石英粒・雲母粒目立つ	内面	灰赤2Y5/2	内面	ナデ　当て具痕	常陸産
				底径	–			外面	灰黄褐10YR5/2	外面	タタキ	
				器高	(7.0)			焼成	良好	底外面	–	
239	SI016b	土師器	台付皿	口径	13.9	全体80%	各種砂粒少量,雲母細粒微量	内面	にぶい赤褐5YR5/4	内面	ロクロナデ　ミガキ	外面墨書
				底径	7.3			外面	にぶい赤褐5YR5/4	外面	ロクロナデ　回転ケズリ　ナデ	
				器高	3.3			焼成	良好	底外面	切り離し不明　ナデ	
240	SI016b	須恵器	甕	口径	(20.0)	口縁部5% 胴部40%	各種砂粒中量,石英・雲母粒含	内面	黒褐5Y3/1	内面	ロクロナデ　当て具痕	常陸産 （または三和窯？）
				底径	–			外面	褐灰5Y4/1	外面	ロクロナデ　タタキ	
				器高	(16.0)			焼成	良好	底外面	–	
241	SI016c	土師器	坏	口径	(13.2)	全体15%	各種砂粒少量,雲母微細粒含	内面	にぶい赤褐5YR5/4	内面	ロクロナデ	
				底径	(7.0)			外面	にぶい褐7.5YR5/4	外面	ロクロナデ　回転ケズリ	
				器高	3.8			焼成	良好	底外面	切り離し不明　回転ケズリ	
242	SI016c	土師器	甕	口径	–	口縁部破片	各種砂粒多量,石英粒・雲母粒目立つ	内面	にぶい褐7.5YR5/4	内面	ナデ	常陸産
				底径	–			外面	褐7.5YR4/3	外面	ナデ	
				器高	(3.2)			焼成	良好	底外面	–	

No	遺構No.	種 類	器 種	法 量 (cm)	造存度	胎 土	色調・焼成	技 法	備 考
243	SI017	土師器	坏	口 径 14.6 底 径 － 器 高 (5.0)	口縁部 50% 胴部 60%	各種砂粒少量、白色砂粒・赤色スコリア含	内 面 黒褐 7.5YR3/1 外 面 にぶい赤褐 5YR4/3 焼 成 良好	内 面 ミガキ 外 面 ナデ　ケズリ後ミガキ 底 外 面 －	
244	SI017	土師器	高坏	口 径 － 底 径 10.4 器 高 (6.8)	胴部 50% 底部 80%	各種砂粒多量、石英粒目立つ	内 面 橙 5YR6/6 外 面 赤褐 2.5YR4/6 焼 成 良好	内 面 ミガキ 外 面 ヘラナデ　ミガキ　ナデ 底 外 面 ナデ	意匠疑？
245	SI017	土師器	甕	口 径 (13.0) 底 径 － 器 高 (5.1)	口縁部 35% 胴部 10%	各種砂粒少量、白色砂粒微量	内 面 黒褐 7.5YR3/2 外 面 にぶい赤褐 2.5YR4/4 焼 成 良好	内 面 ナデ後ヘラナデ 外 面 ナデ 底 外 面 －	
246	SI017	土師器	甕	口 径 (22.3) 底 径 (6.3) 器 高 (16.7)	口縁部 30% 胴部 25% 底部 10%	各種砂粒少量、白色砂粒微粒・雲母細粒含	内 面 にぶい褐 7.5YR5/3 外 面 にぶい赤褐 5YR5/4 焼 成 良好	内 面 ヘラナデ 外 面 ケズリ後一部ヘラミガキ 底 外 面 －	
247	SI017	土師器	甕	口 径 － 底 径 － 器 高 (15.3)	胴部 30%	各種砂粒少量、白色砂粒・雲母細粒微量	内 面 にぶい赤褐 5YR5/4 外 面 灰黄褐 10YR5/2 焼 成 良好	内 面 丁寧なヘラナデ 外 面 ケズリ後ナデ・ミガキ 底 外 面 －	甑に再利用？
248	SI017	土師器	甕	口 径 (25.0) 底 径 － 器 高 (8.1)	口縁部 20% 胴部 5%	各種砂粒中量、白色砂粒含	内 面 黒褐 7.5YR3/2 外 面 褐 7.5YR4/3 焼 成 良好	内 面 ナデ　ミガキ 外 面 ナデ　ケズリ後ナデ 底 外 面 －	
249	SI018	土師器	坏	口 径 13.2 底 径 － 器 高 (3.0)	全体 40%	各種微砂粒中量	内 面 にぶい赤褐 2.5YR4/4 外 面 にぶい赤褐 2.5YR4/4 焼 成 良好	内 面 ナデ 外 面 ナデ　ケズリ 底 外 面 －	内外面赤彩
250	SI018	土師器	坏	口 径 13.1 底 径 － 器 高 4.8	全体 80%	各種砂粒少量、白色微砂粒・雲母細粒微量	内 面 にぶい赤褐 2.5YR4/4 外 面 褐 10R4/4 焼 成 良好	内 面 ナデ後ミガキ 外 面 ナデ後ミガキ　ケズリ後ミガキ 底 外 面 －	内外面赤彩
251	SI018	土師器	坏	口 径 11.5 底 径 － 器 高 5.3	口縁部 70% 胴部 90%	各種砂粒少量、白色砂粒含	内 面 にぶい褐 7.5YR5/4 外 面 にぶい褐 7.5YR5/4 焼 成 良好	内 面 ナデ後ミガキ 外 面 ナデ後ミガキ 底 外 面 －	内外面赤彩 （範囲不明瞭）
252	SI018	土師器	坏	口 径 15.7 底 径 － 器 高 (3.6)	全体 75%	各種微砂粒中量	内 面 暗赤褐 2.5YR3/4 外 面 褐 10R4/4 焼 成 良好	内 面 ナデ 外 面 ナデ　ケズリ後ナデ・ミガキ 底 外 面 －	内外面赤彩
253	SI018	土師器	坏	口 径 14.7 底 径 － 器 高 4.8	全体 95%	各種砂粒少量、白色砂粒含	内 面 明赤褐 2.5YR3/4 外 面 にぶい赤褐 2.5YR4/4 焼 成 良好	内 面 ナデ　ヘラナデ 外 面 ナデ　ケズリ後ナデ・ミガキ 底 外 面 －	ゆがみあり 内外面赤彩
254	SI018	土師器	坏	口 径 (13.6) 底 径 － 器 高 (6.0)	口縁部破片	各種微砂粒中量	内 面 にぶい赤褐 2.5YR4/4 外 面 褐 10R4/4 焼 成 良好	内 面 丁寧なナデ 外 面 ナデ　ケズリ後ナデ 底 外 面 －	内外面赤彩
255	SI018	土師器	坏	口 径 (12.6) 底 径 － 器 高 4.4	胴部 30% 底部 45%	各種微砂粒少量	内 面 褐灰 N3/0 外 面 黒褐 10YR3/1 焼 成 良好	内 面 ナデ後ミガキ 外 面 ナデ後ミガキ　ケズリ 底 外 面 －	内外面黒色処理
256	SI018	土師器	坏	口 径 (14.2) 底 径 － 器 高 (4.3)	胴部 30% 底部 20%	各種微砂粒少量	内 面 黒褐 5Y3/1 外 面 褐灰 7.5YR4/1 焼 成 良好	内 面 ナデ後ミガキ 外 面 ナデ後ミガキ　ケズリ後ミガキ 底 外 面 －	内外面黒色処理
257	SI018	土師器	坏	口 径 (13.4) 底 径 － 器 高 (3.4)	口縁部 20% 胴部 15%	各種砂粒少量、白色砂粒含	内 面 灰褐 7.5YR4/2 外 面 黒褐 7.5YR3/1 焼 成 良好	内 面 ナデ後ミガキ　ミガキ 外 面 ナデ後ミガキ　ミガキ 底 外 面 －	内外面黒色処理
258	SI018	土師器	高坏	口 径 － 底 径 － 器 高 (5.1)	坏部 20% 脚部 30%	各種砂粒少量	内 面 にぶい赤褐 7.5YR5/4 外 面 にぶい赤褐 5YR5/4 焼 成 良好	内 面 ミガキ 外 面 ヘラナデ 底 外 面 －	内外面赤彩
259	SI018	土師器	高坏	口 径 － 底 径 － 器 高 (5.5)	坏部 0% 脚部 40%	各種砂粒少量、白色微砂粒粒目立つ	内 面 黒褐 7.5YR3/1 外 面 赤褐 10R4/3 焼 成 良好	内 面 ケズリ 外 面 ナデ（ミガキ状） 底 外 面 ケズリ　ナデ	外面赤彩
260	SI018	土師器	高坏	口 径 14.3 底 径 (8.3) 器 高 10.5	全体 60%	各種砂粒少量、白色砂粒微量	内 面 坏部 5YR4/2 外 面 脚部 2.5YR4/2 焼 成 良好	内 面 ナデ後ヘラナデ 外 面 ナデ 底 外 面 ナデ	歪み顕著
261	SI018	土師器	鉢	口 径 (10.8) 底 径 － 器 高 (8.3)	60%	各種砂粒少量、白色砂粒含	内 面 にぶい赤褐 5YR5/4 外 面 にぶい赤褐 5YR5/4 焼 成 良好	内 面 ナデ後ヘラナデ後ナデ 外 面 ナデ　ケズリ後ミガキ 底 外 面 －	
262	SI018	土師器	高坏	口 径 － 底 径 8.5 器 高 (5.2)	脚部 90%	各種微砂粒少量	内 面 にぶい赤褐 5YR4/3 外 面 にぶい赤褐 7.5YR5/4 焼 成 良好	内 面 － 外 面 ケズリ後ナデ 底 外 面 ナデ	
263	SI018	土師器	高坏	口 径 － 底 径 9.9 器 高 (5.9)	脚部 60%	各種砂粒少量	内 面 坏部 5YR4/2 外 面 にぶい赤褐 5YR5/3 焼 成 良好	内 面 ナデ 外 面 光沢のあるヘラナデ 底 外 面 ナデ	赤彩か？
264	SI018	土師器	壺	口 径 (9.2) 底 径 3.8 器 高 9.0	全体 80%	各種微砂粒少量	内 面 にぶい赤褐 2.5YR4/4 外 面 にぶい赤褐 5YR4/4 焼 成 良好	内 面 ナデ 外 面 ナデ　ケズリ後ナデ・ミガキ 底 外 面 ナデ	内外面赤彩
265	SI018	土師器	甕	口 径 (16.0) 底 径 － 器 高 (12.0)	胴部 50% 脚部 5%	各種微砂粒少量	内 面 暗赤褐 5YR3/3 外 面 灰褐 7.5YR4/2 焼 成 良好	内 面 ナデ後ヘラナデ 外 面 ナデ　ケズリ（光沢あり） 底 外 面 －	
266	SI018	土師器	甕	口 径 (18.0) 底 径 － 器 高 (12.1)	口縁部 30% 胴部 20%	白色砂粒中量、赤褐雲母細粒微量	内 面 暗赤褐 5YR3/2 外 面 灰褐 5YR4/2 焼 成 良好	内 面 ナデ　ヘラナデ 外 面 ナデ　ケズリ後ナデ 底 外 面 －	粘土自体赤み
267	SI018	土師器	甕	口 径 － 底 径 6.6 器 高 (5.0)	胴部 10% 底部 50%	各種砂粒少量	内 面 黒褐 5YR3/1 外 面 暗赤褐 5YR3/2 焼 成 良好	内 面 ミガキ 外 面 ケズリ一部ヘラミガキ 底 外 面 ケズリ	外面黒色物質付着

No	遺構No.	種 類	器 種	法 量 (cm)			遺存度	胎 土	色調・焼成	技 法	備 考
268	SI018	土師器	甕	口 径	(24.0)		口縁部 15%	各種微砂粒少量	内 面 にぶい赤褐 2.5YR4/4	内 面 ナデ後ヘラナデ	内外面スス？付着
				底 径	–		胴部 5%		外 面 にぶい赤褐 2.5YR5/4	外 面 ナデ ケズリ後ナデ	
				器 高	(9.3)				焼 成 良好	底 外 面 –	
269	SI018	土師器	甕	口 径	–		胴部 20%	各種微砂粒多量、雲母粒中量、白色砂礫目立つ	内 面 にぶい赤褐 5YR4/3	内 面 ナデ ヘラナデ ミガキ	雲除産
				底 径	–				外 面 にぶい赤褐 5YR5/4	外 面 ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	(11.7)				焼 成 良好	底 外 面 –	
270	SI018	土師器	甕	口 径	–		胴部 20%	各種砂粒多量、雲母細粒微量	内 面 にぶい赤褐 5YR5/4	内 面 ケズリ後ナデ	雲除産か？
				底 径	6.55		底部 100%		外 面 灰褐 5YR4/2	外 面 ケズリ後ミガキ	
				器 高	(15.4)				焼 成 良好	底 外 面 ケズリ	
271	SI018	土師器	甕	口 径	18.9		全体 73%	白色砂粒・白色砂礫目立つ、雲母粒少量	内 面 にぶい黄橙 10YR5/3	内 面 ナデ後ヘラナデ	雲除産
				底 径	9.0				外 面 にぶい褐 7.5YR5/3	外 面 ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	29.6				焼 成 良好	底 外 面 ケズリ後ヘラナデ	
272	SI018	土師器	甕	口 径	21.8		全体 95%	各種微砂粒少量	内 面 にぶい赤褐 5YR5/4	内 面 ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	内面スス（黒色物質）付着
				底 径	8.6				外 面 にぶい赤褐 7.5YR5/4	外 面 ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	25.7				焼 成 良好	底 外 面 ケズリ	
273	SI018	土師器	甕	口 径	(22.8)		口縁部 10%	各種砂粒少量	内 面 にぶい赤褐 5YR5/4	内 面 ナデ ケズリ	
				底 径	–		胴部 10%		外 面 にぶい赤褐 5YR4/4	外 面 ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	(12.9)				焼 成 良好	底 外 面 –	
274	SI019	ミニチュア土器		口 径	7.2		全体 60%	各種微砂粒中量	内 面 褐 7.5YR3/4	内 面 ナデ	坏形手づくね
				底 径	3.8				外 面 にぶい褐 7.5YR5/4	外 面 ナデ	
				器 高	3.5				焼 成 良好	底 外 面 木葉痕	
275	SI019	土師器	坏	口 径	13.7		口縁部 95%	各種微砂粒少量	内 面 黒褐 7.5YR3/1	内 面 ナデ後ミガキ	内外面黒色処理
				底 径	–		胴部 100%		外 面 赤褐 2.5YR4/1	外 面 ナデ ケズリ後ミガキ	
				器 高	4.8				焼 成 良好	底 外 面 –	
276	SI019	土師器	坏	口 径	14.7		口縁部 80%	各種微砂粒少量	内 面 黒褐 5YR3/1	内 面 ヘラナデ後ミガキ	内外面黒色処理
				底 径	–		胴部 90%		外 面 褐灰 7.5YR4/1	外 面 ナデ後ミガキ ケズリ後ミガキ	
				器 高	5.6				焼 成 良好	底 外 面 –	
277	SI019	土師器	坏	口 径	12.4		全体 80%	各種微砂粒微量	内 面 灰褐 7.5YR4/2	内 面 ナデ後ミガキ	内外面黒色処理
				底 径	–				外 面 褐灰 7.5YR4/1	外 面 ナデ後ミガキ ケズリ後ミガキ	
				器 高	5.3				焼 成 良好	底 外 面 –	
278	SI019	土師器	坏	口 径	13.1		口縁部 70%	各種微砂粒微量	内 面 黒褐 10YR3/1	内 面 ナデ後ミガキ	内外面黒色処理
				底 径	–		胴部 80%		外 面 黒褐 10YR3/1	外 面 ナデ後ミガキ ケズリ後ミガキ	
				器 高	4.5				焼 成 良好	底 外 面 –	
279	SI019	土師器	坏	口 径	(14.4)		口縁部 40%	各種微砂粒微量	内 面 黒褐 7.5YR3/1	内 面 ナデ後ミガキ	内外面黒色処理
				底 径	–		胴部 45%		外 面 褐灰 10YR4/1	外 面 ナデ後ナデ・ミガキ	
				器 高	(5.1)				焼 成 良好	底 外 面 –	
280	SI019	土師器	坏	口 径	12.5		口縁部 35%	各種微砂粒微量	内 面	内 面 ナデ後ミガキ	内外面黒色処理
				底 径	6.0		胴部 45%		外 面 褐灰 10YR4/1	外 面 ナデ後ミガキ ヘラナデ	
				器 高	–				焼 成 良好	底 外 面 –	
281	SI019	土師器	坏	口 径	(11.3)		口縁部 50%	各種微砂粒少量	内 面 褐灰 7.5YR4/1	内 面 ヘラナデ後ミガキ	内外面黒色処理
				底 径	–		胴部 50%		外 面 褐灰 7.5YR4/1	外 面 ナデ ケズリ後ミガキ	
				器 高	4.7				焼 成 良好	底 外 面 –	
282	SI019	土師器	坏	口 径	13.1		口縁部 50%	各種微砂粒少量	内 面 褐灰 10YR4/1	内 面 ナデ後ミガキ	内外面黒色処理
				底 径	–		胴部 40%		外 面 暗赤灰 2.5YR3/1	外 面 ヘラナデ後ミガキ	
				器 高	5.0				焼 成 良好	底 外 面 –	
283	SI019	土師器	坏	口 径	(14.9)		口縁部 30%	各種微砂粒微量	内 面 黒褐 5YR3/1	内 面 ナデ ミガキ	内外面黒色処理
				底 径	–		胴部 25%		外 面 黒褐 7.5YR3/1	外 面 ミガキ ケズリ後ミガキ	
				器 高	6.2				焼 成 良好	底 外 面 –	
284	SI019	土師器	坏	口 径	(14.4)		口縁部 40%	各種砂粒少量、雲母微細粒含	内 面 黒褐 7.5YR3/2	内 面 ナデ ヘラナデ後ミガキ	内外面黒色処理
				底 径	–		胴部 50%		外 面 褐灰 7.5YR4/1	外 面 ナデ ケズリ後ミガキ	
				器 高	(5.0)				焼 成 良好	底 外 面 –	
285	SI019	土師器	坏	口 径	13.4		口縁部 50%	各種砂粒少量	内 面 黒褐 5YR3/1	内 面 ナデ ミガキ	内外面黒色処理
				底 径	–		胴部 60%		外 面 黒褐 7.5YR3/1	外 面 ナデ後ミガキ ケズリ後ミガキ	
				器 高	(4.0)				焼 成 良好	底 外 面 –	
286	SI019	土師器	坏	口 径	14.0		胴部 75%	各種微砂粒中量	内 面 褐 10R4/6	内 面 ナデ後丁寧なヘラナデ	内外面赤彩
				底 径	–		底部 100%		外 面 褐 10R4/6	外 面 ナデ ケズリ後ヘラナデ	
				器 高	5.9				焼 成 良好	底 外 面 –	
287	SI019	土師器	坏	口 径	13.7		口縁部 85%	各種微砂粒少量	内 面 にぶい赤褐 2.5YR4/4	内 面 ナデ後ミガキ ヘラナデ	内外面赤彩
				底 径	–		胴部 75%		外 面 にぶい赤褐 2.5YR4/4	外 面 ナデ ケズリ後ミガキ	
				器 高	4.6				焼 成 良好	底 外 面 –	
288	SI019	土師器	坏	口 径	14.9		口縁部 80%	各種微砂粒多量	内 面 褐 10R4/6	内 面 ナデ後ヘラナデ	内外面赤彩
				底 径	–		胴部 80%		外 面 にぶい赤褐 2.5YR4/4	外 面 ナデ ケズリ	
				器 高	5.0				焼 成 良好	底 外 面 –	
289	SI019	土師器	高坏	口 径	12.2		坏部 95%	各種微砂粒多量、白色砂粒目立つ	内 面 にぶい赤褐 2.5YR4/4	内 面 ナデ	内外面赤彩
				底 径	–				外 面 明赤褐 2.5YR5/6	外 面 ナデ ケズリ後ナデ	
				器 高	(3.8)				焼 成 良好	底 外 面 –	
290	SI019	土師器	坏	口 径	13.6		口縁部 70%	各種微砂粒中量	内 面 褐 2.5YR4/4	内 面 ナデ	内外面赤彩
				底 径	–		胴部 70%		外 面 赤 10R5/6	外 面 ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	5.3				焼 成 良好	底 外 面 –	
291	SI019	土師器	坏	口 径	14.6		胴部 90%	各種砂粒多量	内 面 赤褐 10R4/3	内 面 ナデ	内外面赤彩
				底 径	–		底部 85%		外 面 赤褐 10R4/3	外 面 ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	5.3				焼 成 良好	底 外 面 –	
292	SI019	土師器	坏	口 径	14.4		胴部 80%	各種微砂粒多量	内 面 にぶい赤褐 5YR4/3	内 面 ナデ ミガキ	外面赤彩 内面赤彩？
				底 径	–		底部 90%		外 面 にぶい赤褐 5YR4/4	外 面 ナデ ケズリ	
				器 高	4.9				焼 成 良好	底 外 面 –	

No	遺構No.	種 類	器 種	法 量 (cm)	遺存度	胎 土	色調・焼成	技 法	備 考
293	SI019	上師器	坏	口 径 14.0 底 径 － 器 高 (3.7)	全体 35%	各種微砂粒中量	内 面 暗褐 2.5YR3/2 外 面 灰褐 5YR4/2 焼 成 良好	内 面 ナデ ミガキ 外 面 ナデ ミガキ 底 外 面 －	内外面赤彩
294	SI019	上師器	坏	口 径 (13.0) 底 径 － 器 高 4.9	全体 30%	各種微砂粒中量	内 面 にぶい赤褐 2.5YR4/4 外 面 赤 10R4/6 焼 成 良好	内 面 ナデ 外 面 ケズリ後ミガキ 底 外 面 －	内外面赤彩
295	SI019	上師器	坏	口 径 (14.0) 底 径 － 器 高 (4.0)	口縁部 80% 胴部 10%	各種砂粒多量，白色スコリア粒目立つ	内 面 赤 10R4/6 外 面 赤 10R4/6 焼 成 良好	内 面 ナデ 外 面 ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ 底 外 面 －	内外面赤彩
296	SI019	上師器	坏	口 径 (13.0) 底 径 － 器 高 (4.6)	口縁部 30%	各種微砂粒多量	内 面 赤褐 2.5YR3/2 外 面 にぶい赤褐 2.5YR4/4 焼 成 良好	内 面 ナデ 外 面 ナデ ケズリ 底 外 面 －	内外面赤彩
297	SI019	上師器	坏	口 径 (12.4) 底 径 － 器 高 (4.5)	口縁部 25% 胴部 10%	各種微砂粒多量	内 面 褐 7.5YR4/3 外 面 にぶい赤褐 5YR5/4 焼 成 良好	内 面 ナデ ミガキ 外 面 ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ 底 外 面 －	内外面黒色処理？
298	SI019	上師器	坏	口 径 (15.2) 底 径 － 器 高 4.9	全体 30%	各種砂粒少量	内 面 にぶい赤褐 7.5YR5/4 外 面 にぶい赤褐 7.5YR5/4 焼 成 良好	内 面 ナデ 外 面 ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ 底 外 面 ケズリ後ミガキ	内面暗文状ミガキ
299	SI019	上師器	坏	口 径 (11.6) 底 径 － 器 高 4.4	口縁部 50% 胴部 50%	各種砂粒多量，黒色砂粒目立つ	内 面 赤褐 2.5YR4/6 外 面 赤褐 2.5YR4/6 焼 成 良好	内 面 ナデ 外 面 ナデ 強いケズリ 底 外 面 －	内外面赤彩？
300	SI019	上師器	鉢	口 径 (12.7) 底 径 － 器 高 (5.2)	口縁部 30% 胴部 20%	各種砂粒中量	内 面 黒褐 10YR3/1 外 面 黒褐 7.5YR3/1 焼 成 良好	内 面 ナデ後ヘラナデ 外 面 ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ 底 外 面 －	
301	SI019	上師器	甕	口 径 10.2 底 径 － 器 高 8.2	口縁部 100% 胴部 100%	各種砂粒多量	内 面 赤褐 2.5YR4/6 外 面 褐 10R3/4 焼 成 良好	内 面 ナデ ヘラナデ 外 面 ナデ ケズリ 丁寧なナデ 底 外 面 －	内外面赤彩 内外面ススけ着
302	SI019	上師器	鉢	口 径 － 底 径 － 器 高 (5.5)	口縁部破片	各種微砂粒少量	内 面 にぶい褐 7.5YR5/3 外 面 にぶい褐 7.5YR5/4 焼 成 良好	内 面 ヘラナデ後ミガキ 外 面 ナデ後ミガキ 底 外 面 －	
303	SI019	上師器	大型鉢	口 径 (24.0) 底 径 － 器 高 (5.4)	口縁部 20% 胴部 5%	各種微砂粒中量	内 面 にぶい赤褐 5YR5/4 外 面 にぶい赤褐 5YR4/3 焼 成 良好	内 面 ナデ後ヘラナデ 外 面 ナデ ケズリ後ナデ 底 外 面 －	
304	SI019	上師器	鉢	口 径 (15.2) 底 径 － 器 高 (7.2)	口縁部 25% 胴部 20%	各種微砂粒中量	内 面 黒褐 10YR3/1 外 面 褐灰 7.5YR4/1 焼 成 良好	内 面 ナデ後ヘラナデ後丁寧なナデ 外 面 ナデ ケズリ後ナデ 底 外 面 －	
305	SI019	須恵器	高坏	口 径 (13.4) 底 径 8.9 器 高 10.1	全体 70%	精緻，微細粒微量	内 面 赤褐 2.5YR4/1 外 面 褐灰 10YR4/1 焼 成 良好	内 面 ナデ 外 面 ナデ 底 外 面 －	内外面一部スス？付着
306	SI019	上師器	高坏	口 径 13.4 底 径 (8.5) 器 高 10.5	全体 70%	各種微砂粒少量，雲母細粒含	内 面 にぶい赤褐 5YR4/4 外 面 明赤褐 2.5YR5/6 焼 成 良好	内 面 ナデ ミガキ 外 面 ケズリ後ナデ 底 外 面 ナデ	胎土自体赤み 外面黒褐色物質付着
307	SI019	上師器	高坏	口 径 13.3 底 径 (9.2) 器 高 8.8	全体 70%	各種微砂粒少量	内 面 にぶい赤褐 5YR4/3 外 面 にぶい赤褐 5YR5/4 焼 成 良好	内 面 ナデ ミガキ 外 面 ケズリ ナデ 底 外 面 ナデ	内外面赤彩
308	SI019	上師器	高坏	口 径 13.5 底 径 (8.0) 器 高 8.3	全体 70%	各種微砂粒中量	内 面 にぶい赤褐 2.5YR4/3 外 面 褐 10R4/6 焼 成 良好	内 面 ナデ ヘラナデ ミガキ 外 面 ケズリ ナデ 底 外 面 ナデ	内外面赤彩
309	SI019	上師器	高坏	口 径 (15.0) 底 径 (10.6) 器 高 7.5	全体 40%	各種微砂粒多量	内 面 褐 2.5YR4/4 外 面 にぶい褐 7.5YR6/4 焼 成 良好	内 面 ナデ 外 面 ケズリ後ナデ 底 外 面 ナデ	内外面赤彩
310	SI019	上師器	高坏	口 径 － 底 径 (10.0) 器 高 (7.3)	脚部 90%	精緻，微細粒微量	内 面 にぶい褐 7.5YR6/3 外 面 黒 7.5YR2/1 焼 成 良好	内 面 ミガキ 外 面 ミガキ 底 外 面 －	
311	SI019	上師器	高坏	口 径 － 底 径 (10.0) 器 高 (5.9)	脚部 20%	各種微砂粒少量，白色微砂粒含	内 面 にぶい赤褐 2.5YR4/4 外 面 にぶい赤褐 2.5YR4/2 焼 成 良好	内 面 ナデ（ミガキ状） 外 面 ケズリ後ナデ 底 外 面 ナデ	胎土自体赤み
312	SI019	上師器	高坏	口 径 (8.6) 底 径 (6.0) 器 高	**脚部 70%**	各種砂粒少量，白色微砂粒含	内 面 灰黄褐 10YR4/2 外 面 褐 7.5YR4/4 焼 成 良好	内 面 ミガキ 外 面 ケズリ後ナデ 底 外 面 ナデ後ヘラナデ	外面赤彩
313	SI019	上師器	壺	口 径 (11.0) 底 径 3.8 器 高 9.0	全体 40%	各種微砂粒少量	内 面 にぶい褐 7.5YR5/3 外 面 にぶい褐 7.5YR5/3 焼 成 良好	内 面 ナデ ケズリ後ナデ 外 面 ナデ ケズリ 底 外 面 ケズリ	内外面スス付着
314	SI019	上師器	甕	口 径 (28.0) 底 径 － 器 高 (14.0)	口縁部～胴部破片	各種砂粒中量	内 面 褐 7.5YR4/3 外 面 褐 7.5YR4/3 焼 成 良好	内 面 ナデ ヘラナデ 外 面 ナデ ケズリ後ヘラナデ 底 外 面 －	内外面スス付着
315	SI019	上師器	甕	口 径 (21.0) 底 径 － 器 高 (13.5)	口縁部～胴部上半 50%	各種砂粒多量，白色砂粒目立つ	内 面 にぶい褐 7.5YR5/3 外 面 にぶい褐 7.5YR5/3 焼 成 良好	内 面 ナデ ヘラナデ 外 面 ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ 底 外 面 －	
316	SI019	上師器	甕	口 径 (19.8) 底 径 7.2 器 高 28.5	全体 80%	各種砂粒多量，白色砂粒・赤褐・雲母粒含	内 面 にぶい赤褐 5YR5/3 外 面 にぶい褐 7.5YR5/3 焼 成 良好	内 面 ナデ ヘラナデ 外 面 ナデ 丁寧なヘラナデ後ミガキ 底 外 面 ヘラナデ	雲母産 内面黒褐色物質付着

No	遺構No.	種 類	器 種	法 量 (cm)			遺存度	胎 土	色調・焼成		技 法		備 考
317	SI019	土師器	甕	口 径	14.3		全体 75%	各種微砂粒少量	内 面	にぶい橙 7.5YR6/4	内 面	ナデ ヘラナデ	
				底 径	6.0				外 面	にぶい橙 7.5YR6/4	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	
				器 高	22.4				焼 成	良好	底 外 面	ナデ	
318	SI019	土師器	甕	口 径	(19.0)		口縁部～胴部上半 25%	各種微砂粒多量	内 面	にぶい赤褐 5YR4/4	内 面	ナデ ヘラナデ ミガキ	
				底 径	–				外 面	にぶい赤褐 5YR4/4	外 面	ナデ ケズリ後ミガキ	
				器 高	(15.0)				焼 成	良好	底 外 面	–	
319	SI019	土師器	甕	口 径	–		胴部～底部 70%	各種微砂粒中量	内 面	褐灰 7.5YR4/1	内 面	ヘラナデ	
				底 径	6.2				外 面	灰褐 7.5YR4/2	外 面	ケズリ後ミガキ ミガキ	
				器 高	(35.8)				焼 成	良好	底 外 面	ケズリ	
320	SI019	土師器	甕	口 径	11.4		全体 95%	各種微砂粒中量	内 面	灰黄褐 10YR4/2	内 面	ナデ ヘラナデ	
				底 径	5.6				外 面	灰黄褐 10YR4/2	外 面	ナデ ケズリ	
				器 高	16.2				焼 成	良好	底 外 面	ケズリ	
321	SI019	土師器	甕	口 径	–		胴部～底部 40%	各種微砂粒中量	内 面	褐 2.5YR4/4	内 面	ミガキ	
				底 径	(10.0)				外 面	にぶい赤褐 7.5YR5/3	外 面	ケズリ後ミガキ	
				器 高	(23.5)				焼 成	良好	底 外 面	ナデ	
322	SI019	土師器	甕	口 径	–		底部破片	各種微砂粒中量	内 面	にぶい赤褐 5YR4/3	内 面	ミガキ	
				底 径	(9.6)				外 面	にぶい赤褐 7.5YR5/4	外 面	ヘラナデ後ミガキ	
				器 高	(4.1)				焼 成	良好	底 外 面	ケズリ	
323	SI019	土師器	甕	口 径	25.3		口縁部 50% 胴部 50%	各種微砂粒中量	内 面	にぶい赤褐 5YR4/3	内 面	ナデ ミガキ	
				底 径	8.0				外 面	暗褐 2.5YR3/4	外 面	ナデ ケズリ（ミガキ状）	
				器 高	22.7				焼 成	良好	底 外 面	ケズリ	
324	SI020	土師器	坏	口 径	(14.6)		**全体 75%**	各種微砂粒多量	内 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	内 面	ナデ ヘラナデ	
				底 径	丸底				外 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	外 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	内外面赤彩
				器 高	6.7				焼 成	良好	底 外 面	–	
325	SI020	土師器	坏	口 径	13.2		全体 90%	各種砂粒少量	内 面	赤褐 10R4/4	内 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	内外面赤彩
				底 径	丸底				外 面	赤褐 2.5YR4/2	外 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	底部外面黒色処理
				器 高	4.7				焼 成	良好	底 外 面	–	
326	SI020	土師器	高坏	口 径	–		脚部破片	各種微砂粒中量	内 面	黒褐 10YR3/1	内 面	ケズリ	
				底 径	(13.0)				外 面	黒褐 10YR3/1	外 面	ケズリ ナデ	
				器 高	(1.7)				焼 成	良好	底 外 面	ナデ	
327	SI020	土師器	高坏	口 径	–		脚部 90%	各種微砂粒少量	内 面	にぶい褐 7.5YR5/4	内 面	ナデ ケズリ	外面赤彩
				底 径	9.2				外 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	外 面	ケズリ ナデ	内外面スス付着
				器 高	(5.1)				焼 成	良好	底 外 面	ナデ	
328	SI020	土師器	高坏	口 径	14.0		全体 95%	各種微砂粒（特に白色）多量	内 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	内 面	ナデ ミガキ	内外面赤彩
				底 径	8.8				外 面	明褐 7.5YR5/6	外 面	ケズリ	
				器 高	(9.2)				焼 成	良好	底 外 面	ナデ	
329	SI020	土師器	甕	口 径	(21.0)		全体 40%	各種砂粒中量	内 面	にぶい赤褐 5YR4/3	内 面	ナデ ヘラナデ ミガキ	外面スス？付着
				底 径	–				外 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	外 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	(13.7)				焼 成	良好	底 外 面	–	
330	SI020	土師器	甕	口 径	19.7		全体 95%	各種砂粒多量	内 面	灰褐 7.5YR4/2	内 面	ナデ ケズリ後ミガキ	内外面スス付着
				底 径	6.4				外 面	黒褐 5YR3/1	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	
				器 高	17.2				焼 成	良好	底 外 面	–	
331	SI020	土師器	甕	口 径	(27.0)		全体 35%	各種微砂粒多量	内 面	にぶい赤褐 5YR4/4	内 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				底 径	(7.0)				外 面	にぶい赤褐 5YR4/3	外 面	ナデ ケズリ後ミガキ	
				器 高	24.5				焼 成	良好	底 外 面	–	
332	SI021	須恵器	壺	口 径	(15.0)		全体 35% 目立つ	白色砂粒少量、砂礫	内 面	黄灰 10Y4/1	内 面	ロクロナデ	
				底 径	–				外 面	褐灰黄 10YR5/2	外 面	ロクロナデ 回転ケズリ	
				器 高	(4.7)				焼 成	良好	底 外 面	–	
333	SI021	土師器	坏	口 径	12.6		全体 80%	白色微砂粒少量	内 面	灰褐 5YR4/2	内 面	ナデ ミガキ	
				底 径	丸底				外 面	褐灰 N3/0	外 面	ナデ ケズリ後ミガキ	内外面黒色処理
				器 高	4.7				焼 成	良好	底 外 面	–	
334	SI021	土師器	坏	口 径	14.8		全体 85%	白色微砂粒微量	内 面	褐灰 N3/0	内 面	ナデ ミガキ	
				底 径	丸底				外 面	褐灰 N3/0	外 面	ナデ ケズリ後ミガキ	内外面黒色処理
				器 高	5.0				焼 成	良好	底 外 面	–	
335	SI021	土師器	坏	口 径	(13.5)		全体 25%	各種微砂粒多量、白色微細粒多量	内 面	黒褐 5YR3/1	内 面	ナデ ミガキ ヘラナデ	
				底 径	–				外 面	黒褐 10YR3/1	外 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	内外面黒色処理
				器 高	(4.6)				焼 成	良好	底 外 面	–	
336	SI021	土師器	坏	口 径	(12.2)		全体 20%	白色微砂粒少量	内 面	にぶい褐 7.5YR5/4	内 面	ナデ ミガキ	
				底 径	–				外 面	灰褐 7.5YR4/2	外 面	ナデ ミガキ ヘラナデ	内外面黒色処理？
				器 高	(4.1)				焼 成	良好	底 外 面	–	
337	SI021	土師器	坏	口 径	(14.0)		全体 20%	各種微砂粒中量	内 面	にぶい赤褐 5YR5/4	内 面	ナデ	内外面赤彩
				底 径	–				外 面	明赤褐 2.5YR5/6	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	内外面スス付着
				器 高	(3.6)				焼 成	良好	底 外 面	–	
338	SI021	土師器	甕	口 径	(17.0)		口縁部 60%	各種砂粒多量	内 面	灰褐 5YR4/2	内 面	ナデ ヘラナデ	
				底 径	–				外 面	灰褐 7.5YR4/2	外 面	ナデ ヘラナデ	
				器 高	(5.8)				焼 成	良好	底 外 面	–	
339	SI021	土師器	甕	口 径	(20.2)		口縁部～胴部上半 60%	各種微砂粒・赤褐色スコリア粒多量	内 面	にぶい赤褐 5YR5/4	内 面	ナデ ヘラナデ	
				底 径	–				外 面	にぶい赤褐 5YR5/4	外 面	ナデ ヘラナデ	
				器 高	(13.7)				焼 成	良好	底 外 面	–	
340	SI021	土師器	甕	口 径	(11.2)		口縁部～胴部上半 35%	各種微砂粒少量	内 面	褐灰 7.5YR4/1	内 面	ナデ	
				底 径	–				外 面	灰褐 7.5YR4/2	外 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	(7.3)				焼 成	良好	底 外 面	–	
341	SI021	土師器	甕	口 径	–		底部破片	各種砂粒中量	内 面	にぶい赤褐 7.5YR5/4	内 面	ケズリ	
				底 径	8.4				外 面	にぶい赤褐 7.5YR5/4	外 面	ケズリ後ヘラナデ ミガキ	
				器 高	(7.5)				焼 成	良好	底 外 面	ケズリ	

No	遺構No.	種 類	器 種	法 量 (cm)			遺存度	胎 土	色調・焼成		技 法		備 考
				口 径	(18.0)				内 面	灰褐 5YR4/2	内 面	ナデ ヘラナデ	
342	SI021	土師器	甕	底 径	−		全体 35%	各種砂粒中量	外 面	にぶい赤褐 5YR4/3	外 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	(24.0)				焼 成	良好	底 外 面	−	
				口 径	13.6				内 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	内 面	ナデ ヘラナデ ミガキ	
343	SI022	土師器	坏	底 径	−		全体 95%	各種微砂粒中量	外 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	内外面赤彩 内面黒褐色物質付着
				器 高	4.9				焼 成	良好	底 外 面	−	
				口 径	15.5				内 面	にぶい赤褐 2.5YR4/3	内 面	ナデ ミガキ	
344	SI022	土師器	坏	底 径	丸底		全体 75%	各種微砂粒・雲母細粒中量	外 面	褐 10R4/4	外 面	ナデ ケズリ後ミガキ	内外面赤
				器 高	5.9				焼 成	良好	底 外 面	−	
				口 径	(17.0)				内 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	内 面	ナデ ヘラナデ ミガキ	
345	SI022	土師器	坏	底 径	丸底		全体 30%	各種微砂粒多量	外 面	にぶい赤褐 5YR4/3	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	内外面赤彩
				器 高	(4.3)				焼 成	良好	底 外 面	−	
				口 径	13.0				内 面	暗赤灰 2.5YR3/1	内 面	ナデ ヘラナデ	
346	SI022	土師器	鉢	底 径	−		全体 70%	各種微砂粒・赤褐色スコリア粒中量	外 面	褐灰 N3/0	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	内外面黒色処理？
				器 高	(6.3)				焼 成	良好	底 外 面	−	
				口 径	13.0				内 面	にぶい赤褐 5YR4/3	内 面	ナデ ケズリ後ミガキ	
347	SI022	土師器	坏	底 径	丸底		全体 80%	各種微砂粒・赤褐色スコリア粒多量	外 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	
				器 高	5.4				焼 成	良好	底 外 面	−	
				口 径	13.6				内 面	にぶい赤褐 5YR5/4	内 面	ナデ ミガキ	
348	SI022	土師器	坏	底 径	丸底		全体 75%	雲母細粒少量	外 面	褐 7.5YR4/3	外 面	ナデ ケズリ後ミガキ	
				器 高	5.0				焼 成	良好	底 外 面	−	
				口 径	−		胴部下半～		内 面	黒褐 7.5YR3/1	内 面	ヘラナデ ナデ	
349	SI022	土師器	甕	底 径	7.4		底部 50%	各種微砂粒多量	外 面	黒褐 10YR3/1	外 面	ケズリ後ナデ	
				器 高	(15.5)				焼 成	良好	底 外 面	−	
				口 径	(18.0)		口縁部～肩		内 面	にぶい赤褐 5YR4/3	内 面	ナデ ヘラナデ	
350	SI022	土師器	甕	底 径	−		部 20%	各種微砂粒中量，白色砂粒目立つ	外 面	黒褐 7.5YR3/1	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	
				器 高	(10.7)				焼 成	良好	底 外 面	−	
				口 径	18.0				内 面	にぶい赤褐 5YR4/3	内 面	ナデ ヘラナデ	
351	SI022	土師器	甕	底 径	5.4		口は 100%	各種微砂粒中量，白色砂状微量	外 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	内面黒褐色物質付着
				器 高	15.8				焼 成	良好	底 外 面	ケズリ	
				口 径	−			白色微砂粒少量，白色砂状含	内 面		内 面	−	
352	SI023	須恵器	蓋	底 径	−		ツマミ部分		外 面	にぶい褐 7.5YR5/3	外 面	ナデ	
				器 高	(1.0)				焼 成	良好	底 外 面	−	
				口 径	13.6			各種砂粒少量，白色砂粒目立つ	内 面	赤灰 2.5YR5/1	内 面	ロクロナデ	
353	SI023	須恵器	蓋	底 径	−		全体 20%		外 面	赤灰 2.5YR5/1	外 面	ロクロナデ 回転ケズリ	
				器 高	(2.0)				焼 成	良好	底 外 面	−	
				口 径	13.6			各種微砂粒・赤褐色スコリア粒少量	内 面	黒褐 7.5YR3/1	内 面	ナデ ミガキ	
354	SI023	土師器	坏	底 径	丸底		全体 90%		外 面	褐灰 7.5YR4/1	外 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	内外面黒色処理
				器 高	4.5				焼 成	良好	底 外 面	−	
				口 径	(13.8)				内 面	にぶい赤褐 5YR5/4	内 面	ナデ ミガキ	
355	SI023	土師器	坏	底 径	−		全体 15%	各種微砂粒少量	外 面	にぶい褐 7.5YR5/4	外 面	ナデ ミガキ ナデ	
				器 高	(2.8)				焼 成	良好	底 外 面	−	
				口 径	(13.2)				内 面	暗赤灰 2.5YR3/1	内 面	ナデ ミガキ	
356	SI023	土師器	坏	底 径	−		全体 20%	各種微砂粒少量	外 面	褐灰 N3/0	外 面	ナデ ケズリ後ミガキ	内外面黒色処理
				器 高	(3.9)				焼 成	良好	底 外 面	−	
				口 径	7.8				内 面	橙 5YR7/6	内 面	ナデ ケズリ後ナデ	瓶形
357	SI023	ミニチュア土器		底 径	3.6		全体 85%	各種微砂粒少量	外 面	にぶい褐 7.5YR5/4	外 面	ナデ	手づくね
				器 高	5.1				焼 成	良好	底 外 面	ナデ	
				口 径	(10.6)				内 面	黒褐 7.5YR3/1	内 面	ナデ ミガキ	
358	SI023	土師器	鉢	底 径	−		全体 20%	各種微砂粒少量	外 面	灰褐 5YR4/2	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	内外面摩滅
				器 高	(7.0)				焼 成	やや不良	底 外 面	−	
				口 径	20.0				内 面	明赤褐 2.5YR5/6	内 面	ナデ ケズリ後ミガキ	
359	SI023	土師器	高坏	底 径	13.9		全体 95%	各種微砂粒多量，雲母粒・白色針状微量	外 面	にぶい赤褐 5YR5/4	外 面	ナデ ケズリ後ミガキ	内外面赤彩
				器 高	13.1				焼 成	良好	底 外 面	−	
				口 径	−			白色砂粒・砂礫・雲母粒多量	内 面	灰褐 7.5YR4/2	内 面	ナデ	装飾産
360	SI023	土師器	甕	底 径	−		口縁部破片		外 面	灰黄褐 10YR4/2	外 面	ナデ	
				器 高	(4.2)				焼 成	良好	底 外 面	−	
				口 径	(13.0)		口縁部～胴	各種砂粒多量，白色砂粒目立つ	内 面	黒褐 10YR3/1	内 面	ヘラナデ	
361	SI023	土師器	甕	底 径	−		部上半 35%		外 面	灰褐 7.5YR4/2	外 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	(6.9)				焼 成	良好	底 外 面	−	
				口 径	(13.3)				内 面	灰褐 7.5YR4/2	内 面	ナデ ヘラナデ	
362	SI023	土師器	甕	底 径	5.7		全体 80%	各種微砂粒多量	外 面	にぶい赤褐 10YR4/3	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	
				器 高	15.1				焼 成	良好	底 外 面	ケズリ後ナデ	
				口 径	−				内 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	内 面	ヘラナデ	
363	SI023	土師器	甕	底 径	8.0		底部のみ	各種微砂粒多量	外 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	外 面	ケズリ後ナデ・ミガキ	内面スス付着
				器 高	(3.0)				焼 成	良好	底 外 面	ケズリ後ナデ	
				口 径	15.4				内 面	黒褐 7.5YR3/1	内 面	ナデ ヘラナデ	
364	SI023	土師器	甕	底 径	8.0		全体 90%	各種砂粒多量	外 面	灰褐 7.5YR4/2	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	内外面白褐色物質付着 胎土赤み
				器 高	18.2				焼 成	やや不良	底 外 面	ケズリ後ナデ	
				口 径	19.2				内 面	褐 7.5YR4/3	内 面	ナデ ヘラナデ	
365	SI023	土師器	甕	底 径	−		口縁部～胴部上半 60%	各種砂粒多量	外 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	内面スス付着
				器 高	(15.4)				焼 成	良好	底 外 面	−	
				口 径	17.5				内 面	褐 7.5YR4/3	内 面	ナデ ヘラナデ	
366	SI023	土師器	甕	底 径	8.0		全体 95%	各種砂粒多量	外 面	灰黄褐 10YR4/2	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	焼熱
				器 高	30.3				焼 成	良好	底 外 面	ケズリ後ナデ	

No	遺構No.	種 類	器 種	法 量 (cm)			遺存度	胎 土	色調・焼成		技 法		備 考
367	SI023	土師器	甕	口 径	–		胴部～底部 75%	各種微砂粒中量、雲母細粒微量	内 面	にぶい赤褐 5YR4/3	内 面	ケズリ後ナデ	内外面スス付着
				底 径	9.0				外 面	灰褐 5YR4/2	外 面	ケズリ後ナデ	
				器 高	22.5				焼 成	良好	底 外 面	ケズリ後ナデ	
368	SI023	土師器	甑	口 径	26.4		全体 90%	各種微砂粒多量	内 面	にぶい赤褐 5YR4/3	内 面	ナデ ヘラナデ後ミガキ	
				底 径	9.0				外 面	にぶい赤褐 5YR5/4	外 面	強いナデ ケズリ後ミガキ	
				器 高	19.5				焼 成	良好	底 外 面	–	
369	SI024a	ミニチュア土器		口 径	(6.8)		全体 25%	赤褐色スコリア少量	内 面	灰褐 7.5YR4/2	内 面	ナデ	坏形 手づくね
				底 径	(4.0)				外 面	灰黄褐 10YR4/2	外 面	ナデ	
				器 高	3.0				焼 成	ややボロ	底 外 面	指調整	
370	SI024a	土師器	甕	口 径	(22.6)		口縁部～胴部上半 20%	各種微砂粒多量	内 面	にぶい褐 5YR5/4	内 面	ナデ ヘラナデ	武蔵産 外面スス？付着
				底 径	–				外 面	にぶい褐 7.5YR5/3	外 面	ナデ ケズリ	
				器 高	(10.0)				焼 成	良好	底 外 面	–	
371	SI024a	土師器	甕	口 径	–		胴部破片	白色砂粒多量、砂礫雲母細粒含	内 面	褐灰 7.5YR4/1	内 面	ナデ	常陸産
				底 径	–				外 面	にぶい赤褐 5YR5/3	外 面	ナデ後ミガキ	
				器 高	(17.1)				焼 成	良好	底 外 面	–	
372	SI024b	須恵器	蓋	口 径	15.2		全体 15%	白色微砂粒少量	内 面	赤灰 2.5YR5/1	内 面	ロクロナデ	
				底 径	–				外 面	赤灰 2.5YR5/1	外 面	ロクロナデ 回転ケズリ	
				器 高	(3.8)				焼 成	良好	底 外 面	–	
373	SI024b	土師器	坏	口 径	13.4		全体 75%	各種微砂粒中量	内 面	黒褐 7.5YR3/1	内 面	ナデ ミガキ	内外面黒色処理
				底 径	丸底				外 面	黒褐 10YR3/1	外 面	ナデ ヘラナデ後ミガキ	
				器 高	5.4				焼 成	良好	底 外 面	–	
374	SI024b	土師器	坏	口 径	(13.4)		全体 65%	各種微砂粒多量	内 面	黒褐色 5YR3/1	内 面	ナデ後ミガキ	内外面黒色処理
				底 径	丸底				外 面	褐灰 7.5YR4/1	外 面	ナデ後ミガキ ケズリ後ナデ	
				器 高	3.9				焼 成	良好	底 外 面	–	
375	SI024b	土師器	坏	口 径	(15.6)		全体 30%	各種微砂粒多量	内 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	内 面	ナデ後ミガキ	内外面赤彩・黒色処
				底 径	丸底				外 面	褐 10R4/4	外 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	(5.7)				焼 成	良好	底 外 面	–	
376	SI024b	土師器	坏	口 径	14.2		全体 95%	各種微砂粒中量、白色砂粒目立つ	内 面	にぶい赤褐 2.5YR4/3	内 面	ナデ ケズリ ミガキ	内外面赤彩 赤彩に重ねて黒色処理
				底 径	4.7				外 面	にぶい赤褐 2.5YR4/3	外 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	6.0				焼 成	良好	底 外 面	ケズリ後ナデ・ミガキ	
377	SI024b	土師器	坏	口 径	(16.4)		全体 45%	各種微砂粒中量	内 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	内 面	ナデ ヘラナデ	内外面赤彩
				底 径	丸底				外 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	外 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	(5.3)				焼 成	良好	底 外 面	–	
378	SI024b	土師器	坏	口 径	(14.0)		全体 40%	各種微砂粒多量	内 面	にぶい赤褐 2.5YR4/3	内 面	ナデ	内外面赤彩
				底 径	–				外 面	にぶい赤褐 2.5YR4/3	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	
				器 高	6.4				焼 成	良好	底 外 面	–	
379	SI024b	土師器	坏	口 径	(13.6)		全体 70%	各種微砂粒中量、白色砂粒目立つ	内 面	にぶい赤褐 2.5YR4/3	内 面	ナデ後ミガキ	内外面赤彩
				底 径	–				外 面	明赤褐 2.5YR5/6	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	
				器 高	5.1				焼 成	良好	底 外 面	–	
380	SI024b	土師器	坏	口 径	(15.8)		全体 45%	各種微砂粒中量	内 面	にぶい赤褐 2.5YR4/3	内 面	ナデ後ミガキ	内外面赤彩 底面ヘラ書き
				底 径	丸底				外 面	にぶい赤褐 5YR4/3	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	
				器 高	4.5				焼 成	良好	底 外 面	–	
381	SI024b	土師器	坏	口 径	(14.0)		全体 55%	各種微砂粒少量	内 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	内 面	ナデ ミガキ	内外面 赤彩 底面ヘラ書き
				底 径	丸底				外 面	にぶい赤褐 2.5YR4/3	外 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	4.3				焼 成	良好	底 外 面	–	
382	SI024b	土師器	坏	口 径	13.3		全体 70%	各種砂粒中量、黒色スコリア粒子目立つ	内 面	にぶい赤褐 2.5YR4/3	内 面	ナデ	内外面赤彩
				底 径	丸底				外 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	外 面	ナデ ケズリ後ミガキ	
				器 高	5.7				焼 成	良好	底 外 面	–	
383	SI024b	土師器	坏	口 径	12.4		全体 95%	各種微砂粒・赤褐色スコリア粒少量	内 面	にぶい赤褐 2.5YR4/3	内 面	ナデ ミガキ	内外面赤彩
				底 径	–				外 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	外 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	(5.3)				焼 成	良好	底 外 面	–	
384	SI024b	土師器	坏	口 径	(13.0)		全体 55%	各種砂粒多量	内 面	にぶい赤褐 5YR5/4	内 面	ナデ ヘラナデ後ミガキ	内外面スス付着
				底 径	–				外 面	にぶい褐 7.5YR5/3	外 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	6.6				焼 成	良好	底 外 面	–	
385	SI024b	土師器	高坏	口 径	–		脚部 50%	各種微砂粒多量	内 面	にぶい褐 7.5YR5/3	内 面	ナデ	外面赤彩
				底 径	(10.0)				外 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	外 面	ケズリ後ナデ	
				器 高	(4.9)				焼 成	良好	底 外 面	ナデ	
386	SI024b	土師器	高坏	口 径	–		脚部のみ	各種微砂粒多量	内 面	にぶい赤褐 2.5YR5/4	内 面	ミガキ	内外面赤彩
				底 径	9.0				外 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	外 面	ケズリ後ナデ	
				器 高	(4.9)				焼 成	良好	底 外 面	ナデ	
387	SI024b	土師器	甕	口 径	(13.4)		口縁部破片	各種微砂粒多量	内 面	にぶい褐 7.5YR5/3	内 面	ナデ ヘラナデ	
				底 径	–				外 面	にぶい褐 7.5YR5/4	外 面	ナデ	
				器 高	(6.0)				焼 成	良好	底 外 面	–	
388	SI024b	須恵器	甕	口 径	–		胴部破片	各種微砂粒多量	内 面	褐 7.5YR4/3	内 面	ナデ ミガキ	
				底 径	–				外 面	にぶい褐 7.5YR5/4	外 面	ナデ タタキ	
				器 高	(4.6)				焼 成	良好	底 外 面	–	
389	SI024b	土師器	甕	口 径	(17.0)		口縁部～胴部上半 40%	各種微砂粒少量	内 面	にぶい褐 7.5YR5/3	内 面	ナデ ヘラナデ	
				底 径	–				外 面	にぶい褐 7.5YR5/4	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	
				器 高	(11.7)				焼 成	良好	底 外 面	–	
390	SI024b	土師器	甕	口 径	–		底部～胴下半	各種微砂粒少量	内 面	にぶい褐 7.5YR5/3	内 面	ナデ ヘラナデ	
				底 径	(8.0)				外 面	にぶい褐 7.5YR5/4	外 面	ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	(11.3)				焼 成	良好	底 外 面	ケズリ後ナデ・ミガキ	
391	SI024b	土師器	甕	口 径	(14.2)		全体 30%	各種微砂粒中量	内 面	にぶい赤褐 5YR5/4	内 面	ナデ ヘラナデ	
				底 径	–				外 面	にぶい赤褐 7.5YR5/3	外 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	(19.4)				焼 成	良好	底 外 面	–	
392	SI024b	土師器	甕	口 径	(11.8)		全体 40%	各種微砂粒少量	内 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	内 面	ナデ ヘラナデ	
				底 径	–				外 面	にぶい赤褐 5YR4/3	外 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	(16.7)				焼 成	良好	底 外 面	–	

No	遺構No.	種 類	器 種	法 量 (cm)			遺存度	胎 土	色調・焼成		技 法		備 考
393	S1024b	須恵器	甕	口 径	24.6		口縁部 80% 底部 100%	白色微砂粒少量	内 面	赤灰 2.5YR5/1	内 面	ナデ	
				底 径	18.7				外 面	灰黄褐 10YR5/2	外 面	ナデ　タタキ　カキ目	内外面自然釉
				器 高	53.3				焼 成	良好	底 外 面	–	
394	S1024b	土師器	甕	口 径	(26.0)			各種砂粒多量、白色砂粒目立つ	内 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	内 面	ナデ　ヘラナデ	
				底 径	–		全体 25%		外 面	にぶい赤褐 2.5YR5/4	外 面	ナデ　ケズリ	
				器 高	(17.0)				焼 成	良好	底 外 面	–	
395	S1024b	土師器	甕	口 径	(20.0)		口縁部～頸部 50%	各種微砂粒中量	内 面	にぶい赤褐 2.5YR5/4	内 面	ナデ　ヘラナデ　ミガキ	
				底 径	–				外 面	にぶい赤褐 5YR5/4	外 面	ナデ　ケズリ後ミガキ	
				器 高	(9.7)				焼 成	良好	底 外 面	–	
396	S1024b	土師器	甕	口 径	–		底部破片	各種微砂粒多量	内 面	灰褐 7.5YR4/2	内 面	ケズリ後ミガキ	
				底 径	(7.6)				外 面	黒褐 7.5YR3/1	外 面	ケズリ後ナデ	
				器 高	(5.8)				焼 成	良好	底 外 面	–	
397	S1025	土師器	坏	口 径	6.5		全体 95%	白色微砂粒多量	内 面	にぶい赤褐 5YR4/3	内 面	ナデ　ヘラナデ	内面スス付着（灯明皿？）
				底 径	6.2				外 面	にぶい赤褐 5YR4/3	外 面	ナデ	
				器 高	3.5				焼 成	良好	底 外 面	木葉痕	
398	S1025	須恵器	甕	口 径	–		胴部または肩部破片	細密	内 面	灰黄褐 10YR6/2	内 面	当て具痕（同心円）	
				底 径	–				外 面	赤灰 2.5YR5/1	外 面	タタキ	
				器 高	(5.1)				焼 成	良好	底 外 面	–	
399	S1026	ミニチュア土器		口 径	(2.8)		全体 50%	各種砂粒少量	内 面	分離不能	内 面	ナデ	掬形？ 手づくね
				底 径	(1.8)				外 面	にぶい赤褐 5YR4/3	外 面	ナデ	
				器 高	2.7				焼 成	良好	底 外 面	–	
400	S1026	須恵器	坏	口 径	–		口縁部～体部破片	白色微砂粒・雲母細粒中量	内 面	にぶい黄褐 10YR5/3	内 面	ロクロナデ	
				底 径	–				外 面	灰黄褐 10YR6/2	外 面	ロクロナデ	
				器 高	(3.9)				焼 成	良好	底 外 面	–	
401	S1026	須恵器	甕	口 径	–		胴部破片	各種微砂粒中量	内 面	にぶい赤褐 5YR4/3	内 面	ナデ	
				底 径	–				外 面	にぶい褐 7.5YR5/3	外 面	ナタキ	
				器 高	(5.1)				焼 成	良好	底 外 面	–	
402	S1026	土師器	甕	口 径	–		底部 25%	白色砂粒・砂礫・雲母粒多量	内 面	にぶい黄褐 10YR5/3	内 面	ナデ	常陸産　内面基幹色物質付着 外面スス？付着
				底 径	(9.6)				外 面	にぶい褐 7.5YR5/3	外 面	ヘラ　ミガキ　ナデ	
				器 高	(3.3)				焼 成	良好	底 外 面	ナデ	
403	S1027	ミニチュア土器		口 径	(6.0)		全体 65%	赤褐色スコリア粒少量	内 面	橙 7.5YR7/6	内 面	ナデ	掬形 手づくね
				底 径	3.4				外 面	にぶい褐 7.5YR5/4	外 面	ナデ	
				器 高	3.7				焼 成	やや不良	底 外 面	ナデ	
404	S1027	ミニチュア土器		口 径	4.0		全体 95%	各種砂粒少量	内 面	橙 7.5YR7/6	内 面	ナデ	球形 手づくね
				底 径	4.0				外 面	にぶい褐 7.5YR5/4	外 面	ナデ	
				器 高	2.4				焼 成	やや不良	底 外 面	ナデ	
405	S1027	土師器	坏	口 径	13.6		全体 90%	各種微砂粒多量、雲母細粒微量	内 面	黒褐 7.5YR3/1	内 面	ナデ　ミガキ	内外面黒色処理
				底 径	丸底				外 面	黒褐 10YR3/1	外 面	ナデ　ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	5.2				焼 成	良好	底 外 面	–	
406	S1027	土師器	坏	口 径	(12.2)		全体 30%	各種微砂粒少量	内 面	褐灰 7.5YR4/1	内 面	ミガキ	内外面黒色処理
				底 径	–				外 面	灰褐 5YR4/2	外 面	ミガキ　ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	5.1				焼 成	良好	底 外 面	–	
407	S1027	土師器	坏	口 径	15.4		全体 80%	各種微砂粒多量、赤褐色スコリア粒目立つ	内 面	灰褐 7.5YR4/2	内 面	ナデ　ミガキ	内面ミガキ状暗文 内外面黒色処理
				底 径	丸底				外 面	灰褐 7.5YR4/2	外 面	ナデ　ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	5.5				焼 成	良好	底 外 面	–	
408	S1027	土師器	坏	口 径	(14.3)		全体 20%	白色微砂粒少量	内 面	褐灰 N3/0	内 面	ミガキ	内外面黒色処理
				底 径	–				外 面	褐灰 N3/0	外 面	ミガキ　ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	(4.0)				焼 成	良好	底 外 面	–	
409	S1027	土師器	坏	口 径	(12.9)		底部 30%	各種微砂粒少量	内 面	にぶい赤褐 2.5YR4/3	内 面	ナデ　ヘラナデ　ミガキ	外面赤彩 外面黒色処理
				底 径	–				外 面	灰赤 2.5YR4/2	外 面	ナデ　ケズリ後ミガキ	
				器 高	(4.7)				焼 成	良好	底 外 面	–	
410	S1027	土師器	坏	口 径	(15.2)		全体 20%	白色微砂粒・赤褐色スコリア微量	内 面	灰褐 7.5YR4/2	内 面	ミガキ	内外面黒色処理
				底 径	–				外 面	褐灰 7.5YR4/1	外 面	ミガキ　ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	(4.0)				焼 成	良好	底 外 面	–	
411	S1027	土師器	坏	口 径	13.2		全体 80%	各種微砂粒多量	内 面	にぶい赤褐 5YR5/4	内 面	ナデ　ミガキ	
				底 径	丸底				外 面	にぶい赤褐 5YR5/4	外 面	ナデ　ケズリ後ミガキ	
				器 高	5.7				焼 成	良好	底 外 面	–	
412	S1027	土師器	坏	口 径	13.6		全体 50%	各種微砂粒・雲母細粒少量	内 面	褐灰 7.5YR4/1	内 面	ナデ　ミガキ	内外面黒色処理
				底 径	–				外 面	灰褐 7.5YR4/2	外 面	ナデ　ケズリ後ミガキ	
				器 高	(4.9)				焼 成	良好	底 外 面	–	
413	S1027	土師器	坏	口 径	16.2		全体 55%	各種微砂粒少量、白色粘状微量	内 面	にぶい赤褐 5YR5/4	内 面	ナデ　ミガキ	内面黒色処理？
				底 径	丸底				外 面	にぶい褐 7.5YR5/3	外 面	ナデ　ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	5.5				焼 成	良好	底 外 面	–	
414	S1027	土師器	坏	口 径	13.0		全体 25%	各種砂粒多量	内 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	内 面	ナデ　ミガキ	内外面赤彩
				底 径	丸底				外 面	褐 10R4/4	外 面	ナデ　ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	(5.1)				焼 成	良好	底 外 面	–	
415	S1027	土師器	坏	口 径	12.0		全体 65%	各種微砂粒多量	内 面	黒褐 5YR3/1	内 面	ナデ　ミガキ	内外面黒色処理
				底 径	–				外 面	黒褐 10YR3/1	外 面	ナデ　ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	(5.4)				焼 成	良好	底 外 面	–	
416	S1027	土師器	高坏	口 径	(17.2)		坏部 25%	各種微砂粒少量	内 面	にぶい赤褐 2.5YR4/3	内 面	ナデ　ヘラナデ　ミガキ	内外面赤彩
				底 径	–				外 面	褐 10R4/4	外 面	ナデ　ケズリ後ナデ	
				器 高	(5.1)				焼 成	良好	底 外 面	–	
417	S1027	土師器	高坏	口 径	(14.5)		坏部 35%	各種微砂粒少量	内 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	内 面	丁寧なナデ	内外面赤彩
				底 径	–				外 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	外 面	ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	(4.0)				焼 成	良好	底 外 面	–	

No	遺構No.	種 類	器 種	法 量 (cm)			遺存度	胎 土	色調・焼成		技 法		備 考
				口 径		−			内 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	内 面	ナデ	
418	SI027	土師器	高坏	底 径		(10.9)	脚部 70%	各種微砂粒多量	外 面	にぶい赤褐 2.5YR5/4	外 面	ケズリ後ナデ	内外面赤彩
				器 高		(5.6)			焼 成	良好	底 外 面	木葉痕	
				口 径		14.0			内 面	黒褐 5YR3/1	内 面	ナデ ケズリ後ヘラナデ	
419	SI027	土師器	椀	底 径		−	全体 70%	各種微砂粒多量	外 面	にぶい赤褐 5YR4/3	外 面	ナデ ケズリ後ミガキ	
				器 高		(16.0)			焼 成	良好	底 外 面	−	
				口 径		21.3			内 面	にぶい褐 7.5YR5/4	内 面	ナデ ケズリ後ヘラナデ	内面赤褐色物質付着
420	SI027	土師器	椀	底 径		7.2	全体 80%	各種微砂中量	外 面	にぶい褐 7.5YR5/3	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	外面スス付着
				器 高		32.0			焼 成	良好	底 外 面	ケズリ後ナデ	
				口 径		−			内 面	にぶい褐 7.5YR5/3	内 面	ヘラナデ?	内面赤褐色物質付着
421	SI027	土師器	椀	底 径		(6.8)	胴部～底部 45%	各種微砂粒多量	外 面	にぶい赤褐 5YR5/4	外 面	ケズリ後ナデ・ミガキ	外面黒色物質付着
				器 高		(23.0)			焼 成	良好	底 外 面	ヘラナデ	
				口 径		(12.2)			内 面	にぶい赤褐 5YR5/4	内 面	ナデ ケズリ	
422	SI027	土師器	壺	底 径		−	口縁部～胴 部上半 40%	各種微砂中量	外 面	灰褐 7.5YR4/2	外 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	内面スス?付着
				器 高		(8.9)			焼 成	良好	底 外 面	−	
				口 径		−	胴部下半		内 面	にぶい赤褐 5YR4/3	内 面	ナデ後ミガキ ケズリ後ナデ	
423	SI027	土師器	甕	底 径		(11.0)	40%	各種微砂粒少量、白色針状微量	外 面	にぶい褐 7.5YR5/3	外 面	ヘラナデ ケズリ後ミガキ	
				器 高		(14.5)			焼 成	良好	底 外 面	−	
				口 径		5.1			内 面	灰褐 7.5YR4/2	内 面	ナデ	瑞形
424	SI028	ミニチュア土器		底 径		2.4	全体 100%	各種微砂粒少量	外 面	褐灰 7.5YR4/1	外 面	ナデ	手づくね
				器 高		3.5			焼 成	良好	底 外 面	ナデ	
				口 径		5.3			内 面	橙 7.5YR6/6	内 面	ナデ	瑞形
425	SI028	ミニチュア土器		底 径		3.6	全体 100%	各種微砂粒少量	外 面	にぶい褐 7.5YR5/3	外 面	ナデ	手づくね
				器 高		2.4			焼 成	良好	底 外 面	ナデ	
				口 径		11.5			内 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	内 面	ナデ ミガキ	
426	SI028	土師器	坏	底 径		丸底	全体 85%	各種微砂粒中量	外 面	明赤褐 2.5YR5/6	外 面	ナデ ミガキ	内外面赤み
				器 高		(5.3)			焼 成	良好	底 外 面	−	
				口 径		14.9			内 面	にぶい赤褐 5YR5/4	内 面	ナデ ミガキ	内外面赤彩
427	SI028	土師器	坏	底 径		ほぼ 100%		各種微砂多量	外 面	暗 10R4/4	外 面	ケズリ後ナデ	内面赤褐色物質付着
				器 高		5.5			焼 成	良好	底 外 面	−	外面スス?付着
				口 径		14.0			内 面	にぶい赤褐 2.5YR4/3	内 面	ナデ ミガキ	
428	SI028	土師器	坏	底 径		−	全体 35%	各種微砂粒多量	外 面	にぶい赤褐 5YR5/4	外 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	内外面赤彩
				器 高		(4.1)			焼 成	良好	底 外 面	−	
				口 径		14.1			内 面	にぶい赤褐 5YR4/4	内 面	ナデ後ミガキ	内外面赤彩
429	SI028	土師器	坏	底 径		丸底	全体 85%	各種微砂粒多量	外 面	黄褐 10R5/6	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	内面スス?付着
				器 高		(5.0)			焼 成	良好	底 外 面	−	
				口 径		13.9			内 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	内 面	ナデ	
430	SI028	土師器	坏	底 径		丸底	全体 90%	各種微砂粒少量	外 面	にぶい赤褐 2.5YR5/4	外 面	ナデ ケズリ後ナデ?	内外面赤彩
				器 高		4.7			焼 成	良好	底 外 面	−	
				口 径		(13.6)			内 面	灰褐 5YR4/2	内 面	ナデ ミガキ	
431	SI028	土師器	坏	底 径		−	全体 40%	各種微砂多量	外 面	にぶい赤褐 5YR4/3	外 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	内外面赤彩
				器 高		(4.3)			焼 成	良好	底 外 面	−	
				口 径		−			内 面	にぶい赤褐 5YR4/4	内 面	ヘラナデ ミガキ	
432	SI028	土師器	坏	底 径		丸底	底部破片	各種微砂粒多量	外 面	にぶい赤褐 5YR5/4	外 面	ナデ ケズリ	底面ヘラ書き
				器 高		(3.0)			焼 成	良好	底 外 面	−	
				口 径		(14.2)			内 面	にぶい赤褐 5YR4/3	内 面	ナデ ヘラミガキ	内外面赤彩
433	SI028	土師器	坏	底 径		−	全体 40%	各種微砂粒中量	外 面	にぶい褐 7.5YR5/3	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	内外面スス?付着
				器 高		(3.7)			焼 成	良好	底 外 面	−	
				口 径		13.2			内 面	黄褐 10R5/6	内 面	ナデ ヘラミガキ	
434	SI028	土師器	坏	底 径		丸底	全体 95%	各種砂粒・微砂粒多量	外 面	にぶい赤褐 2.5YR5/4	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	内外面赤彩
				器 高		4.3			焼 成	良好	底 外 面	−	
				口 径		11.2			内 面	灰赤 2.5YR4/2	内 面	ナデ ミガキ	
435	SI028	土師器	坏	底 径		丸底	全体 80%	各種微砂粒中量	外 面	にぶい赤褐 2.5YR4/3	外 面	ナデ ケズリ後ミガキ	内外面赤彩
				器 高		8.65			焼 成	良好	底 外 面	−	
				口 径		(10.8)			内 面	灰褐 5YR4/2	内 面	ナデ ヘラナデ	
436	SI028	土師器	坏	底 径		−	口縁部破片	各種微砂粒多量	外 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	内外面赤彩
				器 高		(3.3)			焼 成	良好	底 外 面	−	内面スス付着
				口 径		(14.0)			内 面	にぶい赤褐 5YR4/3	内 面	ナデ	
437	SI028	土師器	高坏	底 径		−	坏部 30%	各種微砂粒多量	外 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	内外面赤彩
				器 高		(4.7)			焼 成	良好	底 外 面	−	
				口 径		(13.4)			内 面	灰褐 5YR4/2	内 面	ナデ ミガキ	
438	SI028	土師器	高坏	底 径		−	坏部 65%	白色微砂粒少量	外 面	にぶい赤褐 2.5YR4/3	外 面	ナデ ケズリ後ヘラナデ	内外面赤彩
				器 高		(3.9)			焼 成	良好	底 外 面	−	
				口 径		−			内 面	灰褐 7.5YR5/2	内 面	ナデ ケズリ ナデ	
439	SI028	土師器	高坏	底 径		7.8	脚部 75%	各種微砂粒多量	外 面	にぶい赤褐 5YR4/3	外 面	ケズリ後ナデ	外面赤彩
				器 高		(5.1)			焼 成	良好	底 外 面	ナデ	
				口 径		17.6			内 面	褐 7.5YR4/3	内 面	ナデ ケズリ、ヘラナデ	
440	SI028	土師器	甕	底 径		−	口縁部～胴 部 85%	各種砂粒多量	外 面	にぶい褐 7.5YR5/3	外 面	ナデ ケズリ	
				器 高		(9.0)			焼 成	良好	底 外 面	−	
				口 径		(12.4)			内面	灰褐 7.5YR4/2	内面	不明	
441	SI028	土師器	壺	底 径		−	口縁部 80%	各種微砂粒多量	外面	にぶい赤褐 5YR5/4	外面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高		(7.1)			焼成	良好	底外面	−	
				口径		(18.6)			内面	にぶい赤褐 5YR5/4	内面	ナデ ケズリ後ナデ	
442	SI028	土師器	壺	底径		−	口縁部～胴 部上半 40%	各種微砂粒少量	外面	にぶい褐 7.5YR5/4	外面	ナデ ケズリ後ナデ	
				器高		(12.2)			焼成	良好	底外面	−	

No	遺構No.	種 類	器 種	法 量 (cm)			遺存度	胎 土	色調・焼成		技 法		備 考
443	SI028	土師器	甕	口 径	22.0		口縁部～胴部上半 65%	各種砂粒多量	内 面	にぶい赤褐 5YR5/3	内 面	ナデ　ケズリ後ナデ・ミガキ	
				底 径	−				外 面	灰褐 7.5YR4/2	外 面	ナデ　ケズリ・部ミガキ	
				器 高	(19.4)				焼 成	良好	底 外 面	−	
444	SI028	土師器	甕	口 径	16.6		上半 55%	各種砂粒中量	内 面	にぶい赤褐 5YR4/3	内 面	ナデ　ヘラナデ	
				底 径	−				外 面	にぶい赤褐 5YR5/4	外 面	ナデ　ハケ	
				器 高	(13.9)				焼 成	良好	底 外 面	−	
445	SI028	土師器	甕	口 径	−		底部のみ	各種砂粒中量	内 面	にぶい褐 7.5YR5/3	内 面	ヘラナデ	
				底 径	6.8				外 面	灰褐 5YR4/2	外 面	ケズリ後・部ナデ	内外面スス付着
				器 高	(7.5)				焼 成	良好	底 外 面	ケズリ	
446	SI028	土師器	甑	口 径	(24.0)		口縁部細片	各種砂粒・赤褐色スコリア中量	内 面	にぶい赤褐 5YR5/4	内 面	ナデ	
				底 径	−				外 面	にぶい赤褐 5YR5/4	外 面	ナデ　ケズリ後ナデ	内外面スス？付着
				器 高	(10.7)				焼 成	良好	底 外 面	−	
447	SI028	土師器	甑	口 径	−		底部のみ	赤褐色スコリア粒多量	内 面	にぶい赤褐 5YR5/4	内 面	ケズリ後ナデ・ミガキ	
				底 径	(5.2)				外 面	にぶい赤褐 5YR5/4	外 面	ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	(8.3)				焼 成	良好	底 外 面	−	
448	SI029	土師器	坏	口 径	13.2		ほぼ 100%	各種微砂粒少量	内 面	褐灰 N3/0	内 面	ナデ　ミガキ	
				底 径	−				外 面	褐灰 N3/0	外 面	ナデ　ケズリ後ナデ・ミガキ	内外面黒色処理
				器 高	5.2				焼 成	良好	底 外 面	−	
449	SI029	土師器	坏	口 径	(14.0)		全体 30%	各種砂粒中量	内 面	にぶい黄褐 10RS/4	内 面	ナデ　ミガキ	
				底 径	丸底				外 面	にぶい赤褐 5YR4/3	外 面	ナデ　ケズリ	内外面赤彩
				器 高	5.0				焼 成	良好	底 外 面	−	
450	SI029	土師器	坏	口 径	(14.8)		全体 60%	各種微砂粒多量	内 面	にぶい赤褐 5YR5/4	内 面	ナデ　ヘラナデ	
				底 径	丸底				外 面	にぶい赤褐 5YR5/4	外 面	ナデ　ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	5.4				焼 成	良好	底 外 面	−	
451	SI029	土師器	鉢	口 径	−		口縁部細片	各種微砂粒少量	内 面	褐灰 5YR4/1	内 面	ナデ	
				底 径	−				外 面	褐灰 N3/0	外 面	ナデ　部ミガキ	
				器 高	(4.2)				焼 成	良好	底 外 面	−	
452	SI029	土師器	高坏	口 径	(14.2)		坏部 40%	各種微砂粒多量	内 面	褐 10R4/4	内 面	ナデ　ミガキ	
				底 径	−				外 面	にぶい赤褐 5YR5/4	外 面	ナデ　ケズリ後ナデ・ミガキ	内面外面赤彩
				器 高	(4.9)				焼 成	良好	底 外 面	−	
453	SI029	土師器	高坏	口 径	14.6		坏部 100%	各種微砂粒多量	内 面	にぶい赤褐 2.5YR5/4	内 面	ナデ　ミガキ	
				底 径	−				外 面	にぶい赤褐 2.5YR5/4	外 面	ナデ　ケズリ後ナデ・ミガキ	内外面赤彩
				器 高	(4.3)				焼 成	良好	底 外 面	−	
454	SI029	土師器	高坏	口 径	−		脚部 100%	各種砂粒中量	内 面	灰黄褐 10YR5/2	内 面	ケズリ	
				底 径	7.8				外 面	にぶい赤褐 5YR5/4	外 面	ケズリ後ナデ	外面赤彩
				器 高	(5.7)				焼 成	良好	底 外 面	ナデ	
455	SI029	土師器	高坏	口 径	13.6		全体 90%	各種微砂粒中量	内 面	灰褐 5YR4/2	内 面	ナデ　ミガキ	
				底 径	(10.0)				外 面	にぶい赤褐 5YR5/4	外 面	ケズリ後ナデ	内外面赤彩
				器 高	10.6				焼 成	良好	底 外 面	ナデ	
456	SI029	土師器	甕	口 径	(14.2)		全体 80%	各種微砂粒多量	内 面	灰褐 7.5YR4/2	内 面	ナデ　ケズリ後ヘラナデ	
				底 径	7.0				外 面	にぶい褐 7.5YR5/3	外 面	ナデ　ケズリ後ナデ	
				器 高	(13.4)				焼 成	良好	底 外 面	−	
457	SI029	土師器	甕	口 径	(18.8)		口縁部～胴部 65%	各種砂粒多量	内 面	にぶい褐 7.5YR5/4	内 面	ヘラナデ	
				底 径	−				外 面	褐灰 7.5YR5/3	外 面	ナデ　ケズリ後ヘラナデ	
				器 高	(27.4)				焼 成	良好	底 外 面	−	
458	SI029	土師器	甕	口 径	−		胴上半破片	白色砂粒・雲母細粒多量	内 面	灰褐 7.5YR4/2	内 面	ナデ　ヘラナデ	雲錐足？
				底 径	−				外 面	にぶい褐 7.5YR5/4	外 面	ナデ　ヘラナデ	外面磨耗痕
				器 高	(15.7)				焼 成	良好	底 外 面	−	
459	SI029	土師器	甕	口 径	(18.2)		全体 90%	各種砂粒中量	内 面	灰褐 7.5YR4/2	内 面	ナデ　ヘラナデ	
				底 径	(7.5)				外 面	灰褐 7.5YR4/2	外 面	ナデ　ケズリ	
				器 高	30.7				焼 成	良好	底 外 面	−	
460	SI029	土師器	甑	口 径	25.5		全体 90%	各種砂粒・各種微砂粒多量	内 面	にぶい赤褐 5YR4/4	内 面	ナデ　ヘラナデ	
				底 径	7.3				外 面	にぶい赤褐 5YR5/4	外 面	ナデ　ケズリ	
				器 高	22.7				焼 成	良好	底 外 面	−	
461	SI030	土師器	坏	口 径	12.6		全体 85%	雲母細粒少量、橙白色砂礫微量	内 面	褐灰 7.5YR4/1	内 面	ナデ　ヘラミガキ	
				底 径	丸底				外 面	黒褐 10YR3/1	外 面	ナデ　ケズリ後ナデ、ケズリ	内外面黒色処理
				器 高	4.5				焼 成	良好	底 外 面	−	
462	SI030	土師器	坏	口 径	13.0		全体 60%	各種微砂粒中量、白色粘状微量	内 面	褐灰 5YR4/1	内 面	ナデ　ミガキ	
				底 径	丸底				外 面	褐灰 10YR4/1	外 面	ナデ　ケズリ後ナデ・ミガキ	内外面黒色処理
				器 高	4.7				焼 成	良好	底 外 面	−	
463	SI030	土師器	坏	口 径	14.6		ほぼ 100%	極微砂粒少量、精緻	内 面	黒褐 7.5YR3/1	内 面	丁寧なナデ後ヘラミガキ	
				底 径	丸底				外 面	灰 N4/0	外 面	ナデ　ケズリ後ナデ・ミガキ	内外面黒色処理
				器 高	3.5				焼 成	良好	底 外 面	−	
464	SI030	土師器	坏	口 径	12.9		全体 95%	各種微砂粒少量、雲母細粒微量	内 面	褐灰 7.5YR4/1	内 面	ナデ　ミガキ	
				底 径	丸底				外 面	褐灰 10YR4/1	外 面	ナデ　ケズリ後ナデ	内外面黒色処理
				器 高	4.5				焼 成	良好	底 外 面	−	
465	SI030	土師器	坏	口 径	14.4		全体 60%	白色微砂粒多量	内 面	赤灰 2.5YR4/2	内 面	ナデ　ミガキ	
				底 径	−				外 面	褐灰 5YR4/1	外 面	ナデ　ヘラナデ	内外面彩色？
				器 高	(4.2)				焼 成	良好	底 外 面	−	
466	SI030	土師器	鉢	口 径	(21.8)		全体 25%	各種微砂粒中量	内 面	褐灰 7.5YR4/1	内 面	ナデ　ミガキ	
				底 径	丸底				外 面	灰 N4/0	外 面	ナデ　ケズリ後ナデ・ミガキ	内外面黒色処理
				器 高	(7.2)				焼 成	良好	底 外 面	−	
467	SI030	土師器	鉢	口 径	(14.0)		全体 55%	各種砂粒多量	内 面	にぶい黄橙 10YR6/3	内 面	ナデ　丁寧なナデ	
				底 径	−				外 面	にぶい黄褐 10YR5/3	外 面	ナデ　ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	(7.3)				焼 成	良好	底 外 面	−	

No.	遺構No.	種 類	器 種	法 量 (cm)			遺存度	胎 土	色調・焼成			技 法			備 考
468	SI030	土師器	鉢	口 径	–		口1/2 100%	各種微砂粒多量	内	面	暗 7.5YR4/3	内	面	ナデ ヘラナデ	
				底 径	丸底				外	面	灰黄褐 10YR4/2	外	面	ナデ ケズリ後ナデ	
				器 高	–				焼	成	良好	底	外	面 –	
469	SI030	土師器	高坏	口 径	–		脚部 90%	微砂粒少量、精緻	内	面	灰褐 5YR4/2	内	面	ケズリ ナデ	内外面黒色処理（遺？）
				底 径	10.7				外	面	褐灰 N3/0	外	面	ミガキ ナデ	
				器 高	(8.5)				焼	成	良好	底	外	面 –	
470	SI030	土師器	高坏	口 径	21.2		口縁部～脚部 85%	各種微砂粒少量	内	面	褐灰 N3/0	内	面	ミガキ	内面黒色処理
				底 径	–				外	面	褐灰 10YR4/1	外	面	ケズリ後ナデ	
				器 高	(13.9)				焼	成	良好	底	外	面 –	
471	SI030	須恵器	甕	口 径	–		胴部破片	白色砂粒少量	内	面	褐灰 10YR4/1	内	面	ナデ、当て具痕	
				底 径	–				外	面	N5/0	外	面	ナデ、タタキ	
				器 高	(8.6)				焼	成	良好	底	外	面 –	
472	SI030	土師器	甕	口 径	14.5		全体 65%	各種微砂粒多量、白色砂粒目立つ	内	面	灰褐 5YR4/2	内	面	ナデ ヘラナデ	
				底 径	6.5				外	面	灰褐 5YR4/2	外	面	ナデ ケズリ後ナデ ケズリ	
				器 高	11.2				焼	成	良好	底	外	面 –	
473	SI030	土師器	甕	口 径	(16.1)		口縁部～胴部 80%	各種微砂粒中量	内	面	灰褐 5YR4/2	内	面	ナデ ミガキ	内面茶褐色物質付着
				底 径	–				外	面	にぶい赤褐 5YR4/3	外	面	ナデ ケズリ後ヘラナデ	
				器 高	(19.4)				焼	成	良好	底	外	面 –	
474	SI031	土師器	坏	口 径	13.8		口1/2 100%	各種微砂粒少量	内	面	明赤褐 5YR5/8	内	面	ナデ ミガキ ヘラミガキ	内外面赤彩
				底 径	丸底				外	面	明赤褐 5YR5/8	外	面	ナデ ミガキ ケズリ	
				器 高	4.3				焼	成	良好	底	外	面 –	
475	SI031	土師器	坏	口 径	12.8		口1/2 100%	各種砂粒中量	内	面	赤 2.5YR6/6	内	面	ナデ ミガキ	内外面赤彩 外面黒色処理？
				底 径	丸底				外	面	赤 2.5YR6/6	外	面	ナデ ケズリ、ミガキ後ナデ	
				器 高	5.0				焼	成	良好	底	外	面 –	
476	SI031	土師器	坏	口 径	13.2		口1/2 100%	各種微砂粒少量	内	面	赤褐 5YR4/6	内	面	ナデ ミガキ	内外面赤彩
				底 径	丸底				外	面	赤褐 2.5YR4/8	外	面	ナデ ケズリ後ナデ	
				器 高	4.8				焼	成	良好	底	外	面 –	
477	SI031	土師器	坏	口 径	13.3		全体 95%	各種微砂粒・赤褐色スコリア粒中量	内	面	赤褐 2.5YR4/8	内	面	ナデ ミガキ	内外面赤彩
				底 径	丸底				外	面	明赤褐 2.5YR5/6	外	面	ナデ ケズリ後ナデ	
				器 高	4.75				焼	成	良好	底	外	面 –	
478	SI031	土師器	坏	口 径	13.3		全体 100%	各種微砂粒少量	内	面	明赤褐 2.5YR5/6	内	面	ナデ ミガキ	内外面赤彩
				底 径	丸底				外	面	明赤褐 2.5YR5/6	外	面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	4.8				焼	成	良好	底	外	面 –	
479	SI031	土師器	坏	口 径	(15.0)		全体 50%	各種微砂粒多量	内	面	明赤褐 2.5YR5/6	内	面	ナデ ヘラナデ	内外面赤彩 外面黒炭多出し
				底 径	–				外	面	黄褐 10R5/6	外	面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	5.6				焼	成	良好	底	外	面 –	
480	SI031	土師器	坏	口 径	14.8		全体 80%	各種微砂粒中量	内	面	赤褐 2.5YR4/6	内	面	ナデ	内外面赤彩 線刻（X字）
				底 径	丸底				外	面	明赤褐 2.5YR5/6	外	面	ナデ ケズリ後ナデ	
				器 高	5.5				焼	成	良好	底	外	面 –	
481	SI031	土師器	坏	口 径	12.4		全体 75%	各種微砂粒中量	内	面	明赤褐 2.5YR5/8	内	面	ナデ ヘラナデ	内外面赤彩 内面（X字）
				底 径	丸底				外	面	赤 2.5YR6/8	外	面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	(5.6)				焼	成	良好	底	外	面 –	
482	SI031	土師器	坏	口 径	13.1		全体 95%	各種微砂粒多量	内	面	明赤褐 2.5YR5/6	内	面	ナデ ミガキ ナデ後ミガキ	内面暗文状ミガキ
				底 径	丸底				外	面	赤 2.5YR6/8	外	面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	5.0				焼	成	良好	底	外	面 –	
483	SI031	土師器	坏	口 径	(14.8)		全体 35%	各種砂粒多量	内	面	明赤褐 2.5YR5/6	内	面	ナデ後ミガキ	内外面赤彩
				底 径	丸底				外	面	明赤褐 5YR5/6	外	面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	5.2				焼	成	良好	底	外	面 –	
484	SI031	土師器	坏	口 径	11.0		口1/2 100%	各種砂粒少量、雲母細粒・白色非鉄微量	内	面	赤 5YR6/6	内	面	ナデ ミガキ	内外面赤彩？
				底 径	丸底				外	面	明赤褐 5YR6/5	外	面	ミガキ ケズリ後ヘラナデ	
				器 高	5.3				焼	成	良好	底	外	面 –	
485	SI031	土師器	坏	口 径	13.9		全体 75%	各種微砂粒中量	内	面	黄褐 10R5/6	内	面	ナデ	内外面赤彩
				底 径	丸底				外	面	黄褐 10R5/6	外	面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	6.5				焼	成	良好	底	外	面 –	
486	SI031	土師器	坏	口 径	12.2		全体 90%	各種砂粒多量	内	面	赤 2.5YR6/6	内	面	ナデ ミガキ	内外面スス付着
				底 径	–				外	面	赤 2.5YR6/6	外	面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	6.0				焼	成	良好	底	外	面 –	
487	SI031	土師器	坏	口 径	13.8		全体 95%	雲母細粒・微赤褐色スコリア粒少量	内	面	赤褐 2.5YR4/6	内	面	ナデ ミガキ	内外面赤彩 黒色物質（点状）付着
				底 径	丸底				外	面	明赤褐 2.5YR5/6	外	面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	4.9				焼	成	良好	底	外	面 –	
488	SI031	土師器	坏	口 径	13.6		全体 65%	各種微砂粒中量	内	面	黒 N2/0	内	面	ナデ ミガキ	内外面黒色処理
				底 径	丸底				外	面	黒 N2/0	外	面	ナデ ミガキ ケズリ後ミガキ	
				器 高	5.4				焼	成	良好	底	外	面 –	
489	SI031	土師器	坏	口 径	(14.6)		全体 35%	白色微砂粒少量	内	面	黒 N2/0	内	面	ナデ後ミガキ	内外面黒色処理
				底 径	丸底				外	面	黒 N2/0	外	面	ナデ ケズリ後ナデ	
				器 高	(4.4)				焼	成	良好	底	外	面 –	
490	SI031	土師器	坏	口 径	14.2		全体 100%	各種微砂粒多量	内	面	明赤褐 2.5YR5/8	内	面	ナデ ミガキ	内外面赤彩
				底 径	丸底				外	面	橙 2.5YR6/6	外	面	ナデ ケズリ後ナデ	
				器 高	5.4				焼	成	良好	底	外	面 ケズリ後ナデ	
491	SI031	土師器	坏	口 径	13.0		全体 100%	各種微砂粒中量、雲母細粒微量	内	面	灰 5YR7/8	内	面	ナデ	内外面赤彩
				底 径	丸底				外	面	赤 5YR6/8	外	面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	5.7				焼	成	良好	底	外	面 –	
492	SI031	土師器	坏	口 径	12.7		口1/2 100%	各種微砂粒中量	内	面	灰 5YR6/6	内	面	ナデ ヘラナデ	内外面黒炭多出し
				底 径	丸底				外	面	灰 5YR6/6	外	面	ナデ ケズリ後ナデ	
				器 高	5.7				焼	成	良好	底	外	面 –	

No	遺構No.	種 類	器 種	法 量 (cm)			遺存度	胎 土	色調・焼成		技 法		備 考
493	SI031	土師器	坏	口 径	10.0		全体 95%	各種微砂粒中量	内 面	にぶい赤褐 5YR5/3	内 面	ナデ ヘラミガキ	内外面黒色処理
				底 径	丸底				外 面	黒褐 5YR2/2	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	
				器 高	4.9				焼 成	良好	底 外 面	–	
494	SI031	土師器	坏	口 径	9.2		全体 100%	各種微砂粒中量	内 面	にぶい褐 5YR4/6	内 面	ナデ ヘラナデ	
				底 径	4.9				外 面	明褐 5YR5/6	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	
				器 高	7.4				焼 成	良好	底 外 面	ナデ ケズリ後ナデ	
495	SI031	土師器	坏	口 径	12.6		全体 85%	各種微砂粒中量	内 面	赤褐 5YR4/8	内 面	ナデ ミガキ	内面赤彩 外面黒色処理？黒褐色物質付着
				底 径	丸底				外 面	黒褐 7.5YR3/1	外 面	ナデ ケズリ後ヘラナデ	
				器 高	8.3				焼 成	良好	底 外 面	–	
496	SI033	土師器	鉢	口 径	14.5		全体 85%	各種微砂粒少量、雲母細粒微量	内 面	橙 5YR6/6	内 面	ナデ ケズリ	内面スス付着
				底 径	5.7				外 面	灰 5YR7/8	外 面	ナデ ケズリ	
				器 高	13.0				焼 成	良好	底 外 面	ナデ ケズリ	
497	SI033	土師器	鉢	口 径	22.4		全体 95%	各種微砂粒少量	内 面	橙 2.5YR7/6	内 面	ナデ	
				底 径	6.4				外 面	灰 5YR6/6	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	
				器 高	15.3				焼 成	良好	底 外 面	ケズリ後ナデ	
498	SI033	土師器	高坏	口 径	–		脚部のみ 100%	各種微砂粒多量、白色砂粒目立つ	内 面		内 面	ケズリ	外面赤彩
				底 径	10.4				外 面	明赤褐 2.5YR5/8	外 面	ケズリ後ナデ	
				器 高	(5.0)				焼 成	良好	底 外 面	–	
499	SI033	土師器	高坏	口 径	(13.5)		全体 95%	各種微砂粒中量	内 面	赤褐 2.5YR4/8	内 面	ナデ ミガキ	内外面赤彩 外面スス付着
				底 径	8.8				外 面	明赤褐 2.5YR5/6	外 面	ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	8.9				焼 成	良好	底 外 面	ナデ	
500	SI033	土師器	高坏	口 径	12.6		全体 90%	各種砂粒多量	内 面	明赤褐 2.5YR5/6	内 面	ケズリ後ナデ	内外面赤彩
				底 径	9.0				外 面	明赤褐 2.5YR5/6	外 面	ケズリ ケズリ後ナデ	
				器 高	8.8				焼 成	良好	底 外 面	ナデ	
501	SI031	土師器	高坏	口 径	15.3		全体 70%	各種微砂粒多量	内 面	橙 2.5YR6/8	内 面	ナデ	内外面赤彩
				底 径	9.4				外 面	橙 2.5YR6/8	外 面	ケズリ後ナデ	
				器 高	9.65				焼 成	良好	底 外 面	ナデ	
502	SI033	土師器	高坏	口 径	12.4		全体 75%	白色微砂粒少量	内 面	赤褐 2.5YR4/6	内 面	ナデ ミガキ	内外面赤彩
				底 径	–				外 面	明赤褐 2.5YR5/6	外 面	ケズリ後ナデ	
				器 高	(6.9)				焼 成	良好	底 外 面	–	
503	SI031	土師器	高坏	口 径	13.6		全体 90%	各種微砂粒少量	内 面	赤褐 2.5YR4/8	内 面	ナデ ミガキ	内外面赤彩
				底 径	–				外 面	にぶい赤褐 2.5YR4/4	外 面	ケズリ後ナデ	
				器 高	(8.8)				焼 成	良好	底 外 面	–	
504	SI033	土師器	高坏	口 径	14.8		全体 95%	各種砂粒多量、白色砂粒目立つ	内 面	明赤褐 2.5YR5/8	内 面	ナデ	内外面赤彩
				底 径	10.3				外 面	明赤褐 2.5YR5/8	外 面	ケズリ後ナデ	
				器 高	9.0				焼 成	良好	底 外 面	ナデ	
505	SI033	土師器	高坏	口 径	–		全体 85%	各種微砂粒少量、雲母細粒微量	内 面	明赤褐 2.5YR5/6	内 面	ナデ ミガキ	内外面赤彩 内面黒色物質付着
				底 径	10.6				外 面	明赤褐 2.5YR5/8	外 面	ケズリ後ナデ ナデ	
				器 高	(9.9)				焼 成	良好	底 外 面	ナデ	
506	SI031	土師器	高坏	口 径	15.9		全体 90%	各種微砂粒多量	内 面	赤褐 2.5YR4/6	内 面	ケズリ後ナデ	内外面赤彩
				底 径	(8.2)				外 面	灰赤 2.5YR4/2	外 面	ケズリ	
				器 高	10.1				焼 成	良好	底 外 面	ケズリ後ナデ	
507	SI033	土師器	椀	口 径	17.9		全体 85%	各種微砂粒中量、雲母細粒微量	内 面	橙 2.5YR7/6	内 面	ナデ ヘラナデ	内面赤褐色物質付着
				底 径	7.8				外 面	橙 2.5YR7/6	外 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	30.9				焼 成	良好	底 外 面	ケズリ	
508	SI033	土師器	椀	口 径	11.4		全体 95%	各種微砂粒中量、雲母細粒微量	内 面	にぶい橙 5YR6/4	内 面	ナデ	内面白色物質付着 外面スス付着
				底 径	7.0				外 面	にぶい赤褐 5YR5/4	外 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	6.1				焼 成	良好	底 外 面	ナデ	
509	SI031	土師器	椀	口 径	15.4		全体 95%	各種微砂粒多量	内 面	明赤褐 2.5YR5/6	内 面	ナデ ケズリ後ナデ	内面茶～白色物質付着
				底 径	6.4				外 面	明赤褐 2.5YR5/6	外 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	19.3				焼 成	良好	底 外 面	ケズリ後ナデ	
510	SI031	土師器	椀	口 径	(12.3)		口縁部～胴部上半 40%	各種微砂粒多量	内 面	明赤褐 5YR5/6	内 面	ナデ	
				底 径	–				外 面	明赤褐 5YR5/6	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	
				器 高	–				焼 成	良好	底 外 面	–	
511	SI033	土師器	椀	口 径	17.8		全体 85%	各種砂粒中量	内 面	橙 7.5YR6/6	内 面	ナデ ヘラナデ	内面茶褐色物質付着
				底 径	4.4				外 面	灰褐 7.5YR4/2	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	
				器 高	27.2				焼 成	良好	底 外 面	ケズリ後ナデ	
512	SI033	土師器	椀	口 径	–		全体 55%	各種砂粒中量	内 面	明赤褐 5YR5/6	内 面	ナデ ヘラナデ	内面白色物質付着
				底 径	–				外 面	明赤褐 5YR5/6	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	
				器 高	(14.2)				焼 成	良好	底 外 面	–	
513	SI033	土師器	椀	口 径	19.4		口縁部～胴部 70%	各種微砂粒中量	内 面	灰 2.5YR6/8	内 面	ナデ ヘラナデ	内外面スス付着
				底 径	–				外 面	灰 2.5YR7/6	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	
				器 高	(22.2)				焼 成	良好	底 外 面	–	
514	SI033	土師器	椀	口 径	(16.4)		全体 70%	各種微砂粒中量	内 面	灰 2.5YR6/8	内 面	ナデ ヘラナデ	
				底 径	7.0				外 面	灰 2.5YR7/8	外 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	26.8				焼 成	良好	底 外 面	ケズリ	
515	SI033	土師器	椀	口 径	(19.6)		口縁部～胴部上半 20%	各種砂粒多量	内 面	灰 7.5YR6/6	内 面	ナデ ヘラナデ	
				底 径	–				外 面	赤褐 5YR4/8	外 面	ナデ ケズリ	
				器 高	(14.9)				焼 成	良好	底 外 面	–	
516	SI033	土師器	椀	口 径	(16.2)		口縁部破片	各種砂粒・赤褐色スコリア粒中量	内 面	明赤褐 5YR5/8	内 面	ナデ	輪積痕明瞭
				底 径	–				外 面	明赤褐 5YR5/6	外 面	ナデ ケズリ	
				器 高	(6.1)				焼 成	良好	底 外 面	–	
517	SI033	土師器	椀	口 径	(16.0)		口縁部 50%	各種砂粒多量	内 面	明赤褐 2.5YR5/8	内 面	ナデ ケズリ ナデ・ミガキ	常飾産？
				底 径	–				外 面	明赤褐 2.5YR5/8	外 面	ケズリ後ナデ	
				器 高	(6.8)				焼 成	良好	底 外 面	–	

No	遺構No.	種 類	器 種	法 量 (cm)			遺存度	胎 土	色調・焼成		技 法		備 考
518	SI031	土師器	甕	口 径	17.8		全体 50%	各種砂粒少量	内 面	橙 2.5YR6/8	内 面	ナデ ヘラナデ	内面黒褐色物質付着
				底 径	–				外 面	橙 2.5YR6/8	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	
				器 高	(24.6)				焼 成	良好	底 外 面	–	
519	SI001	土師器	甕	口 径	–		胴部～底部 30%	各種砂粒多量、白色砂粒目立つ	内 面	灰 2.5YR6/6	内 面	ヘラナデ	壺胴か？
				底 径	7.5				外 面	明赤褐 2.5YR5/6	外 面	ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	(14.6)				焼 成	良好	底 外 面	–	
520	SI001	土師器	甑	口 径	22.4		全体 85%	各種微砂粒多量	内 面	灰 5YR6/6	内 面	ナデ ケズリ後ミガキ	
				底 径	–				外 面	にぶい赤褐 5YR5/4	外 面	ナデ ケズリ後ミガキ	
				器 高	(21.3)				焼 成	良好	底 外 面	–	
521	SI033	土師器	甑	口 径	19.5		ほぼ 100%	各種微砂粒中量	内 面	にぶい橙 5YR6/4	内 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	外面スス付着
				底 径	(7.2)				外 面	灰 5YR7/8	外 面	ナデ ケズリ	
				器 高	22.2				焼 成	良好	底 外 面	–	
522	SI032	須恵器	蓋	口 径	(16.0)		口縁部～胴部 30%	白色砂粒少量	内 面	灰 赤 2.5YR6/2	内 面	ロクロナデ	
				底 径	–				外 面	灰 赤 2.5YR6/2	外 面	ロクロナデ	
				器 高	(4.0)				焼 成	良好	底 外 面	–	
523	SI032	土師器	坏	口 径	12.5		全体 95%	各種微砂粒少量	内 面	褐 灰 10YR7/4	内 面	ナデ ミガキ	外面黒色処理？
				底 径	丸底				外 面	にぶい黄橙 10YR7/3	外 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	5.3				焼 成	良好	底 外 面	–	
524	SI032	土師器	坏	口 径	12.9		全体 90%	白色微砂粒少量、白色封状微量	内 面	黒 N2/0	内 面	ナデ ヘラミガキ	内外面黒色処理
				底 径	丸底				外 面	黒 N2/0	外 面	ナデ ヘラミガキ後ナデ	
				器 高	4.95				焼 成	良好	底 外 面	–	
525	SI032	土師器	坏	口 径	12.8		口縁部～胴部 20%	各種微砂粒中量	内 面	明赤褐 2.5YR5/6	内 面	ナデ ミガキ	内外面赤彩
				底 径	–				外 面	明赤褐 5YR5/6	外 面	ナデ ミガキ ケズリ後ミガキ	
				器 高	(3.8)				焼 成	良好	底 外 面	–	
526	SI032	ミニチュア土器		口 径	–		口縁以外	各種微砂粒多量	内 面	にぶい橙 7.5YR6/4	内 面	ナデ ヘラナデ	板形 手づくね
				底 径	4.6				外 面	にぶい橙 7.5YR6/4	外 面	ナデ	
				器 高	(4.8)				焼 成	良好	底 外 面	ヘラナデ	
527	SI032	土師器	坏	口 径	13.4		全体 95%	各種微砂粒中量	内 面	黒 N2/0	内 面	ナデ ヘラミガキ	内面黒色処理
				底 径	丸底				外 面	にぶい橙 7.5YR7/3	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	
				器 高	6.3				焼 成	良好	底 外 面	–	
528	SI032	土師器	高坏	口 径	(14.8)		坏部 90%	各種砂粒少量	内 面	にぶい黄橙 10R5/4	内 面	ナデ ミガキ	内外面赤彩
				底 径	–				外 面	にぶい橙 7.5YR7/3	外 面	ナデ ミガキ ケズリ後ナデ	
				器 高	(5.9)				焼 成	良好	底 外 面	–	
529	SI032	土師器	高坏	口 径	–		脚部 40%	各種微砂粒中量	内 面	黒 N2/0	内 面	ケズリ	内面黒色処理
				底 径	–				外 面	橙 5YR7/6	外 面	ケズリ	
				器 高	(8.6)				焼 成	良好	底 外 面	ヘラナデ	
530	SI032	土師器	高坏	口 径	–		坏部～脚部の一部	各種微砂粒少量	内 面	褐 10R4/4	内 面	ミガキ	内面赤彩 外面赤彩？
				底 径	–				外 面	明赤褐 2.5YR5/6	外 面	ケズリ	
				器 高	(4.2)				焼 成	良好	底 外 面	–	
531	SI032	須恵器	甕	口 径	–		胴部破片	白色微砂粒少量、精緻	内 面	明赤灰 2.5YR7/1	内 面	ナデ 当て具痕	
				底 径	–				外 面	明赤灰 2.5YR7/1	外 面	ナデキ	
				器 高	(11.3)				焼 成	良好	底 外 面	–	
532	SI032	土師器	甕	口 径	12.9		全体 100%	各種微砂粒中量	内 面	にぶい赤褐 2.5YR5/4	内 面	ナデ ヘラナデ ミガキ	内外面スス？付着
				底 径	6.4				外 面	灰 2.5YR6/6	外 面	ナデ ミガキ	
				器 高	14.4				焼 成	良好	底 外 面	ナデ ミガキ	
533	SI032	土師器	甕	口 径	14.4		全体 80%	各種微砂粒多量	内 面	灰 2.5YR6/6	内 面	ナデ ケズリ後ヘラナデ	
				底 径	–				外 面	灰 2.5YR6/6	外 面	ナデ なでつけ痕 ケズリ	
				器 高	(23.5)				焼 成	良好	底 外 面	無調整 木葉痕	
534	SI032	土師器	甕	口 径	18.4		口縁部～頸部のみ	各種砂粒中量	内 面	明赤褐 5YR5/6	内 面	ナデ ヘラナデ	外面スス？付着
				底 径	–				外 面	明赤褐 5YR5/6	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	
				器 高	(8.2)				焼 成	良好	底 外 面	–	
535	SI032	土師器	甕	口 径	(20.8)		口縁部～頸部 70%	各種砂粒中量、雲母細粒微量	内 面	にぶい橙 7.5YR6/4	内 面	ナデ ヘラナデ	
				底 径	–				外 面	にぶい橙 7.5YR6/4	外 面	ナデ ケズリ	
				器 高	(8.8)				焼 成	良好	底 外 面	–	
536	SI032	土師器	甕	口 径	–		胴部下半～底部 60%	各種微砂粒中量	内 面	黒褐 7.5YR3/1	内 面	ケズリ	
				底 径	6.7				外 面	褐灰 7.5YR4/1	外 面	ケズリ	
				器 高	(13.3)				焼 成	良好	底 外 面	ケズリ	
537	SI032	土師器	甕	口 径	(12.0)		口縁部～頸部～底部	各種砂粒・微砂粒多量	内 面	明赤褐 2.5YR5/6	内 面	ナデ ヘラナデ	
				底 径	–				外 面	明赤褐 2.5YR5/6	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	
				器 高	(10.8)				焼 成	良好	底 外 面	–	
538	SI032	土師器	甕	口 径	18.0		口縁部～胴部上半 80%	白色砂粒・雲母細粒少中量	内 面	にぶい橙 7.5YR6/4	内 面	ナデ ケズリ	
				底 径	6.8				外 面	橙 7.5YR6/6	外 面	ナデ ケズリ後ミガキ	
				器 高	(13.3)				焼 成	良好	底 外 面	–	
539	SI032	土師器	甕	口 径	15.5		口縁部～胴部 50%	各種微砂粒中量	内 面	灰 5YR6/6	内 面	ナデ ケズリ（ミガキ状）	
				底 径	–				外 面	灰 5YR6/6	外 面	ナデ ケズリ	
				器 高	(6.8)				焼 成	良好	底 外 面	–	
540	SI032	土師器	坏	口 径	(15.1)		全体 80%	各種微砂粒中量	内 面	灰 2.5YR6/8	内 面	ナデ ヘラナデ（？）	
				底 径	6.8				外 面	灰 2.5YR6/6	外 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	21.5				焼 成	良好	底 外 面	ケズリ	
541	SI032	土師器	甕	口 径	13.4		全体 55%	各種微砂粒中量、雲母細粒微量	内 面	にぶい橙 7.5YR6/4	内 面	ナデ ヘラナデ ケズリ後ナデ	
				底 径	6.8				外 面	にぶい橙 7.5YR5/4	外 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	(13.6)				焼 成	良好	底 外 面	ケズリ後ナデ	
542	SI032	土師器	甕	底 径	–		口縁部破片	各種微砂粒中量	内 面	灰 5YR6/6	内 面	ナデ ケズリ後ミガキ	
				器 高	(32.0)				外 面	にぶい橙 7.5YR6/4	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	
				底 径	(5.8)				焼 成	良好	底 外 面	–	
543	SI033	ミニチュア土器		底 径	(4.5)		全体 55%	各種微砂粒少量	内 面	明褐 7.5YR5/6	内 面	ナデ	球形 手づくね
				器 高	3.0				外 面	にぶい橙 7.5YR5/4	外 面	ケズリ	
									焼 成	良好	底 外 面	ヘラナデ	

No	遺構No.	種類	器種	法量（cm）	遺存度	胎土	色調・焼成	技法	備考
544	SI033	ミニチュア土器		口径 5.2 底径 4.1 器高 2.0	全体 90%	各種微砂粒少量	内面 褐 7.5YR4/6 外面 にぶい橙 7.5YR6/4 焼成 良好	内面 丁寧なナデ 外面 ナデ 底外面 ナデ	坏形 手づくね
545	SI033	土師器	坏	口径 (12.5) 底径 6.2 器高 5.0	全体 50%	各種砂粒少量	内面 黒 N2/0 外面 黒 N2/0 焼成 やや軟質	内面 ナデ　ミガキ 外面 ナデ　ケズリ後ナデ・ミガキ 底外面 ケズリ後ナデ・ミガキ	内外面黒色処理
546	SI033	土師器	坏	口径 13.8 底径 丸底 器高 5.25	全体 65%	各種微砂粒少量，白色針状物質含	内面 明赤褐 2.5YR5/8 外面 赤褐 2.5YR4/8 焼成 良好	内面 ナデ　ヘラミガキ 外面 ナデ　ケズリ後ナデ・ミガキ 底外面 －	内外面赤彩 外面一部黒色処理
547	SI033	土師器	坏	口径 9.6 底径 － 器高 (4.3)	全体 25%	各種微砂粒多量	内面 明赤褐 2.5YR5/6 外面 明赤褐 2.5YR5/6 焼成 良好	内面 丁寧なナデ 外面 ケズリ後ナデ 底外面 －	内外面赤彩
548	SI033	土師器	坏	口径 (12.4) 底径 － 器高 (5.0)	全体 40%	各種微砂粒多量	内面 赤褐 2.5YR4/6 外面 明赤褐 2.5YR5/8 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ナデ　ケズリ後ヘラナデ 底外面 －	内外面赤彩　内面茶褐色物質付着
549	SI033	土師器	坏	口径 13.3 底径 丸底 器高 5.0	全体 70%	各種微砂粒少量	内面 明赤褐 2.5YR5/8 外面 橙 2.5YR6/8 焼成 良好	内面 ナデ　ミガキ 外面 ナデ　ケズリ後ナデ 底外面 ヘラ書き	内面赤彩？外面赤彩，茶褐色物質付着
550	SI033	土師器	坏	口径 14.2 底径 丸底 器高 5.3	ほぼ 100%	各種砂粒多量	内面 橙 2.5YR6/8 外面 明赤褐 2.5YR5/6 焼成 良好	内面 ヘラミガキ　ナデ後ミガキ 外面 ナデ　ケズリ後ナデ・ミガキ 底外面 －	内外面赤彩
551	SI033	土師器	坏	口径 13.2 底径 丸底 器高 5.8	全体 85%	各種砂粒中量	内面 橙 2.5YR6/6 外面 橙 2.5YR6/6 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ナデ　ケズリ　ナデ 底外面 －	内外面赤彩
552	SI033	土師器	坏	口径 (14.3) 底径 丸底 器高 (5.0)	全体 30%	各種微砂粒中量	内面 明褐 2.5YR5/8 外面 明赤褐 2.5YR5/6 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ナデ　ケズリ後ナデ 底外面 －	内外面赤彩
553	SI033	土師器	坏	口径 (12.3) 底径 － 器高 (4.5)	全体 20%	各種微砂粒多量	内面 赤褐 2.5YR4/8 外面 赤褐 2.5YR4/8 焼成 良好	内面 ナデ　ミガキ 外面 ケズリ後ナデ・ミガキ 底外面 －	内外面赤彩
554	SI033	土師器	坏	口径 (14.0) 底径 5.2 器高 5.3	全体 55%	各種微砂粒多量	内面 赤褐 2.5YR4/8 外面 赤褐 2.5YR4/6 焼成 良好	内面 ナデ　ミガキ 外面 ナデ　ケズリ後ミガキ 底外面 －	内外面赤彩
555	SI033	土師器	坏	口径 15.4 底径 丸底 器高 4.2	全体 80%	各種微砂粒多量，白色砂粒目立つ	内面 明赤褐 2.5YR5/6 外面 明赤褐 2.5YR5/8 焼成 良好	内面 ナデ　ミガキ　ヘラミガキ 外面 ナデ　ケズリ後ナデ 底外面 ケズリ後ナデ	内外面赤彩 内外面スス付着
556	SI033	土師器	坏	口径 (12.2) 底径 丸底 器高 4.3	全体 30%	各種微砂粒中量	内面 明赤褐 2.5YR5/6 外面 明赤褐 2.5YR5/6 焼成 良好	内面 ナデ　ミガキ 外面 ナデ　ケズリ後ヘラナデ 底外面 －	
557	SI033	土師器	坏	口径 12.8 底径 丸底 器高 4.9	全体 85%	各種砂粒中量	内面 明赤褐 2.5YR5/6 外面 にぶい赤褐色 5YR5/4 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ナデ　ケズリ後ナデ・ミガキ 底外面 －	
558	SI033	土師器	埦	口径 (18.1) 底径 － 器高 (6.4)	全体 30%	各種砂粒少量	内面 明赤褐 5YR5/6 外面 橙 5YR6/6 焼成 良好	内面 ナデ　ヘラミガキ 外面 ナデ　ケズリ後ナデ・ミガキ 底外面 －	内外面赤彩？
559	SI033	土師器	鉢	口径 14.3 底径 5.3 器高 8.5	全体 70%	各種微砂粒中量	内面 にぶい橙 2.5YR4/6 外面 明赤褐 2.5YR5/6 焼成 良好	内面 ナデ　ミガキ 外面 ナデ　ケズリ後ナデ・ミガキ 底外面 ケズリ後ナデ・ミガキ	内外面赤彩 内面茶褐色・黒色物質付着
560	SI033	土師器	鉢	口径 19.3 底径 － 器高 (12.5)	全体 70%	各種砂粒少量，赤褐色スコリア目立つ	内面 橙 5YR6/6 外面 橙 2.5YR6/8 焼成 やや軟質	内面 ナデ　ミガキ 外面 ナデ　ケズリ 底外面 －	内面白色物質付着
561	SI033	土師器	鉢	口径 16.4 底径 5.6 器高 10.3	全体 80%	各種微砂粒中量	内面 橙 2.5YR6/8 外面 橙 2.5YR6/8 焼成 良好	内面 ケズリ　ヘラナデ　ミガキ 外面 ナデ　ケズリ後ナデ 底外面 ナデ　ヘラナデ　ミガキ	
562	SI033	土師器	高坏	口径 13.1 底径 7.2 器高 8.1	全体 90%	各種微砂粒中量	内面 赤褐 2.5YR4/8 外面 明赤褐 2.5YR5/6 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ケズリ後ナデ 底外面 ヘラナデ	内面赤彩 外面赤彩？茶褐色物質付着
563	SI033	土師器	甕	口径 16.6 底径 － 器高 (10.7)	口縁部～胴部上半 70%	各種砂粒多量，白色砂粒目立つ	内面 にぶい橙 5YR6/4 外面 にぶい橙 5YR6/4 焼成 良好	内面 ナデ　ヘラナデ 外面 ナデ　ケズリ後ナデ 底外面 －	外面スス付着
564	SI033	土師器	甕	口径 － 底径 － 器高 (6.3)	胴部 45%	各種砂粒多量	内面 橙 2.5YR6/8 外面 橙 2.5YR6/8 焼成 良好	内面 調整不明 外面 ナデ　ケズリ 底外面 －	
565	SI033	土師器	甕	口径 18.9 底径 － 器高 (9.3)	口縁部のみ	各種微砂粒中量	内面 明赤褐 5YR5/6 外面 明赤褐 5YR5/6 焼成 良好	内面 ナデ　ヘラナデ 外面 ナデ　ケズリ　ミガキ 底外面 －	
566	SI033	土師器	甕	口径 15.6 底径 － 器高 (20.5)	口縁部～胴部 65%	各種砂粒多量	内面 橙 5YR6/6 外面 橙 7.5YR7/6 焼成 良好	内面 ナデ　ケズリ後ヘラナデ 外面 ナデ　ケズリ後ナデ 底外面 －	内面茶褐色物質付着
567	SI033	土師器	甕	口径 14.6 底径 － 器高 (6.0)	口縁部 90%	白色砂粒・雲母粒子・砂礫多量	内面 にぶい赤褐 7.5YR5/3 外面 橙 5YR6/6 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ナデ　ケズリ 底外面 －	常陸産　内外面黒色処理・スス付着

No	遺構No.	種 類	器 種	法 量 (cm)			遺存度	胎 土	色調・焼成		技 法		備 考
568	SI033	土師器	甕	口 径	14.8		口縁部～胴部上半 70%	各種微砂粒多量	内 面	明赤褐 5YR5/8	内 面	ナデ ヘラナデ	
				底 径	–				外 面	橙 5YR6/6	外 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	(13.7)				焼 成	良好	底 外 面	–	
569	SI033	土師器	甕	口 径	15.0		口縁部～胴部上半 60%	各種砂粒・雲母細粒少量	内 面	にぶい橙 5YR6/4	内 面	ナデ ヘラナデ	
				底 径	–				外 面	橙 5YR7/6	外 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	(13.5)				焼 成	良好	底 外 面	–	
570	SI033	土師器	甕	口 径	–		胴部 40%	各種砂粒中量	内 面	橙 7.5YR7/6	内 面	ナデ ヘラナデ	
				底 径	(8.0)				外 面	橙 7.5YR7/6	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	外面スス付着
				器 高	(21.5)				焼 成	良好	底 外 面	–	
571	SI033	土師器	甕	口 径	17.0		口縁部～胴部上半 60%	各種微砂粒多量	内 面	にぶい橙 5YR6/4	内 面	ナデ ケズリ ヘラナデ	
				底 径	–				外 面	橙 5YR7/6	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	
				器 高	(16.0)				焼 成	良好	底 外 面	–	
572	SI033	土師器	甕	口 径	–		胴部～底部 30%	各種微砂粒中量	内 面	橙 5YR6/6	内 面	ナデ	内面基礎色物質付着
				底 径	6.2				外 面	橙 5YR6/6	外 面	ケズリ後ナデ・ミガキ	外面スス付着
				器 高	(17.2)				焼 成	良好	底 外 面	ケズリ	
573	SI033	土師器	壺	口 径	14.8		全体 80%	各種砂粒多量	内 面	橙 2.5YR6/6	内 面	ナデ ヘラナデ後ミガキ	
				底 径	–				外 面	橙 2.5YR6/6	外 面	ナデ ケズリ後ミガキ	粘土自体赤み
				器 高	(18.3)				焼 成	良好	底 外 面	–	
574	SI033	土師器	甕	口 径	–		胴部下半～底部 30%	各種砂粒少量	内 面	橙 2.5YR6/8	内 面	ヘラナデ ミガキ	
				底 径	(6.8)				外 面	橙 2.5YR6/8	外 面	ケズリ後ナデ・ミガキ	内面基礎色物質付着
				器 高	(12.0)				焼 成	良好	底 外 面	–	
575	SI033	土師器	甕	口 径	18.8		全体 80%	各砂礫・白色砂礫多量，雲母細粒微量	内 面	橙 7.5YR7/6	内 面	ナデ ヘラナデ	煤跡痕
				底 径	–				外 面	にぶい橙 7.5YR7/4	外 面	ナデ ケズリ後ミガキ	内面基礎色物質付着
				器 高	(29.8)				焼 成	良好	底 外 面	–	
576	SI033	土師器	甕	口 径	17.0		全体 60%	各種微砂粒多量	内 面	明赤褐 5YR5/8	内 面	ナデ ヘラナデ	
				底 径	7.2				外 面	明赤褐 5YR5/8	外 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	25.7				焼 成	良好	底 外 面	ヘラナデ	
577	SI033	土師器	甕	口 径	16.3		口縁部～胴部 80%	各種砂粒・白色微砂粒多量	内 面	明赤褐 5YR5/6	内 面	ナデ	
				底 径	–				外 面	明赤褐 5YR5/6	外 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	(22.5)				焼 成	良好	底 外 面	–	
578	SI033	土師器	甕	口 径	(20.8)		全体 60%	各種砂粒多量，雲母細粒微量	内 面	明赤褐 2.5YR5/8	内 面	ナデ ケズリ後ナデ	
				底 径	(8.0)				外 面	明赤褐 2.5YR6/8	外 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	内面基礎色物質付着
				器 高	(32.0)				焼 成	良好	底 外 面	–	
579	SI033	土師器	甕	口 径	(18.0)		口縁部～胴部上半破片	各種砂粒少量	内 面	明赤褐 2.5YR5/8	内 面	ナデ ヘラナデ	外面スス？付着
				底 径	–				外 面	明赤褐 2.5YR5/8	外 面	ナデ ヘラナデ	粘土自体赤み
				器 高	(15.4)				焼 成	良好	底 外 面	–	
580	SI033	土師器	甕	口 径	19.2		全体 90%	各種砂粒多量	内 面	橙 5YR6/6	内 面	ナデ ヘラナデ ナデ	
				底 径	9.3				外 面	橙 5YR6/6	外 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	外面スス？付着
				器 高	30.7				焼 成	良好	底 外 面	–	
581	SI033	土師器	甕	口 径	18.5		全体 95%	各種微砂粒多量，雲母細粒微量	内 面	にぶい橙 5YR6/4	内 面	ナデ ヘラナデ	
				底 径	9.2				外 面	橙 5YR6/6	外 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	外面スス？付着
				器 高	30.7				焼 成	良好	底 外 面	–	
582	SI033	土師器	甕	口 径	18.1		全体 70%	各種微砂粒中量	内 面	明赤褐 5YR5/6	内 面	ナデ ヘラナデ	
				底 径	7.1				外 面	橙 5YR6/6	外 面	ナデ ケズリ後ミガキ	内面基礎色物質付着
				器 高	25.2				焼 成	良好	底 外 面	–	外面スス付着
583	SI033	土師器	甕	口 径	(21.1)		全体 70%	各種微砂粒中量	内 面	明赤褐 2.5YR5/6	内 面	ナデ ケズリ後ナデ後ミガキ	
				底 径	(6.8)				外 面	橙 5YR6/6	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	内面スス付着
				器 高	(22.2)				焼 成	良好	底 外 面	–	
584	SI033	土師器	甕	口 径	18.7		全体 85%	各種砂粒多量	内 面	明赤褐 2.5YR5/6	内 面	ナデ ケズリ ナデ後ミガキ	
				底 径	8.6				外 面	明赤褐 2.5YR5/6	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	内面黒褐色・白色物質付着
				器 高	19.4				焼 成	良好	底 外 面	–	
585	SI033	土師器	甕	口 径	(25.2)		全体 45%	各種砂粒中量	内 面	橙 5YR6/6	内 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				底 径	(6.8)				外 面	橙 5YR6/6	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	外面スス付着
				器 高	(24.0)				焼 成	良好	底 外 面	–	
586	SI034	土師器	坏	口 径	12.1		全体 90%	各種砂粒少量	内 面	にぶい褐 7.5YR5/3	内 面	ナデ 丁寧なナデ	
				底 径	–				外 面	にぶい褐 7.5YR6/3	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	内外面スス？付着
				器 高	(5.5)				焼 成	良好	底 外 面	–	
587	SI034	土師器	坏	口 径	13.1		全体 80%	各種微砂粒少量	内 面	黒 N2/0	内 面	ナデ ミガキ	
				底 径	–				外 面	黒 N2/0	外 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	内外面黒色処理
				器 高	5.0				焼 成	良好	底 外 面	–	
588	SI034	土師器	甕	口 径	8.1		ほぼ 100%	各種微砂粒・雲母細粒多量	内 面	にぶい黄橙 10YR5/3	内 面	ナデ	
				底 径	丸底				外 面	にぶい黄橙 10YR6/3	外 面	ナデ ケズリ後ミガキ	小型甕
				器 高	7.8				焼 成	良好	底 外 面	–	
589	SI034	土師器	甕	口 径	(17.2)		口縁部～胴部破片	各種砂粒多量	内 面	橙 2.5YR6/6	内 面	ナデ ケズリ ヘラナデ	
				底 径	–				外 面	灰褐 10YR5/2	外 面	ナデ ケズリ後ナデ	
				器 高	(8.7)				焼 成	良好	底 外 面	–	
590	SI034	土師器	甕	口 径	–		胴部～底部 80%	白色砂粒・砂礫多量，雲母粒少量	内 面	橙 5YR7/8	内 面	ヘラナデ	煤跡痕 内面基礎色物質付着
				底 径	(8.6)				外 面	橙 5YR7/6	外 面	ナデ ケズリ後ナデ・ミガキ	
				器 高	(30.0)				焼 成	良好	底 外 面	–	

第４表　金属製品・鍛冶関連遺物計測表

No.	遺構No.	遺物No.	種　類	長さ（mm）	幅（mm）	厚（mm）	重量（g）	備　考
金1	SI001	0003	鉄鏃	66.0	39.0	7.0	16.1	
金2	SI003b	0013	鉄鏃	117.0	28.5	5.0	13.6	
金3	SI012	0001	鉄鏃	119.0	8.5	5.5	9.9	
金4	SI023	0022	鉄鏃	36.0	11.0	3.5	2.8	
金5	SI004c	0028	鉄斧	105.0	48.5	20.0	193.1	
金6	SI002a	0005	刀子？	43.0	9.0	2.5	1.9	
金7	SI004c	0035	刀子？	64.0	10.0	4.0	6.5	
金8	SI009	0020	刀子	115.0	22.0	5.5	31.9	
金9	SI023	0023	刀子	123.0	13.5	3.5	10.5	
金10	SI026	0006	刀子	105.0	11.0	2.5	5.0	
金11	SI029	0007	刀子	51.5	15.5	3.0	4.6	
金12	SI024a	0007	釘？	27.0	3.5	3.0	1.0	
金13	SI024b	0129	釘	46.5	5.0	3.0	2.0	
金14	SI028	0009	釘	44.0	5.0	4.0	3.9	
金15	SI032	0003	釘	34.0	8.0	3.0	2.7	
金16	SI003b	0002	工具？	48.0	8.0	4.5	6.9	
金17	SI007	0001	板状不明鉄製品	60.0	35.0	5.0	17.3	
金18	SI015a	0003	不明鉄製品	55.0	34.0	3.0	23.5	
金19	SI004b	0001	スラグ	21.0	16.1	11.2	5.3	
金20	SI016b	0002	スラグ（椀形）	91.0	59.0	13.5	36.1	
金21	SI019	0002	スラグ	41.2	28.5	15.9	15.1	
金22	SI019	0010	スラグ	44.7	26.8	12.3	18.1	P５内出土
金23	SI023	0003	スラグ	20.8	18.3	13.2	2.8	
金24	3E- I	0001	スラグ	38.0	20.4	23.1	13.3	
金25	3E- II	0001	スラグ	27.0	24.9	17.9	9.5	
金26	SI004a	0001	鉧塊？	28.4	26.5	8.9	3.4	灰色
金27	SI004a	0002	鉧塊？	43.2	36.1	13.0	18.7	灰色
金28	SI033	0003	鉧塊？	62.8	40.3	20.9	30.4	土壁？
金29	SI004a	0002	鉧塊？	32.5	25.0	18.6	3.8	土壁？
金30	SI004a	0001	鉧塊？	44.6	35.5	13.6	14.9	ガラス化
金31	SI013	0001	鉧塊？	26.7	15.0	8.3	2.0	土壁？
金32	SI025	0001	羽口？	30.3	24.4	10.1	6.6	青銅色
金33	SI033	－	軽石	44.8	35.9	13.6	5.3	
金34	SI024b	0009	羽口	86.0	75.0	33.0	151.7	カマド内出土
金35	SI024b	0003	羽口	97.0	62.0	29.0	87.50	カマド内出土
金36	SI024b	0003	羽口	55.0	50.0	27.0	68.60	カマド内出土

第５表　石製品計測表

No.	遺構No.	遺物No.	種　類	石　材	最大径（mm）	最大厚（mm）	孔径（mm）	重量（g）	備　考
石1	SI009	0014	紡錘車	凝灰岩	50.0	19.6	9.1	6.29	
石2	SI-015a	0005	臼玉	滑石	7.5	4.8	2.0	0.80	
石3	SI032	0030	臼玉	凝灰岩	9.0	5.4	3.5	0.50	
石4	SI033	0071	臼玉	滑石	8.0	4.4	3.0	0.40	

No.	遺構No.	遺物No.	種類	石材	最大長（mm）	最大幅（mm）	厚（mm）	重量（g）	備　考
石5	SI003a	0066	剥形模造品？	滑石	15.0	8.5	1.6	0.20	
石6	SI019	0098	剥形模造品	滑石	58.5	34.0	9.0	20.40	
石7	SI022	0005	剥形模造品	滑石	16.2	14.0	4.0	1.00	
石8	SI002b	0005	紡石	凝灰岩	113.0	54.0	33.0	256.40	側面全面磨
石9	SI004b	0037	紡石	凝灰岩	74.0	28.5	22.5	5.78	側面全面磨　下端面筋状痕
石10	SI004c	0001	紡石	砂岩	30.0	27.0	10.0	14.70	側面１面磨
石11	SI008c	0003	紡石	砂岩	78.0	53.0	45.5	257.90	側面全面磨　下端面敲打
石12	SI015a	0001	紡石	凝灰岩	87.0	40.5	32.5	133.40	側面全面磨　下端面筋状痕
石13	SI026	0008	紡石	凝灰岩	56.0	33.0	31.5	59.00	側面全面磨　下端面筋状痕、孔あり
石14	SI027	0003	紡石	凝灰岩	38.5	44.0	12.0	2.75	側面全面磨
石15	SI033	0131	紡石	凝灰岩	42.5	20.0	18.0	20.00	側面全面磨　下端面筋状痕
石16	SK001	0001	紡石	凝灰岩	171.0	32.0	34.0	389.20	側面１面磨
石17	SI027	0004	軽石		36.0	45.0	24.0	10.80	
石18	SI015a	0001	台石	花崗岩	134.0	133.0	60.0	1849.20	

第６表　銭貨計測表

No.	遺構No.	遺物No.	銭貨名	初鋳年	計測値（mm）				重量（g）	備　考
					縁外径	縁内径	郭外径	郭内径	縁 厚		
1	SI003b	0014	寛永通寶	1636	24.0	19.6	8.5	5.1	1.5	3.1	
2	SI024b	0001	寛永通寶	1636	24.2	19.6	6.9	5.6	1.2	3.4	
3	溝	0001	寛永通寶	1636	22.2	17.5	7.8	6.1	1.1	2.1	
4	SI032	0025	不明	－	－	－	－	－	2.1	1.4	鉄銭

第7表　土製品計測表

№	遺構№	遺物№	種　類	最大長（mm）	最大幅（mm）	孔径（mm）	重量（g）	欠損有無	備　考
± 1	SI003a	0057	± 玉	18.9	21.3	3.6	6.7	わずかに欠損	
± 2	SI003b	0005	± 玉	20.1	25.6	3.1	10.3	わずかに欠損	
± 3	SI004a	0013	± 玉	21.4	22.8	4.8	9.7	完形	
± 4	SI004b	0003	± 玉	19.1	17.8	4.3	2.9	1/3 残存	
± 5	SI004b	0051	± 玉	18.2	21.9	5.3	8.1	完形	
± 6	SI004b	0052	± 玉	18.6	22.4	3.7	7.7	完形	
± 7	SI004c	0010-1	± 玉	23.2	23.6	3.1	9.6	完形	
± 8	SI004c	0010-2	± 玉	19.8	20.7	3.1	6.8	完形	
± 9	SI004c	0015	± 玉	16.1	19.4	4.7	5.0	完形	
± 10	SI004c	0017	± 玉	19.6	20.7	3.4	5.7	完形	両側穿孔
± 11	SI004c	0018	± 玉	16.9	21.6	4.1	5.6	完形	
± 12	SI004c	0022	± 玉	17.6	22.1	4.8	6.7	一部欠け	
± 13	SI007	4-1	± 玉	30.6	32.7	5.6	27.1	完形	
± 14	SI007	4-2	± 玉	28.3	25.7	5.1	8.8	1/2 残存	
± 15	SI008a	0050	± 玉	23.7	23.1	4.0	11.2	わずかに欠損	
± 16	SI008a	0073	± 玉	19.3	21.2	3.0	7.0	わずかに欠損	
± 17	SI008a	0098	± 玉	22.7	26.9	4.3・6.9	14.2		数度穿孔？
± 18	SI008b	0005	± 玉	20.7	19.1	4.5	3.5	1/2 残存	
± 19	SI008b	0009-1	± 玉	20.1	17.9	4.0 ？	3.4	1/3 残存	
± 20	SI008b	0009-2	± 玉	22.7	24.8	2.1	11.4	完形	
± 21	SI011	0001	± 玉	22.5	25.8	5.5・6.3	10.8	一部欠け	数度穿孔？
± 22	SI015a	0003	± 玉	23.4	26.6	6.3	15.0	完形	
± 23	SI015a	0004-1	± 玉	23.1	20.4	5.7	8.2	わずかに欠損	
± 24	SI015a	0005	± 玉	19.4	21.4	4.1	7.4	わずかに欠損	
± 25	SI015a	0009	± 玉	19.9	20.8	5.3	7.7	わずかに欠損	
± 26	SI018	0007	± 玉	19.9	20.8	3.8	7.2	完形	両側穿孔？
± 27	SI018	0009-1	± 玉	17.9	23.5	4.2	8.7	完形	
± 28	SI018	0009-2	± 玉	16.9	21.9	4.7	6.0	2/3 残存	
± 29	SI018	0009-3	± 玉	19.6	21.5	2.2・5.6	7.3	完形	2 度穿孔？
± 30	SI018	0009-4	± 玉	19.1	20.7	2.9	6.8	完形	
± 31	SI018	0009-5	± 玉	26.2	24.7	3.9	14.6	完形	
± 32	SI018	0012	± 玉	17.4	18.6	3.7	5.3	完形	
± 33	SI018	0013	± 玉	17.9	22.4	4.4	7.6	わずかに欠損	
± 34	SI018	0014	± 玉	15.5	20.8	4.1	5.5	わずかに欠損	
± 35	SI018	0016	± 玉	15.3	18.2	3.4	4.4	完形	
± 36	SI018	0018	± 玉	29.7	31.6	6.3	32.3	わずかに欠損	
± 37	SI018	0036	± 玉	16.9	21.6	3.3	6.9	完形	
± 38	SI018	0037	± 玉	18.1	21.4	4.7	7.3	わずかに欠損	
± 39	SI018	0038	± 玉	16.8	22.9	4.7	7.6	完形	
± 40	SI018	0042	± 玉	23.9	22.6	3.5	11.9	完形	
± 41	SI018	0048	± 玉	24.6	23.7	3.9	13.3	完形	
± 42	SI018	0050	± 玉	17.1	22.4	2.8・4.1	5.7	完形	変形球体
± 43	SI018	0062	± 玉	18.8	21.6	2.9	7.8	完形	
± 44	SI018	0063	± 玉	18.2	22.1	3.3	6.9	わずかに欠損	
± 45	SI018	0064	± 玉	16.7	21.9	3.6	6.8	完形	
± 46	SI018	0065	± 玉	26.4	32.2	5.3	23.9	完形	
± 47	SI018	0066	± 玉	24.5	24.8	3.4	14.4	完形	
± 48	SI018	0069	± 玉	28.5	33.2	4.2	28.7	完形	
± 49	SI018	0072	± 玉	17.9	20.5	3.6・6.7	6.2	完形	2 度穿孔？
± 50	SI018	0074	± 玉	19.8	19.6	2.3・4.3	6.6	完形	
± 51	SI018	0075	± 玉	19.5	23.6	4.4	8.1	完形	
± 52	SI019	0051	± 玉	21.7	24.4	4.7	12.3	わずかに欠損	
± 53	SI019	0067-1	± 玉	22.3	24.1	4.4	10.8	わずかに欠損	
± 54	SI019	0078	± 玉	19.4	21.1	3.5	7.0	完形	
± 55	SI019	0079	± 玉	16.8	21.6	2.9	6.1	完形	
± 56	SI021	0010-1	± 玉	35.6	38.1	7.1	42.5	完形	
± 57	SI021	0010-2	± 玉	21.1	24.2	4.1	11.3	わずかに欠損	
± 58	SI021	0010-4	± 玉	33.9	38.6	5.6	46.8	わずかに欠損	
± 59	SI021	0011	± 玉	26.1	28.6	5.0	19.8	一部欠け	棒抜き取り後整形
± 60	SI021	0015	± 玉	30.9	37.7	6.8	39.6	わずかに欠損	器面がもろい
± 61	SI021	0017	± 玉	25.7	27.9	6.3	17.0	わずかに欠損	
± 62	SI021	0020	± 玉	24.7	23.1	3.7	11.5	わずかに欠損	
± 63	SI021	0021	± 玉	35.3	40.2	7.7	51.5	わずかに欠損	
± 64	SI021	0024	± 玉	21.2	22.5	4.4	9.7	わずかに欠損	整形雑
± 65	SI021	0025	± 玉	16.4	22.1	2.6	7.0	完形	
± 66	SI021	0026	± 玉	25.6	26.4	6.4	14.2	わずかに欠損	
± 67	SI021	0027	± 玉	23.5	23.1	4.1	10.8	完形	
± 68	SI021	0028	± 玉	20.9	24.8	2.5	10.8	完形	
± 69	SI021	0033	± 玉	33.4	41.2	5.6	43.2	2/3 残存	
± 70	SI021	0034	± 玉	22.7	24.6	4.3	12.8	完形	
± 71	SI021	0035	± 玉	22.3	23.2	4.1	11.0	わずかに欠損	

No.	遺構No.	遺物No.	種　類	最大長（mm）	最大幅（mm）	孔径（mm）	重量（g）	欠損有無	備　考
土72	SI021	0036	土玉	20.9	25.8	4.5	12.5	完形	
土73	SI021	0037	土玉	21.6	26.5	3.9	12.3	わずかに欠損	
土74	SI021	0039	土玉	33.9	39.6	6.9	45.8	摩耗？	
土75	SI021	0041	土玉	24.3	24.3	3.4	13.5	わずかに欠損	
土76	SI021	0046-1	土玉	36.2	37.1	5.4	41.0	わずかに欠損	
土77	SI021	0046-2	土玉	30.6	32.5	(5.3)	11.5	1/2残存	
土78	SI023	0003-1	土玉	20.6	20.9	5.4	7.8	完形	
土79	SI023	0018	土玉	19.4	23.7	3.6	10.6	完形	2度穿孔
土80	SI023	0019	土玉	17.6	21.6	3.4	6.7	完形	
土81	SI023	0020	土玉	22.9	20.6	6.1	7.1	完形	
土82	SI023	0036	土玉	23.4	25.3	5.8	11.5	摩耗？	
土83	SI023	0037	土玉	23.9	24.6	6.8	10.3	完形	
土84	SI024a	0006	土玉	16.7	21.9	3.4	6.5	わずかに欠損	
土85	SI024b	0023	土玉	22.2	22.7	3.3	9.8	3/4残存	
土86	SI024b	0022	土玉	27.7	33.1	4.4	27.3	完形	
土87	SI024b	0127	土玉	22.3	23.1	5.1	10.9	完形	
土88	SI024b	0131	土玉	18.2	21.4	7.3	5.5	完形	
土89	SI024b	0141	土玉	15.4	21.9	5.3	5.5	3/4残存	
土90	SI024b	0143	土玉	29.9	31.1	5.1	26.4	完形	
土91	SI024b	0144	土玉	30.2	33.7	3.9	27.8	完形	
土92	SI024b	0145	土玉	17.6	22.2	4.4	6.3	わずかに欠損	
土93	SI024b	0147	土玉	18.1	19.0	5.5	5.1	完形	
土94	SI025	0001	土玉	17.6	18.7	5.4	4.8	2/3残存	
土95	SI026	0011	土玉	19.0	19.6	3.3	5.8	完形	
土96	SI027	0040	土玉	16.4	20.1	3.3	5.7	完形	
土97	SI027	0045	土玉	19.7	22.4	4.5	7.0	2/3残存	
土98	SI028	0003	土玉	18.2	19.7	3.9	6.1	完形	
土99	SI028	0010	土玉	20.4	20.2	3.4	7.0	わずかに欠損	
土100	SI028	0038-1	土玉	20.8	21.8	3.2	8.8	わずかに欠損	
土101	SI028	0038-2	土玉	19.6	21.2	3.2	6.8	1/2残存	
土102	SI028	0038-3	土玉	23.4	22.9	4.2	10.2	9/10残存	
土103	SI029	0002	土玉？	27	30.0	16.0	5.9		
土104	SI030	0012	土玉	23.1	25.7	5.1	12.9	完形	
土105	SI031	0002	土玉	20.2	21.1	4.2	7.3	わずかに欠損	
土106	SI032	0022	土玉	20.5	25.7	6.3	10.8	わずかに欠損	
土107	SI032	0028	土玉	18.7	22.9	2.9	7.9	完形	
土108	SI032	0036	土玉	31.7	35.1	7.1	35.3	わずかに欠損	
土109	SI032	0027	土玉	20.7	20.7	3.3	7.2		
土110	4 E	層 4	土玉	25.7	33.2	5.1	25.1	わずかに欠損	
土111	SI004c	0002	大型土錘	33.9	43.4	21.8	25.0	端部1/2残存	
土112	SI005	0037	大型土錘	76.7	50.2	10.8	199.0	わずかに欠損	
土113	SI005	0038	大型土錘	84.6	50.8	11.3	185.3	端部欠損	
土114	SI005	0039	大型土錘	81.9	51.2	12.2	195.2	端部欠損	
土115	SI005	0055	大型土錘	64.6	41.9	10.1	124.5	完形	
土116	SI024b	0124	大型土錘	84.8	48.6	11.2	303.2	完形	
土117	SI024b	0137	大型土錘	48.5	45.1	11.9	59.9	端部残存	
土118	SI024b	0142	大型土錘	39.8	47.4	12.9	39.1	端部残存	
土119	SI029	0057	大型土錘	77.8	49.3	11.2	175.0	端部欠損	
土120	SI031	0078	大型土錘	68.7	47.4	11.0	154.5	完形	
土121	SI033	0066	大型土錘	83.8	51.8	11.8	215.6	わずかに欠損	
土122	SI015b	0005	小型土錘	33.1	8.7	2.8	2.0	端部欠損	
土123	SI032	0032	小型土錘	27.8	8.6	1.8	1.9	端部欠損	
土124	SI018	0068	小型土錘？	19.2	12.9	2.8	2.9	端部欠損	
土125	SI018	0007	丸玉	6.2	6.8	1.2	0.2	完形	
土126	SI018	0025	丸玉	8.8	11.2	1.8	1.0	完形	
土127	SI021	0022	丸玉	9.2	9.8	1.6	0.8	完形	
土128	SI023	0038	丸玉	7.2	8.6	2.3	0.5	完形	
土129	SI032	0029	丸玉	10.3	10.7	1.4	1.3		

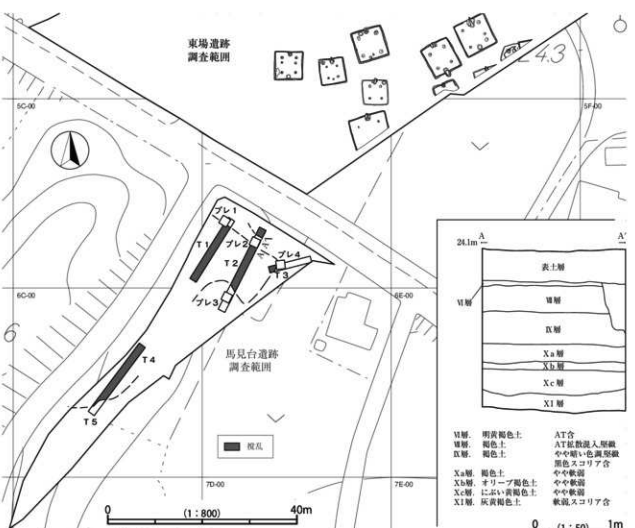
報告No.	遺構No.	遺物No.	種　類	最大長（mm）	最大幅（mm）	厚（mm）	重量（g）	備　考
土130	SI007	0002	土製品？	24.5	27.3	7.4	4.4	
土131	SI024b	0005	土製品？	28.8	16.7	7.1	4.5	
土132	SI004b	0003	土製品？	21.2	14.6	10.6	4.2	
土133	SI018	0009	土製品？	18.1	11.1	9.1	2.3	
土134	SI021	0023	土製品？	12.1	9.9	9.6	1.0	
土135	SI023	0021	土製品？	30.1	11.2	11.0	4.3	
土136	SI028	0058-5	土製品？	13.9	16.4	16.0	2.7	
土137	SI001	0006	支脚	11.5	10.6	6.8	590.7	
土138	SI003a	0070	支脚	11.8	8.6	7.8	561.2	
土139	SI003b	0031	支脚	12.1	11.0	9.3	1133.4	
土140	SI004a	0046	支脚	16.8	9.8	9.8	1230.5	
土141	SI008a	0121	支脚	17.0	11.6	11.2	1657.3	
土142	SI021	0056	支脚	17.5	7.8	7.3	857.8	
土143	SI027	0065	支脚	13.4	8.7	8.5	639.4	
土144	SI011	0001	紡輪	35.0	48.0	15.0	42.8	

第３章　馬見台遺跡

馬見台遺跡は、印旛沼北岸の標高約 32 ｍの台地上、東場遺跡とは道路を挟んだ同一台地上の南側に位置する。今回の調査では、北側の道路寄りの台地平坦面から南の谷へ緩やかに傾斜していく斜面部を含む 916㎡が対象となった。調査区北西側の事業地も遺跡範囲内ではあるが、高さ５ｍ以上の土砂が積まれており、遺跡が損壊されていると判断し、対象範囲から外すこととした。地形的にも谷部を埋めた可能性が高い。

上層の確認調査は、４本のトレンチを設定し実施した。大部分が１ｍ以上深く撹乱を受け、かつ台地の縁辺部に当たるため遺構は検出されなかった。遺物は土師器小破片 15 点と弥生土器１点が出土した。器形を復元できる土器はないが、赤彩された椀坏類の破片から古墳時代後半期のものが主体と判断される。

上層確認調査後、調査区北東側を中心に２ｍの確認グリッドを４か所設定し、下層の確認調査を実施した。耕作によりⅥ層から上は削平されており、Ⅹ層まで手掘りによる確認調査を行ったが、遺物の出土はなかった。そのため、発掘調査は上層・下層ともに確認調査で終了となった。



第86図　上・下層調査位置

第4章　総　括

東場遺跡・馬見台遺跡は道路をはさんで南北で隣接する遺跡である。発掘調査の結果、北側の東場遺跡では旧石器時代の剥片石器が1点出土した。縄文時代では陥穴1基が検出され、少量だが早期から後期の土器・石器が出土した。弥生時代では遺構は検出されなかったが、後期の土器片が微量出土した。古墳時代以降では古墳時代後半期からの集落跡が確認され、古墳時代の竪穴住居跡27軒、奈良・平安時代の竪穴住居跡13軒が検出された。これらの竪穴住居跡からは土器類を中心に遺物が豊富に出土した。特に、古墳時代中期の終わりから後期にかけては連続した土器様相や竪穴構造の変遷を追うことのできる良好な資料といえる。中世以降は遺物・遺構がほとんどなく、近世の溝と陶磁器破片が検出されるにとどまった。

一方、南側に位置する馬見台遺跡では調査地点が南に緩やかに傾斜する斜面部が含まれ、撹乱が著しかった。遺構は検出されず、古墳時代土師器破片などが微量出土したのみであった。下層調査でも旧石器は出土せず、上・下層とも確認調査で調査を終了した。

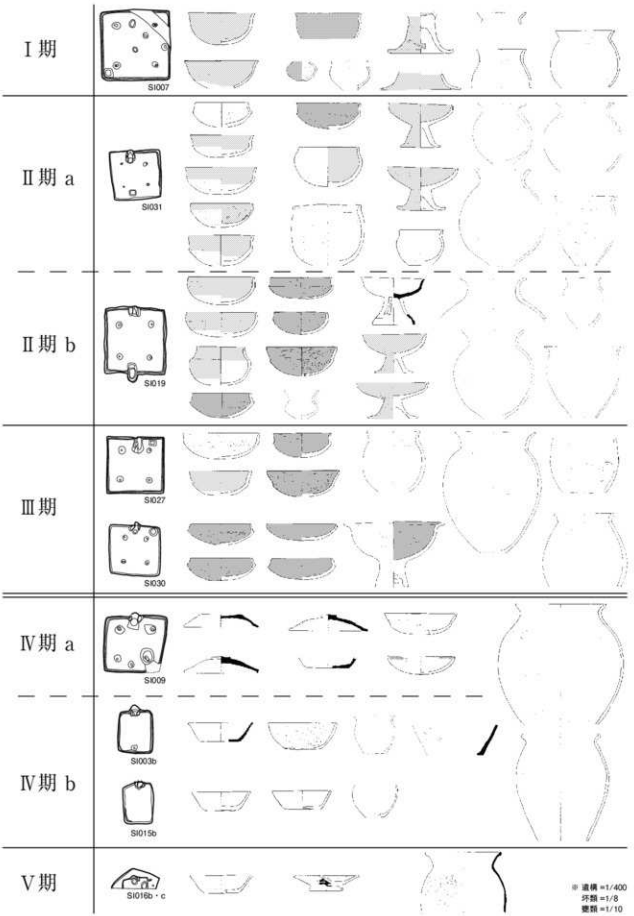
ここでは、主な成果である東場遺跡の古墳時代後半期から平安時代に展開した集落について、遺物の検討を主体にまとめることにしたい。

第1節　東場遺跡における土器の変遷（第87図）

東場遺跡では古墳時代後半期から平安時代にかけての集落が確認され、当該期の土器も多く出土した。ここでは、周辺遺跡の良好な調査成果等[1]を参考にし、土器の変遷を大きく5期に分期した。特に古墳時代後半期の竪穴住居跡は軒数も多く、遺物が豊富で細分が可能である。土師器坏の塗彩種類の比率によって段階を設定でき、竪穴構造の変化とも連動することが確認できた。土器様相を検討してみると、今回の調査範囲内では集落が連続的に営まれているのではなく、7世紀代の古墳時代終末期に相当する土器が出土しておらず、一時期集落の断絶があることが判明した。その後の奈良時代は土器様相から前半・後半に分期し、平安時代は3軒のみで、年代差は大きくないと判断し1期にまとめた。各期の土器の特徴は以下の通りである。

第Ⅰ期　坏類は赤彩される器高の高い比較的大型の埦・坏が主体である。口縁部が弱く外反する破片資料にも黒色処理個体は非常に少ない。高坏も赤彩され、短脚で、やや径の大きいものが目立つ。甕は胴部が丸く張る。甑は出土量が少なく、甕形を呈し頸部屈曲がやや弱いものの、底部付近は丸みを有する形状である。竪穴に竈を付設するSI007・SI014・SI022が該当する。SI007がその中でも古相であり、埦が主体で、甕は頸部の屈曲が強く、器面にハケ目調整を残す。

第Ⅱ期　坏類は埦の数が減るものの器高は高く、口縁と体部の境に明瞭な稜をもつ坏が多くみられる。高坏は短脚で、赤彩される個体が主体である。この時期から赤彩個体のほかに黒色処理される個体が一定量含まれるようになってくる。黒色処理個体の量が増加することを時期差と捉えて良いとするならば、Ⅱ期はa・bの2期に細分できる。Ⅱa期は破片資料も含めておおまかな割合として3：1で赤彩された坏が多い。黒色処理された坏は、比較的厚みをもつ。Ⅱb期では1：1で赤彩と黒色処理された破片量は同量で、Ⅱa期に比べ黒色処理個体の器厚は薄くなっている。高坏は大きな差異はみられないが、Ⅱb期では出土数が減り、坏部がやや浅い個体がみられる傾向にある。甕類は単口縁の常陸産甕が含まれるように


Ⅰ期
SI007
Ⅱ期 a
SI031
Ⅱ期 b
SI019
Ⅲ期
SI027
SI030
Ⅳ期 a
SI009
Ⅳ期 b
SI003b
SI015b
Ⅴ期
SI016b・c
※ 遺構 =1/400
坏類 =1/8
壺類 =1/10

第87図　土器の変遷

なる。胴部中央が張る中胴形の甕が主体で、ａ・ｂ小期に明確な形態の差異はみうけられない。甑は頸部径の大きい砲弾形の形態となる。また、この時期から数は少ないが須恵器の出土がみられる。Ⅱａ期の竪穴としてはSI003a・SI004b・SI005・SI011・SI013・SI015a・SI018・SI020・SI028・SI029・SI031・SI033・SI034の13軒、Ⅱｂ期はSI004a・SI008a・SI017・SI019・SI024bの５軒が該当すると考えられる。

第Ⅲ期　坏類は赤彩される個体数より黒色処理個体数が上回り、器高・口縁部の高さが総じて低くなる傾向にある。また、器厚も薄いものが主体である。高坏の個体数は減るものの大型の個体が目立つ。甕類は肩部が張らず長胴化が進む。これらの特徴はⅡ期の土器様相とは明瞭に区分できる。Ⅲ期としては、SI021・SI023・SI027・SI030・SI032の５軒が該当すると考えられる。

第Ⅲ期につづく古墳時代終末期にあたる７世紀代の土器を伴う竪穴住居跡は検出されず、集落の空白期が存在する。

第Ⅳ期　本期は遺構数・出土遺物も少なく、明確に時期決定できる根拠が弱いため、前段階ほどの細分は難しい。非ロクロ土師器坏類が主体をなす時期をⅣａ期、ロクロ整形の土師器坏が客体的ながら組成に含まれ、古墳時代から続いていた土師器坏（坏Ｈ身・鬼高系）がほとんど見られなくなる時期をⅣｂ期としておおまかに捉えた。Ⅳ期には器厚が薄く、口縁端部をつまみ上げて整形する常陸型甕がこの時期確認できるが、Ⅳｂ期ではより細身の形態へと変化する。Ⅳａ期としてはSI002a・SI004c・SI008b・SI008c・SI009・SI010・SI012・SI024aの８軒、Ⅳｂ期はSI001・SI003b・SI006・SI015b・SI025・SI026の６軒が該当すると考えられる。

第Ⅴ期　本期は坏類に定型化したロクロ整形の土師器坏が主体を占める時期である。Ⅴ期としてはSI002b・SI016b・SI016cの３軒が該当すると考えられる。３軒の竪穴住居跡が重複するSI016b・cは、調査範囲もせまく、出土遺物の帰属が判然としないため根拠が弱い。なお、SI016aについてはロクロ土師器も出土しているが、竪穴規模等から古墳時代後期の時期と考えられ、Ⅱ期またはⅢ期のいずれかと判断すべきであろう。

それぞれの各期の想定年代であるが、古墳時代では遺存が良好で竪穴住居跡に確実に伴う出土状況と捉えられる須恵器がほとんど出土していないため、積極的に判断する根拠に乏しい。複数の竪穴住居跡から出土した須恵器坏蓋はほとんどが破片資料であるが、器高・口縁部長があり、恐らくTK10型式期内にほぼ収まると考えられる。これよりも確実に古い型式の須恵器は出土していない。Ⅱｂ期のSI019から比較的遺存の良い無蓋短脚一段透高坏が出土している。この器種はTK10型式段階までにつくられたと考えられており、Ⅱｂ期の時期を６世紀中頃と推定できる根拠としたい。Ⅰ期の土器様相は古墳時代中期最終段階の土器組成と捉えられ、白井らによる千葉県古墳時代中期編年案のⅥ期（TK23～TK47段階）にあたるため、５世紀後半～後葉と推定される（2012白井ほか）。以上から、Ⅱａ期は６世紀前半、Ⅲ期は６世紀後半と捉えておきたい。Ⅳ・Ⅴ期は良好な土器組成が乏しいため、おおまかにⅣａ期を８世紀前半から中頃、Ⅳｂ期を８世紀後半、Ⅴ期を９世紀中頃としておきたい。

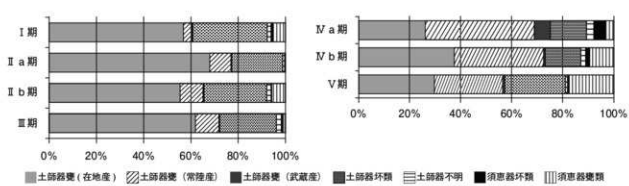
第２節　東場遺跡の集落変遷と時期別特徴（第88・89図、第８表）

出土土器の検討により、本遺跡では本格的な集落の形成は古墳時代中期末（Ⅰ期）から開始され、後期前半（Ⅱ期）に最大のピークを迎えることが判明した。古墳時代後期後半（Ⅲ期）で軒数を減じて集落が衰退し、古墳時代終末期には一時、この地点では集落が途絶えることになる。その後、奈良時代に入り小

第88図　竪穴住居跡の変遷

第８表　出土土器重量一覧表（単位：ｇ）

遺構№	時　期	総重量	土師器在地産要類	土師器常陸産要	土師器武蔵産要	土師器杯　類	土師器器種不明	須恵器杯　類	須恵器要　類
SI001	Ⅳ期ｂ	1,878	798	540	3	198	115	115	110
SI002a	Ⅳ期ａ	3,963	907	2,287	15	443	42	206	63
SI002b	Ⅴ期	737	457	115	5	137	7	7	10
SI003a	Ⅱ期ａ	18,185	12,901	209	0	4,745	277	34	18
SI003b	Ⅳ期ｂ	9,273	3,390	3,612	67	1,369	125	125	586
SI004a	Ⅱ期ｂ	9,976	5,232	2,562	0	1,844	250	17	72
SI004b	Ⅱ期ａ	12,686	8,089	657	0	3,667	199	21	53
SI004c	Ⅳ期ａ	13,763	3,027	6,212	1,014	1,592	541	573	804
SI005	Ⅱ期ａ	15,197	13,241	51	0	1,846	60	0	0
SI006	Ⅳ期ｂ	2,690	1,011	114	16	422	43	7	1,078
SI007	Ⅰ期	9,492	5,115	479	0	3,536	241	121	0
SI008a	Ⅱ期ｂ	41,519	27,175	3,007	0	9,947	1,138	118	135
SI008b	Ⅳ期ａ	5,493	873	2,343	1,000	926	234	37	80
SI008c	Ⅳ期ａ	1,486	511	261	0	257	47	367	43
SI009	Ⅳ期ａ	9,353	3,101	3,673	15	1,767	164	433	200
SI010	Ⅳ期ａ	2,038	187	1,552	151	94	9	38	8
SI011	Ⅱ期ａ	2,562	1,978	70	0	351	90	35	38
SI012	Ⅳ期ａ	1,473	1,082	146	0	113	17	116	0
SI013	Ⅱ期ａ	931	364	165	0	356	47	0	0
SI014	Ⅰ期	2,027	1,154	57	10	786	20	0	0
SI015a	Ⅱ期ａ	11,404	5,469	1,269	64	4,231	364	0	6
SI015b	Ⅳ期ｂ	3,156	763	1,876	10	365	16	24	103
SI016a	Ⅱ・Ⅲ期	874	488	129	11	139	0	4	103
SI016b	Ⅴ期	1,199	209	203	12	379	11	7	377
SI016c	Ⅴ期	309	0	288	0	21	0	0	0
SI017	Ⅱ期ｂ	4,064	3,044	251	33	703	34	0	0
SI018	Ⅱ期ａ	29,860	18,049	5,291	8	6,256	177	18	60
SI019	Ⅱ期ｂ	27,994	13,013	3,468	0	10,927	426	92	68
SI020	Ⅱ期ａ	6,675	4,846	283	17	1,506	23	0	0
SI021	Ⅲ期	18,763	11,503	2,183	4	4,569	304	76	124
SI022	Ⅰ期	7,293	4,444	154	0	1,638	26	13	1,016
SI023	Ⅲ期	18,620	12,017	1,365	69	3,912	631	150	476
SI024a	Ⅳ期ａ	1,920	623	484	274	458	74	4	0
SI024b	Ⅱ期ｂ	27,504	13,286	1,570	15	6,179	229	38	6,187
SI025	Ⅳ期ｂ	1,006	472	219	11	231	19	22	32
SI026	Ⅳ期ｂ	3,123	1,477	1,102	4	410	53	54	23
SI027	Ⅲ期	13,811	8,570	684	8	4,349	186	9	5
SI028	Ⅱ期ａ	12,795	9,586	247	0	2,912	50	0	0
SI029	Ⅱ期ａ	7,015	4,137	453	0	2,280	145	0	0
SI030	Ⅲ期	8,253	4,200	362	0	3,438	96	5	152
SI031	Ⅱ期ａ	32,712	21,361	1,556	33	9,562	122	3	75
SI032	Ⅲ期	15,317	10,064	2,895	5	1,717	369	158	210
SI033	Ⅱ期ａ	40,577	32,066	3,829	0	4,513	168	0	0
SI034	Ⅱ期ａ	7,854	3,006	3,987	0	799	56	6	0
合　計		466,815	273,287	62,255	2,873	105,890	7,142	3,055	12,314
							451,446		15,369



第89図　時期別出土土器比率

規模な集落が営まれ、9世紀の中頃と考えられるSI-002b・016b（016c）をもって集落は収束していく。

竪穴住居跡の分布は、Ⅰ期が調査区中央、Ⅱ期が調査区全体に展開している。その後、Ⅲ期では西側に、Ⅳ期・Ⅴ期は東側に偏って分布している。

時期ごとの竪穴住居跡の床面積[2]の平均値は、Ⅰ期：21.66㎡、Ⅱａ期：34.98㎡、Ⅱｂ期：48.14㎡、Ⅲ期：39.95㎡、Ⅳａ期：16.18㎡、Ⅳｂ期：10.25㎡、Ⅴ期：7.44㎡である。千葉県内の他の遺跡のあり方と大きな差異はなく、古墳時代後期に竪穴の規模は大型化し、特に6世紀中頃が最大となり、奈良時代以降は極端に規模を減じることが確認できる。

竪穴住居跡の構造の変化を時期ごとに見てみると、炉からカマドへはⅠ期とⅡａ期の間（6世紀初頭）で転換し、周辺地域と比べ時期的に若干遅れるようである。貯蔵穴の位置が土器の変化に合わせてⅢ期に入口側からカマド側へ変更される。張出しピットを有する竪穴住居跡はⅡｂ期に限定され、本期の他の竪穴の貯蔵穴にはカマド側に高まりを有する特徴もある。鶴間[3]は東日本の張出しピット（張り出し貯蔵穴）を集成し、南関東では千葉県が突出して検出例（65遺跡・208例）が多いことを指摘している。張出しピットの出現は5世紀後半で、6世紀に入り定型化し、東日本各地で事例が増加し、分布域が広がることを明らかにしている。印旛沼周辺地域で張出しピットを有する竪穴住居跡の目立った分布はなく、本遺跡でも一時期、2軒の採用に限定される。

常陸産・武蔵産の非在地産土器と在地産土器の時期ごとの数量把握[4]をすることは印旛地域と国を超えた他地域との交流を探る上で重要な資料になると考えられたため、今回の整理作業では実測個体だけでなく全破片の個体確認を行い、重量計量による土器量の数値化を実施した（第8表）。その結果、Ⅰ期～Ⅲ期は在地産の甕が重量比で60％前後を占め主体的であり、常陸産の甕は10％前後と少ない。Ⅳ・Ⅴ期は常陸産の甕が在地産の甕と拮抗するまでの量が確認された。Ⅳａ期には武蔵産も一定量出土しており、非在地産の甕が在地産を凌駕する。常陸産の甕は基本的に大型品が多く、中・小型品で確実に常陸産と捉えられるものは10個体に満たない[5]。なお、重量の数値では示すことができなかったが、Ⅳ期の竪穴住居跡から出土した須恵器坏はほとんどが常陸産である。

土製品の中で本遺跡において特徴的なのは球状の土玉の出土である。大きさは大・小2種類（平均直径32㎜・重量27ｇ、直径22㎜・重量8ｇ）に分別でき、小型品の方が出土数的に主体を占める。出土位置については覆土中のものが圧倒的に多かったが、時期ごとの出土軒数を比較してみると、Ⅰ期：1軒、Ⅱａ期：8軒、Ⅱｂ期：4軒、Ⅲ期：5軒、Ⅳａ期：3軒、Ⅳｂ期：3軒、Ⅴ期：0軒である。Ⅱ・Ⅲ期の古墳時代後期（6世紀台）の竪穴住居跡からの出土が主体である。Ⅳ期では1点のみの出土がほとんどで、Ⅱ・Ⅲ期の竪穴住居跡と重複することも多いことから、流入の可能性が高い。また、球状の土玉に比べると数は少ないが、管状土錘も大型・小型品が出土している。管状土錘も古墳時代後期、特にⅡａ期の竪穴住居跡からの出土が目立つ。球状の土玉、管状土錘も用途としては魚網の錘[6]と考えられ、印旛沼における漁撈活動での使用が想定される。

石製品では、Ⅰ期～Ⅲ期に剣形の石製模造品・臼玉がわずかだが出土している。出土石製品に剥片類は含まれておらず、遺跡内で生産したものではなく持ち込まれたものと判断できる。Ⅳ・Ⅴ期では砥石の出土が一定量あり、鉄製品の使用が増加するようだが、金属製品は遺構数の割に出土点数は少ない。種類としては鉄鏃・鉄斧・鎌・刀子・鉄釘などが出土した。印旛沼西岸地域では今のところ鍛冶遺構の検出が少なく、今回の調査区内でも遺構は確認できなかったが、鍛冶関連遺物（羽口・鉄滓など）が少なからず出

土している点に留意しておきたい。

今回の東場遺跡の発掘調査は、道路工事に伴う限られた範囲ではあったが、古墳時代から平安時代の具体的な集落様相の変遷を明らかにでき、印旛沼西岸域の歴史環境を考える上で非常に貴重な成果をあげることができた。

注1）土器編年については下記文献を参考にした。

1988　村山好文「平貝遺跡群における古墳時代後期土器の再検討」『日本考古学研究所集報X』日本考古学研究所

1995　小沢 洋「房総の古墳後期土器」『東国土器研究』4

2004　小沢 洋「古墳前期から中期への集落の展開」『千葉県の歴史』資料編考古4

2004　鈴堀美司「土器の編年－奈良・平安時代」『千葉県の歴史』資料編考古4

2007　『四街道市小屋ノ内遺跡（3）－物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書V－』千葉県教育振興財団調査報告586

2009　『成田新高速鉄道・北千葉道路埋蔵文化財発掘調査報告書1－成田市松崎山ノ台遺跡－』千葉県教育振興財団調査報告618

2012　白井久美子ほか「古墳時代中期の房総」『研究紀要』27　財団法人千葉県教育振興財団

2）床面積は竪穴の下場に沿って方形周囲を計測し、カマドやピットで張り出した部分は除外している。

3）2011　鶴間正昭「竪穴住居にみられる張り出し貯蔵穴」『東京考古』29

4）表中の計測値には、遺構の時期とはずれる破片資料も含めて全量を計上している。

5）常陸型甕・武蔵型甕については下記文献を参考にした。文献の中で、小林氏は佐倉市内の遺跡の分析から常陸型甕の大型品が大量に印旛地域に流入し、在地産甕が駆逐されていく要因を第1に原料が常陸地域のほうが入手しやすく、安価に大量生産できた可能性が高いことをあげる。印旛地域の地層における粘土層が数10㎝に対し、常陸型甕の産地と考えられる新治地域の粘土層が2ｍ程度あるためである。第2に大型品は輸送に手間がかかるうえに、割れやすいという特徴があるが、常陸型甕は新治産の須恵器と同様に桜川をとおり、香取海に出て、印旛地域に舟で運ばれたとし、輸送の手間や破損の危険性が少なかったと想定される点をあげる。また、常陸型甕の流通の最盛期には、大型品は常陸型甕、中・小型品は在地産の甕の比率が多く、作り分けていた可能性も指摘している。

2000　佐々木義則「武田石高遺跡における土師器甕の変遷」『武田石高遺跡』奈良・平安時代編　ひたちなか市教育委員会・財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社

2003　中村哲也「"常陸型甕"以前－桜川流域における古墳時代甕形土器の型式学的検討－」『領域の研究－阿久津久先生還暦記念論集－』

2007　佐々木義則「常陸型甕の生産と流通」『談良岐考古』第29号

2010　高橋一夫「常陸甕と武蔵型甕」『埼玉考古』45

2014　小林信一「人々のくらしと集落の展開」『佐倉市史』考古編（本編）佐倉市史編さん委員会・佐倉市

6）土玉・土錘については下記文献を参照した。

1992　大沼芳幸「人はそれでもタンパクシツを欲した－土錘出土量から見た近江における網漁の展開・特に中世－」『紀要』5　財団法人滋賀県文化財保護協会

2001　土屋治雄・高梨友子「房総における管状土錘について」『研究連絡誌』61　財団法人千葉県文化財センター

写　真　図　版

図版1

図版 2

東場遺跡

SI001（南東から）

SI001 カマド（南東から）

SI002ab（南西から）

SI003ab（南西から）

SI003a カマド遺物（北東から）

SI003a カマド遺物（南東から）

SI004abc（南西から）

SI004a カマド遺物（南東から）

図版 4

SI004a カマド掘物（南から）

SI004c（南から）

SI005（南西から）

SI005カマド掘物（南から）

SI006（西から）

SI007（南西から）

SI008a（南から）

SI008a掘物（南から）

SI008b（南から）

SI008b カマド遺物（南東から）

SI008c（南西から）

SI009（東から）

SI010（南東から）

SI011・013・014（北東から）

SI012（南西から）

SI015a,b（南から）

図版 6

SM16ab（北から）

SM17（北東から）

SM18（北から）

SM18 遺物（北東から）

SM19（西から）

SM19 遺物（西から）

SM20（北西から）

SM21（南から）

SI022（北西から）

SI023（南西から）

SI023 カマド遺物（南西から）

SI024a（南から）

SI024b（南東から）

SI024b 遺物（南西から）

SI025（南西から）

SI026（南東から）

図版 8

SI027（南西から）

SI028（東から）

SI029（北西から）

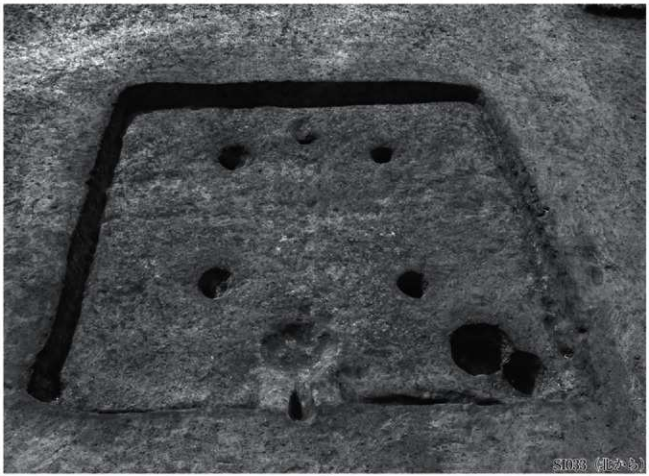
SI030（西から）

SI031（南西から）

SI031 遺物（南西から）

SI032（西から）

SI032 遺物（南東から）


SI033（北から）

SI033 遺物（南東から）

SI033 遺物（南から）

SI033 遺物（南東から）

SI034（北東から）

図版 10

SK001（北東から）

SK002（西から）

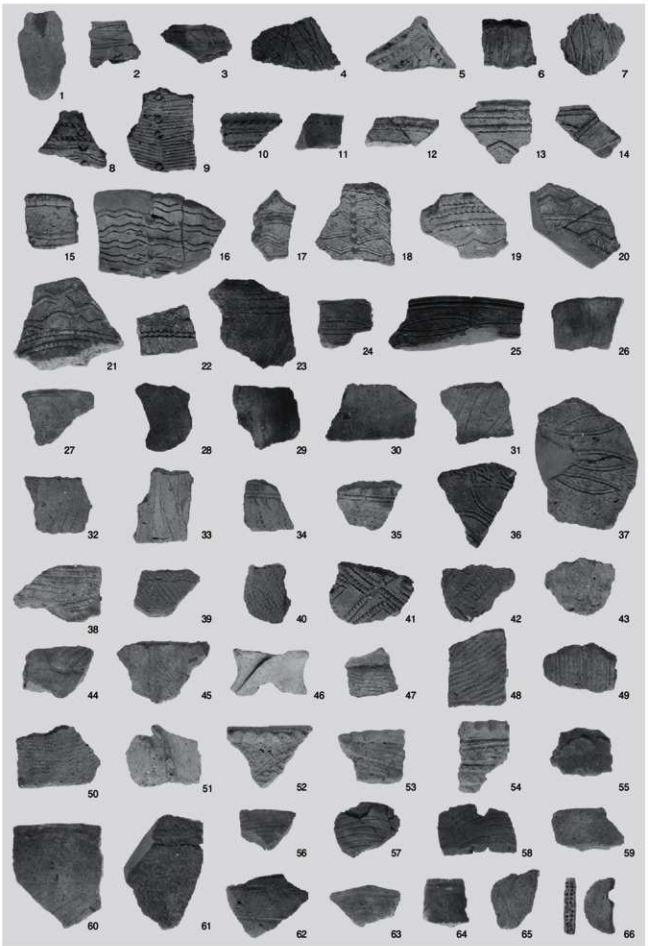
SK003（北東から）

SK004（南東から）

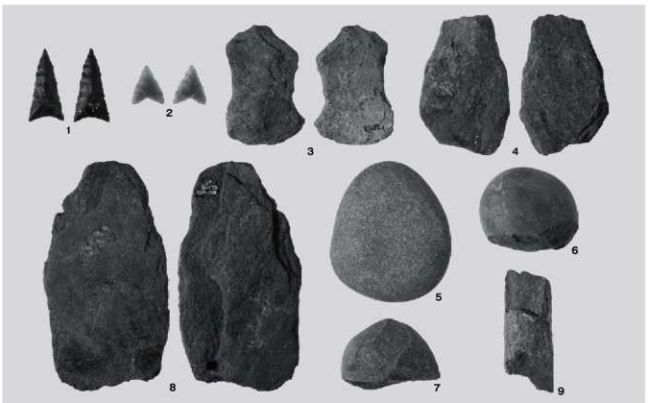
SK005（南から）

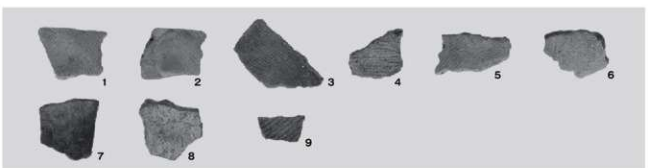
5D-05 遺物（南東から）

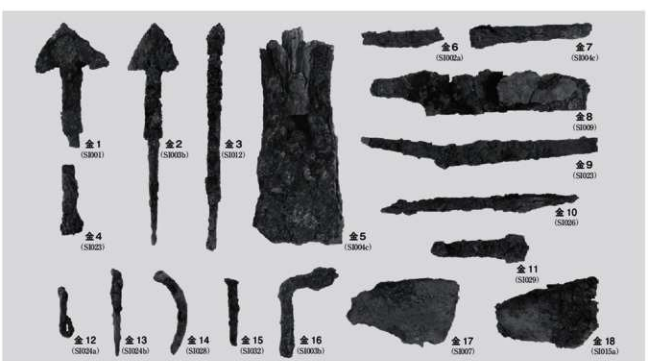
5D-05 周溝底検区（南から）


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66

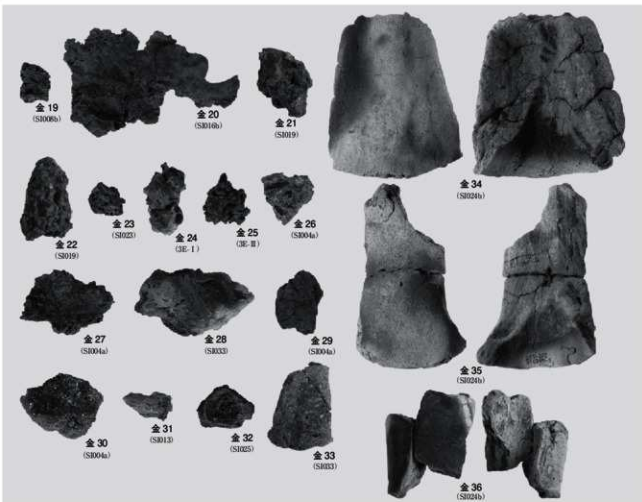
縄文土器

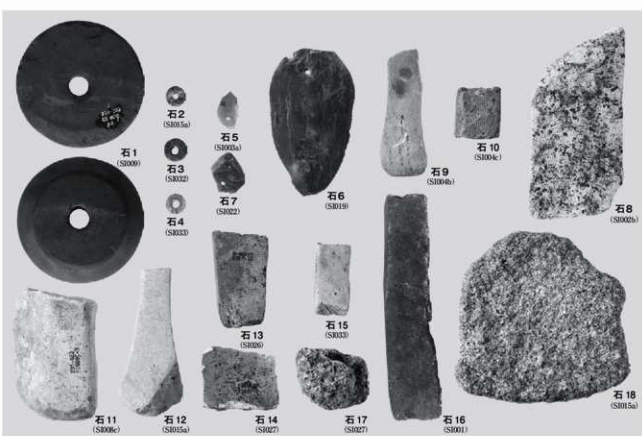






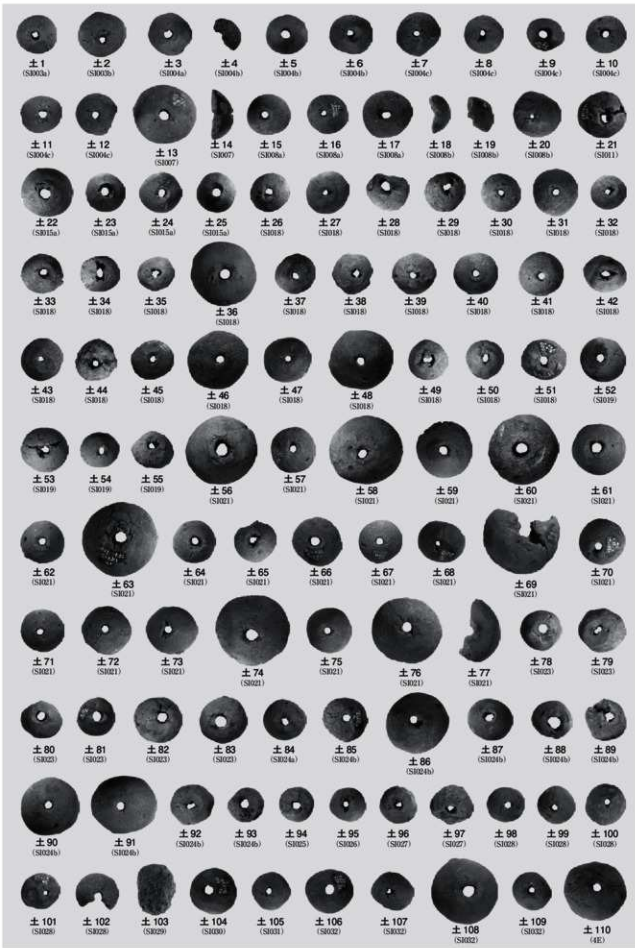
縄文石器・弥生土器・金属製品


金 19
(S1006b)
金 20
(S1016b)
金 21
(S1019)
金 34
(S1024b)
金 22
(S1019)
金 23
(S1023)
金 24
(北-Ⅰ)
金 25
(北-Ⅲ)
金 26
(S1004a)
金 35
(S1024b)
金 27
(S1004a)
金 28
(S1033)
金 29
(S1004a)
金 30
(S1004a)
金 31
(S1013)
金 32
(S1025)
金 33
(S1033)
金 36
(S1024b)

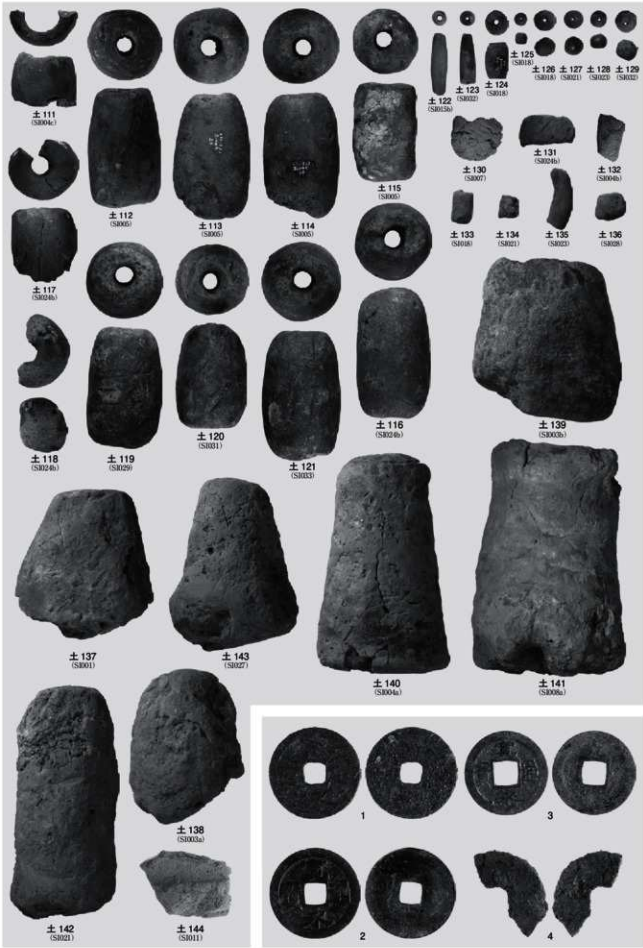

石 1
(S1009)
石 2
(S1015a)
石 3
(S1032)
石 4
(S1033)
石 5
(S1003a)
石 7
(S1022)
石 6
(S1019)
石 9
(S1004b)
石 10
(S1004c)
石 8
(S1002b)
石 11
(S1008c)
石 12
(S1015a)
石 13
(S1026)
石 14
(S1027)
石 15
(S1033)
石 17
(S1027)
石 16
(S1001)
石 18
(S1015a)

鍛冶関連遺物・石製品

図版 14


±1 (SI003a)
±2 (SI003b)
±3 (SI004a)
±4 (SI004b)
±5 (SI004b)
±6 (SI004b)
±7 (SI004c)
±8 (SI004c)
±9 (SI004c)
±10 (SI004c)
±11 (SI004c)
±12 (SI004c)
±13 (SI007)
±14 (SI007)
±15 (SI008a)
±16 (SI008a)
±17 (SI008a)
±18 (SI008b)
±19 (SI008b)
±20 (SI008b)
±21 (SI011)
±22 (SI015a)
±23 (SI015a)
±24 (SI015a)
±25 (SI015a)
±26 (SI018)
±27 (SI018)
±28 (SI018)
±29 (SI018)
±30 (SI018)
±31 (SI018)
±32 (SI018)
±33 (SI018)
±34 (SI018)
±35 (SI018)
±36 (SI018)
±37 (SI018)
±38 (SI018)
±39 (SI018)
±40 (SI018)
±41 (SI018)
±42 (SI018)
±43 (SI018)
±44 (SI018)
±45 (SI018)
±46 (SI018)
±47 (SI018)
±48 (SI018)
±49 (SI018)
±50 (SI018)
±51 (SI018)
±52 (SI019)
±53 (SI019)
±54 (SI019)
±55 (SI019)
±56 (SI021)
±57 (SI021)
±58 (SI021)
±59 (SI021)
±60 (SI021)
±61 (SI021)
±62 (SI021)
±63 (SI021)
±64 (SI021)
±65 (SI021)
±66 (SI021)
±67 (SI021)
±68 (SI021)
±69 (SI021)
±70 (SI021)
±71 (SI021)
±72 (SI021)
±73 (SI021)
±74 (SI021)
±75 (SI021)
±76 (SI021)
±77 (SI021)
±78 (SI023)
±79 (SI023)
±80 (SI023)
±81 (SI023)
±82 (SI023)
±83 (SI023)
±84 (SI024a)
±85 (SI024b)
±86 (SI024b)
±87 (SI024b)
±88 (SI024b)
±89 (SI024b)
±90 (SI024b)
±91 (SI024b)
±92 (SI024b)
±93 (SI024b)
±94 (SI025)
±95 (SI026)
±96 (SI027)
±97 (SI027)
±98 (SI028)
±99 (SI028)
±100 (SI028)
±101 (SI028)
±102 (SI028)
±103 (SI029)
±104 (SI030)
±105 (SI031)
±106 (SI032)
±107 (SI032)
±108 (SI032)
±109 (SI032)
±110 (4E)

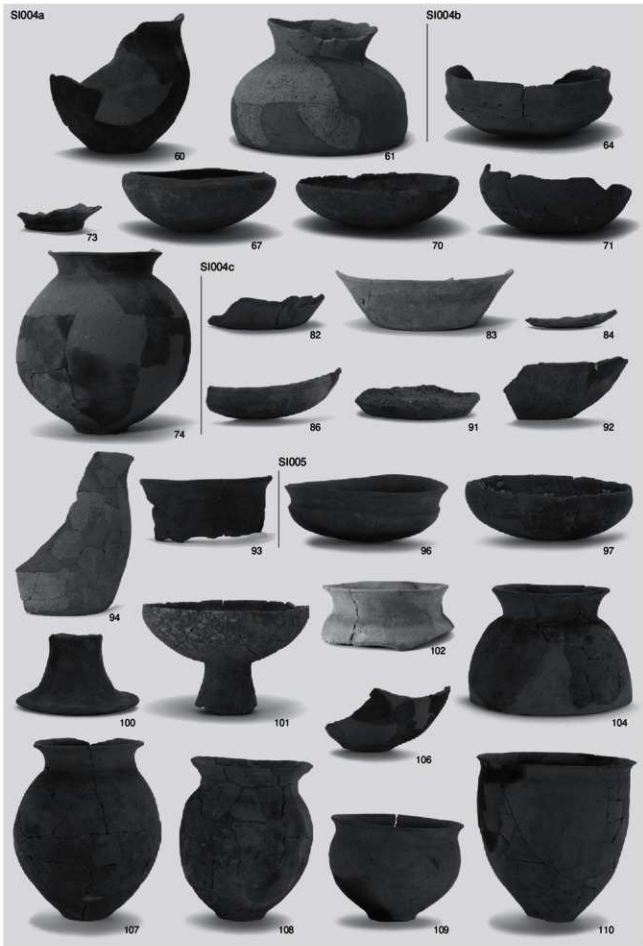
土製品（1）


土111 (S0004c)
土112 (S0005)
土113 (S0005)
土114 (S0005)
土115 (S0005)
土116 (S0024b)
土117 (S0024b)
土118 (S0024b)
土119 (S0029)
土120 (S0031)
土121 (S0033)
土122 (S0033a)
土123 (S0032)
土124 (S0018)
土125 (S0018)
土126 (S0018)
土127 (S0021)
土128 (S0023)
土129 (S0032)
土130 (S0007)
土131 (S0024b)
土132 (S0004b)
土133 (S0018)
土134 (S0021)
土135 (S0023)
土136 (S0028)
土137 (S0001)
土138 (S0003a)
土139 (S0003b)
土140 (S0004a)
土141 (S0008a)
土142 (S0021)
土143 (S0027)
土144 (S0011)
1
2
3
4

土製品（2）・銭貨

SI001
1
SI002a
7
8
9
SI002b
14
16
SI003a
17
21
22
19
23
28
32
30
29
35
33
37
36
39
SI003b
40
44
45
48
SI004a
56
52
50
49
59

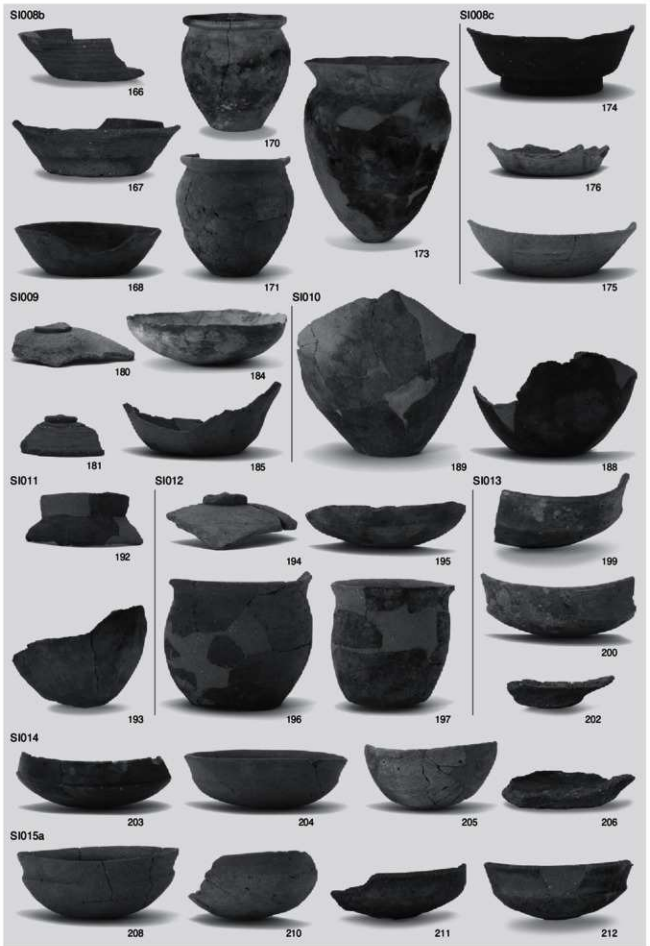
土器類（1）


SI004a
SI004b
SI004c
SI005
60
61
64
73
67
70
71
74
82
83
84
86
91
92
93
96
97
94
102
100
101
104
106
107
108
109
110

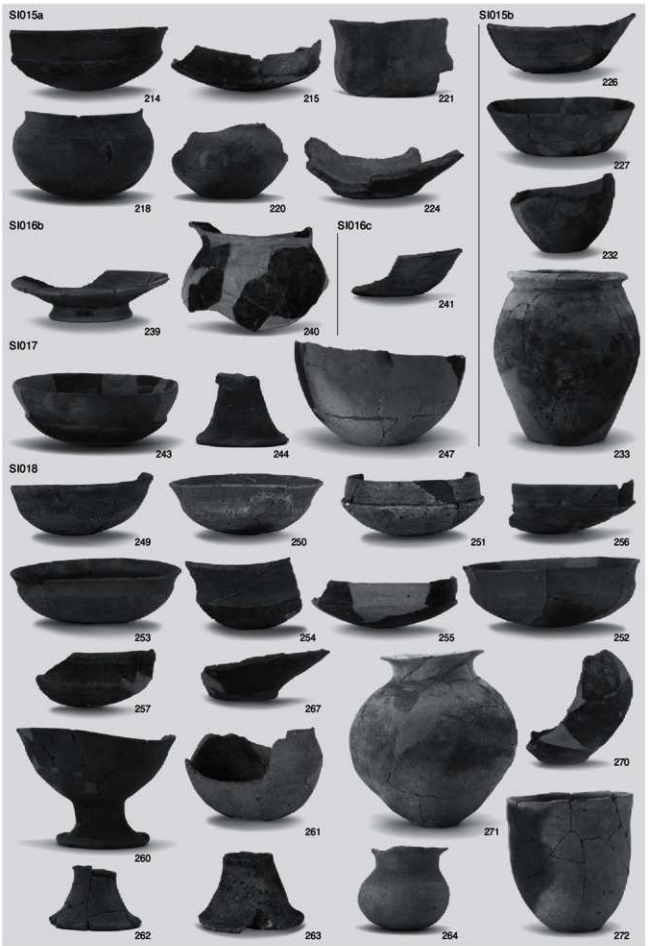
土器類（2）

SI006
SI007
111
112
115
116
117
118
120
121
124
125
126
130
SI008a
133
134
135
136
137
138
139
148
149
150
151
152
153
159
161
164

土器類（3）


SI008b
166
170
167
171
168
173
SI008c
174
176
175
SI009
180
184
181
185
SI010
189
188
SI011
192
193
SI012
194
195
196
197
SI013
199
200
202
SI014
203
204
205
206
SI015a
208
210
211
212

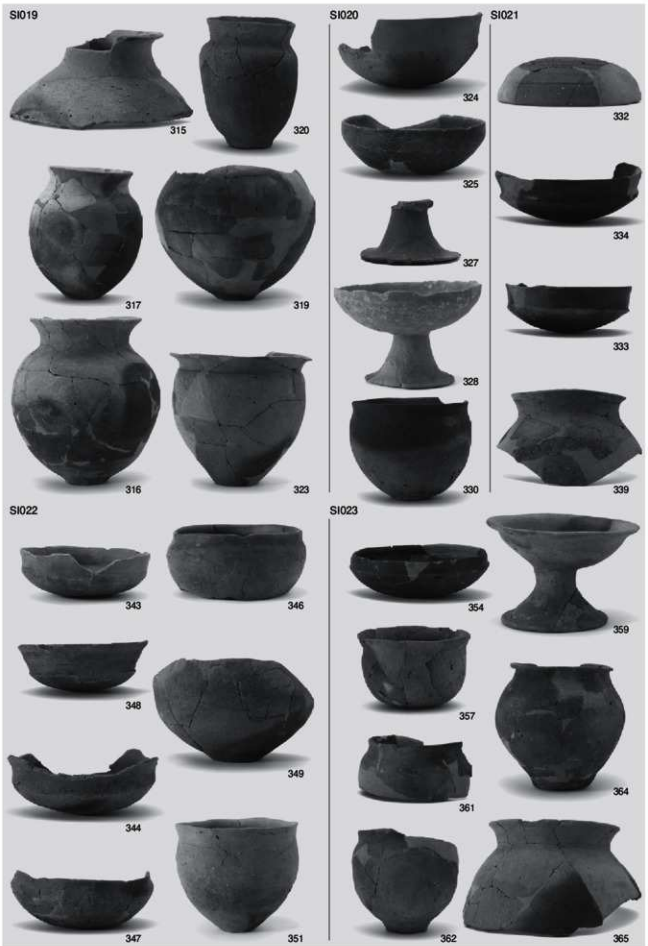
土器類（4）


SI015a
214
215
221
SI015b
226
227
218
220
224
232
SI016b
SI016c
239
240
241
233
SI017
243
244
247
SI018
249
250
251
256
253
254
255
252
257
267
270
260
261
271
262
263
264
272

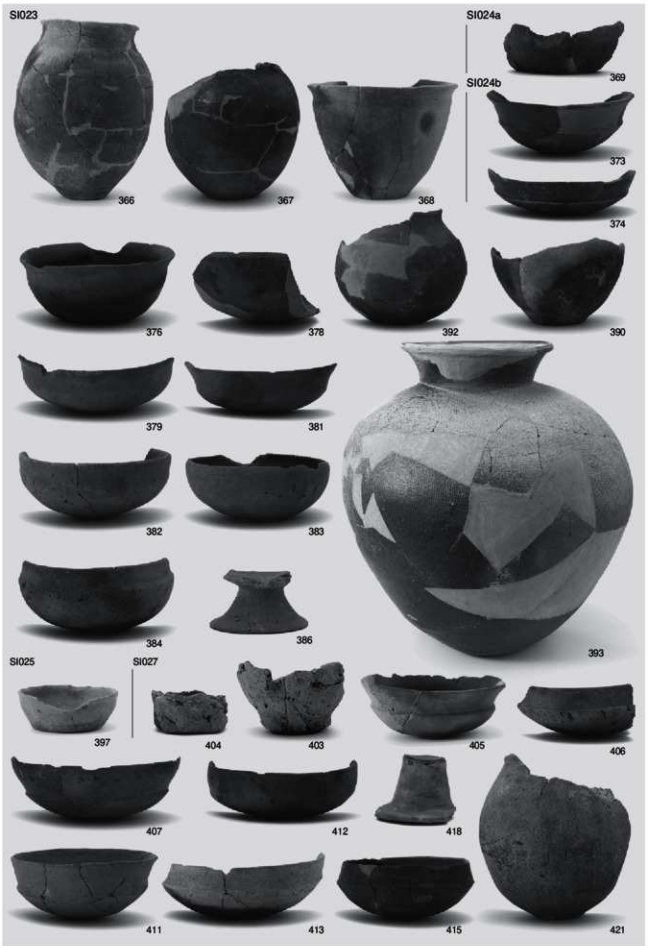
土器類（5）

SI019
274
275
276
277
278
280
281
282
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
299
301
304
303
306
310
305
307
308
313

土器類（6）


SI019
315
320
317
319
316
323
SI020
324
325
327
328
330
SI021
332
334
333
339
SI022
343
346
348
349
344
347
351
SI023
354
359
357
364
361
362
365

土器類（7）


SI023
366
367
368
SI024a
369
SI024b
373
374
376
378
392
390
379
381
382
383
384
386
393
SI025
397
SI027
404
403
405
406
407
412
418
411
413
415
421

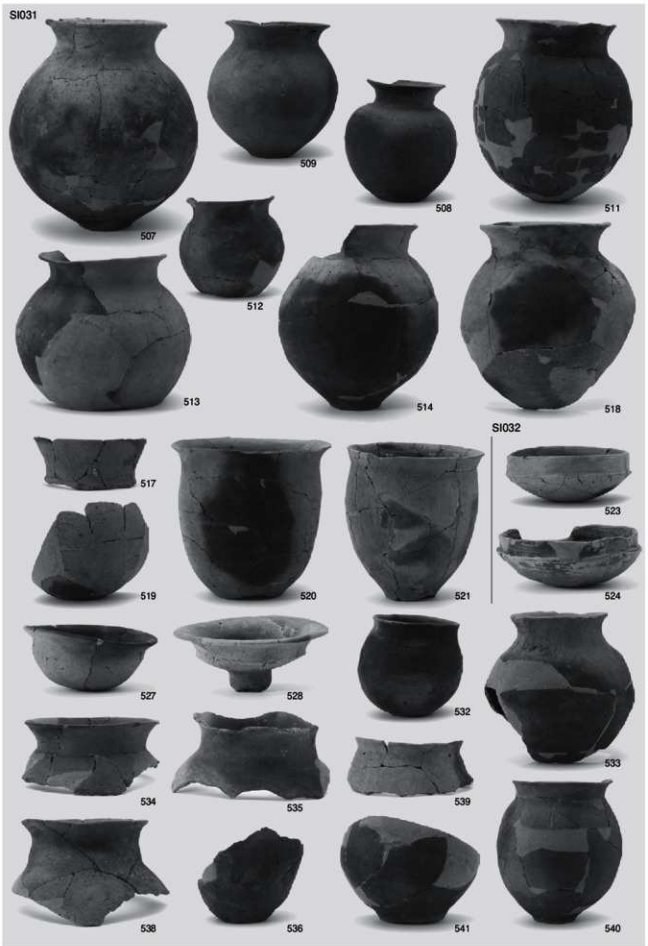
土器類（8）

SI027
SI028
425
429
426
434
420
427
435
436
438
439
441
442
443
444
SI029
448
453
450
454
455
457
459
460

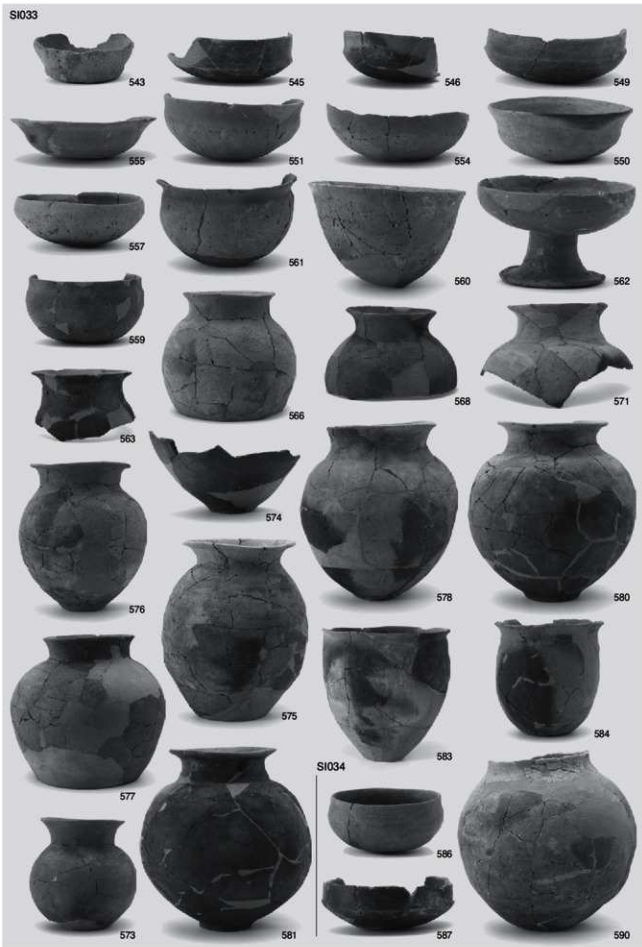
土器類（9）

SI030
461
463
464
468
462
465
469
470
472
SI031
474
475
476
477
478
480
481
482
484
485
486
487
488
490
491
492
494
495
493
496
503
499
505
497
504
506

土器類（10）


SI031
507
509
508
511
512
513
514
518
SI032
517
519
520
521
523
524
527
528
532
533
534
535
539
538
536
541
540

土器類（11）


SI033
543
545
546
549
555
551
554
550
557
561
560
562
559
566
568
571
563
574
576
578
580
575
583
584
577
SI034
586
573
581
587
590

土器類（12）

馬見台遺跡

調査前（北東から）

調査前（北から）

上層確認トレンチ北側（北西から）

上層確認トレンチ南側（北から）

下層確認グリッド2（北西から）

報告書抄録

ふりがな	いんざいしひがしばいせき・うまみだいいせき
書名	印西市東場遺跡・馬見台遺跡
巻次	
副書名	一般県道八千代宗像線（岩戸）バイパス事業埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第12集
編著者名	黒沢 崇　小林信一
編集機関	千葉県教育委員会
所在地	〒260-8662　千葉県千葉市中央区市場町1−1　TEL043-223-4129
発行年月日	西暦2016年3月25日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
東場遺跡（ひがしばいせき）	印西市吉田字込ノ内1,472ほか（いんざいしよしだあざこのうち）	12231	022	35度45分47秒	140度9分30秒 世界測地系 WGS84	20110912〜20120301 20130107〜20130214	8,800㎡	道路建設工事
馬見台遺跡（うまみだいいせき）	印西市吉田字馬見台1,490-7ほか（いんざいしよしだあざうまみだい）	12231	025	35度45分45秒	140度9分28秒	20140908〜20140919	916㎡	道路建設工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
東場遺跡	包蔵地 集落跡	旧石器時代 縄文時代 弥生時代 古墳時代 奈良・平安時代 古墳時代以降	陥穴1基 竪穴住居27軒 竪穴住居17軒 土坑4基	旧石器 縄文土器・石器 弥生土器 土師器・須恵器・金属製品・石製品・土製品	古墳時代後半期から平安時代にかけての集落の変遷の具体的な様相が豊富な遺物の出土によって明らかになった。
馬見台遺跡	包蔵地	古墳時代	なし	弥生土器 古墳時代土師器	

要約

東場遺跡では旧石器時代の剥片石器が1点出土した。縄文時代では陥穴1基が検出され、少量だが早期から後期の土器・石器が出土した。弥生時代では遺構は検出されなかったが、後期の土器片が微量出土した。古墳時代以降では古墳時代後半期から平安時代の集落跡が確認された。これらの竪穴住居跡からは土器類を中心に遺物が豊富に出土し、常陸型甕などを含む土器の変遷や竪穴構造の変化を追うことができた。

馬見台遺跡では調査地点が南に緩やかに傾斜する斜面部が含まれ、撹乱が著しかった。そのため、遺構は検出されず、古墳時代土師器破片などが微量出土したのみであった。下層調査でも旧石器は出土せず、上・下層とも確認調査で調査を終了した。

千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第12集

印西市東場遺跡・馬見台遺跡

― 一般県道八千代宗像線（岩戸）バイパス事業埋蔵文化財発掘調査報告書 ―

平成28年3月25日発行

編集・発行　千葉県教育委員会
千葉市中央区市場町1－1
印　　刷　新柳印刷株式会社
千葉市中央区慈城1－8－11